

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ 1限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ 2限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ 3限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 寝屋川キャンパス 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-beingを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-8.9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> <li>3) Well-beingを理解し、実践するよう努める。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと(2時間)</li> </ul>
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる(2時間)</li> </ul>
	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
	4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
	6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
	8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
	9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること(2時間)</li> </ul>
	11	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ・テキストの指定箇所(pp.164-174)を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。</li> </ul>

				と (2 時間)
	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCA サイクルを理解する。</li> <li>マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること (2 時間)</li> <li>事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料 (スライド 12~13) をしっかり読み込むこと (2 時間)</li> </ul>
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付行為の意味を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：寄付の意味を考え、まとめること (2 時間)</li> <li>事後学修：寄付行為を行う基準を考えること (2 時間)</li> </ul>
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成したビジネスプランに基づいて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること (2 時間)</li> <li>事後学修：ビジネスプランの再考をする (2 時間)</li> </ul>
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションの意味を再考する。</li> <li>VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：この授業の学びをまとめること (2 時間)</li> <li>事後学修を：新たな発見をすること (2 時間)</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリング	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の研究室等	石井研究室 (寝屋川キャンパス、7 号館 5 階)			
備考	<p>予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p> <p>学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。</p>			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△○ : DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。</li> <li>・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。</li> <li>・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。</li> <li>・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:E○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。</li> <li>小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何をします?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をします?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1) 映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映像作品の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7○, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用する語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用する語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用する語彙を復習し、覚える	10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用する語彙を復習し、覚える	11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																														
3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用する語彙を復習し、覚える																																																														
10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用する語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
----------	--------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現や文型、言葉遣い等について学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。留学生が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動における(目上の人に対する)メールの書き方	就職活動における(目上の人に対する)メールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート(履歴書、自己PR、志望動機)の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接(グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	異文化コミュニケーション(間接的な表現)	異文化コミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする、名刺交換をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスをする/受ける時の日本語表現	アドバイスをする/受ける時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する時の日本語表現	会議で使用する日本語報告をする・自分の意見を述べる)を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目 専門日本語 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内での取り組み及び課題の提出物 (50%)、小テスト (30%)、発表 (20%)により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	角田 麻美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業では身の回りの出来事やニュースなどを題材にし、身近な話題を分かりやすく人に伝えるとともにテーマに基づいて意見交換ができるように、日本語の表現力やコミュニケーションスキルを高めることを目的とします。 また、大学生活で必要となるプレゼンテーション能力の習得も目指します。																																																																		
到達目標	1. 身の回りの出来事やニュースを分かりやすく説明することができる 2. テーマに関する自分の意見を、根拠を示しながら述べるすることができる 3. 自分と異なる意見を聞き、それを取り入れながら話を進めることができる 4. 集めた情報を整理してプレゼンテーションを行うことができる 5. プレゼンテーションに対して適切なコメントを返すことができる																																																																		
授業方法と留意点	ペアワークやグループワーク等、受講生同士が話すことを中心に進めます。 教員は適宜フィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 自己紹介</td> <td>授業の進め方と評価の説明 自己紹介</td> <td>自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>ディスカッションの表現や進め方を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>プレゼンテーションの基本</td> <td>プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>プレゼンテーション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>プレゼンテーション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最終課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく	2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する	3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習	8	中間課題	発表	発表の振り返り	9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する	10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習	15	最終課題	発表	発表の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく																																																																
2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する																																																																
3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
8	中間課題	発表	発表の振り返り																																																																
9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する																																																																
10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
15	最終課題	発表	発表の振り返り																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への出席および取り組み 30%、中間課題 30%、最終課題 40%で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等により内容や進度を調整することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。</li> <li>小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1) 映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映像作品の場面をいくつか視聴・内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック 5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック 5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック 5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える	10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																														
3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
----	----------------------

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。 ・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。  
総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

**到達目標**  
1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。  
2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。  
3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。  
4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する

**授業方法と留意点**  
講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果（資格）**  
教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。	
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。	
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。	

**関連科目**  
すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

**教科書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。 ・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事項についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題：配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間)

				事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間) 期末課題に備えて、先行研究涉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5時間)

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣
	2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
	3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣

評価方法 (基準) 授業後課題(45%)・期末レポート課題(55%)  
※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 3号館3階・竹中研究室

備考

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1・第8章、配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第9章、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能、言語理解・言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%、期末試験 70%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	Teams コード 火曜 5 限： o3hr1s8 木曜 1 限： 9oex0u1 木曜 5 限： j4uz0u4 金曜 5 限： 8h3rwzd
----	---

	Moodle コース名と登録キー 火曜5限：2024 教育心理学（火5） あるいは 24 教心（火5） 2024EPTUE5 木曜1限：2024 教育心理学（木1） あるいは 24 教心（木1） 2024EPTHU1 木曜5限：2024 教育心理学（木5） あるいは 24 教心（木5） 2024EPTHU5 金曜5限：2024 教育心理学（
--	---

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めると遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第1章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝えるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝えるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)

	15	発達障害等に対する指導技法 まとめ	<p>題点を明らかにする。</p> <p>・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。</p>	<p>・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間)</p> <p>・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。</p>																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしく学ぶ教職課程特別支援教育</td> <td>是永かな子他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社	2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社																	
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程 (カリキュラム) は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも1冊は入手すること (栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと)。 (3) 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程 (カリキュラム) とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定 (成績づけ) とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特質、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
6	カリキュラム編成原理1: 経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
7	カリキュラム編成原理2: 系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
8	日本における学習指導要領の歴史1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
9	日本における学習指導要領の歴史2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを作成する (20時間)
12	総合的な学習 (探究) の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習 (探究) の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを改稿し提出する (10時間)
15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) 定期試験に向けた準備をする (15時間)

関連科目 同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	<p>(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。</p> <p>(2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。</p> <p>評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に依りて変更することがある。			

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出ししておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみる事が大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。  
 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

**到達目標**  
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。  
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。  
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。  
 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する

**授業方法と留意点**  
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果（資格）**  
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

	回数			授業テーマ			内容・方法等			事前・事後学習課題		
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題								
授業計画	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。								
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。								
	3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。								
	6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。								
	15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。								

**関連科目**  
 すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

**教科書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、事例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用(デジタル教材を含む)に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
15	総括：教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する(15時間)

関連科目 同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では1単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および10分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせはTeamsを通して連絡します。必ずTeamsに登録してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を60時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>昨年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通じたキャリア教育の実現に寄与する。</p>
到達目標	<p>本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は対面形式で行う。PowerPointを用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teamsのファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションやKJ法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の定義と目的</li> <li>生徒指導の構造 (2軸3類4層構造)</li> <li>チーム支援による組織的対応</li> </ul>	教科書P.12～38 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の発達を支える教育課程</li> <li>教科、道徳科、総合的な学習 (探求)の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連</li> </ul>	教科書P.39～67 学習課題：探求学習の4STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム学校における学校組織と生徒指導体制</li> <li>生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援</li> </ul>	教科書P.68～118 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策推進法</li> <li>いじめに関する生徒指導の重層的支援構造</li> <li>関係機関等との連携体制</li> </ul>	教科書P.119～140 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	<ul style="list-style-type: none"> <li>暴力行為に対する対応指針</li> <li>暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造</li> <li>関係機関等との連携体制</li> </ul>	教科書P.141～152 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年法と児童福祉法</li> <li>少年非行の基本的な対応</li> <li>喫煙、飲酒、薬物乱用</li> <li>特定少年</li> </ul>	教科書P.153～170 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律</li> <li>学校の体制</li> <li>虐待対応に対するアセスメント</li> </ul>	教科書P.171～188 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺対策基本法</li> <li>自殺防止のための学校の組織体制と計画</li> <li>関係機関との連携に基づく自殺予防の体制</li> </ul>	教科書P.189～208 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中途退学の関係法規と基本方針</li> <li>インターネット問題への組織的取組</li> <li>各課題に対する重層的支援構造</li> </ul>	教科書P.209～220, P.240～254 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校に関する関係法規と基本方針</li> <li>不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画</li> <li>関係機関との連携体制</li> </ul>	教科書P.221～239 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>性に関する課題</li> <li>発達障害に関する課題</li> <li>支援を要する家庭状況</li> <li>外国人児童生徒</li> </ul>	教科書P.255～289 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育とは何か</li> <li>進路指導とキャリア教育の歴史的背景</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：4領域8能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4領域8能力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>4領域8能力</li> <li>基礎的、汎用的能力</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校におけるキャリア発達</li> <li>高等学校におけるキャリア発達</li> <li>校種間連携</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の諸課題</li> <li>進路指導とキャリア教育の結び付き</li> <li>総括</li> </ul>	学習課題：第1～14回で最も関心のあるトピックを1つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。  
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と「問題」への対応について、実践的な取り組み方を考える。

**到達目標**  
 ① 幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。  
 ② 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。  
 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。

**授業方法と留意点**  
 講義と演習を組み合わせで行う。講義の資料は、事前に Moodle で配付するので、各自入手しておくこと。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

**科目学習の効果 (資格)**  
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目  
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造、チーム支援の意義、チームの作り方	テキスト第1講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際1	チーム支援のプロセス、アセスメント	テキスト第1講・第10講・第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際2	チーム支援の実際	テキスト第1講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第13講・第15講、配付資料を用いた予習・復習

**関連科目** 教職課程の科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 [第2版]	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)** グループ発表 50%, 期末試験 50%

**学生へのメッセージ** これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	<p>グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。  グループ内ではピア評価を行います。  事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</p> <p>Teams コード  月曜2限: xfdelyw  火曜2限: mi255ww  木曜1限: irmdqyv  木曜4限: ui2p7a7</p> <p>Moodle コース名と登録キー  月曜2限: 2024 教育相談 (月2) あるいは 24 教育相談 (月2) 2024ECMON2  火曜2限: 2024 教育相談 (火2) あるいは 24 教育相談</p>

科目名	社会科教育法 I 【地歴分野】	科目名 (英文)	Social Studies Teaching Methods I (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法及び留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	中学校教員免許 (社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく(3時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく(1時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む(3時間)
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく(3時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく(2時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく(1時間)。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく(1時間)。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく(1時間)。 事後、興味を持った実践について調べる(2時間)。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。

				成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案(50%)とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題(50%)で評価を行う。          提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。          出席回数が2/3以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということ、一方で絶対に優れた授業というものはない          ということを知ってもらいたいと思っています。</p>			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 非常勤講師室			

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。</li> <li>・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。</li> <li>・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。</p> <p>『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。</p> <p>中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。</p> <p>教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとにTeams上で共有する。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>中学校教員免許(社会科)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法1の第7回目までの学習内容を復習しておく(2時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく(1時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する(2時間)。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく(2時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方/北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア/アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ/オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う(4時間)。

関連科目	社会科教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。          提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。          出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う(事前課題)。
15	総括—社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。		
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。		

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods IV (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育(主権者教育)の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育、シティズンシップ教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。  
 (4) 政治教育、市民性教育(シティズンシップ教育)についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

**授業方法と留意点**  
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

**科目学習の効果(資格)**  
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

**関連科目**  
 原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート(30%)、模擬授業(50%)、平常点:授業への貢献度等(20%)。 出席については全体の80%以上の出席(15回中12回以上)が必須。 出席率が80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。  
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明、鎌田 祥輝、谷口 雄一、西村 晃一、松浦 正典、吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。(1)教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2)教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習(教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際(1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際(2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2				
3				

評価方法(基準)	授業における積極性・貢献度(30%)、模擬授業(40%)、提出物(30%)によって総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス7号館3階
----------	---------------------------

備考	教職フォーラム(10月最終土曜日)、教育実習総括講義(11月最終土曜日)には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	--

事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。</li> <li>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</li> <li>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</li> <li>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</li> </ul>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職課程の専任教員6名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</li> <li>○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</li> <li>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。</li> <li>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</li> </ul>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
3	いじめ問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。</li> <li>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</li> </ul>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
4	「よい授業」を探究する: 「わかる授業」と「たのしい授業」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。</li> </ul>	(事前) 「よい授業」のイメージを考えておく。 (事後) 小課題を課す。	
5	学習指導案を読み解く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の主體的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。</li> <li>・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。</li> </ul>	(事前) 配付資料を読んでおく。 (事後) 小課題を課す。	
6	学校の危機管理 (1): 学校管理下の事件・事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトなどを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</li> </ul>	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
7	学校の危機管理 (2): 災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</li> </ul>	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
8	学校における行動問題支援 (理論編)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。</li> </ul>	(事前) 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 (事後) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。	
9	学校における行動問題支援 (実践編)	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。</li> </ul>	(事前) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 (事後) 2回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。	
10	カウンセリングマインドと生徒対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。</li> </ul>	(事前) カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。	

				(事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導: 生徒理解と学級運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。</li> <li>実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。</li> </ul>	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	13	進路指導: 保護者対応とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。</li> <li>実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。</li> </ul>	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。	
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します(87.5%(12.5%×7名))。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します(12.5%)。これらを合計し、最終的な評価とします。			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日、鎌田、西村、松浦、吉田) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動 I」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1~25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1～25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備 (3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ 20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (鎌田研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (西村研究室)、7号館3階 (松浦研究室)、7号館3階 (吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P.169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 8階 武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。</li> <li>・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。</li> <li>・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。</li> <li>・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。</li> </ul> <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる</li> <li>・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる</li> <li>・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。</li> <li>・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。</li> <li>・教員から一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる
-------------	------------------

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 刑法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・刑法の意義</li> <li>・刑法の機能</li> <li>・刑法学とは何か</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典学派と近代学派</li> <li>・わが国の刑法思想</li> <li>・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	3	刑法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・罪刑法定主義</li> <li>・刑法の法源</li> <li>・刑法の解釈</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の成立要件</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	5	薬物犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚せい剤取締法</li> <li>・大麻取締法</li> <li>・向精神薬取締法</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	6	カンニング行為と偽計業務妨害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪大入試問題漏洩事件</li> <li>・明治大学替え玉入試事件</li> <li>・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件</li> <li>・大学入試共通テスト問題漏洩事件</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	7	飲み会と保護責任者遺棄罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み会において生じうる犯罪現象</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	8	定期券の偽造と詐欺罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	9	ストーカー行為規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーカーにならないために</li> <li>・ストーカーの被害者にならないために</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	10	DVとデートDV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVの類型</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種性犯罪</li> <li>・家出と各種誘拐罪</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法の厳罰化</li> <li>・20歳未満の実名報道</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	13	犯罪被害者救済①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と被害届</li> <li>・証拠保全の重要性</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	14	犯罪被害者救済②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者に対する種々の救済制度</li> <li>・被害者の実名報道と被害者バッシング問題</li> </ul>	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。</li> <li>・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 小野教授室			
備考	<p>本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。</p> <p>オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。</p>			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第4章 「小春日和」の時代 (2) 第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2) 第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。</li> <li>・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。</li> </ul>			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める (貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす (投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。</p> <p>早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金 (確定拠出年金) の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか? 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択し、実践するスキルや判断力 (=金融リテラシー) を若いうちから身につけておくことが必要です。</p> <p>本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。</p>
到達目標	<p>ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。</p> <p>具体的には</p> <p>①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる</p> <p>②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく</p> <p>③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる</p> <p>以上を到達目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。</p> <p>授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。</p> <p>また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。</p> <p>なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解できるようになります。</p> <p>金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。</p> <p>また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格取得にも役立ちます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。(注) 課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

		いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題① キャッシュフロー表の作成 : 25% 課題② 株式投資ゲームの参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5% (注) 履修学生が多大会場、課題① キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 1階 (教務課) 寝屋川キャンパス 7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 郭 進, 加嶋 章博, 久保 貞也, 小林 健治, 後藤 和子, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也, 八木 紀一郎
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 15 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4で2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいるSDGsについて、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 寝屋川キャンパス 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGsの17の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	データサイエンス実践	科目名 (英文)	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

**到達目標**  
 この講義の到達目標は以下の通りである。  
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる  
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている  
 (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

**授業方法と留意点**  
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について S科 久保教授	事前の学修進捗度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S科 久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進捗度

**関連科目** データサイエンス展開

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進展度(アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館7階 久保教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本准教授室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名 (英文)	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <p>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。  2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。  3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。  4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対する発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーン・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GIDと SOGI と人権	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修: ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間)
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: DV とデート DV に関してレポートを作成 (2時間) ・事後学修: ワークシート#13 (2時間)

	14	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策提言プレゼンテーション</li> <li>自由討議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）</li> <li>事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2時間）</li> </ul>
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：まとめのワークシート（2時間）</li> <li>事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦・石井 三恵・伊藤 譲・後藤 一章・瀬川 智広・横山 喬之・米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0 (データ駆動型社会) やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4)
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である (12回分)。 (外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。) ・事前学習として、関連動画を視聴 (もしくは資料を精読) し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果 (資格)	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学修
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説		事後学修: レポート (1時間)
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修: レポート (1時間)

関連科目	情報系科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。			
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室			
備考	米本研究室（7号館5階）			

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないので注意が必要です。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	python 入門 (1)	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門 (2)	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門 (4)	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグラミング (4)	2値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグラミング (5)	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグラミング (6)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグラミング (7)	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグラミング (8)	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング (2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内課題 (60%)、プロジェクト課題 (40%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることに繋がります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等備考	寺内研究室 (寝屋川キャンパス、11号館10階)、新居研究室 (寝屋川キャンパス、7号館5階)

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙、大川 謙蔵、大塚 正人、尾山 廣、佐藤 大作、白鳥 武、村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について学び、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使します。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、グループワークにより課題に取り組みます。授業の最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後 : CHAP1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは <a href="https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw">https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw</a>
6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動の対策 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE">https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE</a>
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート
9	地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2 : 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2 : 前回は使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

				めてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えてPPT1枚にまとめること。																
	11	日本の国際貢献と法整備支援1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：目標6、9、13を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html">https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html</a>																
	12	日本の国際貢献と法整備支援2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標16、11、10を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf">https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf</a>																
	13	持続可能な企業経営とESG投資1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4を学び、ABDサマリを作成する。																
	14	持続可能な企業経営とESG投資2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5を学び、ABDサマリを作成する。																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)</td> <td>バウンド</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解度確認クイズ(個人:10%)</li> <li>・事前・事後学習課題・ABDサマリ(個人:15%)</li> <li>・取組み姿勢(チーム:20%)</li> <li>・成果発表・プレゼンテーション1回(チーム:10%)</li> <li>・振り返りシート(個人:20%)、・レポート2回(個人:20%)、・授業資料管理(個人:5%)</li> </ul> <p>※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。</p>																			
学生への メッセージ	授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	<b>【枚方キャンパス】</b> 大塚教授(薬学部1号館5F) <b>【寝屋川キャンパス】</b> 村瀬准教授(1号館7F)、伊藤教授(1号館3F)、尾山教授(理工学部1号館9F)、白鳥准教授(12号館7階)、佐藤准教授(1号館3F)、大川准教授(11号館9F)																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 加嶋 章博, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。

**到達目標**  
 (1) まちづくりの課題を多面的に理解できる  
 (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する  
 (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている

**授業方法と留意点**  
 本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。

**科目学習の効果 (資格)**  
 学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題 (60%)、事後レポートの採点結果 (40%) とした上で、総合評価されます。

**学生へのメッセージ**  
 ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

**担当者の研究室等**  
 寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室



科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																																																																		
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	ブー・ルオミット <sup>*</sup> サッジャット <sup>*</sup>
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
	2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
	5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.  We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learn			
担当者の研究室等	教員室1 (2号館2階)			
備考				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。</li> <li>当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。</li> <li>異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要</li> </ul>
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>年度末にあたる2~3月に現地派遣さ</li> </ul>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30%	(規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)		
	現地活動評価 40%	(現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)		
	事後授業評価 30%	(成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (寝屋川キャンパス 2号館 2階)			
備考				

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名 (英文)	Liberal Arts Basics II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期中	授業担当者	上野山 裕士, 川崎 訓昭, 金 政崇, 森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。

科目学習の 効果（資格）	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて（オンデマンド）	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部（食農ビジネス学科）における学びについて（オンデマンド）	農学部（食農ビジネス学科）教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部（食農ビジネス学科）について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて（オンデマンド）	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
7	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
8	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学
------	---

(基準)	修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日(火)、4日(水)の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。</li> <li>・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。</li> <li>・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。</li> </ul>

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名 (英文)	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	平成 28 年 6 月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが一番の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。
到達目標	①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する ②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす ③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ ④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる ⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う
授業方法と留意点	①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する ②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること ③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を学ぶ	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
6	コミュニケーションが苦手な こだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
7	コミュニケーションが苦手な こだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒への ポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
9	傷付きやすい人への ポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
10	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人への ポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
11	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人への ポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
12	大人の発達障害への ポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
13	大人の発達障害への ポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
14	障害を持つ子の保護者と ポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)

関連科目 心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのポジティブ行動支援	松山康成	明治図書
	2	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック	三田地真実他	金剛出版
	3			
評価方法 (基準)	授業の出席・積極的参加 60% レポート40%			
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階 松浦研究室			
備考				

科目名	人間関係論 (ファシリテータートレーニング)	科目名 (英文)	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a~1JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関わり、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
8	体験学習④	コンセンサス実習① (正解のある課題)	体験での学びをまとめる
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② (正解のない課題)	体験での学びをまとめる
11	体験学習⑥	POPO (グループを観察する)	体験での学びをまとめる
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
	2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
	3			

評価方法 (基準)	実習参加態度 (30%)、課題 (20%)、期末レポート (50%)
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
担当者の研究室等	教員室2 (寝屋川キャンパス2号館2階)
備考	

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有崇, 加野 佑弥, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1357a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習:第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(0.5時間以上) 事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み・ディスカッション 15%</li> <li>・プレゼン相互評価・グループポスター 15%</li> <li>・レポート 15%</li> <li>・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸 (7号館5F)、加野 佑弥 (7号館5F)、中澤芽衣 (3号館3F)、松本恭幸 (3号館3F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

**授業概要・目的**  
この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。  
本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。

- 到達目標**
- (1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。
  - (2) ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。
  - (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。
  - (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。
  - (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
  - (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。
  - (7) 自主学習の習慣を身に付けている。

**授業方法と留意点**  
授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。

**科目学習の効果 (資格)**  
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABDとは） 協働学習（p.18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AIとビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第1回レポート
6	説明力を鍛えるヒント： 第一章「間違いだらけの数学観」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み、事前学習シートを作成する。
7	説明力を鍛えるヒント： 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
8	説明力を鍛えるヒント： 第三章「数学的思考のヒント」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
9	説明力を鍛えるヒント： 第四章「論理的な説明の鍵」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 11～20章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 21～27章を読み、事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)  事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数学的思考法—説明力を鍛えるヒント</td> <td>芳沢 光雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み 15%</li> <li>・プレゼン 15%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・振り返りシート 15%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)、新居英志(7号館5F)、森亜貴(2号館2Fラーニングセンター)、加野佑弥(7号館5階)、米本研究室(7号館5階)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実にを行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠・森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

備考

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等備考 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	西洋経済史	科目名 (英文)	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1019a0		

**授業概要・目的**

歴史の教科書を見ると、戦争や争い、またそれらへの反省に基づく平和を求める活動にページの多くが割かれていることに気づくでしょう。領土や「お金」または金や銀、資源、人種や宗教、その要因は様々です。そして、一度生まれた争いは、解決したように見えても、社会のいつかどこかで必ず再燃します。近年であれば、BLM(ブラック・ライブズ・マター)がその代表的な例と言えるでしょう。

本講義の前半では、「砂糖」に主な焦点をあて、その発見から争いまで、「砂糖」に関わる歴史を学びます。これにより、「砂糖」一つであっても、現在の様々な世界的問題を理解する上で、歴史的な視点や理解が重要かつ不可欠であることに気付くでしょう。

続けて講義の後半では、19世紀半ばから20世紀に焦点をあて、「砂糖」により出来上がった世界の経済システムがどのように変化し、また争いや戦争を伴い、現在へと至るのか、その概観を学びます。

**到達目標**

次の二つを目標とします。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。

**授業方法と留意点**

1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等により、理解度を測ります。  
 2. 資料を配布しますが、それらにのみ依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。

**科目学習の効果 (資格)**

2年次後半、また3、4年次に履修する科目をより深く理解することにつながると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	経済史とは何か? 経済史を通じて何を学ぶのか?	事前: シラバスの熟読 (2h)	事後: 授業内容の復習 (1h)
2	中世までの経済活動 (1)	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 1 (2h)
3	中世までの経済活動 (2)	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 2 (2h)
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 3 (2h)
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 4 (2h)
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 5 (2h)
7	いわゆる「世界の一体化」(3)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 6 (2h)
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 7 (2h)
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 8 (2h)
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが20世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 9 (2h)
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 10 (2h)
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 11 (2h)
13	第二次世界大戦後の世界経済 (1)	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 12 (2h)
14	第二次世界大戦後の世界経済 (2)	1990年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 13 (2h)
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習 (3h)

**関連科目** 経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	砂糖の世界史	川北稔	岩波書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界経済の歴史 (第2版)	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社	
3				

**評価方法 (基準)** 期末試験(60%)、小テスト(20%)、及び小課題(20%)を予定しています。但し、小課題の未提出回数が全体の2/3回以上の場合、期末試験は採点対象としません。授業形式により、変更の可能性があります。

**学生への** 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解

メッセージ	することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。 授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	国際マーケティング論	科目名 (英文)	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ, DP3o, DP4o, DP5o, DP6Δ, DP7o, DP8Δ, DP9o		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	この講義では、グローバルマーケティングについて基本的知識と基礎的なフレームワークを修得することを目的としています。マーケティング初学者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明します。
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深めることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際マーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
3	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング・ミックスに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
4	市場細分化	市場細分化について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
6	マーケティングと国際化	国際的な市場展開について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングと国際化に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
7	グローバル・マーケティングリサーチ	国際的に展開する場合のマーケティングリサーチについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
8	海外市場への参入方式	海外市場へ参入する場合の方式について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、海外市場への参入方式に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
9	国際マーケティングと製品政策	国際マーケティングと製品政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと製品政策に関する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
10	国際マーケティングと価格政策	国際マーケティングと価格政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと価格政策に関する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
11	国際マーケティングと広告政策	国際マーケティングと広告政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと広告政策に関する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
12	国際的なサプライチェーン・マネジメント	国際的なサプライチェーン・マネジメントに関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際的なサプライチェーンに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
13	グローバルな組織デザイン	グローバルな組織設計について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバルな組織デザインに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
14	国際マーケティングにおける調整	グローバルに展開する時の調整について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティング全般に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
2				
3				

評価方法 (基準)	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	福田 祐司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 IIa			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60% 原則として 3 回以上欠席の場合は評価対象外とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 祐司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 Ia			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60% 原則として 3 回以上欠席の場合は評価対象外とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。テキスト、辞書、ノートは必ず持参すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備(3時間)

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	まとめテスト60%、小テスト40%で評価を行う。
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑦		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に關する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。(診断書提出の場合は大学規定により考慮)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation &amp; Self-Introduction</td> <td>教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit1:</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit2</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4: McDonald's 「子どもと家族をハッピーに」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit7 Review (Final Assignment)</td> <td>Listening, Speaking and Writing Review &amp; Reflection Sheet</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)	2	Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	3	Unit1:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	4	Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	5	Unit2	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	6	Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	7	Unit 3	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	8	Unit 4: McDonald's 「子どもと家族をハッピーに」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	9	Unit 4	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	10	Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	11	Unit 5	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	12	Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	13	Unit 6	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	14	Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	15	Unit7 Review (Final Assignment)	Listening, Speaking and Writing Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)																																																																
2	Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
3	Unit1:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
4	Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
5	Unit2	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
6	Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
7	Unit 3	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
8	Unit 4: McDonald's 「子どもと家族をハッピーに」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
9	Unit 4	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
10	Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
11	Unit 5	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
12	Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
13	Unit 6	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
14	Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
15	Unit7 Review (Final Assignment)	Listening, Speaking and Writing Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義</td> <td>原田寛子</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																																																																		
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動 (ドラマ、音楽、映画など) を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう! また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。																																																																		

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIA
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ヴァンティ/ミルトン・ジュニア
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
到達目標	トピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できる。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation &amp; Self-Introduction</td> <td>教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: People</td> <td>Getting To Know You &amp; Appearance</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Free Talk &amp; Movie ① &amp; TOEIC ①</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ① (Unit 1)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: Behavior</td> <td>What Are You Doing? &amp; How Do You Feel?</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Free Talk &amp; Movie ② &amp; TOEIC ②</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ② (Unit 2)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: Shopping</td> <td>At the Supermarket &amp; Let's Go Shopping!</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Free Talk &amp; Movie ③ &amp; TOEIC ③</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ③ (Unit 3)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4: Vacation</td> <td>How's the Weather? &amp; Taking a Trip</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Free Talk &amp; Movie ④ &amp; TOEIC ④</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ④ (Unit 4)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: Heros</td> <td>Pioneers &amp; A Helping Hand</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Free Talk &amp; Movie ⑤ &amp; TOEIC ⑤</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: The Mind</td> <td>Memory &amp; Sleep</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Free Talk &amp; Movie ⑥ &amp; TOEIC ⑥</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Speaking Activities (English Presentation)</td> <td>English Presentation Project</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Review (Final Assignment)</td> <td>Review &amp; Reflection Sheet</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)	2	Unit 1: People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	4	Unit 2: Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	6	Unit 3: Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	8	Unit 4: Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	10	Unit 5: Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	12	Unit 6: The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)																																																																
2	Unit 1: People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
4	Unit 2: Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
6	Unit 3: Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
8	Unit 4: Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
10	Unit 5: Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
12	Unit 6: The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>World Link 1 (4th Edition)</td> <td>Nancy Douglas; James R. Morgan</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>随時配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	随時配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	随時配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ... 100% ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう! また、TOEICなどの学習も随時行なっていきます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べる。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習(30分): 実力テストの復習
2	Unit 1: be 動詞	・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 2: 一般動詞(現在形)	・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 2: 一般動詞(現在形)	・単語テスト ・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 3: 一般動詞(過去形)	・文法のチェック ・The First Time を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(3時間): 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習(3時間): 中間テストの準備
8	Unit 4: 進行形	・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 4: 進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 5: 未来表現	・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 6: 助動詞	・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 6: 助動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 7: 受動態	・文法のチェック ・Torn を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(3時間): 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習(30分): これまでの総復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップスでスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%			
学生への メッセージ	<p>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <p>・原則3回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は3回で1</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
3	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
4	Unit 2 School Life	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
5	Unit 2 School Life	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
6	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
7	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
8	中間テスト	Unit 1-3 授業内配布資料	事前：中間テストの勉強 事後：中間テストで不正解だった箇所をもう一度確認する。
9	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
10	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
11	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
12	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
13	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
14	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
15	まとめテスト	Unit 4-6 授業内配布資料	事前：まとめテストの勉強 事後：まとめテストで不正解だった箇所をもう一度確認する。

関連科目	実践英語 II a
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%
学生への	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。

メッセージ	このクラスでは基礎的な英文法、英会話を学び、アウトプットの機会を増やす事で実践で役立つ英語を身に付けましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 テキストの購入は必修です。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIA
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題	シラバスを読み、Moodleに登録する (0.5時間)
2	Unit 1 Eating Out 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
3	Unit 1 Eating Out 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
4	Unit 2 Travel 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
5	Unit 2 Travel 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
6	Unit 3 Amusement 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
7	Unit 3 Amusement 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
8	Unit 4 Meetings 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
9	Unit 4 Meetings 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
10	Unit 5 Personnel 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
11	Unit 5 Personnel 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
12	Unit 6 Shopping 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
13	Unit 6 Shopping 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
14	まとめ1	文法事項の復習、およびまとめテスト	事前：前期に学習した内容の総復習 (2時間)
15	まとめ2	まとめテストの解説	事後：不正解であった問題を中心に復習する (2時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一步上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 Intermediate	北尾泰幸 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English Iia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	TOEICブリッジ独自の出題形式や選択肢の見方に慣れ、今まで学んできた単語、文法の知識を駆使して色々な練習問題を解いていきながら、普段の努力を積み重ね必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とします。皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニックの習得のみならず、各練習問題に出てくる文法事項を覚え直す事で、今まで曖昧だった英文法などの復習も出来て一挙両得です！又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指します。また、授業計画は進度によって変わる場合があります。
到達目標	「千里の山も一歩から...文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題を解くには、問題文を訳さず1つでも多くの文法ルールを覚え、どの文法ルールが使われているか見抜くのが早道です。毎日少しずつの努力が大きな結果につながります。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。問題文と4択を見て「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもので、授業で出た新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
授業方法と留意点	授業時に単語テストを行う予定。予習として次に進む分の練習問題を解いて臨もう。授業は間違いを恐れず、じっくり取り組んでいきましょう。今迄、難しいと思った問題、複雑に思えた問題が解けた爽快感は何にも代えがたいものです。毎回それら一つ一つの積み重ねが苦手から自信に変わり、自身の得点力アップにつながります。提出物及び小テストのフィードバックは翌週以降の授業内で行う予定。
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。
2	Lesson 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	事前学習：教科書 p. 6-8 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
3	Lesson 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 8-9 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
4	Lesson 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 10-12 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
5	Lesson 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 12-13 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
6	Lesson 3 Health 健康 進行形	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 14-16 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
7	Lesson 3 Health 健康 進行形	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 16-17 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
8	Lesson 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 18-20 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
9	Lesson 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 20-21 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
10	Lesson 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 22-24 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
11	Lesson 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 24-25 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
12	Lesson 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 26-28 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
13	Lesson 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 28-29 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
14	Lesson 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 30-32 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
15	Lesson 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 32-33 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge	TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英語	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む） 40% 授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。 日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。		
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！		
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）		
備考	事前、事後学習には毎回 1 時間以上取り組み、課題に 1 回当たり 1 時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。テキスト、辞書、ノートは毎回持参すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (1.5 時間)
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備 (3 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	まとめテスト 60%、小テスト 40%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に關する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。(診断書提出の場合は大学規定により考慮)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit8 : NIKE 「誰もが運動を楽しめる社会に」	Orientation Reading&Discussion	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)
	2	Unit8:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	3	Unit 9 MUJI 「地域と連携した公園づくり」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	4	Unit9	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	5	Unit 10 : Apple 「リサイクルロボット Daisy と Dave」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	6	Unit 10	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	7	Unit 11 : Rakuten Group 「多様性に配慮した働き方」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	8	Unit 11	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	9	Unit 12 : Amazon 「STEM 教育の充実を目指して」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	10	Unit 12	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	11	Unit 13 : IKEA 「すべての人が平等に暮らせる毎日」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	12	Unit 13	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	13	Unit 14 : Dyson 「未来のエンジニアを育てるための大学」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	14	Unit 14	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%

学生への 「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきまし

メッセージ	よう！また、TOEIC などの学習も随時行なっています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English I Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヴァンティノ ミルトン・ジュニア
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑦		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しくは初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	
	2	Unit 7 : City Life	My Neighborhood & In the City	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie ; Quiz ① (Unit 7)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	4	Unit 8 : All About You	Sports & Personality	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie ; Quiz ② (Unit 8)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	6	Unit 9 : Change	Personal Habits & Breaking the Plastic Habit	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie ; Quiz ③ (Unit 9)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	8	Unit 10 : Health	The Body & Stress	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie ; Quiz ④ (Unit 10)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	10	Unit 11 : Achievement	Talented People & Risk	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie ; Quiz ⑤ (Unit 11)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	12	Unit 12 : At the Movies	What's Playing? & Movie Reviews	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie ; Quiz ⑥ (Unit 12)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	14	Speaking Activity (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
	15	Final Assignment & Review	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...100% ※詳しくは初回授業で説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう!また、TOEICなどの学習も随時行なっていきます。 ※後期からの履修も問題ありません。(選択科目の場合)
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対
----	---

応ずる。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習 (30分) : 実力テストの復習
2	Unit 8: 現在完了形	・文法のチェック ・You Are Not Alone を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・You Are Not Alone を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 9: 比較	・文法のチェック ・You Gotta Be を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・You Gotta Be を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 10: 分詞	・文法のチェック ・How Crazy Are You? を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (3時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習 (3時間) : 中間テストの準備
8	Unit 11: 不定詞	・文法のチェック ・Last Christmas を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Last Christmas を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 12: 関係詞	・文法のチェック ・Desperado を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Desperado を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 13: 接続詞・前置詞	・文法のチェック ・All I Want For Christmas is You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 13: 接続詞・前置詞	・単語テスト ・文法のチェック ・All I Want For Christmas is You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 14: 動名詞	・文法のチェック ・Sunday Morning を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (3時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習 (3時間) : これまでの総復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップスでスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%			
学生への メッセージ	<p>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <p>・原則3回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は3回で1</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
3	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
4	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
5	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
6	Unit 9 Hobbies	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
7	Unit 9 Hobbies	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
8	中間テスト	Unit 7-9 授業内配布資料	事前：中間テストの勉強 事後：中間テストで不正解だった箇所をもう一度確認する。	
9	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
10	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
11	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
12	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
13	Unit 12 Sports	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
14	Unit 12 Sports	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間	
15	まとめテスト	Unit 10-12	事前：まとめテストの勉強 事後：まとめテストで不正解だった箇所をもう一度確認する。	

関連科目	実践英語 I a
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。

メッセージ	このクラスでは基礎的な英文法、英会話を学び、アウトプットの機会を増やす事で実践で役立つ英語を身に付けましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 テキストの購入は必修です。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題	シラバスを読み、Moodleに登録する (0.5時間)
2	Unit 7: Advertisement 文法: 仮定法基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
3	Unit 7: Advertisement 文法: 仮定法 Eating Out 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
4	Unit 8: Daily Life 文法: 受動態基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
5	Unit 8: Daily Life 文法: 受動態 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
6	Unit 9: Office Work 文法: 代名詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
7	Unit 9: Office Work 文法: 代名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
8	Unit 10: Business 文法: 数量詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
9	Unit 10: Business 文法: 数量詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
10	Unit 11: Traffic 文法: 接続詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
11	Unit 11: Traffic 文法: 接続詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
12	Unit 12: Finance and Banking 文法: 前置詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
13	Unit 12: Finance and Banking 文法: 前置詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習 (0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
14	まとめ1	文法事項の復習、およびまとめテスト	事前: 前期に学習した内容の総復習 (2時間)
15	まとめ2	まとめテストの解説	事後: 不正解であった問題を中心に復習する (2時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	一步上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 Intermediate	北尾泰幸 他	朝日出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIB
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	TOEICブリッジ独自の出題形式や選択肢の見方に慣れ、今まで学んできた単語、文法の知識を駆使して色々な練習問題を解いていながら、普段の努力を積み必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とします。皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニックの習得のみならず、各練習問題に出てくる文法事項を覚え直す事で、今まで曖昧だった英文法などの復習も出来て一挙両得です！又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指します。また、授業計画は進度によって変わる場合があります。
到達目標	様々な出題形式に慣れつつ、文法ルール及び語彙を覚えていながら問題文を訳さず、どの文法ルールが使われているどんな内容の文章か見抜いて、短時間で多くの問題が解けるようになる事を目標とする。「千里の山も一歩から...文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題を解くには、毎日少しずつの努力が大きな結果につながります。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。問題文と4択を見て「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればいいもので、授業で出た新しい
授業方法と留意点	授業時に単語テストを行う予定。予習として次に進む分の練習問題を解いて臨もう。授業は間違いを恐れず、じっくり取り組んでいきましょう。今迄、難しいと思った問題、複雑に思えた問題が解けた爽快感は何にも代えがたいものです。毎回それら一つ一つの積み重ねが苦手から自信に変わり、自身の得点力アップにつながります。提出物及び小テストのフィードバックは翌週以降の授業内で行う予定。
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。
2	Lesson 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.34-36 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
3	Lesson 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.36-37 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
4	Lesson 9 Housing 住居 比較	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.38-40 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
5	Lesson 9 Housing 住居 比較	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.40-41 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
6	Lesson 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.42-44 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
7	Lesson 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.44-45、次回の第七回単語テスト範囲、1381~1410 番を勉強する事。
8	Lesson 11 Media メディア 完了時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.46-48 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
9	Lesson 11 Media メディア 完了時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.48-49 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
10	Lesson 12 Ordering & Shipping 注文/発送 受動態	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.50-52 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
11	Lesson 12 Ordering & Shipping 注文/発送 受動態	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.52-53 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
12	Lesson 13 Customer Services 顧客サービス 関係詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.54-56 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
13	Lesson 13 Customer Services 顧客サービス 関係詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.56-57 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
14	Lesson 14 The Environment 環境 仮定法	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.58-60 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
15	Lesson 14 The Environment 環境 仮定法	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.60-61 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge 英語	TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む） 40% 授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。 日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す。 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。		
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！		
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料及びテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポート準備、宿題などに要する事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げ、それらの総時間はおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問などは出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	何 雨桐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger and preview next week's unit (1 時間).
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! Also, preview next week's unit. (1 時間)
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目 英語基礎会話 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Class participation / homework assignments (10%)  
Unit review tests (3x30%)

学生へのメッセージ  
皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good luck!  
In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.  
Any student who is absent for

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1 to 3 復習テスト	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	In this course we will look to improve your overall English skills, by learning about and practicing the four main skills of language: Speaking, Listening, Reading and Writing. I look forward to teaching you this year!			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1 to 3 復習テスト	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高山 蒼馬
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger. After that, preview next week's unit. (1時間)
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目 英語基礎会話Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Class Participation / Online homework assignments (10%)  
Unit review tests (3x30%)

学生へのメッセージ  
皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!  
In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.  
Any student who is absent for

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語の習得には、地道な努力が必要です。授業に積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1~3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。</li> </ul> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席を</p>																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅱ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	何 雨桐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! (1時間)
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback. (1時間)

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%)  In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7 to 9 復習テスト	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	In this course we will look to improve your overall English skills, by learning about and practicing the four main skills of language: Speaking, Listening, Reading and Writing. I look forward to teaching you this year!			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7to9 復習テスト	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杜 天昊
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑦		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	<p>こんにちは、皆さん。英会話のクラスへようこそ！このクラスでは、英語を話す楽しさと、コミュニケーションを取るスキルを身につけることを目指します。間違いを恐れずに、たくさん話してみましょう。</p> <p>Hello, everyone. Welcome to the English conversation class! In this class, we aim to discover the joy of speaking English and develop our communication skills.</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! (1時間)
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback. (1時間)

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.																		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.																
関連科目	英語基礎会話 1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Wilson, K.</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Wilson, K.	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Wilson, K.	Oxford University Press																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%)</p> <p>In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.</p>																			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	英語の習得には地道な努力が必要です。授業に積極的に参加してください。																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7~9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直していきましょう。</li> <li>・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。</li> </ul> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席を</p>																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 I
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Study hard. Have fun. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	政治学	科目名 (英文)	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WS01412a2		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストは Moodle より行うので、受講する学生は Moodle の当授業コース「【前期金曜 4限・経済学部】日本の政治・政治学 (担当: 森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について  日本の政治制度の基本原理について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく  日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と土族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目 政治学、政治史関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店	
3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣	

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点）</li> <li>○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）</p>
<p>備考</p>	

科目名	生物学	科目名 (英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1415a2		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面で実施する
科目学習の効果 (資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系、脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	――

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を50%で評価する。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部1号館3階病理学研究室1
備考	事後学習60分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習30分が必要です。

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に話題提供を行い、議論を進行することもある。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前: 1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後: 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備しておくこと (事後: 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後: 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後: 0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後: 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前: 0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備しておくこと (事前: 1 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前: 0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目 キャリアデザイン I・III、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	水野武（7号館3階）
備考	

科目名	キャリアプラン	科目名 (英文)	Career Plan
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1503a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材 (人財) になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果 (資格)	授業を通して自分の成長に気づき、他者に自分の意志が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること (1 時間)
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること (1 時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること (1 時間)
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること (1 時間)
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと (2 時間)
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間)
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間) 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること (0.5 時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること (1 時間)
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること (0.5 時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること (0.5 時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと (1 時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること (1 時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること (1 時間)

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義での提出物 (30%)、グループ課題 (20%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
-----------	--

担当者の研究室等	水野講師室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。
----	--

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2506a3		

授業概要・目的	<p>主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の形態を知る</li> <li>・ビジネスへの理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の分類を知る</li> <li>・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (0.5 時間)</li> </ul>
4	企業研究を志望動機に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望動機を組み立て方について考える</li> <li>・企業研究を志望動機に結び付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自身の興味のある企業について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
5	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての心構えを知る</li> <li>・身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付されたテキストを精読すること (0.5 時間)</li> </ul>
6	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリーシートとは何かを知る</li> <li>・エントリーシートを書くための前準備を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること (0.5 時間)</li> </ul>
9	履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ用の履歴書を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (0.5 時間)</li> </ul>
10	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える</li> <li>・実際にグループディスカッションに取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返る (0.5 時間)</li> </ul>
11	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前訪問のマナーと準備について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (0.5 時間)</li> </ul>
13	課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン先を調べて、インターンシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること</li> </ul>

	②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)																
14	課題のプレゼンテーション ③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)																
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)																
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点(ミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する。 ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す。																		
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定) なお、インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 COVID-19などのパンデミックの影響や天候の問題により、先方都合で実習が中止になることもある。																		
担当者の 研究室等	石井研究室(7号館5階) 加野研究室(7号館5階)																		
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。																		

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
10	事後学修① 9月14日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
11	事後学修② 9月14日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してくること(1時間)
15	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	「インターンシップ I」を必ず履修すること。			
担当者の 研究室等	石井研究室 (7号館 5階) 加野研究室 (7号館 5階)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジユメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑥, DP7⑥, DP9⑥		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また、数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に、受講生の数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験 (総合適性検査 SPI・公務員試験等) の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く (取り組む)」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p>
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習 (1時間)
	2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
	8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
	9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
	15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	「平常点 (授業内課題): 40%」+「中間テスト・最終テスト: 50%」+「Smart SPI: 10%」 ※第1回の平常点は、実力テスト (点数は成績に影響しない) を実施するため8点 (成績の8%) とする
-----------	---

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター (2号館2階)
----------	-------------------

備考	『厳選! 数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック (解答・解説) はMoodleに提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。
----	--

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ数理問題が概ね解ける。</p> <p>ものごとを論理的に考える習慣がついている。(DP1)</p>
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事前：シラバスを熟読する (10分) 事後：実力テストを振り返り、自身の強化ポイントを把握する (30分)
2	計数問題①	割合と比	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
3	計数問題②	割合の応用問題	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
4	計数問題③	損益算	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
5	計数問題④	速度算①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
6	計数問題⑤	速度算②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
7	総復習①	計数問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
8	中間テスト	中間テスト	事前：今まで学習した問題全てを復習しておく (120分) 事後：自身の弱点を把握し、今後に向けての自主学習計画を立案する (60分)
9	論理問題①	集合	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
10	論理問題②	場合の数	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
11	論理問題③	確率	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
12	論理問題④	表の読み取り	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
13	論理問題⑤	推論①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
14	論理問題⑥	推論②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
15	総復習②	論理問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)

関連科目	キャリアデザイン、就職実践基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業内課題および態度): 40%、中間テスト・最終テスト: 50%、SmartSPI: 10% ※第1回の平常点は、実力テスト(点数は成績に影響しない)を実施するため8点(成績の8%)とする			
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター(2号館2階) 7号館3階 全学教育機構			
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodleに掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。			

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1510a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のオリエンテーション</li> <li>授業のルール</li> <li>あいさつの真の意味とは</li> <li>正しい基本姿勢を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること (60分)</li> </ul>	
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>定型業務と非定型業務</li> <li>コスト意識とエコ活動</li> <li>仕事の基本の8つの意識</li> <li>話し方と聞き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30分)</li> <li>事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60分)</li> </ul>	
3	目標設定とPDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定 (MBO)</li> <li>PDCAとは</li> <li>チームと個人の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: PDCAについて調べる (30分)</li> <li>事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること (60分)</li> </ul>	
4	スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュールの作り方</li> <li>業務としての出張-YTT方式-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること (30分)</li> <li>事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60分)</li> </ul>	
5	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な敬語表現の復習</li> <li>ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 敬語プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: ケーススタディプリントをすること (60分)</li> </ul>	
6	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスフォンの扱い方</li> <li>5W2Hから6W3Hへ</li> <li>簡潔メモの作り方</li> <li>不在処理と伝言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 電話応対プリントをすること (30分)</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60分)</li> </ul>	
7	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織図と対応</li> <li>簡単な応対から不在処理や重複処理まで</li> <li>名刺交換</li> <li>※対面授業に切り替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 来客応対プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: 来客応対プリント②をすること (60分)</li> </ul>	
8	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおける「報連相」</li> <li>指示の受け方</li> <li>業務の優先順位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30分)</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60分)</li> </ul>	
9	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外文書が基本</li> <li>商取引文書と社外文書の相違</li> <li>社内文書と社外文書の種類</li> <li>ファイリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書始める前をすること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネス文書②をすること (60分)</li> </ul>	
10	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書③をすること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネス文書④をすること (60分)</li> </ul>	
11	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択</li> <li>作成上の注意点</li> <li>郵便・宅配便の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: メール文書を作成すること (60分)</li> </ul>	
12	法的業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>押印と印鑑の意味</li> <li>内容証明</li> <li>個人情報保護 (Pマーク)</li> <li>コンプライアンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: コンプライアンスについて調べる (30分)</li> <li>事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60分)</li> </ul>	
13	設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>YTT方式からの業務遂行</li> <li>確認の必要性</li> <li>他部署とのコミュニケーションの必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30分)</li> <li>事後学修: 設営事例をまとめること (60分)</li> </ul>	
14	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> <li>慶弔時の基本的マナー</li> <li>「式」について</li> <li>業務としての贈答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60分)</li> </ul>	
15	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人同僚・異文化への対応</li> <li>働き方とキャリア開発</li> <li>公共の場でのマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること (30分)</li> <li>事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60分)</li> </ul>	

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。			

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。 SDGs-9, 1013
到達目標	この講義では、受講学生が以下の事項ができるようになることを目標とする。 1) 経済学で利用する基礎的な概念を理解し、その意味を説明することができる。 2) 新古典派経済学の市場観 (最適化と均衡) について説明することができる。 3) 市場の機能や動きにかんするさまざまな見方を比較することができる。 4) GDP の三面等価について概念的に説明できる同時に、数値による計算ができる 5) マクロ経済における消費の決定について説明することができる 6) 45度線分析にもとづいて、GDP の決定について説明できる
授業方法と留意点	基本的には配布プリントを用いて講義形式で進めるが、時おり時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また授業の理解度を確保するために適宜課題を課す。なお受講者の理解度によって、シラバスの変更もあり得る。 授業の一部で反転授業形式を採用する。その際は受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。 事前の動画視聴など事前の準備を行わないと授業に参加することができないことがありますので気を付けてください。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、課題提出の方法、成績評価基準について説明する	Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
2	経済学の歴史	経済とは何か、また経済学はこれにどう向き合ってきたかについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
3	消費者はどのように行動するか	経済学は、私たち消費者がどのように行動していると考えているかについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
4	企業はどのように行動するか	現代経済において中心的な存在である企業がどのように考えて行動しているかについて解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
5	需要と供給はどのように調整されるか (1): 市場均衡と市場の機能	市場という場で、消費者の行動 (需要) と企業の行動 (供給) がどのように調整されるかについて解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
6	需要と供給はどのように調整されるか (2): 株式市場における価格決定	需要と供給が調整される市場が実際にどのように機能しているのかを株式市場を例に考える。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
7	経済調整の諸相 (1): 抗争的交換	情報や権力に格差があるなかでの取引がどのようになるかについて考える	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
8	経済調整の諸相 (2): ゲーム的状况	他者との相互作用がある場合の経済調整がどのように行われるかについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
9	経済循環と三面等価	経済循環の構造と国内総生産 (GDP) の概念について解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
10	消費関数と貯蓄関数	人々の消費活動が経済全体ではどのように表現されるのかについて考える	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
11	GDP の決定: 45 度線分析	45 度線分析の枠組みを用いて GDP がどのように決定されるかについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
12	乗数理論: 財政支出	45 度線分析の枠組みを用いて、財政政策がどのような効果をもつかについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
13	投資と経済成長	経済において投資が果たす役割を確認しつつ、経済成長のメカニズムについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
14	経済学部での学びを深めるため	これから経済学部での学びを通じて現実の経済への理解をどのように深めていくかについてガイダンスを行う	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
15	期末テスト	期末テスト	期末テストに向けて準備を行う (3 時間)。

関連科目 マクロ経済学 I・II、ミクロ経済学 I・II、社会経済学 I・II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 40%、期末試験 60%の割合で評価します。授業時間内外の課題ではMoodle を利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。		
学生への メッセージ	<p>経済学は、抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。経済の中には実に多様な経済主体がいて、それをすべて具体的に扱うことができないからです。こうした考え方を理解するには、それなりの労力が必要です。授業では、経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが、話を聞いているだけで身に付くものではありません。問題演習を通じて理解を深めてください。</p> <p>また現実の経済に関心もたないと、経済学を理解することもできませんし、経済学がおもしろくなりません。そのためには、日頃からテレビのニュースを見たり新聞を読んだりす</p>		
担当者の 研究室等	1号館7階 原田研究室		
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。		

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的には配布プリントを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、別途の配付プリントを参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す予定である。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、単元テスト・課題提出の方法について、成績評価方法、(必要に応じ Teams を利用したオンライン授業の方法)について説明する。	
2	経済学の歴史	経済学の発展に貢献した人物やその考え方を歴史的に学ぶ。	学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
3	国民経済計算	マクロ経済学で用いられる基礎的な概念(国内総生産・三面等価の原則等)を理解する。	単元テスト1 学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
4	財政政策・租税①	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析の構造を理解する。	単元テスト2 学習内容の復習(約30分)
5	財政政策・租税②	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析を行い、乗数効果について理解する。	学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
6	金融政策・金利	マクロ経済学の分析の入門として、各種金融政策を学ぶ。また、金利に対する理解を深める。	単元テスト3 学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
7	消費者理論①	ミクロ経済学の分析の入門として、効用関数、限界効用、消費者余剰、最適消費量等の概念を理解する。	単元テスト4 学習内容の復習(約30分)
8	消費者理論②	演習問題を通じて、消費者理論への理解を深める。	学習内容の復習(約30分)
9	生産者理論	ミクロ経済学の分析の入門として、費用関数、限界費用、生産者余剰、最適生産量等の概念をおおまかに理解する。	学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
10	市場均衡・余剰分析①	ミクロ経済学の分析の入門として、完全競争市場における均衡の性質を学ぶ。	単元テスト5 学習内容の復習(約30分)
11	市場均衡・余剰分析②	前回に引き続き、完全市場均衡に関する静学分析を通じて、均衡の性質について理解を深める。	学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
12	ゲーム理論	非協力ゲームの戦略型ゲームの構造を理解する。囚人のジレンマ・ナッシュ均衡を理解する。ゲーム理論の経済学への応用の基礎を学ぶ。	単元テスト6 学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
13	統計学の基礎の基礎	経済学でなぜ統計学が必要なのかを理解する。 記述統計量(平均・分散・標準偏差・相関係数)を計算できるようにする。	単元テスト7 学習内容の復習(約30分) 単元テストの予習(約30分)
14	現実の経済を学ぶために	これから経済学部で現実の経済をどのように学ぶのかガイダンスを行う。	単元テスト8 学習内容の復習(約30分) 期末テストの予習(約60分)
15	期末テスト	期末テスト	

関連科目 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学、ゲーム理論等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験(60%)・単元テスト(40%)に基づく総合評価による。
学生へのメッセージ	質問があれば気軽にして下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
備考	

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中の地域経済について理解し、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。
到達目標	地域経済とは何か、基本的な考え方が理解できるようになる。また、人口減少が進むわが国の現状を理解し、どのように各地域が努力すべきかを考える基礎を身につける。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	地域経済学の課題	地域の概念、グローバル化と地域経済について学習する。	講義の復習 30分
3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	講義の復習 30分
4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定について学習する。	講義の復習と課題 30分
5	産業連関分析	産業連関表の考え方、経済波及効果の算出方法を学習する。	講義の復習 30分
6	地域成長の経済分析	地域経済の成長を説明するモデルである「需要主導型モデル」と「供給主導型モデル」について学習する。	講義の復習 30分
7	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について学習する。	講義の復習 30分
8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	講義の復習 30分
9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	講義の復習 30分
10	小テスト	30点の小テストを行う。	全体の復習 30分
11	地域政策 1	地域産業活性化策の体系	講義の復習 30分
12	地域政策 2	産業クラスター政策の流れ、地域イノベーション	講義の復習 30分
13	地域政策 3	人口減少と過疎化	講義の復習 30分
14	事例紹介	努力する自治体事例	講義の復習 30分
15	確認テスト	確認テスト	全体の復習 90分

関連科目 経済学入門 (エコノミックリテラシー)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済入門第3版	山田浩之・徳岡一幸編	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2			
3			

評価方法 (基準) 課題 (20%)、小テスト (30%)、確認テスト (50%) を総合的に評価する。授業の進捗状況により、授業内容や評価方法を変更する可能性がある。

学生へのメッセージ 地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひとつひとつ履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。

担当者の研究室等 1号館7階 (経済学部)

備考 学生の理解度に応じて授業内容を変更することがある。

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートを実施する。
2	地域の概念と基本地域メッシュ	地域の概念と地域メッシュについて説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
7	産業連関分析 (1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
8	産業連関分析 (2)	経済波及効果の分析実例を紹介する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
9	前半内容のまとめ及び小テスト	1回から8回までの内容のまとめと小テストを実施する	事前：1回から8回までの内容を復習すること。(約3時間)
10	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
11	地域経済成長の理論 (1)	移出基盤モデルについて説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
12	地域経済成長の理論 (2)	特化係数法と基盤比率について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
14	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (約1時間) 事後：課題の提出 (約1時間)
15	総まとめと確認テスト	講義の総まとめ及び確認テストを実施する。	事前：これまでの内容を復習すること (約3時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門 第3版	山田浩之 徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業での提出課題 20%、小テスト 30%、確認テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。

学生へのメッセージ 地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。

担当者の研究室等 1号館7階 郭教室

備考

科目名	観光学入門	科目名 (英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその重要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社での観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ、観光に関する実践的な教育を行います。			
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果 (資格)	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明等 プレテストの実施	プレテストの結果確認
	2	観光と観光学	観光とは何か？観光の定義、観光の果たす役割・意義を考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	3	観光の歴史 I	観光の世界史・日本史を講義する。(古代～近世)	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	4	観光の歴史 II	観光の世界史・日本史を講義する。(近代～現代)	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	5	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	6	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	7	観光と経済 I	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	8	観光と経済 II	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	9	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。 「小テスト①」実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	10	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。 「小テスト①」の振り返り	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「小テスト①」の復習 (60分)
	11	観光と法律①	観光に関わる法律、条約、条例やそれぞれの役割について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	12	観光と法律②	観光立国推進基本法の意義について考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	13	観光と観光産業①	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習「課題」作成 (60分)
	14	観光と観光産業②	宿泊産業・航空産業の特徴と役割について講義する。「小テスト②」実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
	15	新しい観光と観光政策	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について考える。「小テスト②」の振り返り、「課題」作成、提出	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「小テスト②」の復習 (60分)
関連科目	観光人材論、観光マーケティング論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト2回 (40%)、課題提出 (10%)、定期試験 (50%) の割合で評価します。			
学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	観光学入門	科目名 (英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	定住人口に代わって交流人口による地域経済の活性化が期待できるのが観光です。日本はこれまで国の政策として訪日外国人観光客誘致に取り組んできましたが、少子高齢化が進むわが国にとって、観光は今後さらに重要性を増していくものと考えられます。この授業は、航空会社とホテルにおいて実務経験のある教員が担当し、観光現象を具体的に分かりやすく説明することによって、観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識を習得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
3	観光の歴史 (1)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
4	観光の歴史 (2)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
5	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
6	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっていくべきかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
7	観光と観光対象 (1)	観光の対象について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
8	観光と観光対象 (2)	観光の対象について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 小テスト①
10	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
11	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
12	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
13	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
14	新しい観光の形	近年出現してきた新しい観光の形について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 小テスト②
15	現代観光の課題とこれからの観光	日本の観光が持つ課題と今後のあり方について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート

関連科目	航空産業論、宿泊産業論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (2回) 40%、課題レポート (1回) 20%、期末試験 40%
学生へのメッセージ	コロナ禍が落ち着き、世界中で観光客が増えています。観光に関するトピックスは頻りにニュースや記事に取り上げられていますので、普段から時事問題に注意をしておいてください。
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
備考	

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果 (資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の概要説明 大学でのノートのとりかた、コーネル式 ノートの紹介	-
2	経済のグローバル化 (1) 国境を越えるグローバル企業の経済活動	GAF A、トヨタ、租税回避	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
3	経済のグローバル化 (2) 経済のグローバル化と日本経済の変化	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請中小企業の苦境	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
4	経済のグローバル化 (2) 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ現象、日本の外国人労働者	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
5	経済のグローバル化 (4) 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と实体经济	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
6	経済のグローバル化 (5) グローバルイシュー 地球規模の課題と国際社会	SDGs (持続可能な開発目標)	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
7	経済のグローバル化 (6) 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
8	経済のグローバル化 (7) 地球温暖化問題と国際社会の変化	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
9	おカネの流れをつかむ	ジム・ロジャーズと日本経済悲観論、アジアの時代の到来、おカネの流れの激変	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
10	日本経済は衰退したのか	国の衰退の原因を歴史、日本経済の好景気、少子高齢化下の日本経済と移民の可能性	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
11	日本産業は投資価値があるのか	観光、農業、教育などの日本産業の投資価値、日本経済の強み	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
12	中国経済の台頭	中国経済発展の概況、中国巨大 IT 企業、一帯一路	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
13	国際金融市場	資金調達手段、国際金融市場とは、国際金融センターと日本の位置づけ	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
14	為替レートと円安	為替レート概念、円安・円高、避難超過となる日本円、円安の影響	授業内容の予習 30 分、復習 30 分
15	これから世界経済はどこへ向かうのか	世界経済見通し、生産の回復、物価の高騰、地政学的緊張	授業内容の予習 30 分、復習 30 分

関連科目	経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
2			
3			

評価方法 (基準)	前記小論文 50%、後期小論文 50% なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
-----------	---

学生へのメッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野口研究室、羅研究室
備考	本講義は、第1～8回を野口が、第9～15回を羅が担当します。 前期小論文は野口が、後期小論文は羅が採点します。

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果 (資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	コースの概要 コーネル式ノート術	1 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
2	おカネの流れをつかむ	ジム・ロジャーズと日本経済悲観論、アジアの時代の到来、おカネの流れの激変	2 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
3	日本経済は衰退したのか	国の衰退の原因を歴史、日本経済の好景気、少子高齢化下の日本経済と移民の可能性	3 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
4	日本産業は投資価値があるのか	観光、農業、教育などの日本産業の投資価値、日本経済の強み	4 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
5	中国経済の台頭	中国経済発展の概況、中国巨大 IT 企業、一帯一路	5 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
6	国際金融市場	資金調達手段、国際金融市場とは、国際金融センターと日本の位置付け	6 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
7	為替レートと円安	為替レートの概念、円安・円高、避難通貨となる日本円、円安の影響	7 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
8	これから世界経済はどこへ向かうのか	世界経済見通し、生産の回復、物価の高騰、地政学的緊張	8 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
9	経済のグローバル化 (1) 国境を超えるグローバル企業の経済活動	GAF A、トヨタ、租税回避	9 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
10	経済のグローバル化 (2) 経済のグローバル化と日本経済の変化	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請け中小企業の苦境	10 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
11	経済のグローバル化 (3) 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ減少、日本の外国人労働者	11 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
12	経済のグローバル化 (4) 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と実体経済	12 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
13	経済のグローバル化 (5) グローバルイシュー、地球規模の課題と国際社会	SDG s (持続可能な開発目標)	13 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
14	経済のグローバル化 (7) 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	14 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)
15	経済のグローバル化 (7) 地球温暖化問題と国際社会の変化	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	15 回目内容の事前予習 (30 分)、事後学習 (30 分)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	前期 小論文 50%、後期 小論文 50% なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
-----------	---

学生へのメッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 羅研究室、野口研究室
----------	------------------

備考	本講義は、第 1～8 回を羅が、第 9～15 回を野口が担当します。 前期小論文は羅が、後期小論文は野口が採点します。
----	--

科目名	会計学入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW1005a0		

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学である。会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者に向けて概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ】「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計（簿記）の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体のプロセスがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はパワー・ポイントと板書を並行する。必ず筆記の用意をすること。
科目学習の効果（資格）	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、15回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握でき、授業目標および全体内容に関するレポートの作成・提出（30分要） 経済・経営学における会計学の位置づけに関する事後レポートを提出（40分要）
2	会計学とは、複式簿記とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等を述べる 複式簿記の意義など	【予習 60分】複式簿記の理解のための参考図書を読んでおく 【復習 30分】経済・経営学における会計学の位置づけ、複式簿記の意義に関するレポート
3	財務諸表と簿記の5要素	2つの財務諸表（貸借対照表と損益計算書損益）の理解、簿記の5要素（資産・負債・資本と費用・収益）について説明	【予習 60分】2つの財務諸表の概要と構成要素について読んでおく 【復習 20分】B/S・P/Lと簿記の5要素を理解し演習問題を解いて提出
4	取引と仕訳①	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	【予習 60分】仕訳のルールを読んでおく 【復習 20分】仕訳の演習問題を解いて提出
5	取引と仕訳②	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	【予習 60分】前回講義内容のなかで①仕訳のルール、②5要素の基本ポジションを理解し、完全に覚えてくる 【復習 20分】仕訳の演習問題を解いて提出
6	転記と総勘定元帳①	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールおよび転記方法を理解する	【予習 30分】仕訳のルールに基づいて、転記ができるようにしておく 【復習 30分】転記のルール・転記方法に基づいて仕訳を総勘定元帳転記する基本演習問題を解いて提出
7	転記と総勘定元帳②	転記を行って総勘定元帳の作成及び締切方法	【予習 40分】転記ができるように、前回の内容を完全に理解しておく 【復習 30分】総勘定元帳の作成アドバンスド演習、各勘定の締切の演習
8	転記と総勘定元帳③	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	【予習 30分】総勘定元帳の理解 【復習 30分】各勘定の締切に関する演習問題を解いて提出
9	会計期間・利益計算法	利益計算を行う期間である「会計期間」の意義、会計における2つの利益計算法、B/S・P/Lの関係	【復習 30分】会計期間の必要性、2つの利益計算法に関するレポートの提出
10	試算表の意義・作成①	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成、貸借平均の原理の理解	【予習 30分】試算表の概要について読んでおくこと 【復習 15分】試算表に関するレポートの提出
11	試算表の意義・作成②	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成	【予習 50分】前回の講義内容のなかでタイプ別試算表の作成プロセスを理解しておく 【復習 15分】試算表作成演習問題を解いて提出
12	精算表の理解と作成①	決算の意味を理解、精算表の意義・フォームに理解して試算表に基づいて本決算手続きである精算表の作成	【予習 30分】精算表の意義を読んでくる 【復習 30分】決算手続きに関するレポートの提出
13	精算表の理解と作成②	異なる精算表フォームを理解し、試算表に基づいて、本決算手続きである精算表の作成	【予習 30分】精算表の意義・フォーム・作成方法を理解しておく（前回講義の参照） 【復習 30分】精算表作成の演習問題を解いて提出
14	貸借対照表と損益計算書の作成	簿記における最終報告書（財務諸表）である貸借対照表と損益計算書の理解と作成	【予習 60分】精算表のB/S・P/Lの作成プロセスおよび内容の理解 【復習 30分】B/S・P/Lに関するレポートの提出、演習問題を解いて提出
15	まとめ	14回の授業のまとめと質疑応答	【復習 60分】最終レポートの提出

関連科目 「財務管理Ⅱ」「原価管理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	日商簿記3級テキスト（出版社はどこでもいい）		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 40% (授業中行う Quiz test, レポート、授業への参加度などを総合的に評価)、定期試験 60%			
学生への メッセージ	本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには欠席せず授業に参加することが大事（第1回目のガイダンスも出席してください） ※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室（経済学部）			
備考				

科目名	日本経済史	科目名 (英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1006a0		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式を想定する。 必要に応じて、演習を実施する。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 ノートを必ずとるようにしてください。 必要に応じてMoodleを活用する。
科目学習の効果 (資格)	現在の日本の社会システム、経済システムがなぜこのようになったのかを理解できる。 歴史的に物事を理解する基礎が身につく。 日本経済の流れを他の人 (含む外国人) に説明する基礎が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策 (版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等) を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
5	日本の産業革命 (1)	日本の産業革命の実態を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
6	日本の産業革命 (2)	日本の産業の基礎となる官営工業、民間企業、金融システムの確立を中心に学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化 (機軸国アメリカの登場) と国内的变化 (日本的労使関係の形成等) の視点から考察する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
11	戦時経済 (1)	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境 (世界経済のブロック化) の中で理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
12	戦時経済 (2)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
13	戦後経済改革	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期から近年に至る経済状況の流れを学ぶ。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行い手書きノートの作成 (90分)

関連科目	関西経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	テストと小テストにて評価を行う。 テスト1回=70点、小テスト30点、計100点			
学生への メッセージ	日本経済の歴史的な流れを把握し、現在の日本経済の理解につなげるようがんばってください。 日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野長瀬教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	日本経済論	科目名 (英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1007a0		

授業概要・目的	この講義では、日本経済の動きを観察できるようになるためのツール（マクロ経済理論の入門）を習得し、日本経済の各種データを確認することでその現状を把握します。
到達目標	<p>日本経済の次の項目について説明できて、必要に応じて計算できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化社会、合計特殊出生率</li> <li>・フローとストック、名目と実質、GDP</li> <li>・物価指数</li> <li>・三面等価の原則</li> <li>・信用創造</li> <li>・金融政策、マネーサプライ、マネタリーベース</li> <li>・投資、利子</li> <li>・労働需給、失業</li> <li>・社会保障、社会保険</li> </ul> <p>・経済学の基礎的な考え方を知る。 ・日本経済の現状に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</p>
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生き方を日本経済のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。</li> <li>・日本での就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、内容の概観、評価方法の確認を行い、学習の準備をします。	シラバスを確認し、講義内容、評価方法について確認する。
2	人口と日本経済	日本の人口構造は今後大きく変化していきます。人口減少、高齢化、少子化、合計特殊出生率をキーワードに日本の人口構造を説明します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
3	日本経済の大きさ（GDP）	日本経済の大きさをつかむためにつけられているのが国民経済計算です。GDPの計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
4	物価指数	物価の安定自身が経済政策の重要な目標であるため、物価の変動をあらわす物価指数について、計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
5	三面等価の原則	一国経済において家計、企業、政府、海外という4つの経済主体が生産、所得、支出という3つの経済活動を行っています。それらが等しくなることを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
6	銀行の信用創造	貸し手のお金を借り手がスムーズに使えるようになることが金融の役割です。その創造メカニズムを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
7	金融政策	中央銀行は、様々な金融調整手段を使って物価の安定と経済成長を実現しようとします。中央銀行の役割を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
8	投資と利子 (1)	企業が生産活動を行うには設備などへの投資が必要になります。どのような判断の下に投資が行われるのかを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
9	投資と利子 (2)	金利には多くの種類があります。投資の関係で利子の大きさを把握するため、計算問題を通して、利子について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
10	日本の労働市場（雇用と失業）	「働く意思を持つ全ての人に働く機会がある」ことを完全雇用といいます。日本の労働市場の需給状況を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
11	日本の雇用慣行	1980年代頃まで日本的雇用慣行は国際的に高く評価されていましたが、バブル経済崩壊後、大幅な見直しが求められています。近年の働き方改革について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
12	産業構造の変化	日本経済が成長していくためには成長性の高い産業への産業構造の変化が必要です。今後の産業構造の変化の方向について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
13	社会保障と財政 (1)	社会保障負担の増大が現時点の雇用・賃金に影響を与えることを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。

	14	社会保障と財政 (2)	日本の年金制度・医療保険の制度を、財政との関わりで学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
	15	まとめ	これまでの授業内容をまとめます。	(事前) これまでの配付資料を読み、ノートの整理を行う (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
関連科目	日本経済史, マクロ経済学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門マクロ経済学—大きくつかむ経済学のエッセンス	小林弘明ほか	実教出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎の課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・復習問題 (10%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・レポート (20%) : 授業内容に関するテーマについての説明文。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	日本経済の現状は皆さんの生活と密接に関わる事象です。日本経済の変化が皆さんの生活にどのように関わるのか、経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが、手元にあると学習が進めやすと思います。			
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室			
備考				

科目名	経営学	科目名 (英文)	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花木 完爾
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1008a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。(DP2) ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントもしくはレジュメによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、公認会計士、公務員試験、大学院試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業のかたち	企業の形態と分類について学習する。	事前：教科書の第2章、第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	株式会社の統治の仕組み	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	経営理論の歴史 (1)	産業革命が生み出した作業管理手法の必要性について学習する。	事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	経営理論の歴史 (2)	フレデリック・テイラーの生み出した科学的管理法について学習する。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	経営理論の歴史 (3)	1920年代の古典的、新古典的経営理論 (フォード、ファヨール、メイヨー) について学習する。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	経営理論の歴史 (4)	1930年代バーナードの近代的組織論について学習する。	事前：教科書の第11章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	経営組織論 (1)	組織とはなにか、学習する。	事前：教科書の第12章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	経営組織論 (2)	基本的な組織形態とさまざまな組織形態について学習する。	事前：教科書の第13章、第14章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	経営戦略論 (1)	1960年代チャンドラー、アンソフの経営戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	経営戦略論 (2)	1980年代マイケル・ポーターの競争戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	人事管理とリーダーシップ論	人事管理の歴史と人的資源管理について学習する。	事前：教科書の第16章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	マーケティング論	マーケティングの誕生から基礎理論までを学習する。	事前：教科書の第17章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	生産管理論	現代の作業管理のあり方について歴史的に学習する。	事前：教科書の第4部第2章2節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	日本的経営論	日本での経営方式の強み、弱みについて学習する。	事前：教科書の第4部第2章2・3節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目	日本経営史、外国経営史、経営戦略論、経営組織論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学	井原久光	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各講義後に実施する小テスト40%、期末レポート60%で評価する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	①小テストは、講義終了後から次回の講義の前日23時までに回答しなければならない。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。
----	---

科目名	経済地理	科目名 (英文)	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1009a0		

**授業概要・目的**  
 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉は TPP 交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。

**到達目標**  
 経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。

**授業方法と留意点**  
 教科書にしたがった講義形式で行う。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
7	地球環境問題とグローバル経済	教科書 第7章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習(30分)、事後・復習(30分)
15	まとめ		事後・復習(30分)

**関連科目**  
 国際経済学入門、日本経済論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 中間レポート(10%)、期末試験(90%)で評価する。

**学生へのメッセージ**  
 普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。

**担当者の研究室等備考**  
 1号館7階 野口准教授室(経済学部)

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体（＝消費者、企業、政府）が様々な状況下でどのような選択（もしくは意思決定）を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・社会厚生に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である産業組織論、国際経済学等の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	最初の授業に中間・定期試験対策として例題を配り、授業中に解説します。 10回目に中間試験を行います。 それ以外の回については、Moodleに講義資料をUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	市場における需要と供給の作用	市場における需要と供給曲線がどのように求められ、また市場の均衡がどのようにして決まるかを説明する。	テキスト4章予習・復習と例題1の学習 (1時間)
	2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト5章予習・復習と例題2の学習 (1時間)
	3	消費者選択の理論1 (無差別曲線、予算制約)	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト21章予習・復習と例題3の学習 (1時間)
	4	消費者選択の理論2 (効用最大化、需要曲線の決定)	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト21章予習・復習と例題4の学習 (1時間)
	5	競争市場における企業1	企業の生産活動について説明する。	テキスト13章予習・復習と例題5の学習 (1時間)
	6	競争市場における企業2	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト14章予習・復習と例題6の学習 (1時間)
	7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト7章予習・復習と例題7の学習 (1時間)
	8	価格規制	政府が行う価格規制の役割と影響を説明する。	テキスト6章予習・復習と例題8の学習 (1時間)
	9	中間試験前の総復習	例題1～6について解説	例題1～6について事前に自分で解いて理解しておくこと (1.5時間)
	10	中間試験		
	11	余剰分析の応用1 (課税の費用)	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト8章予習・復習と例題9の学習 (1時間)
	12	余剰分析の応用2 (国際貿易)	国際貿易が生じるメカニズム、メリット・デメリット、関税などの影響について説明する。	テキスト9章予習・復習と例題10の学習 (1時間)
	13	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト15章予習・復習と例題11の学習 (1時間)
	14	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト16章予習・復習と例題12の学習 (1時間)
	15	定期試験前の総復習	例題7～12について解説	例題7～12について事前に自分で解いて理解しておくこと (1.5時間)

関連科目: ミクロ経済学 II、公共政策論、産業組織論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マンキュー経済学 (1) ミクロ編	N. グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準): 中間試験 (30%)、定期試験 (70%) で評価します。  
中間試験において不正行為等をした学生の中間テストの点数は0になり、また悪質な場合には定期試験の受験を認めません。  
私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。

学生へのメッセージ: 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等: 1号館7階 名方准教授室 (経済学部)

備考:

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	経済学の最も基本となるミクロ経済学を学び、経済学的な考え方を習得することを目的とします。具体的には、消費者や企業といった経済主体がどのように行動するか、市場で売り手と買い手がどのような条件で取引するか (市場均衡)、そして市場均衡の社会的な望ましさの評価 (経済厚生) とその改善のための政府のとりべき政策についての基本を反転授業によるアクティブラーニングを通じて学びます。
到達目標	消費者や企業がどのように行動するか、消費者と企業は市場でどのような取引をする (市場均衡) か、市場均衡の社会的な望ましさ (経済厚生) をどのように評価するか、市場均衡で経済厚生が望ましくないのはどのようなときか、そして、経済厚生を改善するためには政府はどのような政策をとるべきか、についての基本を理解できることを目標とします。
授業方法と留意点	反転授業によるアクティブラーニングで行います。第1回目は対面でのイントロダクションです。その後、偶数回はオンデマンド授業で、講義内容を Moodle を通じて動画を視聴し、課題レポートを提出してもらいます。奇数回は対面授業で 学生と質疑応答をしながら課題の答え合わせや重要なポイントの解説をします。対面授業の終了後には振り返りレポートを提出してもらいます。振り返りレポートは対面授業出席者のみ提出することができます。 ミクロ経済学は体系的で積み重ねの学問ですので、動画視聴、課題レポート提出、対面での質疑応答
科目学習の効果 (資格)	ミクロ経済学は経済学のもっとも基礎となる分野で、その後に学ぶすべての経済学科目の学習の理解に有益です。経済学的な見方を習得することは、ビジネスにおける判断にも個人としてのさまざまな選択・意思決定の際にも有益です。 公務員試験や経済学を含む資格試験に必須の科目で、それらの試験の準備にも有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは (1)	対面。対面で、授業方法について説明した後、ミクロ経済学の対象と課題を説明します。	事前に教科書1章1節の予習 (90分)、事後に授業の復習 (前半)、オンデマンド授業の準備 (90分)。
2	ミクロ経済学とは (2)	オンデマンド。消費者の行動と需要曲線、企業の行動と供給曲線市場の均衡、経済厚生、比較静学、を説明します。	事前に教科書1章2～6節の予習 (90分)、事後に授業の復習 (90分)。
3	ミクロ経済学とは (3)	対面。課題1についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題1の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート1の提出 (90分)。
4	消費者の行動 (1)	オンデマンド。消費者の行動とは、効用の最大化、最適消費計画と個別需要曲線、を説明します。	事前に教科書2章1～3節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
5	消費者の行動 (2)	対面。課題2についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題2の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート2の提出 (90分)。
6	企業の行動 (1)	オンデマンド。右下がりの需要曲線、企業の行動とは、企業の技術選択、を説明します。	事前に教科書2章4節、3章1～2節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
7	企業の行動 (2)	対面。課題3についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題3の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート3の提出 (90分)。
8	企業の行動 (3)、市場均衡と経済厚生 (1)	オンデマンド。総費用曲線とさまざまな費用概念、生産量の決定、供給曲線、市場メカニズムの特長、を説明します。	事前に教科書3章3～5節、4章1節の予習 (90分)、事後に授業の復習 (90分)。
9	企業の行動 (4)、市場均衡と経済厚生 (2)、	対面。課題4についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題4の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート4の提出 (90分)。
10	不完全競争の市場 (1)	オンデマンド。市場メカニズムがうまく機能しない場合、不完全競争市場とは、独占市場と企業行動 (前半) を説明します。	事前に教科書4章5節、5章1節、2節 (前半) の予習 (90分)、事後に授業の復習 (90分)。
11	不完全競争の市場 (2)	対面。課題5についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題5の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート5の提出 (90分)。
12	不完全競争の市場 (3)	オンデマンド。独占市場と企業行動 (後半)、不完全競争市場の何が問題なのか、外部性の問題と対応策 (前半) を説明します。	事前に教科書5章2節 (後半)、5章4節、11章1節 (前半) の予習 (90分)、事後に授業の復習 (90分)。
13	不完全競争の市場 (4)	対面。課題6についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題6の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート6の提出 (90分)。
14	外部性と公共財 (1)	オンデマンド。外部性の問題と対応策 (後半)、共有資源の問題と対応策、公共財の問題と対応策、を説明します。	事前に教科書11章1節 (後半)、11章2～3節の予習 (90分)、事後に授業の復習 (90分)。
15	外部性と公共財 (2)	対面。課題7についての質疑応答と振り返りをします。	事前に課題7の提出 (90分)。事後に授業の復習と振り返りレポート7の提出 (90分)。

関連科目 経済学入門、ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論、サービス産業論、公共政策論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学・入門 (新版)	柳川隆・町野和夫・吉野一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験51%、課題28% (7回、各4%)、振り返りレポート21% (7回、各3%)、計100%で評価します。  
振り返りレポートを提出できるのは対面での解説授業に出席した人のみとなります。また期末試験を受験しない場合は失格となり、成績評価で点

	数が出ません。
学生へのメッセージ	ミクロ経済学は皆さんにとって新しい学問であり、また体系的な理解が必要です。その意味でとても難しく、毎回欠かさず勉強し、一歩ずつ着実に習得するようにしてください。ミクロ経済学が分かるとその後の経済学が良く分かるようになりますので、大いに勉強してください。
担当者の研究室等	1号館7階 柳川研究室
備考	

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2011a0		

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③外部性・公共財の3点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	小テスト、定期試験対策として例題を配布し、授業中に解説します。 5回目、10回目に小テスト、15回目に定期試験を行います。 それ以外の回については、Moodleに講義資料をUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場において需要と供給曲線がどのように求められ、またどのように市場の均衡が決まるかについて説明する。	講義ノートの復習と例題1の自主学習 (1時間)
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習と例題2の自主学習 (1時間)
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習と例題3の自主学習 (1時間)
4	1～3 回目のテーマに関する練習問題	例題1～3についての解説	講義ノートの復習と例題1～3の自主学習 (1時間)
5	例題1～3の確認と小テスト		
6	競争市場における企業の行動Ⅰ	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。(生産要素が1つの場合)	講義ノートの復習と例題4の自主学習 (1時間)
7	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題6の自主学習 (1時間)
8	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題7の自主学習 (1時間)
9	6～9 回目のテーマに関する練習問題	例題4～6についての解説	講義ノートの復習と例題4～6の自主学習 (1時間)
10	例題4～6の確認と小テスト		
11	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習と例題8の自主学習 (1時間)
12	外部性	市場が完全競争にならない原因である外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題9の自主学習 (1時間)
13	公共財	市場が完全競争にならない原因である公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題10の自主学習 (1時間)
14	11～13 回目のテーマに関する練習問題	例題7～9についての解説	講義ノートの復習と例題7～9の自主学習 (1時間)
15	定期試験 (例題1～9)		

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、経済数学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	2回にわたる小テスト (各 15%、合計 30%) と定期試験 (70%) で評価します。小テストにおいて不正行為 (明らかにおかしい間違いをした解答で類似している場合はそのように判断する可能性があります) をした学生には小テストの点数は0になります。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室 (経済学部)
備考	

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。この動きは、毎日の新聞・ニュースで紹介されています。国民所得のこと、設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことー 将来、社会人になると、これら経済の動きを知っておく必要があります。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです (もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります)。この講義は、マクロ経済学の基礎理論を習得すること、そして実際のマクロ経済の動向について経済学に基づいた視点で考察できるようにすることを目的としています。 使用テキストは、日本の事例を使った解説を展開しています。講義では、できる限りテキストにある図表を用いた解説を行います。場合によっては初歩的な数学も用います。
到達目標	経済学部での学習に必要なマクロ経済学の基礎知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。
授業方法と留意点	講義資料は毎回配布しますが、Teams および Web Folder にもアップします。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くことを禁止します (常識の範囲内ですが)。スマートフォンを操作する必要があるときは、指示します。 原則として毎回、練習問題を出題します。練習問題は次回講義開始時まで提出する宿題と位置付けていますが、講義中に解答
科目学習の効果 (資格)	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験 (事務職) や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の概観、マクロ経済循環について	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について (教科書第 1 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について (教科書第 2 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について (教科書第 3 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について (教科書第 4 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
6	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の役割について (教科書第 5 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
7	貨幣の需要と供給 (2)	貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのかについて (教科書第 5 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
8	乗数理論と IS-LM (1)	一国全体の需要である総需要の変化が国民生活に及ぼす影響について (教科書第 6 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
9	乗数理論と IS-LM (2)	総需要の状況をあらかず IS-LM モデルに基づく、財政・金融政策の効果について (教科書第 6 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
10	経済政策の必要性	財政・金融政策の限界と最近の金融政策について (教科書第 7 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
11	財政赤字と国債	財政支出拡大の問題点について (教科書第 8 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
12	インフレとデフレ	インフレとデフレが発生する要因について (教科書第 9 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
13	失業	失業についての考え方と日本の失業について (教科書第 10 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
14	経済成長理論 / オープン・マクロ経済学	①経済成長のメカニズムについて (教科書第 11 章) ②外国の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について (教科書第 12 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) これまでの講義内容の復習 (120 分)
15	確認テスト	確認テスト (成績評価の対象)	これまでの講義内容の復習 (120 分)

関連科目 経済学入門 (エコノミック・リテラシー)、金融論、マクロ経済学 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣アルマ	マクロ経済学入門 (第 6 版)	福田慎一・照山博司
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	練習問題 (50%)、確認テスト (50%) で評価します。
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室

備考	15 回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。
----	----------------------------------

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利子率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見だし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス・マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDPに関する基礎知識 (I)	付加価値の概念、GDP と GNP の区別について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
3	GDPに関する基礎知識 (II)	GDP の三面等価と GDP デフレーターについて解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用 GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
8	利子率と投資の関係及び小テスト	利子率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	事前：これまでの授業内容の復習すること (約 3 時間) 事後：課題の提出 (約 1 時間)
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
12	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡、利子率はどのように決まるのかについて解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
14	IS-LM 分析	財市場と貨幣市場との関係を考える IS-LM 分析について解説する。	事前：前回の授業内容を復習すること 事後：課題の提出 (約 1 時間)
15	総まとめ及び確認テスト	全体的内容をまとめるうえ、確認テストを実施する。	事前：これまでの授業内容の復習すること (約 3 時間) 事後：課題の提出 (約 1 時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業での提出課題 20%、小テスト 30%、確認テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。

学生へのメッセージ 学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。

担当者の研究室等 1号館7階 郭教室

備考

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2013a0		

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に、経済政策、インフレーションとデフレーション、国際マクロ経済学等のトピックを取り上げ、それらを学ぶことを目的とする。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義法に基づいて授業を行う。講義資料配付はTeamsで行う。
科目学習の効果 (資格)	政府や中央銀行が行う経済政策を理解し、それに対して自分自身の意見を述べるができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、GDP と金利の決まり方 (1)	本講義の紹介をした上で、消費と所得の関係を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
2	GDP と金利の決まり方 (2)	財政政策について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
3	GDP と金利の決まり方 (3)	投資と金利の関係を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
4	GDP と金利の決まり方 (4)	金利の決定・金融政策について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
5	GDP と金利の決まり方 (5)	IS-LM モデルを用いた財政・金融政策の効果を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
6	総需要・総供給分析 (1)	総需要曲線について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
7	総需要・総供給分析 (2)	総供給曲線について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
8	総需要・総供給分析 (3)	物価と GDP の同時決定、経済政策の限界について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
9	インフレとデフレ (1)	インフレ・デフレ発生の原因、実質金利と名目金利について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
10	インフレとデフレ (2)	インフレ・デフレのコスト、インフレと失業について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
11	国際収支・為替レートとマクロ経済 (1)	日本経済と貿易、海外との取引について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
12	国際収支・為替レートとマクロ経済 (2)	外国為替市場について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
13	国際収支・為替レートとマクロ経済 (3)	為替レートの決まり方 (金利平価) について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
14	国際収支・為替レートとマクロ経済 (4)	マンデル＝フレミング・モデルを解説する。	事前:教材の当該箇所の予習、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む)
15	まとめ	第 1 回目以降の講義についてのまとめをし、質問があれば答える。	事前:教材全体の復習、事後:授業を参考に全体の復習に取り組むこと。

関連科目	マクロ経済学Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで	平口良司、稲葉大	有斐閣ストゥディア
	2			
	3			

評価方法 (基準)	練習問題 (40%)、定期試験 (60%) で評価する。
学生へのメッセージ	予習・復習は行って、授業内容に分からないところがあれば質問をして下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室
備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2 年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを理解する。そして、現在の資本主義システムの特徴を理解し、今後どのように変わっていくかについて考察を行っていく。
到達目標	次の項目について説明でき、必要に応じて (古典派の) 経済理論について計算ができることを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。</li> <li>資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。</li> <li>現代の資本主義経済が、国ごとに多様であることを説明することができる。</li> <li>上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心を持ち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	(事前) 参考書第 1 章前半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	(事前) 参考書第 1 章後半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
3	資本主義の基本要素 (1) : 社会的分業と貨幣	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	(事前) 参考書第 2 章「私的所有、あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
4	資本主義の基本要素 (2) : 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	(事前) 参考書第 2 章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 参考書第 2 章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生き残るには、経済的にどのような条件が満たされなければならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどういふものかを考える。	(事前) 参考書第 3 章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 参考書第 3 章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	(事前) 参考書第 3 章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	(事前) 参考書第 4 章前半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
10	19 世紀の資本主義	19 世紀の資本主義と 20 世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19 世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 参考書第 4 章後半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
11	20 世紀資本主義	20 世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 参考書第 5 章前半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
12	21 世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって 20 世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	(事前) 参考書第 5 章後半を読み、独自のノートをまとめる (90 分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60 分)。
13	新しい技術・労働・企業・市	新しい技術 (情報通信技術など) が労働	(事前) 参考書第 7 章前半を読み、独自のノートを

		場	様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などを与える影響を考える。	まとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60分)。																
	14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	(事前) 参考書第7章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60分)。																
	15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	(事前) 参考書を全章読み、講義内容の全体を確認する (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を参考書で確認する (60分)。																
関連科目	社会経済学 II, 経済思想史																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図解雑学 資本主義のしくみ</td> <td>八木紀一郎・宇仁宏幸</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社																
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎の課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・復習問題レポート (10%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・レポート (20%) : 授業内容に関するテーマについての説明文。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	参考書は経済的事柄について分かりやすく書かれています。したがって、まず、この本の図を見ながら本文を読み返してください。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室																			
備考																				

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で、現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で、今後どのように変わっていくかについて議論する。 SDGs-1, 8, 9, 10
到達目標	・資本主義経済の基本的な仕組みとそれを構成する各種概念を説明することができる。 ・資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 ・上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	反転授業形式で行う。 受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。また動画を視聴した上での質問を出してもらいます。 授業当日は、提出された質問について解説して議論を深めたり、受講者の関心にあわせてテーマを決めてディスカッションを行ったりします。 事前の動画視聴を行わないと授業に参加することができないので気を付けてください。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心を持ち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
3	資本主義の基本要素 (1) : 社会的分業と貨幣	市場による調整という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
4	資本主義の基本要素 (2) : 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどういふものかを考える。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
10	19 世紀の資本主義	19 世紀の資本主義と 20 世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19 世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
11	20 世紀資本主義	20 世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
12	21 世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって 20 世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術 (情報通信技術など) が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	授業全体を振り返って自分の理解度をチェックし、期末レポートに取り組む (3 時間)。

関連科目	社会経済学 II, 経済思想史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 70%, 期末レポート 30%の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。			
学生への メッセージ	参考書は品切れになって入手が容易ではありませんが、アマゾンなどで購入できます。一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いていますので、手元において授業を受けることをお勧めします。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田研究室			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行を変更することがあります。 またオンデマンド授業の時間が多い場合には、リアルタイムの授業時間を調整することがあります。			

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名 (英文)	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2015a0		

授業概要・目的	<p>通常、経済学はその分析対象を経済活動＝取引が行われる場を「市場」に限定する。しかし、経済取引の場は市場に限られないし、経済活動は他者と関係を取り結ぶということでもある。また、私たちは日々の暮らしの中で、さまざまな面で社会的な関係をもつが、そこでは一定の行動ルール＝制度が存在する。そのことは経済的取引においても当てはまり、あらゆる経済活動は——市場取引さえも——一定の制度的な枠組みに従っていると考えることができ、現実にもそうである。</p> <p>この講義は、経済活動における制度の存在とその役割を重視する制度経済学の観点から、経済システムの動態を明らかにすることを目的とする。具体的には、経済取引における制度（ルール）の存在を確認した上で、経済学において制度がどのように扱われてきたかを概観する。つづいて、労働・企業・金融・国家といった各種分野において、制度が経済調整に果たす役割を検討する。また異なる領域の制度間の関係についても論じる。さらに、制度は国や時代によって多様であるとの認識から、資本主義経済システムの多様性について議論する。</p> <p>SDGs-1, 3, 4, 8, 9, 10</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済活動を理解する上での「制度の重要性」を説明できる。</li> <li>・ 労働力商品の特殊性と賃労働関係について説明することができる。</li> <li>・ 賃金の多面的役割を、賃金交渉制度の多様性の説明に適用できる。</li> <li>・ 技能形成や生産組織が国ごとにどのように異なるかについて説明することができる。</li> <li>・ コーポレート・ガバナンスの多様性を規定する諸要因を具体的に述べるることができる。</li> <li>・ 企業の資金調達方法の国ごとと違いについて説明することができる。</li> <li>・ 社会保障制度の多様性を規定する諸要因を述べるることができる。</li> <li>・ 制度と経済パフォーマンス</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>反転授業形式で行う。</p> <p>受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。また動画を視聴した上での質問を出してもらいます。</p> <p>授業当日は、提出された質問について解説したり、関連するトピックについて解説したり、受講者の関心にあわせてテーマを決めてディスカッションを行ったりします。</p> <p>事前の動画視聴を行わないと授業に参加することができないので気を付けてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会経済学 (制度経済学) が経済の動きをどのように説明するかを理解することで、標準的な経済学との比較が可能になり、現実の経済社会で起きている問題を理解する上で、多様なものの見方を行うことができるようになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	これまでに学習した経済学と制度経済学との違いについて解説する	Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)。
2	市場とコーディネーション	市場による調整と制度による調整 (コーディネーション) の違いについて議論する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
3	技能形成のちがいがい	労働者の技能形成や教育制度が国によってどのように異なるかを理解する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
4	生産組織のちがいがい	企業における生産組織が国によってどのように異なるかを解説し、そのような違いが各国の経済活動の特化に影響を与えることを理解する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
5	雇用制度のちがいがい	雇用制度が国によってどのように異なるかを解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
6	労使関係と賃金交渉のちがいがい	労使関係と賃金交渉制度が国によってどのように異なるかを解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
7	資金調達のちがいがい	企業による資金調達が国によってどのように異なるかを明らかにする。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
8	企業統治のちがいがい	企業は誰のものであるかを議論した上で、企業統治が国によってどのように異なるかを明らかにする。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
9	福祉制度のちがいがい	社会保障制度が国によってどのように異なるかを明らかにする。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
10	制度と経済パフォーマンス	経済制度が異なることで経済パフォーマンスがどのように異なるかについて議論する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
11	制度の補完性	異なる分野の制度がどのような関係をもつ可能性があるかについて解説する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
12	資本主義の多様性	資本主義経済が全体としてどのように多様となるかについて、各種議論を紹介しつつ明らかにする。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
13	経済システムと政治システム	制度の多様性を生み出す要因として政治を取り上げ、経済システムと政治システムとの対応について議論する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
14	米国型資本主義に収れんするか	金融化やグローバル化といった潮流の中で、資本主義の多様性がどのように推移するかについて議論する。	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
15	まとめ	これまでの議論を振り返って、資本主義経済の多様性と動態について改めて考える。	これまでの授業全体を復習して、期末レポートの作成を行う (3 時間)。

関連科目	社会経済学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (70%), 期末レポート (30%) の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。			
学生への メッセージ	経済学は、抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。その際、何が原因でどのようなことが生じるのかという因果関係を理解することが重要となります。そうした考え方を身につけるには、それなりの労力が必要です。授業では、社会経済学・制度経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが、ただ授業を聞いているだけでそうした考え方を身に付けるのは困難でしょう。受講生の皆さんには問題演習などを通じて、積極的に学修に取り組んでもらいたいと思います。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田研究室			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行を変更することがあります。 またオンデマンド授業の時間が多い場合には、リアルタイムの授業時間を調整することがあります。			

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的	<p>「結果を残すことが大切だ」ービジネスの世界でもスポーツの世界でもよく聞くこの言葉は、確かに1つの真理です。では、結果を残すためにはどうすればよいのでしょうか。「努力」はもちろん、大切です。そして、不正をせずにきちんと結果を残せるならば、「勘」や「運の強さ」に頼ることも良いでしょう。しかしこれだけで良いのでしょうか。</p> <p>より良い結果を残すための行動、あるいはそのための「努力」の1つの方向性として、「データに基づいた分析」があります。それまでに取り組んだ人達の結果をもとに、結果を残せた理由や失敗の原因を調べ、それに従って自分の行動を決定すれば、より結果を残しやすいのではないのでしょうか。</p> <p>ここでいう「分析」とは、Excelで対処できる程度の手法によるものを指します。世の中には、より進んだ複雑な分析手法が存在しますが、基本的な分析手法を用いても、いろいろなことがわかります。将来、ビジネスのヒントをつかむことができるかもしれません。この講義では、データを使った例を用いながら、基本的な統計分析の手法を学びます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データを通じて、世の中のことを知る。</li> <li>2. データに騙されないように、データの特性を知る。</li> <li>3. 世の中のことを知るための基本的な統計分析の手法を修得する。</li> <li>4. 確率変数、分布など、今後の学習の基礎となる知識を習得する (計量経済学の前提科目です)。</li> </ol>
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義資料は毎回配布しますが、TeamsやWeb Folderにもアップします。</li> <li>(2) この講義の前半 (第7回講義まで) において、グループワークを何度か実施します。そのため、座席指定で実施します。</li> <li>(3) 講義中の課題 (練習問題) はMicrosoft Formsによる解答フォームに解答してください。なお練習問題は、講義中に解答していただくこともあります。練習問題の解説は、提出締め切り後に行います。</li> <li>(4) 各種連絡は、ポータル内の講義関連情報に書き込みますので、必ず確認してください。</li> </ol>
科目学習の効果 (資格)	データに惑わされず、データを上手に活用するための基礎知識が身に付きます。また、統計検定など資格試験を準備する上で必要となる統計学・確率の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに： 注意事項／この講義で学ぶこと	授業内容の概要、データ分析の目的	シラバスの通読 (30分) 次回講義内容の予習 (90分) 関連する基本概念の確認 (60分)
2	データと仮説： 「修羅の国」の話／肉じゃがに何の肉を使うか？	データを通して世の中を見る	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
3	度数分布： 日本の家計はお金持ちか？	平均と分散の話 データの散らばりを視覚的にとらえる	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
4	2変数間の関係： アニメ「サザエさん」と景気／勝てる野球チームの作り方 など	共分散、相関係数、相関係数と回帰分析の違い	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
5	確率 (確率、独立試行)： 番号「111111」の宝くじを手に入れたら？	確率の基本と独立な試行について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
6	確率 (条件付確率)： 実践・モンティ・ホール問題	条件付確率とベイズの定理の基本	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
7	確率変数と分布 (1)： あまり思い出したくない (?) 「偏差値」の話	正規分布とその使い方について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
8	確率変数と分布 (2)： 自然界の法則？	その他の分布	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
9	標本平均の分布： 視聴率調査の不思議	標本の意味、標本平均について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
10	標本分散の分布： 「分散」に平均と分散？	標本分散の意味・特徴について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
11	推定 (1)	推定の概念、点推定について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
12	推定 (2)	区間推定について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
13	検定 (1)	仮説検定の考え方	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
14	検定 (2)	様々な検定について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
15	講義のまとめ	講義の復習、要点のまとめ、定期試験に対するアナウンス	講義内容の見直し (90分) これまでの練習問題の復習 (90分)

関連科目	情報リテラシー I・II、統計学演習、経済データサイエンス入門、この講義は、計量経済学の前提科目です。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学入門	森棟公夫	新世社
	2	基本統計学 第3版	谷崎久志 他	東洋経済新報社
	3	統計学から始める計量経済学	北坂真一	有斐閣ブックス

評価方法 (基準)	講義中の課題(練習問題、配点50点)、期末試験(配点50点)で評価します。 Microsoft Formsで解答する練習問題は、解答期間を設けます。原則として次回の講義開始時までを練習問題の解答期限としますが、講義中に解答していただく場合もあります。
学生への メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。 高校の数学では、統計学についてあまり触れないことが多いので、初めて聞く内容も多いかと思います。講義をただ聞いているだけでは、十分に内容を理解することはできません。予習・復習をきちんとしてください。
担当者の 研究室等	1号館7階 小塚研究室
備考	講義では、グループ学習を実施する回があります。無断欠席をすると、同じ班のメンバーに迷惑をかけることもあります。講義にはきちんと出席してください。もちろん、体調不良など正当な欠席理由がある場合は除きます。

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的	統計学は、ビジネスでデータ分析を行う場合にも、アンケート分析するときにも、経済学を現実世界に応用する実証分析でも必須のツールです。この講義では、統計学の論理を理解し、結果を様々な分野に応用できるようになることを目指します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計の仕組みと身近な例を具体的に説明できる</li> <li>基本的な統計手法の概要とメカニズム、分析結果を説明できる</li> <li>分析に適切な統計手法を応用する際の留意点を理解し説明できる</li> </ul>
授業方法と留意点	この講義は事前・事後課題にしっかり取り組んでもらうことを前提としています。これらの課題は、しっかり取り組めばそれぞれ90分程度必要な内容ですが、各回の課題はお互いに関連していますので、欠かさず課題に取り組み、受講を積み重ねればより効率的・効果的に取り組めるはずです。なお、課題を課していることには以下の理由があります。みなさんは、スポーツや楽器、習い事等を通して、スキルとマインドは教室で教わるだけでは習得できず、練習が不可欠だということを身に染みて知っているでしょう。実は、学問の習得も同じです。事前・事
科目学習の効果 (資格)	前述したように、統計学はビジネスにおいても学問においてもデータを扱う場合には必須の学問です。専門科目、卒業研究、卒業後のビジネスにもデータを扱う際の基礎力を得ることが出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス&統計学とは	講義の進め方を説明したあと、統計学が注目される理由について説明します。	★事後課題：統計学を取り巻く状況を復習し、統計学が応用されている例、もしくは応用する余地のある例を身の回りから探してまとめておく
2	身近に存在している統計	身近なサービス等に統計学がどのように応用されているかについて統計手法を中心に説明します。	○事前課題：統計学が応用されているサービス例と内容等をまとめて提出する ★事後課題：講義内容を踏まえ、事前課題を修正する、もしくは新しい例を加える (第8回に提出)
3	統計に必要なグラフと式	統計分析に使用されるグラフの種類とそれぞれの特徴を説明します。また、今後の講義で使用される数式についても説明します。	○事前課題：前回講義で示したデータをもとにグラフを描き、グラフから読み取れることをまとめて提出 ★事後課題：練習問題 (第8回に提出)
4	回帰分析	データから法則性を発見し、予測する回帰分析について、基本と応用例を説明します。	○事前課題：前回講義で示したグラフをもとにデータの関連性と予測をどうすればできるかを考えて提出 ★事後課題：練習問題 (第8回に提出)
5	相関係数と平均と分散	データ同士の関連性を示す相関係数と、その算出に必要な平均と分散を説明します。	○事前課題：前回講義で示したデータの特徴を「一言で」説明するためには何を把握すべきかを考えて提出 ★事後課題：練習問題 (第8回に提出)
6	確率とはどのようなものか	確率と確率変数、確率分布について説明します。	○事前課題：身の回りで、確率が重要な役割を示す事例とその理由をまとめて提出 ★事後課題：講義内容を踏まえて、事前課題を修正し、新たな事例をまとめておく (第8回に提出)
7	確率分布とは何か	代表的な確率分布と具体的な確率の計算方法について説明します。	○事前課題：前回の事後課題から事例をひとつ選び、確率を計算する方法を考えて提出 ★事後課題：練習問題 (第8回に提出)
8	前半のふりかえり	前半の講義内容を振り返り、ポイントを説明します。	○事前課題：これまで提出した課題と講義を確認し、質問をまとめて提出 ★事後課題：第2回から第7回までの事後課題を提出
9	平均と分散、標準偏差	データの特徴を掴むために必要な平均・中間値・中央値、分散、歪度について、必要性和計算方法を説明します。	○事前課題：第3回と第5回の復習 ★事後課題：練習問題を提出
10	確率と確率分布	基本的な確率分布 (二項分布、正規分布、t分布) について説明します。	○事前課題：第6回と第7回の復習 ★事後課題：練習問題を提出
11	相関と回帰分析	相関分析と回帰分析の関係について説明します。	○事前課題：第4回と第5回の復習 ★事後課題：練習問題を提出
12	統計分析が正しいと確信できる条件	検定が求められる背景と検定の考え方について説明します。	○事前課題：第9回の事後課題で計算した結果が「正しい」ことはどうすれば確認できるかを考えて提出 ★事後課題：検定の考え方を事前課題に当てはめてみる
13	検定の基礎	検定の計算方法について説明します。	★事後課題：練習問題を提出
14	応用への案内	アンケート、計量経済学、データサイエンスについて説明します。	○事前課題：自身が興味がある応用分野とその理由を提出 ★事後課題：それぞれの応用分野に統計学がどのように使われているかを確認する
15	まとめ	講義内容を振り返り、ポイントを説明します。	○事前課題：これまでの事前課題、講義資料、事後課題を見直して質問をまとめて提出 ★事後課題：統計学の流れを人に説明できるようにする

関連科目	経済データサイエンス入門、経済学特別講義II
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての統計学	鳥居泰彦	日本経済新聞出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後課題：50% 期末テストの結果：50% 合計100%、100点満点で評価します。			
学生への メッセージ	統計学は、数学を使って何だか難しい学問というイメージがあるかもしれませんが、事前・事後課題に取り組みながら受講すれば、いかに我々の生活に根付いたものであるかわかるはずです。 また、高校数学では統計学は脇役で、これまで皆さんに馴染みがないことも習得を難しくしている原因だと思います。事前課題に取り組めば、「統計学がわかれば何がうれしいのか？」が実感できるはずです。アルバイトや他の講義などもあり時間の確保は大変ですが、取り組んでみれば思うほど大変ではないことがわかるでしょう。 最後に、授業ではどどん質			
担当者の 研究室等	1号館7階 若城研究室			
備考				

科目名	統計学演習	科目名 (英文)	Seminar in Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2017a0		

授業概要・目的	情報化社会において、統計学を用いたデータ分析のスキルと知識は必要不可欠である。本講義はコンピューターを使った正しいデータ分析の方法を習得することを目的にしている。
到達目標	統計学の基礎知識を理解し、経済データの収集・処理の能力を養う。 各授業・ゼミで課される課題や卒業論文の作成に役に立つデータ分析のスキルを身につける。
授業方法と留意点	授業は情報演習室で統計ソフトを利用した実習形式になる。 欠席が続くと授業に追いつくのが困難になる。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体像を紹介した上、授業の進め方と統計ソフトの使い方などについて説明を行う。	授業後、アンケートを実施する。
2	記述統計の基礎 1	データの基本統計量、ヒストグラムなどについて説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
3	記述統計の基礎 2	データの散布図、相関係数などについて説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
4	経済データの扱い方	経済データの種類と入手の方法について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
5	単純回帰モデル、最小二乗法 1	最小 2 乗法について理論的な説明を行う。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
6	単純回帰モデル、最小二乗法 2	統計ソフトによる単純回帰モデルの分析方法を学ぶ。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
7	単純回帰モデル、最小二乗法 3	単純回帰モデルの応用例をいくつか紹介する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
8	前半のまとめと小テスト	前半の内容を演習を通じて理解すること。小テストを実施する。	事前：これまでの授業内容の復習すること (3時間) 事後：課題の提出 (1時間)
9	回帰モデルの仮説検定 1	確率分布と仮説検定の考え方について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
10	回帰モデルの仮説検定 2	回帰モデルによる分析結果の解釈方法を説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
11	多重回帰モデル 1	多重回帰モデルによるデータ分析の方法について説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
12	多重回帰モデル 2	経済学で多重回帰モデルの応用例を紹介する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
13	ダミー変数とその応用	ダミー変数を用いたモデルの推定結果の意味を説明する。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
14	回帰モデルの診断と選択	正しい分析モデルの選択について実践的な方法を学ぶ。	事前：前回の授業内容を復習すること (1時間) 事後：課題の提出 (1時間)
15	総まとめと確認テスト	演習問題を通じて授業内容を復習する。	事前：これまでの授業内容の復習すること (3時間) 事後：課題の提出 (1時間)

関連科目	統計学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題の提出 20%、小テスト 30%、確認テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	---

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭教室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	経済データサイエンス入門	科目名 (英文)	Introduction to Data Science for Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2018a0		

授業概要・目的	<p>※本講義ではRというプログラム言語を用いて、データ分析を実際に行います</p> <p>いまや、データに基づいた意思決定はどの業種・職種でも無関係ではられません。この授業では、分析に必要なデータの取得方法および分析方法を身に付け、データに基づいた意思決定に必要な知識と分析にあたっての留意点を身につけることを目指します。</p> <p>なお、本講義は事前・事後課題（それぞれの必要時間は90分程度）が成績評価の50%を占めています。講義内容理解のためには、統計学の基礎知識とプログラムの入門的知識が望ましいため、これらの確認のために事前課題への取り組みと提出を求めています。</p> <p>毎回提出されない場合には単位取得は難しくなりますので履修にあたっては注意してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定にデータサイエンスが必要な場面を具体的に説明できる</li> <li>適切なデータ分析手法を選び、手法の概要と選択理由を説明できる</li> <li>分析結果を意思決定に応用する際の留意点を理解し説明できる</li> </ul>
授業方法と留意点	前半はデータサイエンスの手法について説明し、後半では実際にプログラムを動かしてデータサイエンスを体験します。後半は受講者の習熟度・関心に応じてグループで分析し、発表してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	データサイエンスについて一通り説明できることはもちろん、目的が与えられたときに必要なデータと分析手法を選択できるようになります。また、今後学ぶ専門科目、卒業研究に役立つのはもちろんのこと、就職のみならず社会人になった後もデータ利用について本質的な力を得ることが出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス&データサイエンスとは	講義の狙いとデータサイエンスの概観について説明します。	★事後課題：講義を復習し、データサイエンスを利用しているサービス例を探してまとめておく
2	データサイエンスは何故注目されているのか？	データサイエンスが注目された経緯と今後の展望について説明します。	○事前課題：データサイエンスが応用されているサービス例と内容等をまとめて提出する ★事後課題：講義内容を踏まえ、事前課題を修正する、もしくは新しい例を加える（第8回に提出）
3	ビッグデータの分析と統計的手法	ビッグデータの事例とデータの種類・取得方法について説明します。	○事前課題：（統計学の復習）前回講義で示したデータをもとにグラフを描き、グラフから読み取れる内容を提出 ★事後課題：練習問題
4	データサイエンスの実践の準備（1）	統計環境Rの概要を説明し、簡単なプログラムを実行します	○事前課題：（統計学の復習）前回講義で示したデータを使って平均・中間値・中央値、分散を計算して提出 ★事後課題：練習問題
5	データサイエンスの実践の準備（2）	統計環境Rの概要を説明し、簡単なプログラムを実行します	○事前課題：（統計学の復習）前回講義で示したデータを使って相関係数と回帰係数を計算して提出 ★事後課題：練習問題
6	回帰分析（1）	回帰分析のメカニズムとRでの実装について説明します	○事前課題：（プログラム言語の予習）前回講義で示した入門PDFファイルを読む ★事後課題：講義を復習する
7	回帰分析（2）	回帰分析の分析結果の解釈について説明します	○事前課題：前回講義で示したデータセットとプログラムを利用して、回帰分析の結果を提出する ★事後課題：講義を復習する
8	回帰分析（3）	非標準的なデータセットを利用した回帰分析の注意点等について説明します	○事前課題：自ら選んだデータセットを利用した分析結果を提出 ★事後課題：講義を復習する
9	回帰分析（4）	回帰分析の応用例について説明します	○事前課題：これまで学んだ回帰分析全体について質問を提出 ★事後課題：練習問題
10	決定木分析（1）	決定木分析の概要・背景と応用例について説明します	○事前課題：決定木分析の応用例を調べて提出 ★事後課題：講義を踏まえて事前課題内容を加筆修正
11	決定木分析（2）	Rで実装するプログラムの全体像を説明します	○事前課題：（プログラム言語の予習）前回講義で示した入門PDFファイルを読む ★事後課題：講義を復習する
12	決定木分析（3）	決定木分析のプログラムを完成させます	○事前課題：前回講義で示した入門PDFファイルを参照しながらプログラムを読む ★事後課題：講義を復習する
13	決定木分析（4）	決定木分析の応用アルゴリズムについて説明します	○事前課題：これまで学んだ決定木分析全体について質問を提出 ★事後課題：練習問題を提出
14	これまでの講義のまとめ	これまでの講義内容を振り返ります	○事前課題：これまでの内容を振り返り、質問を提出 ★事後課題：講義内容を復習する
15	講義内試験	これまでの講義内容について試験を行い、試験後に解説を行います	★事後課題：試験と解説を復習

関連科目	統計学、計量経済学、経済学特別講義II
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	データサイエンスのための統計学入門 第2版	Peter Bruce, Andrew Bruce, Peter Gedeck	オライリージャパン
	2			
	3			
評価方法 (基準)	100点満点で評価する(事前・事後課題:50%、期末試験(講義内試験):50%)			
学生への メッセージ	事前課題が大変そうに見えますが、統計学の基礎知識があればそれほど時間はかからないはず。しっかりと事前・事後課題に取り組み、データサイエンスを「知っている」だけでなく、「使いこなせる」ようになってほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	1号館7階 若城研究室			
備考				

科目名	労働経済学	科目名 (英文)	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2019a0		

授業概要・目的	<p>講義では、労働統計などから、キャリア形成に役立つデータを紹介し、そこから何が見えてくるのかを説明します。経済学が明らかにしてきた事実から自身の今後のキャリア形成を考えると同時に、社会問題としての労働問題も同時に理解していきます。</p> <p>本講義では、様々な労働統計、データ、図表からどこに注目し、何が見えてくるのかを説明していきます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働経済学の基礎的な考え方を知る。</li> <li>講義の知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。</li> <li>現代日本で起こっている労働問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン (考案・計画) することができる。</li> <li>就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	教科書を購入し「はしがき」を読む。
2	働き方の変化	労働市場とは何かを説明し、就労状況が時代によって変動するのはなぜなのかを考えます。	(事前) 教科書第1章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
3	キャリアをデザインすること	進路選択や就職にとって大切なこととは何かを解説します。職業や働き方の調べ方を説明します。	(事前) 教科書第2章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
4	求職と求人	企業は毎年多くの人を採用しています。逆に、毎年多くの人が就職・転職しています。そこにはどうしてもミスマッチが生まれますが、そのメカニズムを探ります。	(事前) 教科書第3章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
5	就職活動と大学教育	教育、特に大学教育に関する個人の選択について、経済学的な考え方を学びます。	(事前) 教科書第4章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
6	賃金格差	賃金は生産性によって決まる。したがって、賃金格差を分析する場合、その生産性の差を決定づける要因を考えなければなりません。	(事前) 教科書第5章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
7	昇進と昇格	会社で働く人の大きな関心事に出世があります。社長や管理職の実態を把握し、訓練、選抜、労働意欲の観点から出世の仕組みを説明します。	(事前) 教科書第6章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
8	労働時間と休暇	仕事と生活をバランスさせることは、働く人にとって重要なテーマです。労働時間や休暇の実態、それらが健康や家庭生活に及ぼす影響を考えます。	(事前) 教科書第7章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
9	福利厚生	企業は従業員の福利厚生にどれほどの費用を投じているのか、またその理由は何か、といった点を探っていきます。	(事前) 教科書第8章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
10	ダイバーシティ	男性労働者だけではなく、多様な人材活用が求められています。日本企業の女性活用の実態を見ていきます。	(事前) 教科書第9章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
11	離職と転職	会社辞める理由は多々ありますが、会社辞める決断をする背景や辞めた後に起こる事実について学びます。	(事前) 教科書第10章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
12	解雇と失業	自分の雇用がどの程度安定的かは、働く上での重要な関心事でしょう。美豆から望まない離職がどうして起きるのかを考えます。	(事前) 教科書第11章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
13	定年退職	いつかは引退の日がやってきます。定年制や継続雇用の現状や経済学的な考え方を学びます。	(事前) 教科書第12章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
14	コーポレートガバナンスと従業員	株主、経営者といった企業の様々な利害関係者と従業員の関係を説明します。	(事前) 教科書第13章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
15	様々なキャリア	会社だけが働く場所ではないだろう。国内企業で働く以外の働き方を考えてみる。	(事前) 教科書第14章を読み、独自のノートをとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。

関連科目	公共経済学, 社会保障論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアのみかた (改訂版)	阿部正浩・松繁寿和	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	どうする日本の労働政策	櫻井純理編	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎の課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・復習問題 (10%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・レポート (20%) : 授業内容に関するテーマについての説明文。</li> </ul>			
学生への メッセージ	労働の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。労働市場の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			

科目名	経済思想史	科目名 (英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2020a0		

授業概要・目的	単に「経済学」と言っても、その考え方や答えは一つではありません。我々が「経済学」と呼ぶこの学問は、いろいろな時代背景や社会背景、問題意識の中で多様な形で発展してきました。この授業では、その中でも特に重要なポイントについて、その概観を学ぶことを目的とします。これにより、経済学の考え方についておおよその全体像が見ることができるようになり、さらには、みなさんが経済学部で学んでいる内容や科目が相互につながり、理解しやすくなると思われます。また、多様化する社会において、広い観点から他者の考え方とその背景を理解することにもつながると思われます。
到達目標	次の二つを目標とします。第一に、経済学にこれまで存在してきた諸概念や理論を理解すること。第二に、それらが我々の日常生活や社会といかに関わりを持ちつつ発展してきたのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等の利用により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらにのみ依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果 (資格)	経済学のこれまでのおおよその全体像を学ぶことで、他の履修科目で学ぶ内容が全体的につながり、理解しやすくなっていくと思われます。経済思想史の基礎であるとともに、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的内容の習得、また経済史の基礎と位置付けることもできます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済思想史とは？経済思想史を通じて何を学ぶのか？	事前：シラバスの熟読 (2h) 事後：授業内容の復習 (1h)
2	古代と中世の「経済」思想	古代と中世の「経済」	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 1 (2h)
3	重商主義と経済学	重商主義の時代の経済学：その背景と概観	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 2 (2h)
4	古典派経済学 1	古典派経済学の成立と A. スミス	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 3 (2h)
5	古典派経済学 2	産業革命と R. マルサス	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 4 (2h)
6	古典派経済学 3	D. リカードと R. マルサス	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 5 (2h)
7	市場経済への批判 1	ドイツ歴史学派	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 6 (2h)
8	市場経済への批判 2	ユートピアと社会主義思想	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 7 (2h)
9	市場経済への批判 3	K. マルクスの経済学：背景と展開	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 8 (2h)
10	新古典派経済学	限界革命：ミクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 9 (2h)
11	市場経済への批判 4	T. ヴェブレン	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 10 (2h)
12	経済学の新たな展開 1	J. M. ケインズ：マクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 11 (2h)
13	経済学の新たな展開 2	J. A. シュンペーターの経済学	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 12 (2h)
14	経済学と日本	「経済学」の輸入以前と輸入直後、そしてその後の概観	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習と小課題 13 (2h)
15	まとめ	全体の見取り図を作成する	事前：事前課題について、調べる (1h) 事後：授業内容の復習 (3h)

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、ミクロ経済学、マクロ経済学、世界経済史(西洋経済史)、日本経済史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特定の教科書は利用しません。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学の歴史：市場経済を読み解く	中村達也 ほか	有斐閣アルマ
2	経済思想 <第2版>	八木紀一郎	日本経済新聞出版社	
3	経済学史 (MINERVA スタートアップ経済学 3)	小峯敦	ミネルヴェ書房	

評価方法 (基準) 期末試験 (60%)、小テスト (20%)、及び小課題 (20%) を予定しています。但し、小課題を全体の 2/3 回以上未提出の場合、期末試験の採点は行いません。なお、授業形式により、変更の可能性があります。

学生へのメッセージ 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、経済学の歴史を自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。

担当者の研究室等

備考 資料については、データで事前に配布するので、受講スタイルに応じて利用してください。詳細は、初回に説明します。

科目名	世界経済史	科目名 (英文)	World Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2021a0		

**授業概要・目的**

歴史の教科書を見ると、戦争や争い、またそれらへの反省に基づく平和を求める活動にページの多くが割かれていることに気づくでしょう。領土や「お金」または金や銀、資源、人種や宗教、その要因は様々です。そして、一度生まれた争いは、解決したように見えても、社会のいつかどこかで必ず再燃します。近年であれば、BLM(ブラック・ライブズ・マター)がその代表的な例と言えるでしょう。

本講義の前半では、「砂糖」に主な焦点をあて、その発見から争いまで、「砂糖」に関わる歴史を学びます。これにより、「砂糖」一つであっても、現在の様々な世界的問題を理解する上で、歴史的な視点や理解が重要かつ不可欠であることに気付くでしょう。

続けて講義の後半では、19世紀半ばから20世紀に焦点をあて、「砂糖」により出来上がった世界の経済システムがどのように変化し、また争いや戦争を伴い、現在へと至るのか、その概観を学びます。

**到達目標**

次の二つを目標とします。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。

**授業方法と留意点**

1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等により、理解度を測ります。  
 2. 資料を配布しますが、それらにのみ依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。

**科目学習の効果 (資格)**

2年次後半、また3、4年次に履修する科目をより深く理解することにつながると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	経済史とは何か? 経済史を通じて何を学ぶのか?	事前: シラバスの熟読 (2h)	事後: 授業内容の復習 (1h)
2	中世までの経済活動 (1)	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 1 (2h)
3	中世までの経済活動 (2)	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 2 (2h)
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 3 (2h)
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 4 (2h)
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 5 (2h)
7	いわゆる「世界の一体化」(3)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 6 (2h)
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 7 (2h)
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 8 (2h)
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが20世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 9 (2h)
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 10 (2h)
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 11 (2h)
13	第二次世界大戦後の世界経済 (1)	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 12 (2h)
14	第二次世界大戦後の世界経済 (2)	1990年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習と小課題 13 (2h)
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前: 事前課題について、調べる (1h)	事後: 授業内容の復習 (3h)

**関連科目** 経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	砂糖の世界史	川北稔	岩波書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界経済の歴史 (第2版)	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社	
3				

**評価方法 (基準)** 期末試験(60%)、小テスト(20%)、及び小課題(20%)を予定しています。但し、小課題の未提出回数が全体の2/3回以上の場合、期末試験は採点対象としません。授業形式により、変更の可能性があります。

**学生への** 「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれませんが、もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解

メッセージ	することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。 授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	簿記原理 I	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW1022a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要な財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録 (仕訳) ができ、簿記における最終成果物である財務諸表の理解し、経営管理における財務管理の必要性の理解するよう講義・演習を行う。
到達目標	(1) 簿記の基本的な手続き (特に、日常の手続き) の理解 (2) 簿記における最終成果物である財務諸表の理解 (3) 経営管理における財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行います。授業 1 回を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認レポート」として構成されるので、理論・例題後に与えられる演習問題を自力で解くことで授業内容が理解できているか確認してください。課題は期限厳守で提出してください。
科目学習の効果 (資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA 等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
5	日常の手続き：手形①	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	【復習 40 分】5 回目までの理論に関するレポート提出
6	日常の手続き：手形②	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
7	日常の手続き：手形③	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
8	その他の日常 (期中) の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
9	その他の日常 (期中) の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
10	その他の日常 (期中) の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
11	その他の日常 (期中) の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
12	その他の日常 (期中) の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	【復習 30 分】演習問題を解いて提出
13	総勘定元帳の締め切りプロ	期中に日常的に発生する取引を記録し	【復習 30 分】演習問題を解いて提出

		セス	た総勘定元帳の締め切りプロセスを学習する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手続きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手続きを理解する。																	
	14	試算表・精算表・B/S・P/Lの理解	決算報告書であるB/S・P/Lが理解でき、解説できること。また決算手続きである試算表・精算表の理解と作成について学習する。	【復習 30 分】 演習問題を解いて提出																
	15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答																	
関連科目	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」と関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、平常点 40% (授業中の演習・レポートなど) で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。																			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 朴教授室 (経済学部)																			

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2023a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するためには、年1回決算を行う。本講義では、決算手続きを理解し、決算決算報告書（財務諸表；貸借対照表と損益計算書）の作成ができるように、企業会計基準に沿って決算手続きの解説と演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業はパワーポイントに加えて板書で行う。
科目学習の効果（資格）	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の全体の流れ	講義の進め方、講義の概要などを説明	【復習 15分】 レポート
2	商品取引の記帳Ⅰ	売買業において最も頻繁に発生する商品取引の記録方法である分記法と3分法の理解と記帳	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
3	商品取引における期末手続き①	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の記帳と理解と演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
4	商品取引における期末手続き②	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の理解と記帳	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
5	商品取引における期末手続き③	3分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、3分法で用いられる勘定の理解と記帳	【復習 40分】 レポート
6	収益・費用の繰延べ①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
7	収益・費用の繰延べ②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
8	収益・費用の見越し①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
9	収益・費用の見越し②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整（削除）する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
10	現金過不足・消耗品と消耗品費①	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
11	現金過不足・消耗品と消耗品費②	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
12	貸倒れ・貸倒損失・貸倒引当金	経営上、発生する貸倒れに関連する勘定の理解と、決算手続きの演習	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
13	固定資産と減価償却費①	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
14	固定資産と減価償却費②	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	【復習 30分】 演習問題を解いて提出
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	【予習 60分】 1回目から14回目までの講義内容を確認し、質問内容をメモしておく

関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60% 平常点 40%(主に課題・レポート)			
学生への メッセージ	第1回目のガイダンスは必ず出席する。講義内容は複数週に渡ってつながっており、継続的に受講したほうが理解しやすい。 ※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室(経済学部)			
備考				

科目名	財政学	科目名 (英文)	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2024a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	10回目に中間試験を行います。 それ以外の回については、Moodleに講義ノートをUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1時間)
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
10	中間試験		
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
14	地方財政 II	地方税と補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20～30分ずつ)
15	定期試験前総復習	定期試験前にこれまでの重要なポイントについて解説する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく) と復習 (あわせて1.5時間)

関連科目	公共政策論、公共経済学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間試験 (30%)、定期試験 (70%) で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
-----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の 研究室等	1号館7階 名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	金融論	科目名 (英文)	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2025a0		

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の実用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第8回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第15回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE(経済学検定試験)やFP(ファイナンシャルプランナー)をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	45度線分析②	消費関数 相対所得仮説 ライフサイクル仮説 恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習(約30分)
3	金利とマクロ経済 IS-LM分析①	利子率 投資の限界効率 投資関数 資産価格の決定式 トービンのq	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習(約30分)
4	金利とマクロ経済 IS-LM分析②	IS-LMモデル 金融・財政政策 流動性のわな	IS-LMモデルの理解・復習(約30分)
5	物価とマクロ経済 AD-AS分析①	物価指数 AS曲線	AS曲線の導出方法の理解復習(約30分)
6	物価とマクロ経済 AD-AS分析②	AD曲線 AD-ASモデル	AD曲線の導出方法及びAD-ASモデルの概略の理解・復習(約30分)
7	為替レート	為替レートの決定理論 購買力平価説 裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習(約30分) まとめテストの予習(約60分)
8	まとめとテスト	7回までのまとめとテスト(試験範囲は第1~7回)	-----
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説 平均・分散アプローチ 効率性フロンティア 分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習(約30分)
10	CAPM(資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム リスクフリー・レート ベータ スワップレシオ	統計学の基礎知識とCAPMの概略の理解・復習(約30分)
11	投資決定理論	NPV(ネット・プレゼント・ヴァリュー) B/S P/L キャッシュフロー 資本コスト	NPVの理解・復習(約30分)
12	MM理論と企業財務政策	MM理論の第1命題 最適資本構成	MM理論の概略についての理解・復習(約30分)
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ 信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習(約30分)
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー 金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習(約30分) まとめテストの予習(約60分)
15	まとめとテスト	14回までのまとめとテスト(試験範囲は第9回~14回)	-----

関連科目 マクロ経済学・ミクロ経済学など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験(60%) + 単元テスト・まとめテスト(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済数学(基礎的範囲)をすでに履修していることを強く望みます。
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
備考	授業内の試験は必ず受験するようにしましょう。

科目名	ゲーム理論	科目名 (英文)	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3026a0		

**授業概要・目的**  
ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらに応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻繁に適用される非協力ゲームに絞り、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。

**到達目標**  
最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。

**授業方法と留意点**  
本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に係りますので、必ず受けるようにしてください。

**科目学習の効果 (資格)**  
他の経済学等の科目 (特に「マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」) の学習・理解に資する内容です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてマイクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のマイクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習 (約 30 分)
2	非協力ゲーム 1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
3	非協力ゲーム 1-2 混合戦略 (1)	ナッシュ均衡、混合戦略	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 1 (1~2 回までの範囲)
4	非協力ゲーム 1-3 混合戦略 (2)	混合戦略に関する具体例による演習 (復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
5	非協力ゲーム 1-4 ゼロ和ゲーム (1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マクスマニ戦略、ミニマクス定理	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 2 (3~4 回までの範囲)
6	非協力ゲーム 1-5 ゼロ和ゲーム (2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習 (復習及び解説)	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
7	非協力ゲーム 2-1 展開型ゲーム (1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 3 (5~6 回までの範囲)
8	非協力ゲーム 2-2 展開型ゲーム (2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習 (約 30 分)
9	非協力ゲーム 2-3 展開型ゲーム (3)	展開型ゲームに関する具体例による演習 (復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
10	非協力ゲーム 2-4 展開型ゲーム (4)	繰り返しゲーム (有限回)	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 4 (7~9 回までの範囲)
11	非協力ゲーム 2-5 展開型ゲーム (5)	繰り返しゲーム (無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
12	非協力ゲーム 3-1 情報不完備なゲーム (1)	ベイジアンゲーム、ベイジアン=ナッシュ均衡	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 5 (10~11 回までの範囲)
13	非協力ゲーム 3-2 情報不完備なゲーム (2)	完全ベイジアン均衡 自然 信念 一括均衡 分離均衡	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テストの準備 (約 30 分)
14	非協力ゲーム 3-3 情報不完備なゲーム (3)	公共財、逆選択	授業内容の確認・復習 (約 30 分) 確認テスト 6 (12~13 回までの範囲) 期末テストの準備 (約 60 分)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

**関連科目**  
特に「マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
各授業での小テスト約 40%、定期試験約 60% で総合評価します。

**学生へのメッセージ**  
継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。

**担当者の研究室等**  
1号館 7階 植杉教授室 (経済学部)

**備考**

科目名	計量経済学	科目名 (英文)	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3027a0		

授業概要・目的	<p>三題噺 (こぼなし) ではありませんが、次の3つの話を読んでください。</p> <p>1. 皆さんの中には、将棋や囲碁を趣味として楽しんでいる方がいるかもしれません。さて、近年は人工知能 (AI) というものが注目されています。その応用として、囲碁や将棋のソフトが開発され、実際に棋士と対戦をしています。この人工知能には、棋譜であらわされた対戦データを使って、これまでに実際にあった囲碁や将棋の戦い方を学習させています。そうやって人工知能は、プロの棋士と対戦できるだけの能力を身につけているのです。</p> <p>2.皆さんの出身高校には、野球部はありますか。中には、強豪校として名を馳せている高校の卒業生がいるかもしれません。実際に野球部で活躍した方もいるかもしれませんね。さて、全国高等学校野球選手権大会 (いわゆる「夏の甲子園」) には、東京都・北海道を除いて、原則として各府県から1校ずつ出場します。このしくみの中では、人口の少ない県からは、比較的甲子園の全国大会に出場しやすいため、「野球留学」をする生徒たちが多く、といわれています。そしてそのような人たちが、長じてプロ野球選手として国内外で活躍しているケースも多々あります。</p> <p>3. 大相撲の世界では、勝ち越し (その場所で半分以上勝つこと) の価値は非常に大きなもので、その後の番付けにも影響します。その場所の14日目終了時に7勝7敗となっている力士にとって、千秋楽 (15日目) は負けられない一番となることは、想像に難くありません。それゆえに、大相撲でいわゆる「八百長」が行われているということは、昔からよく言われています。この真偽は明らかではありませんが・・・ *****</p> <p>さて、一見まったく関係のないように思えるこれら3つの話ですが、「回帰分析」という共通のキーワードがあります。この「回帰分析」を応用することで、これらの事象について仮説を立てて、検証することができます。その成り立ちや使い方の基本事項を習得することが、この「計量経済学」の重要な目的です。</p> <p>なお、上記のような応用は、さらに進んだ内容です。この講義で扱う内容は、その基本中の基本であることをご理解ください。</p>
---------	---

到達目標	<p>目的変数の動きを説明変数を使った式であらわすことを回帰といい、その式を回帰式 (回帰方程式) と呼びます。この回帰式の中には、経済学の理論で説明できるものも多くあります。例えば、消費支出を可処分所得で説明する消費関数がその例です。そして、その回帰式がどのような式なのか、データを使って調べることを「推定」と呼びます。基本的な推定手法が最小二乗法です。そして、その推定結果について、ある仮説 (ある係数が0である、など) が当てはまるかどうかを検証する手続きを「検定」と言います。</p> <p>これら「推定」と「検定」の2つを合わ</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。初回講義でお知らせする Teams コードを利用して、この講義のチームに参加してください。また、練習問題 (成績評価の対象) は Microsoft Forms で解答を提出していただきます。Microsoft Forms の使い方を確認してください。</p> <p>この講義は、情報処理室で開講し、Excel を用いたデータ実習を実施する予定です。履修者の皆さんが「手を動かす」時間を作るようにしたいと思います。つきましては、事前</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>回帰分析など、基本的なデータ処理の方法が理解できるようになります。また統計学や回帰直線に関する知識は、IT パスポート試験や基本情報技術者試験でも問われています。</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	計量経済学とは/データの整理	計量経済学の概要について説明します。また、経済データの種類やデータの特性をどうあらわすもの (記述統計量やヒストグラム) について説明します。この講義のイントロダクションです。(教科書第1章・第2章) (教科書第1章、講義資料 (1))	シラバスの通読 (30分) 講義内容の復習 (60分) 次回講義内容の予習 (90分)
2	統計学の補足①	ここでは、確率変数、連続型分布、母集団と標本について解説します。また、母集団と標本についてもここで扱います。これらはデータを使った分析を進める際に基本中の基本となる概念です。(講義資料 (2))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
3	最小二乗法①	この回以降、計量経済学の中心的課題とも呼べる、回帰分析について解説します。この回では、その基本である最小二乗法について述べます。(教科書第3章、講義資料 (3))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
4	最小二乗法②	最小二乗法で推定した結果について、その妥当性を検証する方法 (決定係数など) について解説します。また、最小二乗推定量の望ましい性質についても述べます。(教科書第3章、講義資料 (4))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
5	単回帰分析①	回帰分析のために必要な基本概念 (標準化変数、正規分布) について解説します。(教科書第4章、講義資料 (5))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
6	統計学の補足②	推定した結果をそのまま信じて良いかどうか、その数値を見ているだけでは判断できません。その判断のための手続きである、検定の基礎について解説します。(講義資料 (6))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
7	単回帰分析②	ここでは正規分布を仮定した、推定回帰係数の検定について解説します。(教科書第4章、講義資料 (7))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
8	単回帰分析③	実際の回帰分析では、正規分布は使えず、代わりに t 分布を使います。ここでは、その t 分布について解説します。また、教科書のデータを使った実習も行います。(教科書第4章、講義資料 (8))	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)

	9	多重回帰分析の基礎	説明変数の数を増やしたケースである、多重回帰分析について解説します。推定結果の解釈や、注意すべき点の他、実証分析の例を紹介します。 (教科書第5章、講義資料(9))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	10	多重回帰分析の拡張	ダミー変数、ラグ変数などの多重回帰分析における重要な応用について解説します。また、重要な問題点である多重共線性についてもここで扱います。 (教科書第7章、講義資料(10))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	11	F検定	回帰分析では、複数の係数について、同時にそれらがある制約を満たすかどうか、調べることがあります。そのようなときに用いる検定手法である、F検定について説明します。 (教科書第8章、講義資料(11))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	12	系列相関、不均一分散	誤差項の仮定を緩めた時に、回帰分析には問題が発生します。その問題点の詳細、およびその対処法について解説します。 (教科書第9章・10章、講義資料(12))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	13	AR(1)モデルと予測	将来予測に利用される時系列モデルの基本について解説します。ここでは、現在の値を過去の自己の値で説明する、自己回帰モデルを扱います。 (教科書第11章、講義資料(13))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	14	パネル・データ分析	時系列方向とクロスセクション方向の2方向に展開されるデータを、パネル・データとよびます。観測数が増えるなど重要なメリットがいくつかあります。そのようなデータを使った分析手法を学びましょう。 (教科書第12章、講義資料(14))	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
	15	実証分析のレポート作成手順	ここでは、データをどのように探し、どのような構成でレポート/論文を書けば良いのか、学びましょう。卒業論文作成にも、是非活用してください。 (教科書付録)	講義内容の復習・練習問題(120分) 次回講義内容の予習(60分)																
関連科目	情報リテラシーⅠ・Ⅱ、統計学、統計学演習、経済データサイエンス入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門 計量経済学 Excel による実証分析のガイド (第2版)</td> <td>山本拓・竹内明香</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門 計量経済学 Excel による実証分析のガイド (第2版)	山本拓・竹内明香	新世社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門 計量経済学 Excel による実証分析のガイド (第2版)	山本拓・竹内明香	新世社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義中に出題される練習問題(50%)試験(50%)で評価します。 練習問題は、Microsoft Formsを利用して実施します。その回の講義内容に関するものです。講義中に解答していただくこともあります。 また、試験は期末試験期間に実施する予定です。																			
学生への メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。 この講義は、高校までの数学や統計学の学習内容を基本として展開されます。学習内容の積み重ねが大事です。また、この分野の基本事項を扱うとはいえ、3年次開講科目であることからわかるように、それなりに高度な内容が含まれます。ただ講義を聴くだけでは十分な理解ができません。きちんと出席し、復習をしてください。																			
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 小塚研究室																			

科目名	管理会計	科目名 (英文)	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW3028a0		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定等の経営管理活動に対して有用な会計情報を提供する一連のプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身につけるため、演習・事例研究などを取り入れる。本講義は一方的な講義形式ではなく受講者同士のグループワーク・ディスカッション・事例研究、プレゼンテーションなどがありますので、第1回目のガイダンスに必ず出席して、授業の流れおよび形式を理解たうえで受講する必要がある。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	<p>■本授業は①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いた事例研究またはグループワークの3段階で構成されるため、欠席するとグループワークへの参加またはディスカッションに参加することが困難になるため、やむを得ない欠席の際は、授業内容次週の授業前までに、自分で必ずフォローしておく必要がある。</p> <p>■第1回目のガイダンスには必ず出席するようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	日商簿記、SA、FP、中小企業診断士、税理士、公認会計士受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介、本講義は一方的授業は	【復習 15 分】 講義全体のながれ、特に授業型式に関する説明内容を十分理解しておく
2	管理会計のフレームワークおよび管理会計の発展史	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織の関係などの理解。管理会計の発展過程、管理会計手法 (tool) の変遷過程管理会計モデルなど	【復習 40 分】 管理会計のフレームワークに関するレポート作成
3	簿記理論のサマリー	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。会計期間、簿記の5要素、利益計算、財務諸表 (貸借対照表・損益計算書) の読み方	【復習 60 分】 会計の基本理論及び財務諸表に関するレポート
4	短期利益計画と CVP 分析①	利益計画の意義および CVP 分析の意義を理解、短期利益計画と CVP の関係に関する説明する。CVP 分析 (損益分岐点分析) の計算演習を行う。	【予習 60 分】 CVP 分析の概要を調べて読んでくる 【復習 15 分】 BEP 計算の演習問題を解いて提出
5	短期利益計画と CVP 分析②	CVP 分析 (損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益など関連する理論を理解し、実際の企業の例に基づいて利益計画をする演習をする	【復習 40 分】 損益分岐点分析に関する上級演習問題の解答提出
6	短期利益計画と CVP 分析③ 新ビジネスにおける利益計画	損益分岐点 (BEP) 分析を用いて出店計画を企画 (グループワーク、6名程度) して、ビジネスとしての実現可能性・目標利益の達成計画などについてグループメンバー間でディスカッションしながら計画をまとめて、プレゼンの準備をする	【予習 60 分】 グループワークにおける出店計画のための予備調査をしてくる (詳細については前週の講義で前もって説明する)
7	短期利益計画と CVP 分析④ 新ビジネス (新出店) 計画のプレゼント	各グループで計画した出店計画をプレゼンテーションし、他のグループとのディスカッションしながら、ビジネスとしての成功可否について考えてみる。	【復習 120 分】 グループで企画した出店計画に関するレポート (個別) の作成
8	価格決定と原価企画 ①	企業が販売価格を決める際に用いるツールについて学習する。主にコスト・プラス法と原価企画 (Target costing) について説明し、実際価格を決めるための演習を行う。	【復習 40 分】 価格決定 (コストプラス法) の演習問題を解いて提出
9	価格決定と原価企画 ②	企業が販売価格を決める際に用いるツールの一つである原価企画 (Target costing) について学習する。また、様々な原価のコンセプトを理解する。	【復習 60 分】 価格決定の事例研究レポートの提出
10	セールス・ミックス (Sales Mix)	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	【復習 30 分】 演習問題を解いて提出
11	投資計画のための管理会計 ①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択すると全社利益最大化になるか、投資案を分析するための分析ツールについて学習する。投資案の分析ツールとしては主に NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	【復習 30 分】 基礎理論理解のための演習問題を解いて提出
12	投資計画のための管理会計 ②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択すると全社利益最大化になるか、投資案を分析するための分析ツールについて学習する。投資案の分析ツールとしては主に NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	【復習 60 分】 上級演習 (投資計画の分析) 問題を解いて提出
13	投資計画のための管理会計 ③ ROI を用いた企業評価	分析ツールの一つである ROI を用いて、実際に受講者が興味のある企業の財務諸表に基づいて、企業評価を行ったり、該当企業が属する産業の現状分析などを行う。	【予習 60 分】 分析のための財務情報を実際の企業の有価証券報告書から収集しておく

	14	投資計画のための管理会計 ④ ROIを用いた産業間比較分析	実際の企業の財務諸表を用いりながら 企業評価を行ったり、グループワークで 業種間比較(メンバ6人が調べた6業種) 分析を行ったり、違いの原因について考 えてみる。	【復習 180 分】産業別比較分析結果についてレポ ート(個別)を作成提出
	15	まとめ	14 回目までの内容に関するまとめ及び 質疑応答を行う。	【予習 60 分】1 回目から 14 回目までの内容を 読んで、質問内容などをメモしておく
関連科目	会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習・レポート 80%、プレゼンテーション・ディスカッション 20%			
学生への メッセージ	①第 1 回目のガイダンスは必ず出席が必要です ②授業中は計算演習を行う場合があるため、電卓を持参すること			
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 朴教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	公共政策論	科目名 (英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2029a0		

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	10回目に中間試験、15回目に定期試験を対面で行います。それ以外の回については、Moodleに講義関係の資料をUploadしておきますので学習をお願いします。連絡手段にTeamsを使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果 (資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習 (1時間)
	2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	9	公債	公債について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	10	中間試験		
	11	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	12	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	13	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	14	地域間再分配政策	国から地方への補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの予習 (わからない単語の意味や興味のある制度について調べておく) と復習 (予習・復習それぞれ20~30分ずつ)
	15	定期試験		

関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎コース：公共経済学	井堀利宏	新世社
	2	地方財政論入門	佐藤主光	新世社
	3			

評価方法 (基準)	中間試験 (30点)、定期試験 (70点) で総合的に評価します。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
-----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室 (経済学部)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	関西経済論	科目名 (英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2030a0		

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。 周辺の他府県 (京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県) も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。 大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。 関西経済のイノベーションの実態や産業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	講義形式により行う。 データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。 必要に応じてMoodleを活用する。 必要に応じて外部講師を1回程度招聘することがある。
科目学習の効果 (資格)	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	大阪府の産業①	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
3	大阪府の産業②	大阪府の第二次産業、第三次産業を中心に各産業について理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
4	大阪府の主要企業	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
5	大阪府の主要企業の分析	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、基礎的な分析を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
6	大阪府の中小ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
7	兵庫県の経済と産業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
8	奈良県の経済と産業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
9	和歌山県の経済と産業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
10	滋賀県の経済と産業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
11	京都府の経済と産業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
12	関西自治体の経済政策①	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
13	関西自治体の経済政策②	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策を理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
14	国の経済政策と自治体の経済政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行い手書きノートを完成させる (90分)

関連科目	日本経済史
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	テストと小テストにて評価を行う。 テスト1回=70点、小テスト30点、計100点
-----------	---

学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 野長瀬教授室 (経済学部)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	地方自治論	科目名 (英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2034a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治を学ぶに際して、国と地方は相互協力であって依存関係ではないという認識が重要である。</li> <li>住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。</li> <li>現状の組織や制度を講義するとともに地方自治法などの法との関連も講義したい。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治の現状の制度を理解する。</li> <li>地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。</li> <li>変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。</li> <li>地方公務員の仕事だけでなく地方自治の仕組みについて理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。</li> <li>地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。</li> <li>地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。</li> <li>2010年に総務省が</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員試験の基本的考え方を修得する。</li> <li>地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	第一章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	第二章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	第三章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	第四章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	第五章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	第六章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	第七章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	第八章 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
9	地方公共団体の執行機関 1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	第九章第一、二節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
10	地方公共団体の執行機関 2	地方公共団体の機関、長及び他の機関（議会と行政委員会）について講義する。	第九章第三、四節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
11	地方公共団体の財務 1	地方公共団体の財務（収支関係項目）について講義する。	第十章第一、二、三、四節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
12	地方公共団体の財務 2	地方公共団体の財務（資本的収支関係項目）について講義する。	第十章第五、六、七節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
13	地方公共団体と他の主体との関係 1	地方公共団体と国との関係について講義する。	第十一章第一節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
14	地方公共団体と他の主体との関係 2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	第十一章第二節 教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 教科書と配布資料による復習 2 時間程度

関連科目	「地方自治と法（法学部）」等の行政法関連科目
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治制度 第七次改訂版	久世公堯	学陽書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート内容及び定期試験(70%)及び、レポート提出等を受講態度(30%)として総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義である。</li> <li>・経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。</li> <li>・国家及び地方公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。本講義で公務員についての知識を修得してほしい。</li> <li>・公務員の種類を含め制度理解に役立つ内容を説明する。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)			
備考	教科書については、冊子による修学が基本であるが、入手困難な場合の対策として、Teamsの「ファイル」ホルダにPDFでUPLOADする。			

科目名	地域金融論	科目名 (英文)	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2032a0		

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対する認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。
科目学習の効果 (資格)	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション/地域金融論とは	地域金融に関する概論	-----
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第2回から第7回まで	-----
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習
13	地域金融機関の新しい潮流②	第12回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習
14	事業性評価	近年の地域金融モデルである事業性評価に関する解説を行い、リレバンの相違点について検討する。	授業の復習
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	-----

関連科目 地域経済論 金融論など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) + 単元テスト (40%) で評価します。
学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)
備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です (詳細未定)。

科目名	地方財政論	科目名 (英文)	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村 拓哉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2031a0		

授業概要・目的	経済のグローバル化、少子高齢化が進む中で、地方自治体の果たすべき役割は大きくなり、財政規模も増大している。本講義では、基本的なテキストを用いて、具体的な地方自治体の財政データ、地方財政に関する新聞記事や講師自身の実務経験も活用しながら、地方財政の現状と課題について理解・検討する能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	地方財政の基本的な仕組みと現状の課題について、概略が理解できるようになる。 地方自治体の収入について、地方税、補助金、地方債のそれぞれについて、概略が理解できるようになる。 地方財政の歴史及び今後の課題について、概略が理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行う。中間レポートで課題も出し、実際の地方財政を分析してもらう。
科目学習の効果 (資格)	新聞やネット記事等で、地方財政に関する問題は、幅広く取り上げられている。本講義を受講することにより、これらの問題の現状と課題を読み解くことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の全体像に関するガイダンス 地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する	【事前学習】テキストの序章をよく読み、分からない用語について調べる (1 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
2	日本の地方財政の仕組み	日本の地方財政の仕組みの特徴について、地方自治・財政制度の観点から学ぶ	【事前学習】テキストの第 1 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
3	政府間財政関係	日本の地方財政の仕組みの特徴について、集権・分権という考え方から学ぶ	【事前学習】テキストの第 2 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
4	経費論総論	日本の地方財政の仕組みの特徴について、経費の観点から学ぶ	【事前学習】テキストの第 3 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
5	予算論	日本の地方財政の仕組みの特徴について、予算の観点から学ぶ	【事前学習】テキストの第 4 章及び第 5 章 (1~3) をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
6	地方自治体の収入構造及び地方税総論	地方自治体の収入構造及び地方税の体系について学ぶ	【事前学習】テキストの第 5 章 (4~9) をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
7	地方税各論	主要な地方税の税目について学ぶ	【事前学習】テキストの第 6 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
8	地方交付税	地方交付税 (一般補助金) の仕組みと役割について学ぶ。	【事前学習】テキストの第 7 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
9	国庫支出金	国庫支出金 (特別補助金) の仕組みと役割について学ぶ。	【事前学習】テキストの第 8 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
10	地方債	地方債の仕組みと役割について学ぶ	【事前学習】テキストの第 9 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
11	地方財政の歴史的展開	明治から現在までの地方財政の展開について学ぶ	【事前学習】テキストの第 10 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
12	経費論各論 (1) 地域づくりの観点から	地方財政の各論について、産業振興や公共投資の現状と課題について学ぶ	【事前学習】テキストの第 11 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間) 中間レポートの作成 (16 時間)
13	地方経費各論 (2) 対人社会サービスの観点から	地方財政の各論について、対人社会サービスの現状と課題について学ぶ	【事前学習】テキストの第 12 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
14	地方公営企業、第三セクター等	地方における準政府部門の現状と課題について学ぶ	【事前学習】テキストの第 13 章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に基づき授業内容の復習を行う (1 時間)
15	まとめ	まとめを行う	【事前学習】テキストの終章をよく読み、分からない用語について調べる (2 時間) 【事後学習】レジュメ及び授業で紹介した記事等に

				基づき授業内容の復習を行う (1時間)
関連科目	財政学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方財政を学ぶ	沼尾波子ほか著	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の地方財政 第2版	神野直彦・小西砂千夫	有斐閣
	2	地方財政論	持田信樹	東京大学出版会
	3	現代日本地方財政論	長沼進一	勁草書房
評価方法 (基準)	中間レポート (40%)、期末試験 (60%) で評価する。			
学生への メッセージ	<p>諸君は、今までに、高校生まで教育などの公共サービスを受けていると思います。また、災害が起こった場合の対応や、高齢化が進む中で高齢者への福祉サービスの提供など、地方財政の役割は大きくなっています。</p> <p>今後は、自治体の財政が悪化することにより、十分にサービスが受けられないことにより、諸君の日常生活に影響が生じるかもしれません。本講義で、地方財政の現状と課題について、知識を得ることで、将来の社会課題への関心を持ってほしい。地方自治体 OB や公認会計士・税理士としての経験もいかした講義を展開したいと思います。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	授業内容は、学生の理解度に応じて変更することがある			

科目名	日本産業史	科目名 (英文)	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3036a0		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。 担当教員の実務経験を生かし、日本産業のイノベーションの実態を論じることとする。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションについて理解する。
授業方法と留意点	講義形式により行う。 事例、データを示しつつ、授業を進める。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。 必要に応じてMoodleを活用する。
科目学習の効果 (資格)	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ③自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	摂南大学生の就職先についてファーストイヤースタディガイドで確認(90分)、事後に授業の復習(90分)
2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
8	自動車産業史①	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
9	自動車産業史②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
10	自動車産業史③	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行う(90分)
15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	前回授業について手書きノートの作成を行う(90分)、事後に授業の復習を行い手書きノートを完成させる(90分)

関連科目	日本経済史、関西経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テストと小テストにて評価を行う。 テスト=70点、小テスト30点、計100点
学生への	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。

メッセージ	ノートをしっかりと、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。
担当者の研究室等	1号館7階 野長瀬教授室（経済学部）
備考	

科目名	地域保健医療	科目名 (英文)	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3035a0		

授業概要・目的	<p>コロナ禍を経て下記趣旨に基づき、医療体制構築の基本的な枠組みを都道府県が策定していることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。</li> <li>・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。</li> <li>・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。</li> <li>・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。</li> </ul> <p>・高度医療機関である市民病院に勤務した実務経験を活かして大阪府下全ての病院運営の指針となる大阪府医療計画及び医療構想（第8次計画より医療計画に組み込まれる）について実践的教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs3「すべての人に健康と福祉を」</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして説明する。</li> <li>・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。</li> <li>・地域の医療資源の配分を管理する都道府県業務について大阪府の事例を用いて説明し、他の都道府県の地域医療に関する理解促進を図る。</li> <li>・少子高齢化社会における地域医療整備の重要性を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>教材となる第8次医療計画は、シラバス作成時点では（案）のため4月には、講義資料を修正する場合がある。</p> <p>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。下記内容を講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性和意義について考察する。</li> <li>・大阪府医療計画に基づき、その必要性和意義について講義する。</li> <li>・後半では現状</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。</li> <li>・医療事務資格を取得する場合の病院機能の分類（一般病院、地域医療支援病院、特定機能病院等）を理解し、地域医療での病院の役割を理解する。</li> <li>・他学部学生（薬学部、法学部）とのワークショップでの議論により地域保健医療の多面的な視点での「気づき」を就学する。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	履修ガイダンスと注意事項	本講義の特色と受講の際の注意点について説明する。他学部学生とのWS(ワークショップ)方式の後半実施について説明する。	Teams 掲載情報の説明を実施する。3学部学生とのWSに向けての修学内容について説明する。
2	大阪府医療計画について	医療計画策定義務者である都道府県として大阪府を取り上げ、医療計画の概要について説明する。	第08次大阪府医療計画 第1章 大阪府医療計画について ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
3	大阪府の医療の現状	大阪府の医療の現状について講義する。	第08次大阪府医療計画 第2章 大阪府の医療の現状 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
4	基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての病床数の設定について講義する。	第08次大阪府医療計画 第3章 基準病床数 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
5	地域医療構想	医療計画の方向性を示す地域医療構想についてコロナ禍を踏まえて再構築内容を中心に講義する。	第08次大阪府医療計画 第4章 地域医療構想 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
6	外来医療に係る医療提供体制 (外来医療計画) 医療計画に新規追加	コロナ禍で明らかとなった外来診療の整備について、第08次医療計画に新設された内容を講義する。	第08次大阪府医療計画 第5章 外来医療に係る医療提供体制 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
7	在宅医療	少子高齢化を支える在宅医療について講義する。	第08次大阪府医療計画 第6章 在宅医療 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
8	5疾病5事業の医療体制	公的医療の基本的概念としての5疾病5事業について講義する。	第08次大阪府医療計画 第7章 5疾病5事業の医療体制 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
9	その他の医療体制	診療を支える医療体制について講義する。	第08次大阪府医療計画 第8章 その他の医療体制 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
10	保健医療従事者の確保と資質の向上	不足する医師、看護師等の保健医療従事者の確保と研鑽による医療技術の資質	第08次大阪府医療計画 第9章 保健医療従事者の確保と資質の向上

			向上の整備内容について講義する。	ホームページ及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 配布資料による復習 2 時間程度																
	11	二次医療圏における医療体制	大阪府下二次医療圏における医療提供体制について講義する。	第 08 次大阪府医療計画 第 10 章 二次医療圏における医療体制 ホームページ及び参考書を読んでおく。予習 1 時間程度 配布資料による復習 2 時間程度																
	12	これまでのまとめ	大阪府医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について時間内に動画を視聴しレポートを作る。	中間レポート																
	13	【薬学部、法学部学生とのワークショップ】	多様な I メディア、特に ICT ツールを活用する。3 学部学生によるグループ議論を行う。	Teams 等による配布資料によって事前の議論課題を把握しておく。配布資料を読んでおく。予習 1 時間程度 配布資料と演習による復習 2 時間程度																
	14	同上	同上	同上																
	15	同上	同上	同上																
関連科目	地域医療、地域経済関係科目 メディカルツーリズム等を検討するにあたり観光関係科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 08 次大阪府医療計画</td> <td>大阪府のホームページから取得</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 08 次大阪府医療計画	大阪府のホームページから取得		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	第 08 次大阪府医療計画	大阪府のホームページから取得																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生</td> <td>伊関友伸</td> <td>時事通信社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート内容及び定期試験(70%) 及び、レポート提出等を受講態度 (30%) として総合評価する。</li> <li>薬学部、法学部学生とのワークショップを実施する。場合によっては Teams 等の ICT ツールを活用する。ワークショップでの課題に対するレポートを試験に該当する。従ってワークショップ参加を必須とし、ワークショップでのレポート提出された結果をもってレポート平均点算定を行う。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学部、法学部の学生とのワークショップを行う。このワークショップに参加することによって、13, 14, 15 回目の受講に該当する。ワークショップに使用する教材は Teams 等で事前配布する。</li> <li>実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。随時、新型コロナウイルス関連の対策等について講義に加える。</li> <li>医薬分業体制の課題や院内、院外での薬剤師の業務の課題及び薬価や診療報酬等の経済的課題について関心を持って欲しい。治</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 田井教授室 (経済学部)																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。</li> <li>医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済を支える仕組みであることの気づきを期待する。</li> <li>新型コロナ禍における内容について講義に追加する。</li> </ul>																			

科目名	中小企業論	科目名 (英文)	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。 ベンチャー企業、地域経済、関連諸政策についても理解する。 中小企業のイノベーションの実態や中小企業支援のあり方についても論じることとする。 必要に応じて予習復習にMoodleを用いる。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	講義形式により実施する。 必要に応じて、演習を行う。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 必要に応じてMoodleを活用する。
科目学習の効果 (資格)	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。 中小企業診断士科目の中小企業経営・政策の試験範囲を部分的にカバーしている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中小企業概論	中小企業の定義、基礎的キーワードについて概説する。	教科書を通覧しておくこと (90分)、事後に授業の復習 (90分)
	2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	5	ベンチャー企業	ベンチャー企業概念、海外の諸状況について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	7	ベンチャー企業事例①	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	8	ベンチャー企業事例②	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業的重要性について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行う (90分)
	15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	前回授業について手書きノートの作成を行う (90分)、事後に授業の復習を行い手書きノートを完成させる (90分)

関連科目	関西経済論、日本経済史
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テスト=70点、小テスト=30点、合計100点
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 野長瀬教授室 (経済学部)
------------	---------------------

科目名	文化政策論	科目名 (英文)	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	志村 聖子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3033a0		

授業概要・目的	この授業では、社会における芸術文化の重要性に着目し、文化政策の歴史的経緯や現代的課題を探究する。前半では、文化施設や表演団体の経営（マネジメント）の観点から、文化に対する公的支援のあり方を考える。後半では文化政策の新たな領域（文化的景観の保護、文化観光、コンテンツ産業など）を取り上げ、今後の文化政策のあり方について考える。
到達目標	・日本における文化政策の歴史的背景や特徴について理解できるようになる。 ・文化政策の多様な側面を掘り下げながら、文化政策を批判的かつ創造的に考察するために必要な視点を身につけることができる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。
科目学習の効果 (資格)	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方について説明する	学生自身の学習目標を立てる 30分
2	芸術文化に対する公的支援の根拠	芸術文化の産業としての特性や社会的便益を理解する	復習課題 30分
3	芸術とパトロンージュ	芸術は誰が支えてきたのかを、パトロンの事例をもとに学ぶ	復習課題 30分
4	文化施設の歴史	日本における劇場/音楽ホール等の発展や変化を学ぶ	復習、レポート課題に取り組む（提出日まで引き続き取り組む） 30分
5	ケーススタディ	具体的な文化施設に関するレポート課題、および関連する事例について学ぶ	復習課題 30分
6	文化体験に対するアクセスの保障	観客育成やアウトリーチの事例について学ぶ	復習課題 30分
7	日本の文化政策	日本における文化政策の歴史的背景と特徴を学ぶ	復習課題 30分
8	芸術文化への公的支援	公的支援の様々なモデルを検討する	復習課題 30分
9	公立文化施設の運営	文化施設のミッションや事業運営の特徴を学ぶ	復習課題 30分
10	舞台芸術とアートマネジメント	舞台芸術団体のミッションと組織マネジメントの接点を探る	復習課題 30分
11	文化政策の新領域①	まちづくり、景観保全、文化的景観について学ぶ	復習課題 30分
12	文化政策の新領域②	観光と文化遺産、地域アイデンティティとの関係について学ぶ	復習課題 30分
13	文化政策の新領域③	コンテンツ産業における文化政策の役割について学ぶ	復習課題 30分
14	文化政策の新領域④	日本文化の海外発信や、国際文化交流における文化政策の役割について学ぶ	復習課題 30分
15	まとめ	全体のまとめを行う	復習課題 30分

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじまりのアートマネジメント：芸術経営の現場力を学び、未来を構想する	松本茂章 編著	水曜社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間レポート (40%)と期末試験 (60%) で評価する
学生へのメッセージ	文化政策は、比較的新しく学際的な領域ですが、人々の well-being や社会の活性化に重要な役割を果たしています。毎回の授業テーマが、新しい分野を探究し、興味を深めるきっかけになることを願っています。
担当者の研究室等	
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	観光経済論	科目名 (英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2039a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています (コロナ禍以前)。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大きいと期待されています。しかし、観光経済は近年になって急成長してきたので、経済学において観光をどのようにとらえるか理解が不足しています。この授業では経済学における観光経済の位置づけと関連分野の地域経済学における観光のとらえ方を説明していきます。
到達目標	経済における観光経済の特徴を理解し、客観的なデータで世界と日本における観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実際の知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。
科目学習の効果 (資格)	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代における観光経済の意味	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
2	近年の国際観光の発展 (1)	世界における国際観光の発展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
3	近年の国際観光の発展 (2)	日本における国際観光の発展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
4	地域経済と観光 (1)	地域統計の基礎	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
5	地域経済と観光 (2)	都市化の進展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
6	地域経済と観光 (3)	地域間人口移動	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
7	地域経済と観光 (4)	人口の都心回帰	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
8	産業と観光 (1)	産業構造の変化	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
9	産業と観光 (2)	産業分類と観光	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
10	産業と観光 (3)	観光産業の特殊性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
11	観光統計 (1)	観光統計 TSA の仕組み (1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
12	観光統計 (2)	観光統計 TSA の仕組み (2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく (90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する (90分)。
13	観光統計 (3)	SNA と観光 (1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない

				い語句や事項があれば調べておく(90分)。 <b>【事後学習】</b> 毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組むとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
	14	観光統計(4)	SNAと観光(2)	<b>【事前学習】</b> 事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。 <b>【事後学習】</b> 今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	<b>【事前学習】</b> 事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。 <b>【事後学習】</b> 今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全15回中12回程度で授業終了後にFormsで小テストを行います。小テスト60点分(5点×12回)と期末レポート40点分を総合して評価します。出席数は成績評価に加えません。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光マーケティング論	科目名 (英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2041a0		

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社のマーケティング部門で勤務した経験から観光事業におけるマーケティングに関する実践的な教育を行います。
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用例が理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	商品とマーケティング①	売れる商品の特徴を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
3	商品とマーケティング②	売れる商品の特徴を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
4	価格とマーケティング①	価格設定の考え方を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
5	価格とマーケティング②	価格設定の考え方を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
6	流通チャネルとマーケティング①	流通チャネルの役割について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
7	流通チャネルとマーケティング②	流通チャネルの役割について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
8	プロモーションとマーケティング①	プロモーションの役割について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
9	プロモーションとマーケティング②	プロモーションの役割について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
10	観光のマーケティングの特徴①	観光マーケティングの主体と対象を考える。 「小テスト①」の実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
11	観光のマーケティングの特徴②	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。 「小テスト①」の振り返り	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「小テスト①」の復習 (60分)
12	観光マーケティングの戦略①	観光地のマーケティングを考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
13	観光マーケティングの戦略②	観光地のマーケティングを考える。 「課題①」付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題①」の作成 (60分)
14	観光マーケティングの戦略③	観光産業のマーケティングを考える。 「小テスト②」の実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。 「小テスト②」の振り返り 「課題②」付与	事後：「小テスト②」の復習 (60分) 「課題②」の作成 (60分)

関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題等提出物の提出状況とその内容 (20%)、小テスト (30%)、定期テスト (50%) の割合で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光人材論	科目名 (英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2040a0		

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する仕組みについての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社の人事部門で採用・人事企画・部門長等を務めた経験から観光事業における人材管理に関する実践的な教育を行います。
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	観光の人材とは何か	「観光人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
4	観光産業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の要件について理解する。 「課題①」付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題①」の作成 (60分)
5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
7	人材管理の仕組みⅢ	人事評価の仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
8	人材管理の仕組みⅣ	賃金管理の仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
9	人材管理の仕組みⅤ	採用管理の仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
10	人材管理の仕組みⅥ	配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
11	人材管理の仕組みⅦ	労働時間管理の仕組みについて講義する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
12	人材管理の仕組みⅧ	教育訓練・労使関係管理等の仕組みについて講義する。 「小テスト」の実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
13	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。 「小テスト」の振り返り	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：小テスト内容の復習 (60分)
14	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。 「課題②」付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題②」作成 (60分)
15	観光人材論まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料内容の復習 (60分)

関連科目	観光学入門
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題の提出状況と内容 (20%)、小テスト (30%)、定期試験 (50%) の配分で評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光産業政策論	科目名 (英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています（コロナ禍以前）。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大きいと期待されていますが、観光産業はさまざまな産業にまたがる大きな分野であるため、その正確な把握は容易ではありません。この講義では経済学における産業理論において観光産業をどのようにとらえるかを説明し、さまざまなデータで観光産業を客観的に眺め、経済における観光の役割について理解を深めます。
到達目標	経済における観光産業の特徴を正確に理解し、客観的なデータで世界と日本における観光産業、観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実証的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。
科目学習の効果 (資格)	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明できるようになります。特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光政策の意味	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
2	近年の観光経済の動向(1)	日本経済と観光経済	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
3	近年の観光経済の動向(2)	国内観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
4	近年の観光経済の動向(3)	国際観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
5	国際観光と地域経済(1)	外国人旅行者の地域分布(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
6	国際観光と地域経済(2)	外国人旅行者の地域分布(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
7	日本の観光政策(1)	観光政策のはじまり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
8	日本の観光政策(2)	観光庁と観光統計	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
9	自治体の観光政策(1)	地域経済における観光	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
10	自治体の観光政策(2)	自治体の観光振興	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
11	観光まちづくり(1)	まちづくりとは何か	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
12	観光まちづくり(2)	観光経済とまちづくり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組みとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
13	ツーリズム(1)	ツーリズムの定義	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない

				い語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】毎回の授業で小テストを行うので、それに取り組むとともに、今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
	14	ツーリズム(2)	さまざまなツーリズム	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句や事項があれば調べておく(90分)。【事後学習】今回の授業で説明された内容についてレジュメとノートを読んで復習する(90分)。
関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全15回中12回程度で授業終了後にFormsで小テストを行います。小テスト60点分(5点×12回)と期末レポート40点分を総合して評価します。出席数は成績評価に加えません。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	宿泊産業論	科目名 (英文)	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3047a0		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。 また、授業担当者は観光事業会社でホテル総支配人として勤務した経験から、宿泊施設経営に関する実践的な教育を行う。
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていく。
科目学習の効果 (資格)	宿泊関連産業動向の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
3	宿泊産業の歴史Ⅰ (海外①)	海外 (欧州、米国) における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
4	宿泊産業の歴史Ⅰ (海外②)	海外 (欧州、米国) における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
5	宿泊産業の歴史Ⅱ (日本①)	日本における宿泊産業の発展を振り返る。 「課題①」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題①」の作成 (60分)
6	宿泊産業の歴史Ⅱ (日本②)	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
7	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。 「課題②」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題②」の作成 (60分)
8	法律と宿泊産業Ⅰ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
9	法律と宿泊産業Ⅱ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
10	宿泊産業の運営管理Ⅰ	国内外における宿泊施設の分類とその役割・特徴について学ぶ。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
11	宿泊産業の運営管理Ⅱ	主にホテルを事例に宿泊産業の運営形態について学ぶ。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
12	宿泊産業の運営管理Ⅲ	主にホテルを事例に収益性指標について学ぶ。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布資料内容の復習 (60分)
13	宿泊産業の経営分析Ⅰ	宿泊施設の損益分析についての理解と演習を行う。 「課題③」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題③」の作成 (60分)
14	宿泊産業の経営分析Ⅱ	宿泊施設の資本利益率についての理解と演習を行う。 「課題④」の付与 「小テスト」実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題④」の作成 (60分)
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答。「小テスト」の振り返り	事後：小テストの復習 (60分)

関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題等提出物の提出状況とその内容 (20%)、小テスト (30%)、定期テスト (50%) により総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけでなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	航空産業論	科目名 (英文)	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3045a0		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。また、航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。この授業は国内大手航空会社で実務経験のある教員が担当し、具体例を交えながらわかりやすく説明することによって、航空産業の全体像を理解することを目的とします。
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。
科目学習の効果 (資格)	観光産業の主要な要素である航空産業の全体像を理解します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
4	LCC	台頭著しいLCCについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
5	航空会社間の連携 (アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
8	地球環境への取り組み	航空会社の地球環境保全への取り組みについて講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート①
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
10	レベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
11	CS とブランド戦略	航空会社が重視する CS 戦略とブランド戦略について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
12	CRS と IT 戦略	航空会社 IT 戦略とインターネットの影響について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
13	FFP とデータベースマーケティング	航空会社にとっての FFP の役割を講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間)
15	まとめと補足	授業のまとめと補足事項について講義する	配布資料の復習 (1時間) 発展学習 (1時間) 課題レポート②

関連科目 観光学入門、観光ビジネス英語

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題レポート提出 (2回) 60%、期末試験 40%

学生へのメッセージ 観光にとって授業な要素である航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。

担当者の研究室等 1号館7階 野村教授室 (経済学部)

備考

科目名	レジャー産業論	科目名 (英文)	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3046a0		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げ、その意義と重要性を理解します。 また、授業担当者は観光事業会社でのレジャー施設運営管理の経験からレジャー産業に関する実践的な教育を行います。			
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果 (資格)	レジャー関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	
	2	レジャーとは何か	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	3	レジャーの意義①	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	4	レジャーの意義②	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	5	レジャーの範囲と規模①	レジャー関連産業の領域を理解する。 「課題①」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題①」の作成 (60分)
	6	レジャーの範囲と規模②	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	7	わが国のレジャーの歴史①	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	8	わが国のレジャーの歴史②	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	9	わが国のレジャーの歴史③	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。 「課題②」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題②」の作成 (60分)
	10	レジャー産業事例Ⅰ (スポーツ産業①)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。 「小テスト①」の実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	11	レジャー産業事例Ⅰ (スポーツ産業②)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。 「小テスト①」の振り返り	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「小テスト①」の復習 (60分)
	12	レジャー産業事例Ⅱ (健康産業①)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	13	レジャー産業事例Ⅱ (健康産業②)	健康産業の特徴と動向を理解する。 「課題③」の付与	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：「課題③」の作成 (60分)
	14	レジャー産業事例Ⅲ (外食産業)	外食産業の特徴と動向を理解する。 「小テスト②」の実施	事前：配信講義内容の予習 (60分) 事後：配布レジュメ内容の復習 (60分)
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答 「小テスト②」の振り返り	事後：「小テスト②」の復習 (60分)
関連科目	観光学入門、観光マーケティング論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作成課題の提出状況と内容 (30%)、小テスト (20%)、定期テスト (50%) の配分で評価する。			
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	観光ビジネス英語	科目名 (英文)	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2044a0		

授業概要・目的	海外からの観光客増加に伴い、観光関連産業において英語の重要性が増しています。英語でコミュニケーションができるということは能力要件の一部に過ぎませんが、外国人観光客に適切に対応するためサービスの現場では必須の要素となっています。この授業では、国内外の航空会社とホテルの接客部門で実務経験を持つ教員が担当し、観光に関連する様々な場面での英語に触れながら、実践的な英語と実務知識を身に付けることを目指します。
到達目標	観光関連産業および海外旅行で必要とされる実践的な英語表現を身に付けることを目的とします。各回に関連した実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実際に使われているナチュラルな英語教材を中心に授業を進めます。また、各回に関連する実務知識について講義します。
科目学習の効果 (資格)	観光産業や海外旅行の場面で実際に使われている英語表現が身に着きます。また、実務知識についても理解を深めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション At the airport	授業の進め方について 空港にて	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
2	On the place	機内にて	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
3	Arrival	到着	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間) 小テスト①
4	Checking in at the hotel	ホテルにチェックイン	教科書の予習 (1時間) 教科書の該当部分の復習と宿題 (1時間)
5	Getting information and sightseeing	情報を入手して観光する	教科書の予習 (1時間) 教科書の該当部分の復習と宿題 (1時間)
6	Ordering fast food	ファストフードを注文する	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間) 小テスト②
7	Going to the theater	劇場に行く	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
8	At the restaurant	レストランにて	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
9	Shopping	買物をする	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間) 小テスト③
10	Lost and found	遺失物係にて	教科書の予習 (1時間) 教科書の該当部分の復習と宿題 (1時間)
11	Using public transportation	公共交通機関を利用する	教科書の予習 (1時間) 教科書の該当部分の復習と宿題 (1時間)
12	Renting a bike	自転車を借りる	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間) 小テスト④
13	Finding your way around	道を聞く	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
14	Medical care	診察を受ける	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間)
15	Leaving for home	帰途につく	教科書の該当部分の予習 (1時間) 教科書の復習と宿題 (1時間) 小テスト⑤

関連科目	観光学入門、航空産業論、宿泊産業論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Enjoy Your Trip! English you need abroad	竹内真澄・中井延美・菅原千津	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (5回) 60%、期末試験 40%
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	授業は極力わかりやすく進めていきますが、実際の場面で使われている英語を学ぶことが目的であるため、文法をある程度理解していることが前提となります。また授業では予習と復習を必須とし、宿題も出します。予習・復習をしっかりとすることによって、使える英語と実務の知識の両方を身に付けていただきたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光資源論	科目名 (英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3043a0		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、観光の対象となる資源を作り出していくことの重要性と着地側の視点を理解し、資源の持続可能性とこれからの観光のあり方を考えることを目的とします。
到達目標	様々なものが観光資源となりうることを理解します。また持続可能な観光におけるホストとゲストの関係を理解します。
授業方法と留意点	毎回、具体的な事例を用いて講義を行います。
科目学習の効果 (資格)	多様な視点から観光振興や地域活性化を考える力を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、資源とは何か	なぜ観光における資源が問題になるのかを考える。	事後：授業の復習 (1時間)
2	世界遺産	世界遺産について理解を深め、世界遺産として指定されることの問題点を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
3	コンテンツ	小説や映画、アニメ等の舞台を巡る観光の現状について理解を深め、課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
4	街並み	観光客を誘引する街並みやまちづくりについて理解を深め、課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
5	伝統・歴史	地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによって生じる課題について考える。	事後：授業の復習 (1時か)
6	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光資源化の課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
7	動物	動物が観光客を誘引する事例を理解し、課題にしても考える。	事後：授業の復習 (1時間)
8	交通	移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、その課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について理解する。	事後：授業の復習 (1時間) 課題レポート①
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習 (1時間)
11	産業	産業観光についての理解を深め、課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
12	医療	メディカルツーリズムについて理解を深め、課題を考える。	事後：授業の復習 (1時間)
13	健康	ヘルスツーリズムについて理解を深め、課題について考え	事後：授業の復習 (1時間)
14	文化観光	文化庁の推進する文化観光について理解を深める。	事後：授業の復習 (1時間)
15	まとめと補足	授業のまとめと補足を行う。	課題レポート②

関連科目 観光学入門、観光産業政策論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート2回 (60%)、定期試験 40%で評価します。
学生へのメッセージ	コロナ禍が一段落し、国内外で観光が盛んになってきています。観光客がどんなことに興味があるのかを見たとき、思いがけないものが観光資源となっていることに気づくことがあると思います。それがなぜ観光客に人気があるのか、自分たちの周りに観光資源となりうるものはないか、興味を持って考えてみてください。
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教室 (経済学部)

科目名	貿易論	科目名 (英文)	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2049a0		

授業概要・目的	国際経済学は、国家間の経済活動を分析対象とする経済学であり、ミクロ分野とマクロ分野に大別される。中でも本授業の貿易論はミクロ分野における学問である。ミクロ経済学の復習もかねて貿易論を講義し、貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益について学ぶことを目的とする。
到達目標	貿易論の主要な理論モデルを学習し、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	講義法に基づいて授業を行う。講義資料配付はTeamsで行う。
科目学習の効果 (資格)	国際貿易に関するニュースを理解し、それに対して自分自身の意見を述べるができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の紹介	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
2	需要・供給	部分均衡分析で必要となる需要・供給を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
3	部分均衡分析	この分析手法を用いて輸入と輸出のそれぞれのケースにおける貿易効果を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
4	消費者行動の理論	2財モデルで必要となる消費者行動の理論を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
5	2財モデル	この分析手法を用いて輸入と輸出の両方が行われるケースの貿易効果を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
6	小国関税・生産者補助金・消費税・大国関税	政府が貿易に介入する貿易政策について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
7	輸入数量規制、輸出補助金、輸出税	前回に引き続き、政府が貿易に介入する貿易政策について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
8	前半のまとめと確認問題	前半のまとめをし、確認問題を実施する。	事前：前半の教材の復習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
9	リカード・モデル(1)	絶対優位・劣位、比較優位・劣位の概念と比較優位に基づいて貿易パターンが決まることを解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
10	リカード・モデル(2)	市場メカニズムを通じて、両国が比較優位を持つ財を輸出するという貿易パターンが実現すること等を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
11	リカード・モデル(3)	リカード・モデルのまとめをし、確認問題を実施する。	事前：第9回・第10回の教材の復習 (2時間)、事後：授業の復習 (2時間)
12	ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)	リカード・モデルとの違い、固定係数モデル、リプチンスキーの定理までを解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
13	ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)	ヘクシャー＝オリーン定理を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
14	ヘクシャー＝オリーン・モデル(3)	ストルパー＝サミュエルソン定理、要素価格均等化定理を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
15	後半のまとめと確認問題	後半のまとめ (主にヘクシャー＝オリーン・モデル) をし、ヘクシャー＝オリーン・モデルを中心とした確認問題を実施する。	事前：後半の教材の復習 (2時間)、事後：授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)

関連科目	国際金融論、国際経済の新動向
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コアテキスト・国際経済学	大川昌幸	新世社
	2	国際経済学をつかむ	石川城太・椋寛・菊地徹	有斐閣
	3			

評価方法 (基準)	練習問題 (40%)、定期試験 (60%) で評価する。
学生へのメッセージ	予習・復習は行って、授業内容に分からないところがあれば質問をして下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室
備考	

科目名	国際投資論	科目名 (英文)	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2050a0		

授業概要・目的	本講義は、国際投資にかかる入門的な投資学、国際金融論および証券投資を学ぶ。																																																																		
到達目標	入門的な収益率計算方法、為替レート決定理論、クロスボーダー資金フローや投資手段などの視点から経済の動きを把握できるようにする。また、リーマンショックや最近のコロナショックを例として、グローバル経済環境がグローバル投資への影響要因を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義方法： 後期金曜日3限、大学の方針に従って実施する。週末の補講があれば、TEAMS で実施する。 毎回の講義資料を Moodle で配布する。MOODLE と TEAMS の登録方法は初回に説明する。 ミニテスト受験および期末レポート提出：MOODLE																																																																		
科目学習の効果 (資格)	金融資産に関する知識を取得し、国際投資に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようにする。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義のガイダンス</td> <td>国際投資とは何か</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>投資とは</td> <td>投資の概念、分類 リスクとリターン</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単利・複利</td> <td>単利・複利の原理、計算</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>投資決定の原則</td> <td>通貨の時間価値を考慮する場合の投資決定 内部収益率の計算</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>株式投資とは</td> <td>株式市場 株式取引のオークション原則</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>株価チャートの見方</td> <td>ローソクグラフの読み方、移動平均・移動平均線・出来高 株式指数</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>株式投資収益</td> <td>株価変動 配当 配当割引モデル</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>株式投資の利益予想</td> <td>ファンダメンタルズ分析 バリュエーション指標</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>債券投資とは</td> <td>債券の特徴 債券投資の仕組み 国債、社債</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>債券の利回り</td> <td>利付債、割引債の利回りの計算 債券投資のリスク</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>信用格付け</td> <td>信用リスク、債券の信用格付け、日米の国債と社債の信用格付け状況</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>為替レートと外国為替市場</td> <td>為替レートの定義、外国為替市場、円安・円高および国際投資への影響</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>為替リスクと伴う国際投資</td> <td>為替リスク、直物と先物為替レート、為替リスクヘッジ</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際投資環境</td> <td>先進国の金融市場、 金融危機、コロナショックの影響</td> <td>講義資料</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> <td>講義資料</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義資料	2	投資とは	投資の概念、分類 リスクとリターン	講義資料	3	単利・複利	単利・複利の原理、計算	講義資料	4	投資決定の原則	通貨の時間価値を考慮する場合の投資決定 内部収益率の計算	講義資料	5	株式投資とは	株式市場 株式取引のオークション原則	講義資料	6	株価チャートの見方	ローソクグラフの読み方、移動平均・移動平均線・出来高 株式指数	講義資料	7	株式投資収益	株価変動 配当 配当割引モデル	講義資料	8	株式投資の利益予想	ファンダメンタルズ分析 バリュエーション指標	講義資料	9	債券投資とは	債券の特徴 債券投資の仕組み 国債、社債	講義資料	10	債券の利回り	利付債、割引債の利回りの計算 債券投資のリスク	講義資料	11	信用格付け	信用リスク、債券の信用格付け、日米の国債と社債の信用格付け状況	講義資料	12	為替レートと外国為替市場	為替レートの定義、外国為替市場、円安・円高および国際投資への影響	講義資料	13	為替リスクと伴う国際投資	為替リスク、直物と先物為替レート、為替リスクヘッジ	講義資料	14	国際投資環境	先進国の金融市場、 金融危機、コロナショックの影響	講義資料	15	まとめ	まとめ	講義資料
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義資料																																																																
2	投資とは	投資の概念、分類 リスクとリターン	講義資料																																																																
3	単利・複利	単利・複利の原理、計算	講義資料																																																																
4	投資決定の原則	通貨の時間価値を考慮する場合の投資決定 内部収益率の計算	講義資料																																																																
5	株式投資とは	株式市場 株式取引のオークション原則	講義資料																																																																
6	株価チャートの見方	ローソクグラフの読み方、移動平均・移動平均線・出来高 株式指数	講義資料																																																																
7	株式投資収益	株価変動 配当 配当割引モデル	講義資料																																																																
8	株式投資の利益予想	ファンダメンタルズ分析 バリュエーション指標	講義資料																																																																
9	債券投資とは	債券の特徴 債券投資の仕組み 国債、社債	講義資料																																																																
10	債券の利回り	利付債、割引債の利回りの計算 債券投資のリスク	講義資料																																																																
11	信用格付け	信用リスク、債券の信用格付け、日米の国債と社債の信用格付け状況	講義資料																																																																
12	為替レートと外国為替市場	為替レートの定義、外国為替市場、円安・円高および国際投資への影響	講義資料																																																																
13	為替リスクと伴う国際投資	為替リスク、直物と先物為替レート、為替リスクヘッジ	講義資料																																																																
14	国際投資環境	先進国の金融市場、 金融危機、コロナショックの影響	講義資料																																																																
15	まとめ	まとめ	講義資料																																																																
関連科目	金融論、国際金融論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『証券投資の基礎』</td> <td>野村証券</td> <td>丸善</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『国際金融論入門』</td> <td>佐々木百合</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『はじめての金融理論』</td> <td>吉田真理子, 大野早苗</td> <td>中央経済社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『証券投資の基礎』	野村証券	丸善	2	『国際金融論入門』	佐々木百合	新世社	3	『はじめての金融理論』	吉田真理子, 大野早苗	中央経済社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『証券投資の基礎』	野村証券	丸善																																																																
2	『国際金融論入門』	佐々木百合	新世社																																																																
3	『はじめての金融理論』	吉田真理子, 大野早苗	中央経済社																																																																
評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、レポート (30%) を総合的に判定する。 定期試験:MOODLE で授業内容に関するミニテストを3回行う レポート:国際投資について(具体的には後半の講義で公開する) なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																																																																		
学生へのメッセージ	積極的に予習・復習を行って、遠慮なく質問してください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 経済学部 羅研究室																																																																		
備考	MOODLE、TEAMS などの登録について、初回の授業で説明する。																																																																		

科目名	地域統合論	科目名 (英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2054a0		

授業概要・目的	世界各所で見られる地域経済統合の展開を、歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ、地域統合で先行している欧州連合 (EU) と東アジアにおける経済統合を比較することで、地域経済統合への理解を深める。 SDGs-1, 8, 9, 10
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。</li> <li>第2次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。</li> <li>欧州経済統合の過程とその特徴について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。</li> <li>東アジアにおける経済統合について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。</li> <li>欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。</li> <li>現在進行している、または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することができる。</li> </ul>
授業方法及び留意点	<p>反転授業形式で行う。</p> <p>受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。また動画を視聴した上での質問を出してもらいます。</p> <p>授業当日は、提出された質問について解説したり、受講者の関心にあわせてテーマを決めてディスカッションを行ったりします。</p> <p>事前の動画視聴を行わないと授業に参加しても内容を理解することができないので気を付けてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	授業を通して基本的な知識を身に付けることで、新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐる示される各々の論理を比較する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開 (とりわけ GATT から WTO への流れ) を整理する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
5	欧州連合 (EU) (1)	EU 統合の歴史を説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
6	欧州連合 (EU) (2)	EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
7	欧州連合 (EU) (3)	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
8	欧州連合 (EU) (4)	EU の通貨統合と金融システムを説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
9	欧州連合 (EU) (5)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
11	東アジアにおける事実上の経済統合 (1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資 (企業の海外進出) の拡大について説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
12	東アジアにおける事実上の経済統合 (2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖 (GVC) の展開について解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
13	東アジアにおける制度的な経済統合: ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
14	経済統合の比較分析: ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (1.5 時間)
15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する	授業全体を振り返り、期末レポートに取り組む (3 時間)

関連科目	国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題（70%）、期末レポート（30%）で総合的に評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。			
学生への メッセージ	地域経済統合の問題は、多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが、基本的な事項を一つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので、辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので、授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から、現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田研究室			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行を変更することがあります。 またオンデマンド授業の時間が多い場合には、リアルタイムの授業時間を調整することがあります。			

科目名	国際協力論	科目名 (英文)	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2◎, DP3△, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2052a0		

授業概要・目的	本授業では、まず国際協力の基本的な考え方や仕組み、開発途上国に対する支援のアプローチの変化について説明する。そして、国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトの形成・実施監視方法や、テーマ毎の取組みについて具体的な事例を交えながら解説する。更に国際協力の重要な実施主体とされている民間企業や市民団体の役割や国際協力の最新の動向に触れながら、今後の国際協力のあり方を考察することを目的とする。
到達目標	1. 国際協力の基本的な考え方や仕組みを理解できる。 2. 国際協力プロジェクトの形成や評価の方法を理解できる。 3. 国際協力の主要な取組み、実施主体、最新の動向を理解し、今後の国際協力のあり方について考察できる。
授業方法と留意点	授業で解説した内容を踏まえて、授業後に小課題に取り組み (3回程度) 授業中に提示したテーマに基づいて演習を行い、ワークシートの提出を求める (5回程度)。
科目学習の効果 (資格)	将来、国際的な活動に関わるために必要な基礎知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際協力とは	国際協力とは何か、国際協力の概念とその始まりについて解説する。	授業の復習 (1時間)
2	国際協力の基本的な仕組み①	日本の政府開発援助の仕組みを解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
3	国際協力の基本的な仕組み②	日本の政府開発援助として行われている海外協力隊の活動を紹介する。	海外協力隊に関する事前学習 (1時間) 授業の復習と小課題の提出 (2時間)
4	国際協力の基本的な仕組み③	日本以外の先進国や国際機関の援助について解説する。	日本以外の先進国や国際機関の援助に関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
5	途上国支援のアプローチの変化	途上国支援が歴史的にどのように取り組まれてきたのか、持続的開発目標 (SDGs) に至るまでの国際的潮流や貧困削減対策について解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
6	国際協力プロジェクトとは	国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトを取り上げ、その形成や実施監視の方法を解説する。	国際協力プロジェクトに関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
7	平和構築と復興支援	東西冷戦後に新たな課題として現れてきた平和構築・復興支援の概況と日本の取組みを解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習と小課題の提出 (2時間)
8	持続可能な開発への取組み (気候変動対策)	気候変動問題の概要を述べた上で、気候変動対策に関する日本の協力の特徴を解説する。	気候変動問題に関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
9	持続可能な開発への取組み (都市の環境改善)	産業開発や都市への人口集中に伴い発生する途上国の都市環境問題とその要因を述べた上で、環境汚染や廃棄物管理の問題を克服してきた日本の経験に基づく協力について解説する。	途上国の都市環境問題に関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
10	持続可能な開発への取組み (自然環境保全)	途上国の自然環境破壊に関する問題とその要因を述べた上で、自然環境保全に関する協力について解説する。	途上国の自然環境問題に関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
11	持続可能な開発への取組み (環境社会配慮)	開発事業による想定される環境・社会への負の影響を事前に回避・緩和する方策として、援助機関が行っている国際協力プロジェクトでの環境社会配慮の取組みを解説する。	途上国の大規模開発事業とその影響に関する事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
12	途上国のオーナーシップとガバナンス	開発行為の主体である途上国自身の責任とそれを支えるガバナンスについて解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
13	国際資本還流の変化と民間資本時代の開発戦略	国際協力を資本の流れとして捉え、民間を含めたその役割について解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習と小課題の提出 (2時間)
14	市民社会に期待される役割	国際協力の主要な主体である市民社会について、その取組みの現状と役割を解説する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)
15	変容する国際開発規範と日本の国際協力	21世紀を迎えて大きく変容してきた国際協力のあり方について解説し、総括する。	参考資料を用いた事前学習 (1時間) 授業の復習 (1時間)

関連科目 開発経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際協力 (第3版)	下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子	有斐閣
2	新版国際協力論を学ぶ人のために	内海成治[編]	世界思想社	

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 (65%)、小課題 (15%)、授業中に提出するワークシート (20%) の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	本講義では、皆さんに関心を持ってもらえるように、国際協力の実務で得られた知見も紹介しながら講義を進めていきます。新聞記事などで取り上げられる世界各地の出来事に関心を持つようにしてください。		
担当者の 研究室等	1号館7階 村瀬研究室		
備考			

科目名	開発経済学	科目名 (英文)	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2051a0		

授業概要・目的	開発途上国の開発は複合的な課題であり、学際的な視点で検討され各分野の知見を活かして取り組まれている。本授業は、開発途上国の実態を理解し、経済学の視点を中心にしつつ、幅広い観点から開発の問題を捉え考察することを目的とする。
到達目標	途上国の開発について、現状と課題、基礎的な経済・開発理論、政策的な取組みなどを理解し、説明できる。
授業方法と留意点	教科書や他の参考資料に沿って開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取組みについて解説する。授業で解説した内容を踏まえて、授業後に小課題に取り組む（3回程度）。授業中に提示したテーマに基づいて演習を行い、ワークシートの提出を求める（5回程度）。
科目学習の効果（資格）	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学的な基礎知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	開発経済学の概要について解説する。	授業の復習（1時間）
2	貧困と不平等	途上国の貧困や不平等の問題について解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習（1時間）
3	貧困削減に向けた課題	貧困削減に向けた課題を挙げて、途上国で貧困削減が難しい理由を解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習（1時間）
4	経済発展と農業問題	途上国の農業問題に着目し、経済発展に必要な農業開発戦略について解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習（1時間）
5	東アジアの経済発展	東アジア諸国の経済発展の経緯とその要因について解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習と小課題の提出（2時間）
6	マクロ経済安定化、海外直接投資	途上国のマクロ不均衡と安定化政策、外国資本による海外投資と途上国の経済発展との関係について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
7	経済統合、貿易	経済統合と産業立地、国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
8	人的資本・技術	経済発展のための重要な要素である人口や人的資本、技術について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
9	制度	植民地支配による途上国の制度の形成と経済発展との関係について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
10	農村金融	途上国の農業・農村の組織・制度と金融取引の特徴について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習と小課題の提出（2時間）
11	政府開発援助	政府開発援助が経済発展に及ぼす効果について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
12	環境・障害	環境制約の下での開発、障害と開発のあり方について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
13	途上国の経済開発戦略（1）	途上国がこれまで行ってきた経済開発戦略の中で見いだされた課題を取り上げて解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習（1時間）
14	途上国の経済開発戦略（2）	途上国が経済発展するために行うべき戦略の要点を解説する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習と小課題の提出（2時間）
15	持続的発展に向けて	途上国を含めた世界の持続的発展に向けて取り組むべき課題とその対策について考察する。	教科書該当箇所の予習（1時間） 授業の復習（1時間）

関連科目	国際協力論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）	大塚啓二郎	日本経済新聞出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開発経済学入門（第2版）	戸堂康之	新世社
2	テキストブック開発経済学（第3版）	黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史	有斐閣	
3				

評価方法（基準）	定期試験（65%）、小課題（15%）、授業中に提出するワークシート（20%）の割合で総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	グローバル社会において途上国の開発を考えることは、世界や私たち自身の課題を考えることにつながります。新聞記事などで取り上げられる世界経済や開発問題に関するニュースに関心を持つようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	国際金融論	科目名 (英文)	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	国際的な資本取引には為替取引が付随しており、為替レートの動向が対外投資の成果に明らかな影響を及ぼす。そこで、本講義では、国際金融の基礎的事項として、主に為替レートに関するトピックスを扱う。
到達目標	外国為替市場の現状や為替レートの決定要因についての理解を深めるとともに、為替レートに関わる現在の問題について、自ら考察できる知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	後期金曜日2限、大学の方針に従って講義を実施する。 講義資料配布、テスト受験とレポート提出はMOODLEで行う。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
科目学習の効果 (資格)	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
3	為替レートの定義、為替変動 (円高・円安) が経済に与える影響	各種の為替レートの定義・計算方法を説明する。円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
4	外国為替市場の構造、外国為替市場における取引の変遷	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
5	国際通貨制度、国際通貨・基軸通貨	さまざまな為替制度および基軸通貨の米ドルについて説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
8	主要通貨の動向とその背景：円相場の推移	円相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
9	主要通貨の動向とその背景：米ドルとユーロの行方	米ドルとユーロの相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
10	長期為替決定理論：購買力平価	為替レートの決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
11	短期為替決定理論：金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
12	為替レートの予想とニュース、日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
13	為替レートの予想とニュース、日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	国際経済論, 国際投資論
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際金融のしくみ第4版	秦・本田・西村	有斐閣
2	国際金融論入門	佐々木百合	新世社	
3	徹底解説 国際金融	清水・大野・松原・川崎	日本評論社	

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、期末レポート (50%) 定期試験：MOODLEで授業内容に関するミニテストを2-3回行う (履修人数によって回数を調整する可能性がある。) 期末レポート：具体的なテーマは後半の講義で詳しく説明する なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
-----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習は積極的に行って、授業内容に分からないところを質問してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 経済学部 羅研究室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	グローバルマーケティング	科目名 (英文)	Global Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△, DP3○, DP4○, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3057a0		

授業概要・目的	この講義では、グローバルマーケティングについて基本的知識と基礎的なフレームワークを修得することを目的としています。マーケティング初学者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明します。
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深めることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際マーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング・ミックスに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	市場細分化	市場細分化について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングと国際化	国際的な市場展開について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングと国際化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	グローバル・マーケティングリサーチ	国際的に展開する場合のマーケティングリサーチについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	海外市場への参入方式	海外市場へ参入する場合の方式について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、海外市場への参入方式に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	国際マーケティングと製品政策	国際マーケティングと製品政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	国際マーケティングと価格政策	国際マーケティングと価格政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	国際マーケティングと広告政策	国際マーケティングと広告政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと広告政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	国際的なサプライチェーン・マネジメント	国際的なサプライチェーン・マネジメントに関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際的なサプライチェーンに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	グローバルな組織デザイン	グローバルな組織設計について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバルな組織デザインに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	国際マーケティングにおける調整	グローバルに展開する時の調整について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
2				
3				

評価方法 (基準)	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	農業・資源経済学	科目名 (英文)	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3055a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。</p> <p>食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた (モノカルチャー)。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、第一に、このような現代の農業に関わる変化について概観する。</p> <p>産業革命以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石エネルギーは、生産力を飛躍的に発展させることに貢献し、人間の生活を豊かにしてきた。しかし、化石エネルギーの大量消費は大気中の温室効果ガス濃度を上昇させて温暖化の原因となっている。また化石エネルギーは将来的に資源の枯渇が予測されている。さらに、化石エネルギーは地球に偏在しており、地下資源の豊富な地域の領有権をめぐる、たびたび戦争や紛争が起きてきた。また、化石エネルギーに代替するものとして、原子力発電などの核エネルギーの利用が進められてきたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題や過酷事故による放射性物質汚染の問題など、困難な課題が残されている。1990年代以後、世界的に見て技術革新と普及が著しいのが自然エネルギー (再生可能エネルギー) である。本講義では、第二に、産業革命以来、人類が依拠してきたエネルギーの過去、現在、未来について概観する。</p>
到達目標	食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した対面講義形式で行う。資料やレジュメの配布、課題提出は Teams を利用する。
科目学習の効果 (資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			――
1	イントロダクション	講義概要の説明	――
2	グローバリゼーションと世界の農業(1) コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」(原題 "Black Gold", Fulcrum Productions, イギリス, 2005年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
3	グローバリゼーションと世界の農業(2) プランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編 さとうきび農場の奴隷たち」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1) 砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編 肥満を招く甘い誘い」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2) 食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」(原題 "Taste the Waste", Schnittstelle Film Koln & Thurn Film, ドイツ, 2010年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
6	農業の工業化 アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」(原題 "King Corn", Mosaic Films / itvs, アメリカ, 2008年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ 変わる企業型農業 ～アメリカ～」(原題 "Jimmy's Global Harvest Ep3, BBC Scotland, イギリス, 2010年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
8	石油の世紀	19世紀～21世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材: 「石油の世紀」など	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材: NHK「プロジェクト X 挑戦者たち 夢遙か、決戦への秘策 炎のアラビア/巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)

	10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻 視聴覚教材：NHK 教育「原発事故への道程(前篇)置き去りにされた慎重論」2011年。	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
	11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材：NHK スペシャル「ファンドマナーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル(椰子油)の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材：NHK クローズアップ現代「地球温暖化 森林破壊を食い止める」2007年。	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
	12	シェールガス アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「ガスランド」(原題"Gasland", Gasland Productions, アメリカ、2010年)	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
	13	自然エネルギー(1) 太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
	14	自然エネルギー(2) 風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事前予習 (30分)、事後復習 (30分)
	15	講義のまとめ	——	
関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	中間レポート(10%)、期末試験(90%)で評価する。			
学生へのメッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。関心の高い学生の参加を求めます。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。			

科目名	国際経済の新動向	科目名 (英文)	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3053a0		

授業概要・目的	日本は島国であるので、外国の存在を強く感じないかもしれないが、貿易等を通じて外国と大きく繋がっており、外国の経済状況や経済政策に大きく影響を受ける。それゆえ、世界の経済状況がどのようになっているかを理解することは重要である。本講義では、日本を含む世界の経済状況や経済問題を学習することを目的とする。
到達目標	各地域の経済を把握することで、世界経済の動きを俯瞰できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	講義法に基づいて授業を行う。講義資料配付は Teams で行う。
科目学習の効果 (資格)	日本や世界経済の現状に関するニュースを理解し、それに対して自分自身の意見を述べるができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の紹介	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
2	世界の中の日本	GDP、貿易、対外純資産等で世界の中における日本を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
3	貿易等を通じる国と国のつながり (1)	世界貿易の構造や日本の貿易収支や経常収支を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
4	貿易等を通じる国と国のつながり (2)	製造業の海外移転や移民の問題を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
5	自由貿易はのぞましいか? (1)	比較生産費説と食料自給率の問題を取り出して解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
6	自由貿易はのぞましいか? (2)	FTPやTPPが良いかどうかと水平分業とは何かを解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
7	為替レートと国際課税の仕組み	為替レートと購買力平価、実質為替レートの関係と国際課税制度とその問題点を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
8	新しい産業で成長するアメリカ経済 (1)	アメリカ経済が成長していることとアメリカの企業構成が大きく変わっていること等を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
9	新しい産業で成長するアメリカ経済 (2)	シリコンバレーとラストベルトやトランプ前大統領の経済政策等を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
10	中国経済はどこまで成長するか (1)	工業化により目覚ましい経済成長を遂げた中国経済を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
11	中国経済はどこまで成長するか (2)	中国の IT 産業や中国の対外戦略を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
12	アジア NIEs と ASEAN の経済	アジア NIEs の発展や ASEAN の経済を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
13	ヨーロッパ経済と EU、ユーロ	EU とイギリスの EU 離脱問題やユーロ圏とその問題点を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
14	移民について	イギリスの EU 離脱に至った背景 (移民を背景とした点) や日本の移民政策を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 (2時間)、事後:授業の復習 (練習問題への取り組みを含む) (2時間)
15	まとめ	第 1 回目以降の講義についてのまとめをし、質問があれば答える。	事前:教材全体の復習 (2時間)、事後:授業を参考に全体の復習に取り組むこと (2時間)。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>世界経済入門</td> <td>野口悠紀雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>どうなる世界経済 入門 国際経済学</td> <td>伊藤元重</td> <td>光文社新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の国際競争力</td> <td>伊藤元重</td> <td>財務省財務総合政策研究所</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	世界経済入門	野口悠紀雄	講談社現代新書	2	どうなる世界経済 入門 国際経済学	伊藤元重	光文社新書	3	日本の国際競争力	伊藤元重	財務省財務総合政策研究所
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	世界経済入門	野口悠紀雄	講談社現代新書													
	2	どうなる世界経済 入門 国際経済学	伊藤元重	光文社新書													
3	日本の国際競争力	伊藤元重	財務省財務総合政策研究所														

評価方法 (基準)	期末試験で基本的に評価するが、不定期に出す課題も加点材料とする (期末試験 (80%)、課題 (20%))。
学生へのメッセージ	予習・復習は行って、授業内容に分からないところがあれば質問をして下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室
備考	

科目名	摂南経済学ガストレクチャー	科目名 (英文)	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆・田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1059a0		

授業概要・目的	経済・社会の第一線で活躍されているガスト講師をお招きして、各分野の現状や課題について、ご自身の経験も踏まえてご講演していただきます。授業担当教員がコーディネーターとして講演の司会を務めるとともに、別の授業の回には関連する情報を提供します。
到達目標	ガスト講師の講演を聞き、現実の経済や社会の動向を知るとともに、在学中及び卒業後の自分のキャリア形成のイメージが持てるようになります。取り扱われたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートが書けるようになります。
授業方法と留意点	ガストの講演の後には講演レポートを提出してもらいます。担当教員の説明の後には振り返りレポートを提出してもらいます。ガストのご都合で日程の変更があり得ます。また、やむを得ない場合には土曜日になることもあります。
科目学習の効果 (資格)	視野を広げ、現場における課題を知って実践的態度を身につけることができるでしょう。簡単なレポートを書く訓練にもなります。将来へのキャリアパスやコース選択に役立つでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	4月17日 田井義人教授	就職に向けての大学活用	事前に予習 (25分)、事後に振り返りレポート (25分)
3	4月24日 尼崎市総合政策局長 中川照文氏	公務員 (市役所職員) を目指すには	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
4	5月8日 インディペンデント・キュレーター 林寿美氏	美術館の楽しみ方 (仮)	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
5	5月15日 就職部	就職活動に向けて～大学生活の過ごし方	事前に予習 (25分)、事後に振り返りレポート (25分)
6	5月22日 地域再生型旅行研究会:ARTI 代表 (クラブツーリズム株式会社・地域共創部常任顧問) 宮本茂樹氏	今、観光産業が直面する課題と2025年以降の近未来予想	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
7	5月29日 野村ホールディングス ファイナンシャル・ウェルビーイング室 SCO (名古屋大学客員教授) 池上浩一氏	グローバル化する世界と資本市場の果たす役割	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
8	6月5日 千島土地株式会社名誉会長 芝川能一氏	不動産業から地域の未来を考える～アートを切り口とする地域活性化の試み	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
9	6月12日	講演の振り返り (1)	事前に予習 (25分)、事後に振り返りレポート (25分)
10	6月19日	講演の振り返り (2)	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (25分)
11	6月26日	キャリア形成と資格取得	事前に予習 (25分)、事後に振り返りレポート (25分)
12	7月3日 日本テレビ 情報制作局プロデューサー 似島利行氏	地上波テレビ番組のもう一つの可能性について。担当番組における里山再生の取り組みを例として	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
13	7月10日	講演の振り返り (3)	事前に予習 (25分)、事後に振り返りレポート (25分)
14	7月17日 エネルギー経済研究所 主任研究員 小島舞氏	知っておきたいエネルギー・環境問題	事前に予習 (25分)、事後に課題レポート (50分)
15	7月24日	まとめ この授業を通じて学んだこと	事前に予習 (25分)、事後に最終レポート (120分)

関連科目	地域経済入門、観光学入門、国際経済入門
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講演レポート56点 (7回×8点)、振り返りレポート28点 (7回×4点)、最終レポート20点。ガスト講師の講演のときに質問した人には、その内容に応じて加点します。日本テレビ似島氏の回に動画を作成して寸評を受けた場合も内容に応じて加点します。ただし合計点の上限は100点となります。なお、いずれのレポートも授業に出席している (遅刻を含む) 人だけが提出することができます。学生証を忘れたり、遅刻にな
-----------	--

	らないほど入室が遅れたりして、出席または遅刻として出席システムに登録されない場合も提出することができません。
学生への メッセージ	<p>広く世界に目を向け、経済や社会の現実を学びます。そのなかから、自分たちに何が求められているのか考え、在学中及び卒業後のキャリア形成のイメージを持てるようにしましょう。</p> <p>ゲストの都合で日程を変更することがあります。ゲストの追加をすることがあります。</p> <p>日本テレビ似鳥氏の回には、動画を作成したら寸評を受けることができます。とても貴重な機会ですので、チャレンジしてください。(ただし多すぎる場合には事前にセクションする可能性があります。)</p>
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 柳川研究室、田井研究室 (第2回と第3回についてのみ)

科目名	地球環境経済	科目名 (英文)	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは 20 世紀後半のことである。地球環境問題は、18 世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展 (大量生産) と人類の消費能力の増大 (大量消費)、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生 (大量廃棄) に発生の根拠がある。20 世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」(Sustainable Development) などの新たな概念も提起され、政府や国際機関による環境政策の展開、企業や研究機関による環境技術の革新が進められている。地球環境問題を克服し、持続可能な従来の資本主義経済の生産力構造と人々の生活様式をグローバルな規模で変革させることが、21 世紀の大きな課題となっている。本講義では、以上のような地球環境問題と人類の経済活動との関係について講義する。
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	必要に応じて Teams にてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングすること。板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておくことが力がつく。
科目学習の効果 (資格)	環境社会検定試験 (eco 検定) ( <a href="http://www.kentei.org/eco/index.html">http://www.kentei.org/eco/index.html</a> )

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か。環境問題と経済 (採取-生産-消費-廃棄) との関係。環境経済学の諸潮流。	事後・復習 (30 分)
2	地球温暖化問題 (1)	自然科学から見た地球温暖化問題。温暖化人為説か自然説か。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
3	地球温暖化問題 (2)	地球温暖化問題と国際社会。温暖化防止条約。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
4	温暖化問題と現代資本主義 (1)	金融主導の温暖化対策 化石燃料の産産産産と機関投資家の投資撤退	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
5	温暖化問題と現代資本主義 (2)	温暖化対策を求められるグローバル企業	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
6	環境問題とエネルギーシフト	脱炭素社会。化石エネルギーから再生可能エネルギーへのシフト。人類史におけるエネルギー問題と環境問題	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
7	原子力発電と環境問題 (1)	原発過酷事故の歴史。スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマ。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
8	原子力発電と環境問題 (2)	放射性廃棄物処分問題	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
9	アメリカのシェール革命と環境問題	2010 年代のアメリカのシェール・ブームと地下水汚染問題。アメリカのエネルギー環境政策の展開。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
10	海洋プラスチック問題	1950 年代以来のプラスチックの大量生産、大量消費、大量廃棄。海洋生物の生態系破壊。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
11	資本主義経済と環境問題 (1)	人間と自然との物質代謝とその攪乱 大量採取-大量生産-大量消費-大量廃棄	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
12	資本主義経済と環境問題 (2)	資本主義に内在する生産力発展の傾向と自然の持続可能性の衝突。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
13	SDGs (持続可能な開発目標) の意義、可能性、限界	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギイ的立場と解釈。市場主義的資本主義、エコロジー的近代化、持続可能性。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
14	持続可能性の経済学	持続可能性 (= 人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理) と資本主義 (= 自己目的的な経済成長を要求する経済システム) の関係。人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとでの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産=大量消費=大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事前・予習 (30 分)、事後・復習 (30 分)
15	講義のまとめ	——	事後・復習 (30 分)

関連科目 国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学 I、II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間レポート (10%)、期末試験 (90%) で評価する。
学生への メッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)
備考	

科目名	産業組織論	科目名 (英文)	Industrial Organization
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3061a0		

授業概要・目的	産業組織論とはミクロ経済学の応用分野であり、主に市場構造と企業の市場行動および市場成果の関係と、それらへの政策効果を分析する。本講義ではミクロ経済学、特に不完全競争市場の分析を復習した後に、競争政策の3つの柱であるカルテル、企業結合、私的独占に関する経済分析と政策について、具体的な事例を用いながら説明する。寡占市場における企業行動、市場均衡、および競争政策について、理論的また直感的に理解することを目的とする。
到達目標	ミクロ経済学を基礎にして、市場の構造・行動・成果の枠組で産業組織を理解すること、および競争政策の理論と実際の基本について理解することを目標とする。産業組織の理論を事例に基づいて理解し、現実に応用できることを目指す。
授業方法と留意点	対面8回、オンデマンド7回、計15回の授業となります。オンデマンドの授業では、教科書に沿って動画を視聴し、課題レポートを提出してもらいます。対面授業では、課題レポートについて学生と質疑応答し、重要なポイントの解説などを行います。対面授業のあとは、振り返りレポートを提出してもらいます。なお振り返りレポートを提出できるのは対面の授業に出席した人のみとなります。
科目学習の効果 (資格)	特定の市場や産業の枠を超え、市場や産業一般について成り立つ原理を理解することで、どのような業界で仕事をするにしても、市場や産業を理解するのに通用する考え方を身につけることができます。不完全競争に関する理解を深めることができるので、ミクロ経済学の公務員試験にも有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方の説明、および産業組織論の課題と歴史 (1)	対面。授業の進め方の説明をしたのちに、産業組織論とは、を説明する。	事前に教科書第1章第1節を予習し (90分)、事後に復習するとともにオンデマンドの授業の準備をする (90分)。
2	産業組織論の課題と歴史 (2)、および独占企業の価格設定と非効率性 (講義)	オンデマンド。古典的産業組織論の成立とSCPパラダイム、ハーバード・シカゴ論争とアンチトラスト・レボリューション、新産業組織論・新実証主義的産業組織論・ポストシカゴ学派、独占企業の価格設定と非効率性、を説明する。	事前に教科書第1章第2～4節および第3章第1節を予習する (90分)、事後に授業の復習をする (90分)。
3	ゲーム理論の基礎 (講義)	オンデマンド。ゲーム理論とは、ゲームの定式化、ナッシュ均衡、サブゲーム完全均衡、について説明する。	事前に課題レポート第1回を提出する。事前に教科書第6章第1～4節を予習する (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
4	産業組織論の課題と歴史、および独占企業の価格設定と非効率性 (演習)	対面。課題レポート第1回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第2回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第1回を提出する (90分)。
5	ゲーム理論の基礎 (演習)	対面。課題レポート第2回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事後に振り返りレポート第2回を提出する (90分)。
6	寡占市場の理論 (講義)	オンデマンド。寡占市場での価格と生産量、クールノー競争、寡占の市場構造、について説明する。	事前に教科書第7章第1～3節を予習する (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
7	寡占市場の理論 (演習)	対面。課題レポート第3回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第3回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第3回を提出する (90分)。
8	カルテル (講義)	オンデマンド。カルテルとは、カルテルの実現、カルテルが実現しやすい市場環境、カルテルに対する規制、を説明する。	事前に教科書第8章第1～2節の予習をする (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
9	カルテル (演習)	対面。課題レポート第4回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第4回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第4回を提出する (90分)。
10	市場支配力、集中度と市場画定 (講義)	オンデマンド。市場支配力、集中度、伝統的な市場範囲の画定方法、新しい市場範囲の画定方法、を説明する。	教科書第9章第1～4節を予習する (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
11	市場支配力、集中度と市場画定 (演習)	対面。課題レポート第5回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第5回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第5回を提出する (90分)。
12	合併と企業結合規制 (講義)	オンデマンド。合併とは、合併の動機、水平的合併の厚生効果、企業結合規制、を説明する。	教科書第10章第1～4節の予習をする (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
13	合併と企業結合規制 (演習)	対面。課題レポート第6回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第6回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第6回を提出する (90分)。
14	戦略的行動と市場の独占化 (講義)	オンデマンド。戦略的行動とは、略奪価格と評判形成、略奪価格に対する競争政策、を説明する。	教科書第11章第1、3、4節の予習をする (90分)。事後に授業の復習をする (90分)。
15	戦略的行動と市場の独占化 (演習)	対面。課題レポート第7回にもとづいた質疑応答と重要なポイントの解説などを行う。	事前に課題レポート第7回を提出する (90分)。事後に振り返りレポート第7回を提出する (90分)。

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、サービス産業論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プラクティカル産業組織論	泉田成美・柳川隆	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末試験 5 1 %、課題レポート 2 8 % (7回、各 4 %)、振り返りレポート 2 1 % (7回、各 3 %)。振り返りレポートを提出できるのは対面授業に出席した場合のみです。また期末試験を欠席すると失格となり、成績評価で点数は出ません。</p>			
学生への メッセージ	<p>アメリカ経済はビッグテックと呼ばれる GAF A などのプラットフォームビジネスで成長していますが、日本経済はプラットフォームビジネスで出遅れていて停滞しています。ビッグテックは日々の生活に欠かせない財・サービスを提供する有益な存在である一方で、市場の独占化は、経済や社会に悪影響ももたらしており、EU に続いてアメリカが規制の強化に舵を切り、日本も追随しようとしています。大きくかわりつつある競争政策の基礎を学びましょう。</p>			
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 柳川研究室			
備考				

科目名	現代ファイナンス論	科目名 (英文)	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3064a0		

授業概要・目的	この講義では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれる、企業財務に関する学問分野を扱います。企業財務とは、必要な資金をどこから調達するか、そして回収した資金をどのように使うか、といった点にかかわる諸手続きのことを指します。この分野は比較的新しいものであり、日本の大学教育に本格的に導入されたのは2000年代に入ってからです。しかしその重要性は増してきており、新聞記事でもこの分野に関する内容が多く見られるようになってきています。 この講義では、企業財務の戦略を考える上で欠かすことのできない基礎理論を解説します。
到達目標	コーポレート・ファイナンスの基本的な項目を理解・修得し、企業財務の問題に取り組む際にどのような点に着目すればよいか、判断できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	企業財務に関する基本的な理論や考え方を習得します。金融関係科目他に簿記会計の基本的な知識があると、学習の大きな助けになります。この講義では、基本的な数学の知識が必要です。割引率や複利の計算があり、数式や関数のグラフが登場します。また、Excelを使ったデータ実習を通して理論モデルの確認をします。Excelの基本的な使い方を確認してください。 講義資料(実習用データを含む)はWeb Folderにアップロードします。 練習問題はその回の講義内容の復習として出題しますが、後述の通り、成績評価に関係し
科目学習の効果(資格)	コーポレート・ファイナンスに関する基本的な概念や、企業の資金調達および投資判断の決定過程についての理解が深まります。また、本講義では明示的に取り扱いませんが、証券アナリストの試験内容とも関連があります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに:この講義で学ぶこと	授業内容の概要、注意事項の説明、イントロダクション	シラバスの通読 (30分) 次回講義内容の予習 (90分) 関連する基本概念の確認 (60分)
2	キャッシュフローの現在価値と将来価値	現在価値・将来価値の考え方の基本 (ファイナンスの基本中の基本) (教科書第1章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
3	評価の基本原則	現在価値から評価をする際の基本項目 (教科書第2章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
4	債券の評価	現在価値の考え方・債券への応用 (教科書第3章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
5	株式の評価	現在価値の考え方・株式への応用 (教科書第4章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
6	企業価値の評価	現在価値の考え方・企業価値への応用 (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
7	企業の設備投資決定	企業の設備投資判断について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
8	企業の資本構成 (1)	バランスシートの基本、MM定理について (教科書第7章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
9	企業の資本構成 (2)	MM定理の応用、MM定理では想定していないトレードオフ理論について (教科書第8章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
10	債券投資の理論	金利リスク、金額デュレーション、マコーレーのデュレーション、平均残存期間について (教科書第9章・第10章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
11	統計学の復習	必要となる統計学の復習 (教科書第11章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
12	ポートフォリオ理論	最適な資産保有についての基本的な考え方、複数の資産を考慮した場合の最適な資産保有について (教科書第12章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
13	資本資産価格評価モデル (1)	効率性フロンティアと資本市場線について (教科書第12章・13章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
14	資本資産価格評価モデル (2)	平均・分散アプローチの基本について (資本資産価格評価モデル/CAPM) (教科書第13章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
15	確認テスト		これまでの講義内容の復習 (180分)

関連科目 金融論、フィナンシャル・プランニング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門	手嶋宣之	ダイヤモンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 練習問題(50%)、確認テスト(50%)で評価します。  
学生への 教科書を持っていることを前提に講義を進めます。教科書は必ず購入してください。

メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。また例題や練習問題にも積極的に取り組んで下さい。 この講義は、これまでに学んだ内容（中学以降の数学、金融論および統計学）の積み重ねが大切です。また、それなりに高度な内容も含まれます。 講義をただ聞いているだけでは、十分に理解できません。きちんと出席するだけでなく、復習をして理解に努めてください。
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室
備考	15回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名 (英文)	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3062a0		

授業概要・目的	FP3 級取得レベルの知識の習得			
到達目標	FP 技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に講義形式です。</li> <li>・講義内で頻繁に問題演習を行います。</li> <li>・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。</li> </ul>			
科目学習の効果 (資格)	FP3 級の取得、FP2 級の学習への予備的学習			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー (以下FP) に関する概要	特になし
	2	ライフプランニングと資金計画 (1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
	3	ライフプランニングと資金計画 (2)	公的年金制度	第3回の復習
	4	ライフプランニングと資金計画 (3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習 (第5回に確認テスト①)
	5	確認テスト① + リスク管理 (1)	生命保険	第5回の復習
	6	リスク管理 (2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習 (第7回に確認テスト②)
	7	確認テスト② + 金融資産運用 (1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
	8	金融資産運用 (2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習 (第9回に確認テスト③)
	9	確認テスト③ + タックスプランニング (1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
	10	タックスプランニング (2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習 (第11回に確認テスト④)
	11	確認テスト④ + 不動産 (1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
	12	不動産 (2)	不動産に係る関連法規 (都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習 (第13回に確認テスト⑤)
	13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継 (1)	贈与・相続制度	第13回の復習
	14	相続・事業承継 (2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習 (第15回に確認テスト⑥)
	15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし
関連科目	金融論・地域金融論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト (計6回) 60%、定期試験 40%			
学生へのメッセージ	FP 試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)			
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください (もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。FP 試験は年間3回あります (5月・9月・1月) ので、積極的に受験することを勧めます。			

科目名	交通経済論	科目名 (英文)	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3065a0		

授業概要・目的	人類が経済活動を発展させていくにあたって町と町の間で物を運ぶということが大変重要な課題でした。つまり、交通経済は社会が発展していくためにとても重要な要素となっているのです。この授業では交通経済の考え方について現実社会の事例をあげながら、その理論的な考え方を解説していきます。
到達目標	現実社会においてどのような事例が交通経済論の範囲なのか理解できるようになります。交通経済に関する現実社会の事例について基礎的なデータを扱うことができるようになります。
授業方法と留意点	この授業はパソコン教室で講義する実習形式の授業です。
科目学習の効果 (資格)	現実社会の交通経済について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における交通の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会における交通経済の重要性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
2	社会における交通経済 (1)	マイカーやタクシーの利用選択	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
3	社会における交通経済 (2)	さまざまな交通機関における運賃	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む (90 分)。
4	交通サービスの特殊性 (1)	トラック、バスなどの利用率	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
5	交通サービスの特殊性 (2)	ラッシュアワーと交通機関の選択	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
6	交通データの分析	さまざまな交通機関の輸送量	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む (90 分)。
7	交通の費用	交通機関への需要	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
8	運賃理論	混雑と交通量	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
9	運賃政策	交通企業と運賃	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む (90 分)。
10	規制政策	規制緩和と交通機関	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
11	交通投資	交通プロジェクト大規模投資	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
12	外部補助と内部補助	高速道路と経営問題	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む (90 分)。
13	交通ネットワーク	利用者行動と混雑緩和	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
14	交通経済の展望	交通経済と国民経済	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく (90 分)。
15	まとめ	交通経済の重要性を振り返る	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく (90 分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む (90 分)。

関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全 15 回中 12 回程度で授業終了後に Forms で小テストを行います。小テスト 60 点分 (5 点×12 回) と期末レポート 40 点分を総合して評価します。出席数は成績評価に加えません。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。			
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 朝田准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	サービス産業論	科目名 (英文)	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3066a0		

授業概要・目的	産業組織論を基礎にしてサービス産業における価格戦略やフランチャイズといった組織戦略など、市場の構造、行動、成果および競争政策と規制政策の概要について、一般的な理論と具体的な産業の事例を説明する。近年急速に展開するプラットフォームビジネスによる流通のイノベーション、電力市場の自由化や水道事業の広域化・民営化といった公益事業サービスの変容についての概要を理解し、これらの産業に対する競争政策と規制政策のあり方について理解することも目的とする。
到達目標	サービス産業における企業の行動と市場成果および政策について、一般的な理論と具体的な事例の視点から理解できることを目標とする。また、プラットフォームビジネスや電力自由化、水道民営化など、近年急速に展開する流通サービス市場、公益事業サービス市場の変容と政策動向について理解することを目標とする。
授業方法と留意点	基礎的な知識については主に教科書に沿って講義を行います。現代の産業については各種参考文献を紹介しながら講義を行います。事前の予習と事後の復習をしてください。 授業は対面10回とオンデマンド5回からなります。主として基本的な知識を得るときにはオンデマンドとし、変化の激しい現実の市場や課題の振り返りは対面で行います。オンデマンドの授業は動画を視聴し、課題レポートを提出してもらいます。課題レポートは5回実施し、対面授業のときに課題レポートに関する質疑応答、解説・補足をします。2年続けて公正取引委員会のゲストレ
科目学習の効果 (資格)	企業の価格戦略やさまざまな戦略や企業への規制について、特に近年の経済に大きな影響を与えているプラットフォームビジネスや変容する公益事業ビジネスについて知ることは、ビジネスに携わったり、日常生活を送るうえで非常に有益です。また電力・ガス事業の自由化や、水道事業の広域化・官民連携の効果について理解することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	サービス産業論入門、及びミクロ経済学 (完全競争市場) の復習。	対面。授業方法の説明のあと、サービス産業とは、サービス産業の特徴、ミクロ経済学 (完全競争市場) の復習、を説明する。	事前に参考文献 (Moodle にアップする) の予習 (90分)。事後に授業の復習、オンデマンド授業の準備 (90分)。
2	販売価格戦略 (独占企業の価格設定) (1)	オンデマンド。独占企業の価格設定と非効率性、価格差別の手段と効果、を説明する。	事前に教科書第3章第1～2節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
3	販売価格戦略 (独占企業の価格設定) (2)	オンデマンド。市場分割による価格差別、二部料金と抱き合わせ、を説明する。	事前に課題レポート1の提出。教科書第3章第3～4節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
4	販売価格戦略 (独占企業の価格設定) (3)	対面。課題レポート1と2の検討、発表、解説、補足説明をする。	事前に課題レポート2の提出 (90分)。事後に振り返りレポート1の提出。
5	流通 (垂直的な統合と制限) (1)	オンデマンド。競争政策とは、垂直的な取引と企業間関係、垂直的な統合による効率性と排除、を説明する。	事前に教科書第12章第1～2節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
6	流通 (垂直的な統合と制限) (2)	オンデマンド。ブランド内競争の制限、ブランド間競争の制限、を説明する。	事前に課題レポート3の提出、教科書第12章第3～4節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
7	流通 (垂直的な統合と制限) (3)	対面。課題レポート3と4の検討、発表、解説、補足説明をする。	事前に課題レポート4の提出 (90分)。事後に振り返りレポート2の提出 (90分)。
8	プラットフォームビジネス (1)	対面。プラットフォームビジネスの現状を説明する。	事前に参考文献 (授業中に紹介する) の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
9	プラットフォームビジネス (2)	対面。プラットフォームビジネスへの競争政策、を説明する。	事前に課題レポート5の提出、参考文献 (授業中に紹介する) の予習。事後に授業の予習と授業の復習、振り返りレポート3の提出。(90分)。
10	プラットフォームビジネス (3)	対面。課題レポート5の検討、発表、解説、補足説明をする。	事前に参考文献 (授業中に紹介する) の予習 (90分)。事後に振り返りレポート4の提出。
11	公益事業の規制 (自然独占と規制) (1)	オンデマンド。費用通減産業と自然独占、公正報酬率規制とアバランチ・ジョンソン効果、自然独占分野の規制緩和・民営化、インセンティブ規制、を説明する。	事前に教科書第4章第1～4節の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
12	公共事業の規制 (自然独占と規制) (2)	対面。課題レポート6の検討、発表、解説、補足説明をする。	事前に課題レポート6の提出 (90分)。事後に振り返りレポート5の提出。
13	電力事業 (1)	対面。電力市場の概要、電力システム改革、電力市場の現状と課題、について説明する。	事前に参考文献 (Moodle にアップする) の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
14	水道事業 (1)	対面。水道事業の現状、近年の動向、広域化・共同化の状況、官民連携の状況、諸外国の状況、の説明をする。	事前に課題レポート7の提出、参考文献 (Moodle にアップする) の予習 (90分)。事後に授業の復習 (90分)。
15	電力事業 (1)・水道事業 (2)	対面。課題レポート7と8の検討、発表、解説、補足説明をする。	事前に課題レポート8の提出 (90分)。事後に振り返りレポート6の提出。

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	プラクティカル産業組織論	泉田成美・柳川隆
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1		
	2			
	3			

評価方法: 期末試験50%、課題レポート32% (8回、各4%)、振り返りレポート18% (6回、各3%) の合計点により評価する。なお期末試験を欠

(基準)	席すると失格となり、点数評価はされない。
学生へのメッセージ	サービス産業ではプラットフォームビジネスの急速な発展や電力・ガスの自由化のように大きな変化が生じています。それに対応して政策も変化しています。電力・ガスの市場では脱炭素社会の実現に向けて大きく変わろうともしています。一方、高齢化社会のなかで水道のようにインフラの維持が難しくなっているサービスもあります。こうした現代の大きな変化や課題について経済学的に理解することを目指しましょう。
担当者の研究室等	1号館7階 柳川研究室
備考	

科目名	公共経済学	科目名 (英文)	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3067a0		

授業概要・目的	社会には市場メカニズムだけでは実現できない社会全体の利益が存在します。その実現のためには公的部門の活動が不可欠です。この講義では、我々のライフサイクルの諸現象（特に社会保障の問題）を追いながら、それを支える制度を経済学の視点から説明していきます。
到達目標	次の項目について説明ができて、必要に応じて計算できることを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>公共経済学の基礎的理論。</li> <li>社会保障制度（教育、雇用保険、労災保険、年金、医療、社会保険など）。</li> <li>講義の知見から自身の今後のライフイベントとその対処策を考えることができる。</li> <li>現代日本で起こっている社会保障の問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。</li> <li>自身の人生とライフイベントを客観視できるようになり、キャリア形成に役立つ。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
2	ライフサイクルと社会保障制度	生誕から死までのライフサイクル（ライフサイクル仮説）と社会保障の関わりについて学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
3	少子高齢化問題	人口統計を確認し、人口減少社会における社会保障制度のあり方を学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
4	人生前半の社会保障(1)	幼児教育から中等教育まで、なぜ教育は行われるのかを考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
5	人生前半の社会保障(2)	人はなぜ進学するのか。高等教育の社会的意味を考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
6	社会保険制度(1)	民間医療保険を題材にして逆選択の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
7	社会保険制度(2)	社会保険制度が雇用・賃金に与える影響について学習します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
8	失業	労働市場の均衡と失業理論について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
9	雇用保険・労災保険	雇用保険と労災保険について学び、就労期のセーフティネットのあり方について、考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
10	公的年金制度	公的年金制度の内容について学び、人生100年時代の資産形成について考えます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
11	医療保険制度	医療保険制度について、逆選択の理論を復習しながら説明します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
12	公共経済学の理論	市場均衡は最適な資源配分を実現するかどうかを解説します。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
13	公共経済学の理論	公害はなぜ起こるのかを例に外部性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
14	公共経済学の理論	公的年金を題材にして不確実性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み、独自のノートをまとめる（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、公共経済学の基本的な考え方を復習します。	（事前）これまでの配付資料を読み、ノートの整理を行う（90分） （事後）理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60分）。

関連科目	労働経済学、公共政策論、社会保障論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ライフサイクルの経済学	橘木俊詔	ちくま新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎の課題 (70%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・復習問題 (10%) : 授業内容に関する問題 (選択式, 計算問題が中心)。</li> <li>・レポート (20%) : 授業内容に関するテーマについての説明文。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>ライフサイクルの諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。公的部門が行う政策とそれによって形作られる法律と制度の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが、手元にあると学習の助けとなると思います。</p>			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			
備考				

科目名	公益会計論	科目名 (英文)	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3068a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。</li> <li>・その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公(益)会計処理について理解する。</li> </ul> <p>・政令指定都市における一般会計、公営企業会計の部署での予算・決算調書、市議会答弁作成・実施等の経験を活かして公益会計が市民への説明責任を果たすべき仕組みであるとの視点から、あるべき方向性を考察する実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。</li> <li>・国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。</li> <li>・両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。</li> <li>・今後検討されている国や地方自治体業務の国民への説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。</li> <li>・簿記及び会計学関連科目の履修済を奨励する。これらの科目の基礎知識が履修に必要である。</li> <li>・公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。</li> <li>・複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公益会計(公会計)とは簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料 「作る」一簿記の常識 配布資料による予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料 「読む」一会計の常識 配布資料による予習1時間程度 配布資料による復習2時間程度
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書 第1章 公会計の基礎 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書 第2章 財務報告 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
5	財務諸表の構成要素一資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書 第3章 財務諸表の構成要素(1)一資産と負債 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
6	財務諸表の構成要素一収益と費用	(収入、歳入)と(支出、歳出)について講義する。	教科書 第4章 財務諸表の構成要素(2)一収益と費用 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書 第5章 公的部門の業績評価教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
8	中央政府会計一我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書 第6章 中央政府会計(1)一我が国の中央政府会計制度 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
9	中央政府会計一会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書 第7章 中央政府会計(2)一会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
10	地方政府会計一我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書 第8章 地方政府会計(1)一我が国の地方自治体会計の概要 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
11	地方政府会計一新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書 第9章 地方政府会計(2)一新公会計改革と財政健全化法 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。	第11回までの資料等 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書 第10章 公営企業会計 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
14	各国の政府会計一アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA(政府業績評価法)について講義する。	教科書 第11章 各国の政府会計(1)一アメリカ 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
15	各国の政府会計一イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書 第12章 各国の政府会計(2)一イギリス 教科書による予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度

関連科目	地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目 地方自治論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計	稲沢克祐	同文館出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計改革 ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会	日本経済新聞社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート内容及び定期試験(70%)及び、レポート提出等を受講態度(30%)として総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。</li> <li>・民間企業の会計処理との比較も行う。</li> <li>・税金がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。</li> <li>・簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。</li> <li>・仕訳や資産評価などの民間企業会計処理について理解していることが望ましい。</li> <li>・勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。日商簿記3級程度の勘定科目と仕分け処理の関係を理解していることが必要です。</li> <li>・地方公務員</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)			
備考				

科目名	社会保障論	科目名 (英文)	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 喜行
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3069a0		

授業概要・目的	社会保障の制度について、日本を主たる例として、実証及び理論の両側面から理解すること。また、1つの問題について、様々な立場・視点から考察をすることで、社会の多様性について考えるきっかけとすること。
到達目標	次の二つを目標とします。(1) 上記の概要・目的に必要な初・中級程度の知識の習得すること、(2) 日本の社会保障制度について、歴史の変遷とその背景を考慮しつつ、現状と問題を受講者各自の視点で考えられるようになること。
授業方法と留意点	基本的に講義形式にて行います。 コメントや課題等で受講者の理解度の確認するとともに、場合によっては、授業内容を変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	社会保障を含め、日本の社会制度全般について考える手がかり、またその視点が得られるようになると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会保障とは何かを考える。	事前：シラバスの熟読 (2h) 事後：授業内容の復習 (1h)
2	日本の労働と社会保障:分析の視点 (1)	社会において「働くこと」とはどういうことか、その意味を考える。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
3	日本の労働と社会保障:分析の視点 (2)	若者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
4	日本の労働と社会保障:分析の視点 (3)	高齢者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
5	日本の労働と社会保障:分析の視点 (4)	ジェンダー、家庭という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
6	日本の労働と社会保障:分析の視点 (5)	雇用形態の多様性という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
7	日本の労働と社会保障:分析の視点 (6)	外国人労働及び「就職氷河期世代」という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
8	日本の労働と社会保障:分析の視点 (7)	労働についての理論的側面から、これまでの内容を検討する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
9	日本の社会保障 (1) : 財源	日本の社会保障を支える財源と実態について考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
10	日本の社会保障 (2) : 医療保険制度の変遷と実態	日本の医療保険制度について、歴史の変遷と現状を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
11	日本の社会保障 (3) : 医療保険制度とその問題	日本の医療保険制度について、その問題点を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
12	日本の社会保障 (4) : 年金制度の変遷とその実態	日本の年金制度について、歴史の変遷と現状を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
13	日本の社会保障 (5) : 年金制度とその問題	日本の年金制度について、その問題点を考察する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
14	日本の社会保障 (6) : 諸外国の現状	諸外国の事例をいくつか紹介することで、日本の社会保障制度を相対的に見る視点をえる。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容の復習 (2h)
15	まとめ	日本の社会保障制度をめぐる実態と問題点について、これまでのまとめを行い、日本社会の現状を認識する。	事前：授業内容の予習 (1h) 事後：授業内容、及び未定着部分の再復習 (3h)

関連科目	労働経済学など。
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特定の教科書は利用しません。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会保障の経済学 (第4版)	小塩隆士	日本評論社
	2	教養としての社会保障	香取照之	東洋経済新報社
	3	「働くこと」を思考する	久米功一	中央経済社

評価方法 (基準)	期末試験 70 (%)、及び小課題 30 (%)とします。授業形式により変更の可能性がります。
学生へのメッセージ	社会保障 (制度) は、ライフステージのどの段階においても、必ず何らかの関わりがあります。その現状と課題などについて、受講者のそれぞれの立場で自ら考える機会にして欲しいと思います。
担当者の研究室等備考	

科目名	世界観光事情	科目名 (英文)	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3070a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。一方で、急激な変化であるため、日本での観光に対する研究や認識は十分に進んでいません。この授業では、日本と世界の観光の現状について、さまざまなデータで客観的に眺め、世界の観光事情について理解を深めます。
到達目標	日本と世界の観光の現状について客観的なデータで把握し、経済における観光の役割を理解することを目標とします。特に日本経済における観光の役割についてデータを用いて実践的な知識と理解を得られるようになります。
授業方法と留意点	パソコン教室での実習型講義形式となります。まず、授業内容に関する説明を講義形式で行った後、それに関する演習問題をパソコンで解いていきます。
科目学習の効果 (資格)	日本と世界の観光の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。日本経済における観光の役割について最新の状況はどうなっているかデータを用いて説明できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の紹介	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
2	世界の観光の動向(1)	国際観光客の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
3	世界の観光の動向(2)	国際観光客増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む(90分)。
4	日本の観光の動向(1)	近年の訪日外国人旅行者の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
5	日本の観光の動向(2)	訪日外国人旅行者増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
6	観光産業	産業としての観光のとらえ方	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む(90分)。
7	観光政策	観光行政の変遷と観光政策	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
8	ツーリズム	体験型旅行としてのツーリズムの形態	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
9	MICE	MICEの4つの形態と今後の可能性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む(90分)。
10	観光のデータ分析(1)	世界各国の観光客の動向についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
11	観光のデータ分析(2)	訪日外国人旅行者の地域分布についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
12	観光のデータ分析(3)	RESASによる都道府県観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む(90分)。
13	観光のデータ分析(4)	RESASによる市町村観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
14	観光のデータ分析(5)	データ分析結果のレポートへの反映	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(90分)。
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、そこで出されている練習問題を解いていく(90分)。【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解くとともに、提出課題に取り組む(90分)。

関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で5回程度の提出課題を出します。提出問題を50点分(10点×5回)、期末レポートを50点分として成績評価します。出席数は提出課題で間接的に確認しているので、出席数は成績評価に加えません。			
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	民法	科目名 (英文)	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2071a0		

授業概要・目的	民法は、一般の市民の生活に大きく関わりのある法律です。たとえば、契約を結んだり、不動産を所有したり、他人の権利を侵害してしまったり、結婚したり、相続したりと、私たちが社会において一般的におこなう事柄の多くは、民法においてそのルールが定められています。本講義では、民法の基礎知識を得るとともに民事法の全体像を理解していただくことを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げながら解説をおこないたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、民法の基礎を理解し、民事法の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうという形式で講義をおこないます。積極的に授業を理解しようと努力する姿勢で講義に臨んでいただかなければ、単位の取得は難しいとお考えください。
科目学習の効果 (資格)	各種資格試験においては、民法に対する理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 民法概説	講義のガイダンス 民事法の全体像	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (第1章および第2章) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	権利と義務	権利や義務とはどのようなものか 権利の行使と濫用	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第3章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	法律行為	法的効果を生じさせる意思表示や行為	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第4章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	契約 (1)	契約の成立要件と効果、解除	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第7章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	契約 (2)	契約の履行、不履行とその救済	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第7章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	所有権	物を所有するという権利とその効果	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第8章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	不法行為	権利侵害とその救済	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第9章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	事務管理・不当利得	法的な義務のない行為や法的な原因のない利益に関する制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第10章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	代理	法律行為を本人に代わっておこなう制度の意義	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第5章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	法人	法人制度、権利能力なき社団	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第15章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	時効	時効制度の意義、取得時効と消滅時効	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第6章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	債務の弁済	債務の弁済を確保するために用意されている制度について	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第11章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	婚姻・親子	婚姻と、親子の関係	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (おもに第12~13章、詳しくは前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(1.5時間)

				講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
	14	親族・相続	親族の範囲と相続	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分(おもに第12~13章、詳しくは前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
	15	おわりに	講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分(前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(1.5時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3時間)
関連科目	商法、会社法など民事法系科目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事法入門 第8版補訂版	野村 豊弘	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	六法		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題(確認テスト、ペーパーなど)への取り組みを30%程度、学期末試験の成績を70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	講義中は私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考				

科目名	商法	科目名 (英文)	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2072a0		

授業概要・目的	商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位である。企業によって、商品の生産および流通活動が行われており、本講義で教授する商法の知識は、企業活動に関係する者にとり、有用な知識である。商法は、大きく、商法総則と商行為法の2つから構成されている。商法総則では、商法の基本概念である商人と商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について講義を行う。
到達目標	この授業を通じて学生は、商法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行う (社会情勢上、その変更が必要な場合は滞りなく連絡する)。</li> <li>・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。</li> <li>・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・最新の六法 (有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい) を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	商業活動に必要な知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ルールの説明と、商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	最初に、本授業を受講する際のルールについて理解する。そのうえで、形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書 2 ページ～23 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 2 ページ～23 ページを読むこと (2 時間)
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書 26 ページ～32 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 26 ページ～32 ページを読むこと (2 時間)
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
4	商業登記 (1)	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に教科書 35 ページ～42 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
5	商業登記 (2)	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書 43 ページ～45 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書 46 ページ～62 ページを読むこと (2 時間) を読むこと (1 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書 63 ページ～85 ページを読むこと (2 時間) 教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書 86 ページ～105 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
9	商行為 (1)	絶対的商行為、営業的商行為 (1) について学ぶ。	事前に教科書 108 ページ～115 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
10	商行為 (2)	営業的商行為 (2)、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書 115 ページ～117 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書 117 ページ～141 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書 142 ページ～146 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 32 ページ～34 ページを読むこと (2 時間)
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書 160 ページ～168 ページを読むこと (2 時間) 事後に教科書 160 ページ～168 ページを読むこと (2 時間)
14	運送営業 (1)	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送	事前に教科書 169 ページ～181 ページを読むこと (2 時間)

			について学ぶ。	事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(2時間)																
	15	運送営業(2)	貨物引換証、乗車券の性質について学ぶ。	事前に教科書181ページから189ページを読むこと(2時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(2時間)																
関連科目	民法、会社法																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プライマリー商法総則商行為法(最新版)</td> <td>藤田勝利・北村雅史編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プライマリー商法総則商行為法(最新版)	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	プライマリー商法総則商行為法(最新版)	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft社 teamsを通じてMicrosoft formsから課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする(課題の得点100%)。																			
学生へのメッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。																			
担当者の研究室等	本多研究室(11号館9階)																			
備考																				

科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2073a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として当然に知っておくべき知識である。会社の種類は、会社法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで本授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義する予定である。本授業は、会社法全体を概観する入門的な授業である。
到達目標	この授業を通じて学生は、会社法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行う (社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する)。</li> <li>・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。</li> <li>・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・最新の六法 (有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい) を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	会社に就職する者にとって、有用な知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ルールの説明と、会社法総論・会社法総則	最初に、本授業を受講する際のルールについて理解する。そのうえで、会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書 2 ページ～40 ページを読む (2 時間)。 事後に教科書 2 ページ～40 ページを読む (2 時間)。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に 4 2 ページ～6 5 ページを読む (2 時間)。 事後に 4 2 ページ～6 5 ページを読む (2 時間)。
3	株式と株主 (1)	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に 6 6 ページ～8 6 ページを読む (2 時間)。 事後に 6 6 ページ～8 6 ページを読む (2 時間)。
4	株式と株主 (2)	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に 8 6 ページ～1 0 7 ページを読む (2 時間)。 事後に 8 6 ページ～1 0 7 ページを読む (2 時間)。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に 1 0 5 ページ～1 3 2 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 0 5 ページ～1 3 2 ページを読む (2 時間)。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に 1 3 3 ページ～1 5 0 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 3 3 ページ～1 5 0 ページを読む (2 時間)。
7	取締役・取締役会 (1)	総説・取締役について学ぶ。	事前に 1 5 0 ページ～1 5 5 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 5 0 ページ～1 5 5 ページを読む (2 時間)。
8	取締役・取締役会 (2)	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に 1 5 5 ページ～1 6 4 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 5 5 ページ～1 6 4 ページを読む (2 時間)。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に 1 6 4 ページ～1 8 0 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 6 4 ページ～1 8 0 ページを読む (2 時間)。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に 1 8 0 ページ～1 9 2 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 8 0 ページ～1 9 2 ページを読む (2 時間)。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に 1 9 3 ページ～2 1 6 ページを読む (2 時間)。 事後に 1 9 3 ページ～2 1 6 ページを読む (2 時間)。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に 2 1 7 ページ～2 2 3 ページを読む (2 時間)。 事後に 2 1 7 ページ～2 2 3 ページを読む (2 時間)。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に 2 2 5 ページ～2 3 6 ページを読む (2 時間)。 事後に 2 2 5 ページ～2 3 6 ページを読む (2 時間)。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に 2 3 7 ページ～2 9 0 ページを読む (2 時間)。 事後に 2 3 7 ページ～2 9 0 ページを読む (2 時間)。
15	会社の消滅と倒産処理、外国	更生、解散、通常清算、特別清算、外国	事前に 2 9 1 ページ～3 1 4 ページを読む (2 時間)。

	会社	会社について学ぶ。	間)。 事後に291ページ～314ページを読む(2時間)。	
関連科目	金融商品取引法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする(課題の得点100%)。			
学生への メッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。			
担当者の 研究室等	本多研究室(11号館9階)			
備考				

科目名	行政法	科目名 (英文)	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3074a0		

授業概要・目的	私たちの生活にはさまざまな行政の活動が関わっています。行政法とは、そのような行政の活動やサービスの根拠や仕組みに関する法規範です。この授業では、行政プロセスを規律する法的な仕組み、ルールとしてどのようなものがあるか、具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3点を達成できることが期待されます。 (1) 具体例に即して、行政法の基本原則・原則を理解し、定義等を分かりやすく説明できる。 (2) 具体例に即して、行政法の基本的な制度・仕組みを指摘できる。 (3) 具体的問題について、行政法の原則、制度をもとに思考し、解決を提示できる。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 (1) 事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。この授業では予習が欠かせません。 (2) 授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii) 学生個人による〈振り返り〉。 (3) 授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と配布資料 (PPT スライド), 演習レジュメ (Word ファイル) を用います。 ・スライド資料等は事前に Teams 上にアップしますので、あらかじめダウン
科目学習の効果 (資格)	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験, 地方上級試験 ・行政書士など ・法学検定「スタンダード」レベル (行政法) の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス (授業方法, 学習方法, 成績評価), 行政 (法) の意義	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章, 第1章第1節 I~III (pp. 1-16) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
2	行政法の法源, 一般原則	行政法の法源, 比例原則, 信頼保護原則, 平等原則	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第1章第2節 (pp. 17-24) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
3	法律による行政の原理	法律の法規創造力, 法律の優位, 法律の留保	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第1章第3節 I (pp. 25-29) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
4	行政組織法	行政組織法の基本原理, 行政主体, 行政機関	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第2章 (pp. 59-74) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
5	行政裁量・習熟度確認 (小テスト)	行政裁量の意義, 裁判所による司法審査との関係, 熟度確認のための演習 (小テスト)	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第1章第4節 (pp. 30-41) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
6	行政立法	行政による基準定立, 法規命令・行政規則	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第3章第1節 (pp. 78-88) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
7	行政行為 (1)	行政行為の意義, 種類, 効力	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第3章第2節 I~III (pp. 89-102) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
8	行政行為 (2)	行政行為の瑕疵, 職権取消し/撤回, 附款	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第3章第2節 IV~VI (pp. 103-115) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。
9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第1章第5節 (pp. 42-54), 第3章第2節 VIII (pp. 116-125) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し, 整理, 要約する (2時間)。

	10	行政計画・ 習熟度確認 (小テスト)	行政計画の意義, 熟度確認のための演習 (小テスト)	(ア) 事前学習: 事前配布資料に目を通し, 教科書第3章第5節 (pp. 137-140) をあらかじめ 読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習: 授業・教科書の内容を見直 し, 整理, 要約する (2時間)。																
	11	行政指導	行政指導の意義, 手続	事前配布資料に目を通し, 教科書第3章第4節 (pp. 131-136) をあらかじめ読んでおくこと (1時 間)。																
	12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行, 即時強制, 制裁	(ア) 事前学習: 事前配布資料に目を通し, 教科書第4章 (pp. 145-163) をあらかじめ読んでお くこと (1時間)。 (イ) 事後学習: 授業・教科書の内容を見直 し, 整理, 要約する (2時間)。																
	13	行政と情報 (1)	行政調査, 公文書管理制度, 情報公開制 度	(ア) 事前学習: 事前配布資料に目を通し, 教科書第5章第1節～第3節 (pp. 165-177) をあ らかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習: 授業・教科書の内容を見直 し, 整理, 要約する (2時間)。																
	14	行政と情報 (2)	個人情報保護制度の仕組み	(ア) 事前学習: 事前配布資料に目を通し, 教科書第5章第4節 (pp. 178-185) をあらかじめ 読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習: 授業・教科書の内容を見直 し, 整理, 要約する (2時間)。																
	15	授業総括・ 習熟度確認 (小テスト)	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習: 事前配布資料, これまでの 授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習: 授業内の演習内容を見直 し, 整理, 要約する (2時間)。																
関連科目	憲法, 民法																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会とつながる行政法入門 [第2版]</td> <td>大橋洋一</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	社会とつながる行政法入門 [第2版]	大橋洋一	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	社会とつながる行政法入門 [第2版]	大橋洋一	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行政法 I 現代行政過程論 [第4版]</td> <td>大橋洋一</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行政法判例 50!</td> <td>大橋真由美ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	行政法 I 現代行政過程論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣	2	行政法判例 50!	大橋真由美ほか	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	行政法 I 現代行政過程論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣																	
2	行政法判例 50!	大橋真由美ほか	有斐閣																	
3																				
評価方法 (基準)	<p>*前年度と成績評価方法が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価対象: 第5回, 第10回, 第15回の習熟度確認小テストのみ。</li> <li>・成績内訳: 第5回: 30% 第10回: 35% 第15回: 35%</li> <li>・テスト実施方法: 毎回出される復習課題から80%, 新規問題20%</li> <li>・論述式の問題を出題する場合は, 事前に問題を提示する。</li> <li>・持ち込みは原則不可。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	意欲的な学習が望まれます。																			
担当者の 研究室等	笛木講師室 (11号館9階)																			
備考	演習課題は次回の授業で解説する。																			

科目名	労働法	科目名 (英文)	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3075a0		

授業概要・目的	<p>雇用・労働関係の法律については、大別して、</p> <p>① 労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律</p> <p>② 労働組合が主体となる集団的な労働関係の法律</p> <p>③ 労働市場に関する法律</p> <p>に分けることができます。</p> <p>本講義では、上記①を中心として、②を補足的に取り扱います。</p> <p>法学の基礎知識を土台として、労働契約法（解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの雇用・労働関係の法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、立法政策的な観点も含め、説明を行います。</p>
到達目標	<p>個別的な労働関係及び集団的な労働関係の法律に関する基本的な知識や知見、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。（DP1）</p>
授業方法と留意点	<p>初回（第1回）のガイダンスでは授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。</p> <p>ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。</p> <p>毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やブチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。</p> <p>履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。</p> <p>座席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注</p>
科目学習の効果（資格）	<p>労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	雇用・労働関係の法律の座標～ガイダンス～	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法との関連</li> <li>雇用契約の当事者</li> <li>法的責任の在り方</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	2	多様な働き方に応じた法制	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用契約</li> <li>請負契約</li> <li>委任契約</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	3	非正規雇用労働者	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約社員</li> <li>パート社員</li> <li>派遣労働者等</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	4	募集・採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集・採用</li> <li>インターンシップ</li> <li>内定</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	5	整理解雇	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理解雇</li> <li>退職勧奨</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	6	解雇	<ul style="list-style-type: none"> <li>懲戒処分</li> <li>雇止め</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	7	定年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定年退職</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	8	その他の離職	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主退職</li> <li>倒産</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	9	賃金	<ul style="list-style-type: none"> <li>賃金の構成</li> <li>賃金の支払いの5原則</li> <li>賞与・休業手当</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	10	割増賃金	<ul style="list-style-type: none"> <li>割増率</li> <li>算定基礎から除外される手当</li> <li>最低賃金</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	11	労働時間と時間外労働	<ul style="list-style-type: none"> <li>法定労働時間</li> <li>36協定</li> <li>上限規制</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	12	休憩・休日・年次有給休暇	<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩</li> <li>休日・休息</li> <li>年次有給休暇</li> </ul>	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	13	団体交渉と労働協約	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働組合の現状</li> <li>労働委員会</li> <li>労働協約の締結</li> <li>チェック・オフ</li> </ul>	番号2の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	14	不当労働行為救済制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体交渉の拒否</li> <li>不利益取扱い</li> <li>支配・介入</li> </ul>	番号2の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	15	締めくくり考査と総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施</li> </ul>	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2時間）

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 人事労務関係法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	2	【電子】 小規模企業のための労使関係法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 振り返り例題 労働法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	2	【電子】 振り返り例題 労使関係法 令和6年度版	テラボ	斉家書房

	3		
評価方法 (基準)	<p>原則として、授業への取組姿勢（RP や PT を含む。）〔80%〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔20%〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。 なお、講義の内容が、その当日の RP や PT に必ずしも出題されるわけではありません。</p>		
学生への メッセージ	<p>初回のガイダンス及び Teams を通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PT で、主体的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RP や PT の内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として2時間程度を要します。</p>		
担当者の 研究室等	11号11号館9階 寺山教授室館9階 寺山教授室		
備考	<p>講義では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。 履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り学習しておくことが望まれます。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。</p>		

科目名	経済学特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木田 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1076a0		

授業概要・目的	<p>企業ってなにか？と考えたことがありますか。</p> <p>この授業は、報道記者として社会や企業の問題点を追及し、企業の役員としてコンプライアンスや人事（採用）を実際に担ってきた経験を基にした「企業の社会的責任。役割」についての講義。</p> <p>企業は社会の役に立たないと成り立たない。その「企業の役割とは何か」から、「企業で働くこと」「企業が求める人材」を考える。</p> <p>SDGs、CSR と言われる社会目標やガバナンスが、企業で重視されるようになり、一昨年から世界情勢という観点も注目されている。企業が目先の利益を追い社会での役割、責任を疎かにしていることが明らかになると社会から糾弾される。実際に起こった企業の問題や不祥事を基に、何故失敗したのか、何故社会から批判されたのかを考え、現代における企業の社会的責任を理解する。企業は人がいて成り立つ。急激に変化し始めた社会状況の中で企業が求める人材も大きく変化している。どんな人材が求められているかを知り、これから自らが企業で働くという実感をもってもらおう。</p> <p>※ (株) 毎日放送で報道記者を経て、コンプライアンス・人事（採用）を担当する役員</p>
到達目標	<p>実際の企業の問題事案などから、逆に企業の社会での役割を理解する。企業が何故失敗したのかという様々な疑問をもつことで、ひとつの考えではなく別の立場から見るというクリティカル思考力や社会を広く見る俯瞰の目の育成を目指す。</p> <p>また、採用の現場で学生が失敗、成功する事例を基に、大学の中だけでは見えにくい企業が求めるものは何かを理解し、自らが働く責任を知ってもらう。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では、学生から意見や疑問を出し考える。各回の課題として提出された疑問、意見の中から選んで次の回でさらに考え方や見方を説明する。また、授業は新しく発生した事例等に応じて適宜見直し、変更することあるので企業の社会的責任のニュースなどをチェックしてもらう。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>今、社会が大きく変わろうとしている中、数多ある企業のそれぞれの役割を理解し、社会人として目先ではなく広く社会全体、新しい時代の企業、仕事、働き方を学生自身が考える力を養える。さらに採用責任者から見て就活に臨む学生に何が不足しているのか、企業が何を求めているかを理解できる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的と方法や授業での疑問や質問の必要性を説明	
2	企業は社会に責任がある、企業にとってコンプライアンスとは？	ものごとが、見えにくい時、は、逆の目線から見ると見える。企業の不祥事事例から「何がいけなかったのか」を知る、コンプライアンスや企業の社会的責任・役割を逆の目線で見ると	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
3	昔からあった商売の社会的責任・役割	近江商人の「三方よし」や様々な企業の家訓、社是から商売（ビジネス）と社会の歴史を読み解く	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
4	時代の進化とともに社会の求めるものも変わる	食品の規制の歴史を例にして時代とともに変わる社会が求める企業の責任について考える	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
5	就活の現場では？企業の役割、社会との関係は？	企業は働く人に何を求めるのか、就活の現場での学生の思いとのミスマッチについて考える。	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
6	何故、就活するのか？新卒一括採用の問題点	なぜ日本は新卒一括採用するのか？さらに次々と出てくる働き方改革、人手不足、終身雇用と言った日本の労働制度の問題を考える	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
7	今、何故 SDGs や CSR が求められるのか	SDGs の意味と企業の対応。各企業のコンプライアンス憲章、コーポレートガバナンス、CSR の比較する	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
8	SDGs について企業の担当者から聞く	企業の担当者から自社の SDGs の展望、狙いなど話を直接聞く	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
9	不祥事事例から学ぶ 1	放送局の不祥事の現場で何が起こっていたか？実際の体験から考える放送に求められるものは？そして何故起こったのか	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
10	不祥事事例から学ぶ 2	何故、危機対応で失敗するのか？評価されるのか？雪印乳食中毒事件などの件謝罪会見で大失敗した企業と逆に評価された企業の見比べ何が違ったのか？社会に信頼される企業には何が必要かを考える	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
11	不祥事事例から学ぶ 3	大学の不祥事を考える、大学の社会的責任、学生の立場は？日大アメフト部、不正経理問題など	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
12	不祥事事例から学ぶ 4	過労死問題と働き方改革と人材不足の問題 過重労働や過労死の問題点やコロナ対策の中、企業が働き方改革を実施し働き方も変わっている。一方で人手不足も起きている現状を考える	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
13	IT 化、AI 化、グローバル化の時代の不祥事から学ぶ	情報漏洩事件の続出や、MATANA（巨大 IT 企業）規制やリクナビの就活生情報の流用についての企業が持つ責任、AI を作った企業の責任のなどを考える	(事前) 授業に関連するニュースをチェックする (事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
14	なぜ、失敗するのか？	大手メーカーで相次いだデータ偽装などで見る慣れや日本ブランドに潜む異など	(事後) 授業の内容で、感じた疑問、意見を提出

	15	まとめ	経営としてどうすればいいのか？いい会社とは？ 経営としてのCSR、コーポレートガバナンス、企業の志とは？ 社会的責任と利益は繋がる	(事後) 授業で提示したテーマについて最終レポートを提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題提出 (60%) : 毎回の授業の疑問、質問</li> <li>・レポート (40%) : 最終回に出す課題のレポート</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>授業内容や質疑で自分で疑問をもって考えること習慣づけてほしい。これを就活の時や社会人として企業と社会の関係を見る時に生かして欲しい。まずは企業が求める人材は？仕事で何が求められるのかを知り、就活に臨む準備にして欲しい。問題を起こした企業はダメなのではなく、それを生かしてどう変わったかも見て欲しい。さらに自身が仕事をする時に、本当に会社、業界の当たり前前にそれでいいのかと疑問を持って行動できるようになってもらいたい。</p> <p>事前の学習は、日々ニュースを中心にすることで、事後学習も含め；2単位15回で30時間</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	経済学特別講義Ⅱ	科目名 (英文)	Special Lecture on Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1077a0		

授業概要・目的	<p>※「統計学」と「経済データサイエンス入門」の受講を完了した人が対象となります          ※本講義ではPython言語を用いて、機械学習と深層学習のプログラミングを行います</p> <p>「経済データサイエンス入門」ではデータサイエンスの基礎となる古典的分析手法について学びましたが、本講義ではデータサイエンスの主流を占める機械学習、深層学習について作成・実行し、その手法と留意点について学びます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械学習と深層学習のプログラムを実装できる</li> <li>・適切なデータ分析手法を選び、手法の概要と選択理由を説明できる</li> <li>・分析にあたっての留意点を理解し説明できる</li> </ul>
授業方法と留意点	事前課題で各自SVMとニューラルネットワークの実装を行い、講義では概要やポイントを中心に解説します。受講前に統計学とプログラム言語を習得していることを前提としています。
科目学習の効果 (資格)	データサイエンスについて一通り説明できることはもちろん、目的が与えられたときに必要なデータと分析手法を選択できるようになります。また、今後学ぶ専門科目、卒業研究に役立つのはもちろんのこと、就職のみならず社会人になった後もデータ利用について本質的な力を得ることが出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス&機械学習・深層学習とは	講義の狙いと機械学習・深層学習の最近の話題について説明します	★事後課題：講義を復習し、機械学習・深層学習を利用しているサービス例を探してまとめておく
2	機械学習・深層学習を支える技術	技術の歴史とこの講義で実装する技術について説明します	○事前課題：サポートベクターマシンとニューラルネットワークが利用されている事例をまとめて提出 ★事後課題：講義を踏まえて事前課題を修正
3	python 入門 (1)	python の基本について説明します	○事前課題：配布する PDF ファイル (python 入門) を読む ★事後課題：練習問題を提出
4	python 入門 (2)	本講義での実装に必要なライブラリの概要と導入方法について説明します	○事前課題：配布する PDF ファイル (関数・制御) を読む ★事後課題：練習問題を提出
5	サポートベクターマシン (1)	SVM の概要と背景について説明します	○事前課題：判別分析を行える手法を調べて提出 ★事後課題：他の判別分析手法と比較した SVM の利点をまとめておく
6	サポートベクターマシン (2)	基礎的なサポートベクターマシンを実装します	○事前課題：配布する PDF ファイル (基礎的なモデル) を読む ★事後課題：練習問題を提出
7	サポートベクターマシン (3)	前回作成したプログラムを発展させます	○事前課題：配布する PDF ファイル (より実用的なモデル) を読む ★事後課題：練習問題を提出
8	サポートベクターマシン (4)	プログラムを完成させます	○事前課題：これまで学んだ内容について質問を提出 ★事後課題：講義内容を復習しておく
9	ニューラルネットワーク (1)	ニューラルネットワークの概要と理論的背景について説明します	○事前課題：ニューラルネットワークの応用例を調べて提出 ★事後課題：講義を踏まえて事前課題内容を加筆修正
10	ニューラルネットワーク (2)	基礎的なニューラルネットワークを実装します	○事前課題：配布する PDF ファイル (基礎的なモデル) を読む ★事後課題：練習問題を提出
11	python 入門 (3)	ニューラルネットワークの実装に必要な python のプログラミング手法について学びます	○事前課題：配布する PDF ファイル (繰り返し制御・画像処理等) を読む ★事後課題：練習問題を提出
12	ニューラルネットワーク (3)	学習アルゴリズムについて説明し、プログラムを実装します	○事前課題：ニューラルネットワークの学習アルゴリズムについて調べて提出 ★事後課題：講義を踏まえて事前課題を修正
13	ニューラルネットワーク (4)	プログラムを完成させます	○事前課題：これまで学んだニューラルネットワーク全体について質問を提出 ★事後課題：練習問題を提出
14	これまでの講義のまとめ	これまでの講義内容を振り返ります	○事前課題：これまでの内容を振り返っておく ★事後課題：講義内容を復習する
15	講義内試験	これまでの講義内容について試験を行い、試験後に解説を行います	★事後課題：試験と解説を復習

関連科目 統計学、経済データサイエンス入門 (同時履修しなければ理解は難しくなります)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ゼロから作る Deep Learning	斎藤 康毅	オライリージャパン
2			
3			

評価方法 (基準)	事前・事後課題：50% 期末テスト（講義内試験）の結果：50% 合計100%、100点満点で評価します。
学生への メッセージ	経済データサイエンス入門を発展させた内容で、講義内容も難しく、課題に対して求める水準も高くなります。しかし、事前・事後課題と受講を終えれば、より自信を持ってデータサイエンスについて語れるようになるはずです。是非とも挑戦してください。
担当者の 研究室等	1号館7階 若城研究室
備考	

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 玲玲
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 10. Output	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)				
備考	授業時間外での質問等はメールにて対応する。				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking - 10. Output	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	福田 祐司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること(0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 IIa			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60% 原則として 3 回以上欠席の場合は評価対象外とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西原 菜月
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 ~ 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1~4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 から 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1 から 4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

				習すること (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbookについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにアクセスし登録すること(0.5時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習:Unit 1の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習:Unit 1の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 1の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習:Unit 2の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習:Unit 2の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 2の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習:Unit 3の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習:Unit 3の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 3の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習:Unit 4の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習:Unit 4の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 4の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbookによる総復習	事前学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習:Unit 1-4まで復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 1- 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中highで学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking ~ 10. Output	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)				
備考					

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking - 10. Output	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 祐司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 Ia			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60% 原則として 3 回以上欠席の場合は評価対象外とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西原 菜月
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 ~ 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5~8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 から 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5 から 8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

				習すること (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)	

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中highで学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。テキスト、辞書、ノートは必ず持参すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記（1.5時間）
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備（3時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	まとめテスト60%、小テスト40%で評価を行う。
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に關する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。(診断書提出の場合は大学規定により考慮)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation &amp; Self-Introduction</td> <td>教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit1:</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit2</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4: McDonald's 「子どもと家族を幸せに」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6</td> <td>Listening, Speaking and Writing</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」</td> <td>Reading &amp; Discussion</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit7 Review (Final Assignment)</td> <td>Listening, Speaking and Writing Review &amp; Reflection Sheet</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)	2	Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	3	Unit1:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	4	Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	5	Unit2	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	6	Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	7	Unit 3	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	8	Unit 4: McDonald's 「子どもと家族を幸せに」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	9	Unit 4	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	10	Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	11	Unit 5	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	12	Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	13	Unit 6	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	14	Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	15	Unit7 Review (Final Assignment)	Listening, Speaking and Writing Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1時間)																																																																
2	Unit 1: 7-ELEVEN 「地域密着の移動販売車」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
3	Unit1:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
4	Unit 2: LINE 「スマホ世代に伝えたい情報リテラシー」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
5	Unit2	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
6	Unit 3: NISSIN FOODS 「笑顔を届ける百福土プロジェクト」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
7	Unit 3	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
8	Unit 4: McDonald's 「子どもと家族を幸せに」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
9	Unit 4	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
10	Unit 5: TOYOTA 「未来の当たり前を創る Woven City」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
11	Unit 5	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
12	Unit 6: STARBUCKS 「コーヒーの豆かすを肥料に」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
13	Unit 6	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
14	Unit7: AEON 「豊かな社会を目指した植樹活動」	Reading & Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
15	Unit7 Review (Final Assignment)	Listening, Speaking and Writing Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義</td> <td>原田寛子</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																																																																		
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動 (ドラマ、音楽、映画など) を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう! また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。																																																																		

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ヴァンティ/ミトゾ ユニア
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
到達目標	トピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できる。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation &amp; Self-Introduction</td> <td>教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: People</td> <td>Getting To Know You &amp; Appearance</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Free Talk &amp; Movie ① &amp; TOEIC ①</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ① (Unit 1)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: Behavior</td> <td>What Are You Doing? &amp; How Do You Feel?</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Free Talk &amp; Movie ② &amp; TOEIC ②</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ② (Unit 2)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: Shopping</td> <td>At the Supermarket &amp; Let's Go Shopping!</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Free Talk &amp; Movie ③ &amp; TOEIC ③</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ③ (Unit 3)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4: Vacation</td> <td>How's the Weather? &amp; Taking a Trip</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Free Talk &amp; Movie ④ &amp; TOEIC ④</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ④ (Unit 4)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: Heros</td> <td>Pioneers &amp; A Helping Hand</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Free Talk &amp; Movie ⑤ &amp; TOEIC ⑤</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: The Mind</td> <td>Memory &amp; Sleep</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Free Talk &amp; Movie ⑥ &amp; TOEIC ⑥</td> <td>English Expressions &amp; Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Speaking Activities (English Presentation)</td> <td>English Presentation Project</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Review (Final Assignment)</td> <td>Review &amp; Reflection Sheet</td> <td>講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)	2	Unit 1: People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	4	Unit 2: Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	6	Unit 3: Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	8	Unit 4: Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	10	Unit 5: Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	12	Unit 6: The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)	15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)																																																																
2	Unit 1: People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
4	Unit 2: Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
6	Unit 3: Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
8	Unit 4: Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
10	Unit 5: Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
12	Unit 6: The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>World Link 1 (4th Edition)</td> <td>Nancy Douglas; James R. Morgan</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>随時配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	随時配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	随時配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ... 100% ※詳しい内容は初回授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう! また、TOEICなどの学習も随時行なっていきます。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習 (30分) : 実力テストの復習
2	Unit 1: be 動詞	・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 2: 一般動詞 (現在形)	・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 2: 一般動詞 (現在形)	・単語テスト ・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 3: 一般動詞 (過去形)	・文法のチェック ・The First Time を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (3時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習 (3時間) : 中間テストの準備
8	Unit 4: 進行形	・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 4: 進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 5: 未来表現	・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 6: 助動詞	・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 6: 助動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (1時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 7: 受動態	・文法のチェック ・Torn を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習 (30分) : Vocabulary Preview の暗記 事後学習 (3時間) : 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習 (30分) : これまでの総復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップスでスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%			
学生への メッセージ	<p>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <p>・原則3回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は3回で1</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
3	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
4	Unit 2 School Life	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
5	Unit 2 School Life	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
6	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
7	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
8	中間テスト	Unit 1-3 授業内配布資料	事前：中間テストの勉強 事後：中間テストで不正解だった箇所をもう一度確認する。
9	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
10	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
11	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
12	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
13	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
14	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題（授業内で指示）1時間
15	まとめテスト	Unit 4-6 授業内配布資料	事前：まとめテストの勉強 事後：まとめテストで不正解だった箇所をもう一度確認する。

関連科目	実践英語 II a
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%
学生への	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。

メッセージ	このクラスでは基礎的な英文法、英会話を学び、アウトプットの機会を増やす事で実践で役立つ英語を身に付けましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 テキストの購入は必修です。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題	シラバスを読み、Moodleに登録する (0.5時間)
2	Unit 1 Eating Out 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
3	Unit 1 Eating Out 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
4	Unit 2 Travel 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
5	Unit 2 Travel 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
6	Unit 3 Amusement 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
7	Unit 3 Amusement 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
8	Unit 4 Meetings 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
9	Unit 4 Meetings 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
10	Unit 5 Personnel 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
11	Unit 5 Personnel 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
12	Unit 6 Shopping 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前：Moodleの課題に取り組む (0.5時間) 事後：文法問題を中心とした復習課題に取り組む (0.5時間)
13	Unit 6 Shopping 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前：語彙問題の予習 (0.5時間) 事後：授業で学習した表現パターンを覚える (0.5時間)
14	まとめ1	文法事項の復習、およびまとめテスト	事前：前期に学習した内容の総復習 (2時間)
15	まとめ2	まとめテストの解説	事後：不正解であった問題を中心に復習する (2時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一步上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 Intermediate	北尾泰幸 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	TOEICブリッジ独自の出題形式や選択肢の見方に慣れ、今まで学んできた単語、文法の知識を駆使して色々な練習問題を解いていながら、普段の努力を積み重ね必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とします。皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニックの習得のみならず、各練習問題に出てくる文法事項を覚え直す事で、今まで曖昧だった英文法などの復習も出来て一挙両得です！又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指します。また、授業計画は進度によって変わる場合があります。
到達目標	「千里の山も一歩から...文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題を解くには、問題文を訳さず1つでも多くの文法ルールを覚え、どの文法ルールが使われているか見抜くのが早道です。毎日少しずつの努力が大きな結果につながります。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。問題文と4択を見て「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもので、授業で出た新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
授業方法と留意点	授業時に単語テストを行う予定。予習として次に進む分の練習問題を解いて臨もう。授業は間違いを恐れず、じっくり取り組んでいきましょう。今迄、難しいと思った問題、複雑に思えた問題が解けた爽快感は何にも代えがたいものです。毎回それら一つ一つの積み重ねが苦手から自信に変わり、自身の得点力アップにつながります。提出物及び小テストのフィードバックは翌週以降の授業内で行う予定。
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。
2	Lesson 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	事前学習：教科書 p. 6-8 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
3	Lesson 1 The Weather 天気 現在時制、過去時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 8-9 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
4	Lesson 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 10-12 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
5	Lesson 2 Meetings and Messages ミーティング/メッセージ 冠詞/代名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 12-13 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
6	Lesson 3 Health 健康 進行形	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 14-16 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
7	Lesson 3 Health 健康 進行形	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 16-17 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
8	Lesson 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 18-20 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
9	Lesson 4 Advertising & Sales 広告/セール 名詞/数詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 20-21 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
10	Lesson 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 22-24 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
11	Lesson 5 Investment & Official Supplies 投資/オフィスの備品 形容詞/副詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 24-25 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
12	Lesson 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 26-28 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
13	Lesson 6 Telephone Messages 電話メッセージ 接続詞/前置詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 28-29 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
14	Lesson 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 30-32 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
15	Lesson 7 Jobs & Promotions 仕事/昇進 助動詞/使役・知覚動詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 32-33 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英語	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む） 40% 授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。 日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。		
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！		
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）		
備考	事前、事後学習には毎回 1 時間以上取り組み、課題に 1 回当たり 1 時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。テキスト、辞書、ノートは毎回持参すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
14	別れの手紙の文章を通してセンテンスの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(1.5時間)
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備(3時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	まとめテスト60%、小テスト40%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に關する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。(診断書提出の場合は大学規定により考慮)
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit8: NIKE 「誰もが運動を楽しめる社会に」	Orientation Reading&Discussion	教科書の指定箇所(語彙・文法・読解など)を事前学習する。(1時間)
2	Unit8:	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
3	Unit 9 MUJI 「地域と連携した公園づくり」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
4	Unit9	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
5	Unit 10: Apple 「リサイクルロボット Daisy と Dave」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
6	Unit 10	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
7	Unit 11: Rakuten Group 「多様性に配慮した働き方」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
8	Unit 11	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
9	Unit 12: Amazon 「STEM 教育の充実を目指して」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
10	Unit 12	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
11	Unit 13: IKEA 「すべての人が平等に暮らせる毎日」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
12	Unit 13	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
13	Unit 14 :Dyson 「未来のエンジニアを育てるための大学」	Reading&Discussion	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
14	Unit 14	Listening, Speaking and Writing	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義	原田寛子	金星堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%

学生への 「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきまし

メッセージ	よう！また、TOEIC などの学習も随時行なっています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヴァンティ/ ミトゾ ユニア
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しくは初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	
2	Unit 7 : City Life	My Neighborhood & In the City	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie ; Quiz ① (Unit 7)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
4	Unit 8 : All About You	Sports & Personality	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie ; Quiz ② (Unit 8)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
6	Unit 9 : Change	Personal Habits & Breaking the Plastic Habit	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie ; Quiz ③ (Unit 9)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
8	Unit 10 : Health	The Body & Stress	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie ; Quiz ④ (Unit 10)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
10	Unit 11 : Achievement	Talented People & Risk	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie ; Quiz ⑤ (Unit 11)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
12	Unit 12 : At the Movies	What's Playing? & Movie Reviews	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie ; Quiz ⑥ (Unit 12)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
14	Speaking Activity (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)
15	Final Assignment & Review	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) ・授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...100%  
※詳しくは初回授業で説明します。

学生へのメッセージ 「楽しく英語に触れる」ことを大切に、いろんな活動(ドラマ、音楽、映画など)を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう!また、TOEICなどの学習も随時行なっていきます。  
※後期からの履修も問題ありません。(選択科目の場合)

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対

応ずる。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習(30分): 実力テストの復習
2	Unit 8: 現在完了形	・文法のチェック ・You Are Not Aloneを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・You Are Not Aloneを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 9: 比較	・文法のチェック ・You Gotta Beを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・You Gotta Beを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 10: 分詞	・文法のチェック ・How Crazy Are You?を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(3時間): 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習(3時間): 中間テストの準備
8	Unit 11: 不定詞	・文法のチェック ・Last Christmasを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Last Christmasを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 12: 関係詞	・文法のチェック ・Desperadoを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Desperadoを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 13: 接続詞・前置詞	・文法のチェック ・All I Want For Christmas is Youを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 13: 接続詞・前置詞	・単語テスト ・文法のチェック ・All I Want For Christmas is Youを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(1時間): 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 14: 動名詞	・文法のチェック ・Sunday Morningを題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習(30分): Vocabulary Previewの暗記 事後学習(3時間): 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習(3時間): これまでの総復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits! (ポップスでスタート! 基礎英語)	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版) (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%			
学生への メッセージ	<p>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <p>・原則3回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は3回で1</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
3	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
4	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
5	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
6	Unit 9 Hobbies	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
7	Unit 9 Hobbies	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
8	中間テスト	Unit 7-9 授業内配布資料	事前：中間テストの勉強 事後：中間テストで不正解だった箇所をもう一度確認する。
9	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
10	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
11	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
12	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
13	Unit 12 Sports	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Conversation を視聴し練習しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
14	Unit 12 Sports	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の分からない単語を調べておく。 Reading, Writing を実施しておく。0.5時間 事後：課題 (授業内で指示) 1時間
15	まとめテスト	Unit 10-12	事前：まとめテストの勉強 事後：まとめテストで不正解だった箇所をもう一度確認する。

関連科目	実践英語Ⅰ a
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。

メッセージ	このクラスでは基礎的な英文法、英会話を学び、アウトプットの機会を増やす事で実践で役立つ英語を身に付けましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 テキストの購入は必修です。

科目名	実践英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題	シラバスを読み、Moodleに登録する(0.5時間)
2	Unit 7: Advertisement 文法: 仮定法基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
3	Unit 7: Advertisement 文法: 仮定法 Eating Out 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
4	Unit 8: Daily Life 文法: 受動態基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
5	Unit 8: Daily Life 文法: 受動態 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
6	Unit 9: Office Work 文法: 代名詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
7	Unit 9: Office Work 文法: 代名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
8	Unit 10: Business 文法: 数量詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
9	Unit 10: Business 文法: 数量詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
10	Unit 11: Traffic 文法: 接続詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
11	Unit 11: Traffic 文法: 接続詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
12	Unit 12: Finance and Banking 文法: 前置詞基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング問題に取り組む	事前: Moodleの課題に取り組む(0.5時間) 事後: 文法問題を中心とした復習課題に取り組む(0.5時間)
13	Unit 12: Finance and Banking 文法: 前置詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	事前: 語彙問題の予習(0.5時間) 事後: 授業で学習した表現パターンを覚える(0.5時間)
14	まとめ1	文法事項の復習、およびまとめテスト	事前: 前期に学習した内容の総復習(2時間)
15	まとめ2	まとめテストの解説	事後: 不正解であった問題を中心に復習する(2時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	一步上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 Intermediate	北尾泰幸 他
2	2			
3	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1		
2	2			
3	3			

評価方法(基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	

科目名	実践英語 II a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑯		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	TOEICブリッジ独自の出題形式や選択肢の見方に慣れ、今まで学んできた単語、文法の知識を駆使して色々な練習問題を解いていながら、普段の努力を積み必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とします。皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニックの習得のみならず、各練習問題に出てくる文法事項を覚え直す事で、今まで曖昧だった英文法などの復習も出来て一挙両得です！又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指します。また、授業計画は進度によって変わる場合があります。
到達目標	様々な出題形式に慣れつつ、文法ルール及び語彙を覚えていながら問題文を訳さず、どの文法ルールが使われているどんな内容の文章か見抜いて、短時間で多くの問題が解けるようになる事を目標とする。「千里の山も一歩から...文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題を解くには、毎日少しずつの努力が大きな結果につながります。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。問題文と4択を見て「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもので、授業で出た新しい
授業方法と留意点	授業時に単語テストを行う予定。予習として次に進む分の練習問題を解いて臨もう。授業は間違いを恐れず、じっくり取り組んでいきましょう。今迄、難しいと思った問題、複雑に思えた問題が解けた爽快感は何にも代えがたいものです。毎回それら一つ一つの積み重ねが苦手から自信に変わり、自身の得点力アップにつながります。提出物及び小テストのフィードバックは翌週以降の授業内で行う予定。
科目学習の効果 (資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。
2	Lesson 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.34-36 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
3	Lesson 8 Flights & Traveling フライト/旅行 未来時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.36-37 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
4	Lesson 9 Housing 住居 比較	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.38-40 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
5	Lesson 9 Housing 住居 比較	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.40-41 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
6	Lesson 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.42-44 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
7	Lesson 10 New Products & Electrical Appliances 新製品/電化製品	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.44-45、次回の第七回単語テスト範囲、1381～1410 番を勉強する事。
8	Lesson 11 Media メディア 完了時制	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.46-48 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
9	Lesson 11 Media メディア 完了時制	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.48-49 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
10	Lesson 12 Ordering & Shipping 注文/発送 受動態	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.50-52 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
11	Lesson 12 Ordering & Shipping 注文/発送 受動態	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.52-53 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
12	Lesson 13 Customer Services 顧客サービス 関係詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.54-56 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
13	Lesson 13 Customer Services 顧客サービス 関係詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.56-57 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
14	Lesson 14 The Environment 環境 仮定法	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.58-60 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
15	Lesson 14 The Environment 環境 仮定法	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p.60-61 を読んで練習問題を解いておく (1時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge Lounge 英語	TOEIC Bridge で学ぶ役立つ英	Terry O'Brien、三原京、秀野作次郎、木村博是
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%</p> <p>授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む） 40%</p> <p>授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。</p> <p>日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す。</p> <p>進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。</p>		
学生への メッセージ	<p>「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！</p>		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室		
備考	<p>毎回の授業のための資料及びテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポート準備、宿題などに要する事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げ、それらの総時間はおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問などは出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>		

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期は TOEIC 対策、後期はビジネス英会話を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	1. 講義を聞き、その日に学ぶ内容の全体像を押さえる。2. 重要単語や表現を覚える。3. 問題を解く。4. 答え合わせをして解説を聞く。5. 仕上げのミニテストを受ける。 授業は基本的にこの流れで進めるので、できるだけ休まず頑張ってマスターしていきましょう。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方や TOEIC の説明	Follow orientation instructions.
	2	日常生活	名 詞 ( 文 法 説 明 ) リスニングとリーディング問題にチャレンジ (以下も同じ)	Follow orientation instructions.
	3	外食とショッピング	形容詞と副詞の用法	Follow orientation instructions.
	4	学校や課外スクール	動詞	Follow orientation instructions.
	5	イベント	現在形、現在進行形	Follow orientation instructions.
	6	交通と旅行	過去形、過去進行形	Follow orientation instructions.
	7	ニュース	未来表現	Follow orientation instructions.
	8	仕事と雇用	現在完了形	Follow orientation instructions.
	9	仕事と会議	受動態	Follow orientation instructions.
	10	ビジネス	接続詞	Follow orientation instructions.
	11	広告	前置詞	Follow orientation instructions.
	12	働く人たち	代名詞	Follow orientation instructions.
	13	健康と環境	不定詞	Follow orientation instructions.
	14	財政と銀行	助動詞	Follow assessment instructions.
	15	生産と物流	現在分詞と動名詞	

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Climb High ti the TOEIC L&R TEST	Nasaji Yasumaru 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の演習への取り組みや発言等の貢献度 50%、前期末テスト 50% 評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。
-----------	--

学生へのメッセージ	たくさん聞いて読んで (インプット)、たくさん話して書いて (アウトプット)、どんどん上達していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	INTRODUCTION	授業の進め方の説明	第二週目の授業までに教科書を購入する。
2	WEEK 2 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
3	WEEK 3 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
4	WEEK 4 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
5	WEEK 5 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
6	WEEK 6 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
7	WEEK 7 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
8	確認テスト 1		
9	WEEK 9 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
10	WEEK 10 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
11	WEEK 11 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
12	WEEK 12 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
13	WEEK 13 LISTENING AND SPEAKING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
14	WEEK 14 READING AND WRITING	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
15	確認テスト 2		

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	GO GLOBAL-ENGLISH FOR GLOBAL BUSINESS-	G. PEARSON 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業活動への積極的参加・語彙テスト・課題提出 60% 確認テスト 20%×2
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 授業活動に参加する意思のない人は単位を取ることができません。
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名 (英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	問題演習と解説と確認テスト（7問テスト）で進めます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	オフィス①	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
3	レストラン	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
4	メディア	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
5	健康	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
6	旅行②	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
7	オフィス②	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
8	不動産・住宅	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
9	ショッピング	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
10	就職活動	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
11	旅行③	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
12	天気・環境	Reading contents, Vocabulary, Grammar Point	(Writing or speaking) assignment.
13	娯楽・スポーツ	Writing and Speaking Session of the unit. Sharing your assignment and asking questions (based on HW topics).	Preparation for the unit-quiz and the next class
14	会議	Explanation of presentation	Presentation preparation
15	全体のまとめと講評	苦手分野の克服	Course review

関連科目	ビジネスイングリッシュⅠ
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Maximize Your Score on the TOEIC L&R TEST (シーン別で学ぶTOEIC L&Rテスト総合対策)	鶴岡公幸他	松柏社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業貢献度 20%、7問テスト 80%。本授業に学期末テストはありません。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	重要語彙のチェック+問題演習+解説+7問テストの流れで進めます。一緒に楽しく学んでいきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------



科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名 (英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Marketing Mix in Emerging Countries .	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
2	Confectionery Marketing in Overseas Business	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value.	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
4	Globalization or Localization	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
5	Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
6	Countering Innovators' Dilemma	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
7	確認テスト1		
8	Enhancing Internal Communication of a Global Company	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
9	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
10	Most Luxurious and Practical Accommodations	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
11	Creating a Japanese Luxury Brand	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
12	The Species That Survives is the One That is the Most Adaptable to Change	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
13	BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
14	Connecting People with What's Happening	講義解説、グループワーク形式	事前：単語調べ (30分) 事後：文法事項、単語等復習 (45分)
15	確認テスト2		

関連科目 ビジネスイングリッシュⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバルリーダーに学ぶビジネス戦略 Global Business Case Studies	中谷 安男 / Ryan Smithers 共著	成美堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準) 授業参加態度 40%  
課題 30%  
確認テスト 30%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室  
連絡先 hirokazunukk@outlook.jp

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	何 雨桐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger and preview next week's unit (1 時間).
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! Also, preview next week's unit. (1 時間)
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1 時間)

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目 英語基礎会話 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Class participation / homework assignments (10%)  
Unit review tests (3x30%)

学生へのメッセージ  
皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good luck!  
In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.  
Any student who is absent for

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1 to 3 復習テスト	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	In this course we will look to improve your overall English skills, by learning about and practicing the four main skills of language: Speaking, Listening, Reading and Writing. I look forward to teaching you this year!			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1 to 3 復習テスト	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高山 蒼馬
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger. After that, preview next week's unit. (1時間)
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	pairs and		
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目 英語基礎会話Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Class Participation / Online homework assignments (10%)  
Unit review tests (3x30%)

学生へのメッセージ  
皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!  
In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.  
Any student who is absent for

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語の習得には、地道な努力が必要です。授業に積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1~3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直していきましょう。</li> <li>・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。</li> </ul> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席を</p>																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1, 2, 3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	何 雨桐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! (1時間)
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback. (1時間)

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%)  In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7 to 9 復習テスト	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	In this course we will look to improve your overall English skills, by learning about and practicing the four main skills of language: Speaking, Listening, Reading and Writing. I look forward to teaching you this year!			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7to9 復習テスト	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加度: 30% (class participation) 課題レポート: 20% (Homework) 小テスト: 20% (quiz)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杜 天昊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	<p>こんにちは、皆さん。英会話のクラスへようこそ！このクラスでは、英語を話す楽しさと、コミュニケーションを取るスキルを身につけることを目指します。間違いを恐れずに、たくさん話してみましょう。</p> <p>Hello, everyone. Welcome to the English conversation class! In this class, we aim to discover the joy of speaking English and develop our communication skills.</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																
備考																	

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward! (1時間)
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com">https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%. After that, preview next week's unit. (1時間)
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback. (1時間)

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 1			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%)  In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語の習得には地道な努力が必要です。授業に積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る10%、スピーキング35%、ロールプレイ35%、クイズ20%) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることに。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7~9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。</li> </ul> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席を</p>																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7, 8, 9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Study hard. Have fun. Speak English.			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	日比野 希歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。講義は事前の予習を前提として進め、各講義の最後に小課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			・教科書の第 1 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
1	オリエンテーション	授業の概要についての説明	
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項について	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 2 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方について	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 3 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
4	事実と意見/課題①の説明	事実と意見の書き分けについて/課題①のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 4 回を読む (15 分) ・課題①作成の準備 (80 分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	・教科書の第 5 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
6	課題①講評/構成	課題①の講評をふまえ、自身の課題を見直す/レポートなどの文章構成を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・課題①の見直し (20 分) ・教科書の第 6 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 7 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 8 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 9 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
10	意見を述べる/課題②の説明	考察に基づいて意見を述べる/課題②のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 10 回を読む (15 分) ・課題②作成の準備 (80 分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 11・12 回を読む (15 分)
12	課題②講評/レポートの書き方 1・2	課題②の講評をふまえ、自身の課題を見直す/レポートの体裁と作成上の注意について学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・課題②の見直し (20 分) ・教科書の第 13 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
13	資料収集の方法/課題③の説明	レポート・論文を書くときの資料収集の方法を知る/課題③のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・レポート作成の準備 (80 分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	・教科書の第 14 回を読む (30 分)
15	課題③講評/手紙・メールの書き方/おわりに	課題③の講評をふまえ、自身の課題を見直す/手紙・メールの書き方の基礎を身に付ける/まとめ	・授業の復習 (15 分) ・課題③の見直し (20 分)

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢 (呼应状態・積極性)・小課題 (30%) により評価する。小課題には各講義の最後に取り組む。  
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生への 講義と予習・復習を通して、論理的な文章を書く力を身に付けましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前・事後学習の総時間の目安は15時間前後である。</li><li>・質問・その他授業に関する相談等には、出講時または非常勤講師室で対応するか、Teamsのチャット機能、メールを用いて対応する。</li></ul>

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 非常勤講師室
------------	-----------------

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	は
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方 1	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題：シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題：教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方 1」を読み、授業内容の復習をする。小テストに向けた学習をする。
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題：教科書「第 2 回 文章の書き方 2」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題：教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
4	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト③の実施	事前課題：教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
5	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く (第 6 回までに提出) ※小テスト④の実施	事前課題：本授業、第 1～5 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ 【課題①】を提出する ※小テスト⑤の実施	事前課題：教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑥の実施	事前課題：教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
8	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑦の実施	事前課題：本授業、第 5～7 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された課題・小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題：教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く。(第 12 回までに提出) ※小テスト⑨の実施	事前課題：教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	論説文を書く【課題②】	【課題②】に取り組む (第 12 回までに提出) ※小テスト⑩の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 【課題③】の概要を知り、構成を考える 【課題②】の提出をする	事前課題：【課題②】に取り組む、完成させる。教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。 事後課題：授業内容の復習をする。課題に取り組む。
13	レポートを書く【課題③】	【課題③】に取り組む (第 14 回までに提出)	事前課題：教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を復習しておく。 事後課題：授業内容の復習をする。課題に取り組む。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする 【課題③】の提出をする	事前課題：【課題③】に取り組む。本授業、第 8～12 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題：本授業、第 11・12 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識した わかりやすい文章を書くスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業 (ガイダンス) で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	日比野 希歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。講義は事前の予習を前提として進め、各講義の最後に小課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要についての説明	・教科書の第 1 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項について	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 2 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方について	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 3 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
4	事実と意見/課題①の説明	事実と意見の書き分けについて/課題①のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 4 回を読む (15 分) ・課題①作成の準備 (80 分)
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	・教科書の第 5 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
6	課題①講評/構成	課題①の講評をふまえ、自身の課題を見直す/レポートなどの文章構成を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・課題①の見直し (20 分) ・教科書の第 6 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 7 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 8 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 9 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
10	意見を述べる/課題②の説明	考察に基づいて意見を述べる/課題②のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 10 回を読む (15 分) ・課題②作成の準備 (80 分)
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	・授業の復習 (15 分) ・教科書の第 11・12 回を読む (15 分)
12	課題②講評/レポートの書き方 1・2	課題②の講評をふまえ、自身の課題を見直す/レポートの体裁と作成上の注意について学ぶ	・授業の復習 (15 分) ・課題②の見直し (20 分) ・教科書の第 13 回を読む (15 分) ・該当範囲の練習問題に取り組む (30 分)
13	資料収集の方法/課題③の説明	レポート・論文を書くときの資料収集の方法を知る/課題③のテーマと作成方法の説明	・授業の復習 (15 分) ・レポート作成の準備 (80 分)
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	・教科書の第 14 回を読む (30 分)
15	課題③講評/手紙・メールの書き方/おわりに	課題③の講評をふまえ、自身の課題を見直す/手紙・メールの書き方の基礎を身に付ける/まとめ	・授業の復習 (15 分) ・課題③の見直し (20 分)

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢 (呼应状態・積極性)・小課題 (30%) により評価する。小課題には各講義の最後に取り組む。  
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生への 講義と予習・復習を通して、論理的な文章を書く力を身に付けましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前・事後学習の総時間の目安は15時間前後である。</li><li>・質問・その他授業に関する相談等には、出講時または非常勤講師室で対応するか、Teamsのチャット機能、メールを用いて対応する。</li></ul>

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)
	15	レポート課題 (課題③)	レポートをまとめる	授業の復習 (30 分) と漢字の復習 (30 分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題①と② (各 20%)、レポート課題 (30%)、その他の提出物 (30%) で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が 5 回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。(提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。)
-----------	--

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 非常勤講師室
------------	-----------------

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方 1	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題：シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題：教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方 1」を読み、授業内容の復習をする。小テストに向けた学習をする。
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題：教科書「第 2 回 文章の書き方 2」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題：教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
4	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト③の実施	事前課題：教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
5	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く (第 6 回までに提出) ※小テスト④の実施	事前課題：本授業、第 1～5 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ 【課題①】を提出する ※小テスト⑤の実施	事前課題：教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑥の実施	事前課題：教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
8	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑦の実施	事前課題：本授業、第 5～7 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された課題・小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題：教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く (第 12 回までに提出) ※小テスト⑨の実施	事前課題：教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	論説文を書く【課題②】	【課題②】に取り組む (第 12 回までに提出) ※小テスト⑩の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 【課題③】の概要を知り、構成を考える 【課題②】の提出をする	事前課題：【課題②】に取り組む、完成させる。 教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。 事後課題：授業内容の復習をする。課題に取り組む。
13	レポートを書く【課題③】	【課題③】に取り組む (第 14 回までに提出)	事前課題：教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を復習しておく。 事後課題：授業内容の復習をする。課題に取り組む。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする 【課題③】の提出をする	事前課題：【課題③】に取り組む。本授業、第 8～12 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題：本授業、第 11・12 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識した わかりやすい文章を書くスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業 (ガイダンス) で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	日比野 希歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	・適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 ・グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション／前期の復習①	・講義の説明 ・前期の復習 (文章表現)	・テキストの復習 (60分)
2	前期の復習②	・前期の復習 (文章表現・引用)	・テキストの復習 (60分)
3	前期の復習③／【課題①】の説明	・前期の復習 (引用・論説文の書き方) ・【課題①】のテーマ・作成方法の説明	・【課題①】の準備 (150分)
4	【課題①】論説文	・【課題①】論説文の作成と提出	—
5	【課題①】講評／ディスカッションとは	・【課題①】の返却・講評 ・ディスカッションの方法の解説	・【課題①】の見直し (30分) ・ディスカッションの準備 (60分)
6	ディスカッションの説明	・本授業におけるディスカッションのテーマ・方法の説明 ・ディスカッションのグループ分け、役割分担など	・ディスカッションの準備 (60分)
7	ディスカッション①	・1回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者)	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】議事録の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
8	ディスカッション②	・2回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者)	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】「議事録」の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
9	ディスカッション③／【課題②】議事録の提出	・3回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者) ・【課題②】議事録の提出	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】議事録の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
10	【課題②】講評／プレゼンテーションとは	・【課題②】の返却・講評 ・プレゼンテーションの類型・技法の解説 ・本授業におけるプレゼンテーションのテーマの説明 ・プレゼンテーションのグループ分け、役割分担など	・【課題②】の見直し (30分) ・プレゼンテーション資料の作成準備 (60分)
11	プレゼンテーションの準備	・本授業におけるプレゼンテーションの進め方の説明 ・プレゼンテーションの準備	・プレゼンテーション資料の作成・推敲、リハーサル (150分)
12	プレゼンテーション①	・グループによる発表・質疑応答①	【発表者】 ・質疑の内容や今後の課題のまとめ、【課題③】の準備 (60分) 【それ以外】 ・プレゼンテーション資料の作成・推敲、リハーサル (60分)
13	プレゼンテーション②	・グループによる発表・質疑応答②	・質疑の内容や今後の課題のまとめ、【課題③】の準備 (60分)
14	【課題③】プレゼンテーション要旨	・【課題③】プレゼンテーション要旨の作成と提出	—
15	【課題③】講評／総括	・【課題③】の返却・講評 ・本授業のまとめ	・【課題③】の見直し (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前事後学習の総時間の目安は15時間である。</li> <li>・提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。</li> <li>・質問等は、Teamsのチャットおよびメール、あるいは出講時・非常勤講師室において対応する。</li> </ul>		

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	9	グループディスカッション4	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	10	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	11	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	12	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	13	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	14	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	15	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	必須課題3回 (20%、20%、30%)、練習問題 (30%) により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、提出物が5回ない場合も不合格となる。
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	は
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題：シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。 事後課題：授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 論説文の書き方	わかりやすい文章の書き方を確認する 論説文を書くための構成や引用などを確認する 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト①の実施	事前課題：教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。小テストの復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（この回で提出） ※小テスト②の実施	事前課題：本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは ディスカッション 1-1	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方の説明 ※小テスト③の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1-2 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2-1	グループディスカッションを行う 【課題②】に関する説明 ※小テスト⑤の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
7	ディスカッション 2-2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告をレポートにする（この回で提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題：自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題：小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーション、資料作成の方法 【課題③】に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
10	プレゼンテーションの資料作成と準備 1 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題：プレゼンテーション資料の作成方法を確認し、資料を集める。小テストに向けた学習をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を作成する。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション資料作成と準備 2	プレゼンテーション資料の作成と準備をする	事前課題：プレゼンテーション資料の作成をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（この回で提出）	事前課題：自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返し、ある程度、文章化しておく。 事後課題：今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題：今までの授業内容を振り返る。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>(摂南大学教育イノベーションセンター編)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)															
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。(【課題③】30%のうちの10%は、プレゼンテーションの資料などにあてる。) 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。																
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodleに掲載する。初回の授業(ガイダンス)で、Moodleの授業ページへの登録方法などの説明をする。																

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	日比野 希歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	・適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 ・グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション／前期の復習①	・講義の説明 ・前期の復習 (文章表現)	・テキストの復習 (60分)
2	前期の復習②	・前期の復習 (文章表現・引用)	・テキストの復習 (60分)
3	前期の復習③／【課題①】の説明	・前期の復習 (引用・論説文の書き方) ・【課題①】のテーマ・作成方法の説明	・【課題①】の準備 (150分)
4	【課題①】論説文	・【課題①】論説文の作成と提出	—
5	【課題①】講評／ディスカッションとは	・【課題①】の返却・講評 ・ディスカッションの方法の解説	・【課題①】の見直し (30分) ・ディスカッションの準備 (60分)
6	ディスカッションの説明	・本授業におけるディスカッションのテーマ・方法の説明 ・ディスカッションのグループ分け、役割分担など	・ディスカッションの準備 (60分)
7	ディスカッション①	・1回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者)	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】議事録の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
8	ディスカッション②	・2回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者)	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】「議事録」の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
9	ディスカッション③／【課題②】議事録の提出	・3回目のディスカッションの実施 ・ディスカッションの報告と議事録の作成 (担当者) ・【課題②】議事録の提出	【書記】 ・担当回のディスカッションの【課題②】議事録の作成 (60分) 【それ以外】 ・ディスカッションの準備 (60分)
10	【課題②】講評／プレゼンテーションとは	・【課題②】の返却・講評 ・プレゼンテーションの類型・技法の解説 ・本授業におけるプレゼンテーションのテーマの説明 ・プレゼンテーションのグループ分け、役割分担など	・【課題②】の見直し (30分) ・プレゼンテーション資料の作成準備 (60分)
11	プレゼンテーションの準備	・本授業におけるプレゼンテーションの進め方の説明 ・プレゼンテーションの準備	・プレゼンテーション資料の作成・推敲、リハーサル (150分)
12	プレゼンテーション①	・グループによる発表・質疑応答①	【発表者】 ・質疑の内容や今後の課題のまとめ、【課題③】の準備 (60分) 【それ以外】 ・プレゼンテーション資料の作成・推敲、リハーサル (60分)
13	プレゼンテーション②	・グループによる発表・質疑応答②	・質疑の内容や今後の課題のまとめ、【課題③】の準備 (60分)
14	【課題③】プレゼンテーション要旨	・【課題③】プレゼンテーション要旨の作成と提出	—
15	【課題③】講評／総括	・【課題③】の返却・講評 ・本授業のまとめ	・【課題③】の見直し (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前事後学習の総時間の目安は15時間である。</li> <li>・提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。</li> <li>・質問等は、Teamsのチャットおよびメール、あるいは出講時・非常勤講師室において対応する。</li> </ul>		

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	9	グループディスカッション4	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	10	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	11	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	12	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	13	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	14	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)
	15	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習 (30分) と漢字の復習 (30分)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	必須課題3回 (20%、20%、30%)、練習問題 (30%) により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、提出物が5回ない場合も不合格となる。
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題：シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。 事後課題：授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 論説文の書き方	わかりやすい文章の書き方を確認する 論説文を書くための構成や引用などを確認する 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト①の実施	事前課題：教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。小テストの復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（この回で提出） ※小テスト②の実施	事前課題：本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは ディスカッション 1-1	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方の説明 ※小テスト③の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1-2 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2-1	グループディスカッションを行う 【課題②】に関する説明 ※小テスト⑤の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
7	ディスカッション 2-2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告文を書く（この回で提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題：自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題：小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーション、資料作成の方法 【課題③】に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・小テストの復習をする。
10	プレゼンテーションの資料作成と準備 1 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題：プレゼンテーション資料の作成方法を確認し、資料を集める。小テストに向けた学習をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を作成する。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション資料作成と準備 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：プレゼンテーション資料の作成をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション資料の作成と準備をする	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（この回で提出）	事前課題：自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返し、ある程度、文章化しておく。 事後課題：今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題：今までの授業内容を振り返る。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。(【課題③】30%のうちの10%は、プレゼンテーションの資料などにあてる。) 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常 (40%)・期末 (60%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 5 号館 1 階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂 工将
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化し、論理的に解くことを修得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題レポート (40%) と期末試験 (60%) で評価する。
学生へのメッセージ	授業内の演習とレポート課題で自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は歓迎です。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	数学準備室 (5 号館 1 階)
備考	事前事後学習に毎回 1 時間以上かけること。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化し、論理的に解くことを修得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題レポート (40%) と期末試験 (60%) で総合的に評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自、好き／嫌い、得意／不得意などの様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気持ちで授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	5号館 1階 数学準備室
----------	--------------

備考	事前事後学習に毎回 1 時間以上かけること。
----	------------------------

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常 (40%)・期末 (60%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 5 号館 1 階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名 (英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的  
高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標  
この授業を通じて学生には、  
(1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。  
(2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。  
(3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。  
(4) 基本的な関数の積分計算ができる。  
を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点  
テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)  
数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 演習課題(1時間)

関連科目  
数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎 (ISBN:9784780603026)	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
平常 40%、期末 60%で判定し評価する。

学生へのメッセージ  
数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等  
5号館1階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安井 幸則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

**授業概要・目的**  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、  
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。  
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。  
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。  
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。  
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。

**科目学習の効果(資格)**  
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を修得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 課題レポート
6	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
7	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
8	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
9	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
10	数列(3)	・和の公式の応用	第8章の間 課題レポート
11	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
12	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
13	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
14	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート
15	総合演習	・第7-10章の内容	第7-10章の間 課題レポート

**関連科目**  
 数学基礎Ⅰ、統計学、経営学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 課題レポート(40%)、期末試験(60%)で評価する。

**学生へのメッセージ**  
 授業内の演習とレポート課題で自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。一緒にがんばりましょう。

**担当者の研究室等**  
 数学準備室(5号館1階)

**備考**  
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

**授業概要・目的**  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、  
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。  
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。  
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。  
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。  
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。

**科目学習の効果(資格)**  
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を修得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 課題レポート
6	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
7	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
8	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
9	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
10	数列(3)	・和の公式の応用	第8章の間 課題レポート
11	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
12	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
13	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
14	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート
15	総合演習	・第7-10章の内容	第7-10章の間 課題レポート

**関連科目**  
 数学基礎Ⅰ、統計学、経営学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 課題レポート(40%)、期末試験(60%)で評価する。

**学生へのメッセージ**  
 授業内の演習とレポート課題で自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。一緒にがんばりましょう。

**担当者の研究室等**  
 数学準備室(5号館1階)

**備考**  
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

**授業概要・目的**  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、  
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。  
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つめることができる。  
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。  
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。  
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

**科目学習の効果(資格)**  
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の間 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線、導関数	第9章の間 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 演習課題(1時間)

**関連科目**  
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎 (ISBN:9784780603026)	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 平常40%、期末60%で判定し評価する。

**学生へのメッセージ**  
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

**担当者の研究室等備考**  
 5号館1階 数学研究室

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石原 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	情報リテラシー能力を習得し、大学生活に活かしましょう。 現代社会に必須の情報モラルとセキュリティに関する理解を深めましょう。 疑問点は放置せず、積極的に質問することで速やかに解消しましょう。			
担当者の 研究室等	経営学部非常勤講師室 (11 号館 6 階) (授業曜日・時限のみ)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石原 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です。毎週の課題は計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について</li> <li>本講義の受講方法, 注意点など</li> <li>データサイエンス, AI とは</li> </ul>	事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業の国際競争力低下</li> <li>情報通信メディアの普及</li> <li>DX (デジタル・トランスフォーメーション)</li> <li>演習「Excel の基本的な操作(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会の提言</li> <li>Society5.0</li> <li>演習「Excel の基本的な操作(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類</li> <li>1次データ, 2次データ, メタデータ</li> <li>オープンデータ</li> <li>演習「時系列データの可視化(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造化データ, 非構造化データ</li> <li>テキストデータ, 画像・音声データ</li> <li>アノテーション</li> <li>演習「時系列データの可視化(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
6	データ・AI の活用領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの活用事例</li> <li>研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析</li> <li>演習「平均の算出とその可視化」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの一次分析と可視化</li> <li>言語処理, 画像処理, 音声処理技術について</li> <li>演習「標準偏差の算出とその可視化」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ解析 (予測, グルーピングパターン発見, 最適化)</li> <li>特化型 AI と汎用 AI</li> <li>自動機械学習</li> <li>演習「大量のデータを扱う方法(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
9	データ・AI 利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスのサイクル</li> <li>製造業のデータ・AI 活用</li> <li>演習「大量のデータを扱う方法(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
10	データ・AI 利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小売業のデータ・AI 活用</li> <li>サービス業のデータ・AI 活用</li> <li>公共・インフラのデータ・AI 活用</li> <li>演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
11	データ・AI 利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・AI 活用による新しいビジネス領域</li> <li>演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
12	データ・AI 利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI などを活用した新しいビジネス</li> <li>AI 最新技術の活用例</li> <li>演習「度数分布表とヒストグラムの作成」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ELSI とは何か</li> <li>データの倫理</li> <li>個人情報とプライバシー</li> <li>演習「散布図の作成と相関係数の算出」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイアス</li> <li>社会的合意の形成に向けて</li> <li>演習「定性データの扱い方とクロス集計」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティとは</li> <li>情報セキュリティ脅威に関する事例</li> <li>データの守り方</li> <li>演習「総合演習」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシーI			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポートの提出：40% 演習課題の提出：40% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等 備考	経営学部非常勤講師室 (11号館6階) (授業曜日時限のみ)			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	疑問点は放置せずに次回授業日までに解消してください。毎週の理解の積み重ねが重要です。			
担当者の 研究室等	新居研究室 (7号館5階)			
備考				

科目名	情報リテラシーII	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法やAIに必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AIの基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です。毎週の課題は計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について</li> <li>本講義の受講方法, 注意点など</li> <li>データサイエンス, AI とは</li> </ul>	事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本企業の国際競争力低下</li> <li>情報通信メディアの普及</li> <li>DX (デジタル・トランスフォーメーション)</li> <li>演習「Excelの基本的な操作(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会の提言</li> <li>Society5.0</li> <li>演習「Excelの基本的な操作(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類</li> <li>1次データ, 2次データ, メタデータ</li> <li>オープンデータ</li> <li>演習「時系列データの可視化(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造化データ, 非構造化データ</li> <li>テキストデータ, 画像・音声データ</li> <li>アノテーション</li> <li>演習「時系列データの可視化(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
6	データ・AIの活用領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの活用事例</li> <li>研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析</li> <li>演習「平均の算出とその可視化」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
7	データ・AI利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの一次分析と可視化</li> <li>言語処理, 画像処理, 音声処理技術について</li> <li>演習「標準偏差の算出とその可視化」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
8	データ・AI利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ解析 (予測, グループングパターン発見, 最適化)</li> <li>特化型AIと汎用AI</li> <li>自動機械学習</li> <li>演習「大量のデータを扱う方法(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
9	データ・AI利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスのサイクル</li> <li>製造業のデータ・AI活用</li> <li>演習「大量のデータを扱う方法(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
10	データ・AI利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小売業のデータ・AI活用</li> <li>サービス業のデータ・AI活用</li> <li>公共・インフラのデータ・AI活用</li> <li>演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
11	データ・AI利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・AI活用による新しいビジネス領域</li> <li>演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
12	データ・AI利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIなどを活用した新しいビジネス</li> <li>AI最新技術の活用例</li> <li>演習「度数分布表とヒストグラムの作成」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
13	データ・AIを扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ELSIとは何か</li> <li>データの倫理</li> <li>個人情報とプライバシー</li> <li>演習「散布図の作成と相関係数の算出」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
14	データ・AIを扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイアス</li> <li>社会的合意の形成に向けて</li> <li>演習「定性データの扱い方とクロス集計」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティとは</li> <li>情報セキュリティ脅威に関する事例</li> <li>データの守り方</li> <li>演習「総合演習」</li> </ul>	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシーI			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポートの提出：40% 演習課題の提出：40% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等 備考	新居研究室（7号館5階）			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤, 河瀬 泰治, 瀬川 智広, 中尾 千晶, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WPH1340a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
---------	--

到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)
------	--

授業方法及び留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
-----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
-----------	---

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤、河瀬 泰治、河村 優、瀬川 智広、横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WPH2341a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1301a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料は Moodle に提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QR コードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前：心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく (1 時間) 事後：課題作成 (1 時間)
	2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業での VTR について課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめ、ノートを作成 (1 時間)
	3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	5	社会的学習 (1)	学習とは学校での勉強のことでなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	6	社会的学習 (2)	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する (2 時間)
	8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめて提出する。(2 時間)
	10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)
	15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：授業全般、分からない部分についてまとめておくこと (1 時間) 事後：授業についてまとめノート作成する (1 時間)

関連科目	心理学 II と併せて履修することが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で行う小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【講義内テスト・確認テスト50%、小テスト・課題・レポート等50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室			
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で、携帯やPCを使用し課題を提出して頂きます。デバイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。			

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2302a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間・集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料は Moodle に提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会・集団の中の心理について	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。  【初回授業の実施方法】 授業は、オンライン(オンデマンド)で実施。 1回目は、Teamsにアクセスし、その後、Moodleの第1回目授業を閲覧すること。 【Teamsコード】【Moodle登録キー】は、シラバス下部に表記しています。	事前：心理学はどのような学問かまとめておく(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
3	知覚(2)	知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
4	知覚(3)	知覚と消費行動。見る行為と消費がどのようにつながっているのか、説明する。	事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる(2時間)
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
7	対人関係(3)	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
8	対人関係(4)	「対人魅力」の分野における、好きと愛の行動パターンについての研究を紹介する。自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。  第8回より対面授業	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
9	集団(1)	「集団」についての心理学的視点・これまでの研究を紹介する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
10	集団(2)	「集団討議」について考えてみる。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
11	集団(3)	集団のもつ持つ影響力として「同調」と「服従」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
12	集団(4)	ジンバルドが行った「監獄実験」について説明する。	事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
13	集団(5)	「情報伝搬」「うわさ」によるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
14	集団と援助行動	集団の中に個人が埋没すると、援助行動が行われない場合がある。援助行動が行われない状況とはどのような状況か、意	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)

			思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。	
	15	まとめ・確認テスト	授業全体のまとめ・確認テストを行う。	事前:疑問点がどこにあるのか考えておく(1時間) 事後:授業についてまとめノート作成する(1時間)
関連科目	心理学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で行う確認テストやレポート、課題提出等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト・確認テスト 50% 課題・レポート提出 50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合がございます。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室			
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で、携帯やPCを使用し課題を提出して頂きます。デバイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。			

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WHU1303a1		

**授業概要・目的**

「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。

この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では古今の哲学思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。

**到達目標**

(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。  
(2) 人間存在や現代社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。  
(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。

**授業方法と留意点**

講義形式  
教科書の内容を中心に授業を行う。加えて、授業時に講義内容に関するプリントを配布する。教科書は遅くとも3回目の講義までには入手すること。その他の参考文献などは必要に応じて授業中に適宜紹介する。

受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。授業内では口頭説明や板書を自分の判断でノート等に書き残し、授業後にまとめなおしておくこと。授業内容について調べたり、他の受講者とディスカッションなどを行うことを推奨する。不明な

**科目学習の効果 (資格)**

現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、ねらいについて説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
2	経験の貧困	教科書の序章をもとに、現代社会における「経験の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
3	象徴の貧困	教科書の序章をもとに、現代社会における「象徴の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
4	教育の貧困	教科書の第4章をもとに、現代社会における「教育の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
5	大衆とは何か	教科書の第4章をもとに、現代社会における「大衆」とは何かについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
6	ポピュリズムとは何か	教科書の第5章をもとに、現代社会における「ポピュリズム」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
7	現代民主主義とルソー	教科書の第5章をもとに、現代社会における現代民主主義のあり方とルソーの思想の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
8	現代のテクノロジーと政治	教科書の第5章をもとに、現代社会におけるテクノロジーと政治の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
9	現代的な欲求のあり方について	教科書の第1章をもとに、現代社会における欲求のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
10	現代的な性愛のあり方について	教科書の第7章をもとに、現代社会における性愛のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
11	マクルーハンのメディア論	教科書の第3章をもとに、マクルーハンのメディア論について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
12	現代メディア論	教科書の第3章をもとに、現代社会におけるメディアと人間のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
13	人間の野蛮化と部族化について	教科書の第3章をもとに、現代社会における人間の「野蛮化」と「部族化」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
14	未来の世界と自己のあり方について	教科書の第3章をもとに、未来の世界とそこでの自己のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。

**関連科目** 哲学 II、社会学、社会と人権

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	曲がり角の向こう-現代社会への問いかけ	庭田茂吉ほか編	萌書房
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内での小レポートを40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	授業前に教科書の指定された箇所を読んでおくこと。 提出物は期限内に出すこと。特別な事情があつて遅れる場合はその旨を連絡すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>質問・相談等には、授業前後の時間、E-mail および Teams に対応することができる。</p> <p>授業外学習は授業期間全体で60時間程度と定められている。内訳は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート等の整理、配布資料の読み直し(毎回1時間程度。計15時間)</li> <li>・授業内容についての調査、受講者同士のディスカッション(毎回1時間程度。計15時間)</li> <li>・小レポート、期末レポートの準備・作成(計30時間)</li> </ul>			

科目名	哲学Ⅱ	科目名 (英文)	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2304a1		

授業概要・目的	本授業は、近現代の西洋哲学史の主要な流れを概観することを目的とする。その際に、20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー(1889-1987)の思想を視座とする。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。
到達目標	授業で扱う西洋哲学史上の人物について、 ①時代背景 ②考えの要点 ③後の時代に与えた影響 の3点を理解すること。
授業方法と留意点	Teams を使用して、配布したテキストを読み進めます (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	2	ハイデガーの前期思想 (1)	『存在と時間』を中心に (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	3	ハイデガーの前期思想 (2)	『存在と時間』を中心に (2)	2に同じ
	4	ハイデガーの前期思想 (3)	『存在と時間』を中心に (3)	2に同じ
	5	ハイデガーの前期思想 (4)	『存在と時間』を中心に (4)	2に同じ
	6	ハイデガーの中期思想 (1)	「芸術作品の根源」を中心に (1)	2に同じ
	7	ハイデガーの中期思想 (2)	「芸術作品の根源」を中心に (2)	2に同じ
	8	ハイデガーの後期思想 (1)	「物」講演を中心に (1)	2に同じ
	9	ハイデガーの後期思想 (2)	「物」講演を中心に (2)	2に同じ
	10	フランス現代思想 (1)	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス (1)	2に同じ
	11	フランス現代思想 (2)	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス (2)	2に同じ
	12	フランス現代思想 (3)	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス (3)	2に同じ
	13	フランス現代思想 (4)	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス (4)	2に同じ
	14	フランス現代思想 (5)	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス (5)	2に同じ
	15	まとめ	授業全体の内容の復習	2に同じ

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代思想入門	千葉雅也	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
	2	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂
	3			

評価方法 (基準)	Google Form 等によって提出する課題で評価する (100%)
学生へのメッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WHU1305a1		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から把握し検証する学問です。それは同時に、自身とは異なる「時間」と「空間」に生きる他者への想像力でもあります。歴史は、政治・経済・文化・思想・宗教など多彩な事象が相互に関係して作り出され変化していきます。歴史を学ぶことは、単に過去について知るだけでなく、自身とは異なる様々な状況を生きた他者への理解を深めるという意味を持ちます。本授業では、以上のような考えに基づき、日本の歴史を大まかな変化の「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史についての基本的な知識を習得する。 政治・経済・文化・思想・宗教など多角的な要素を複合的に把握し、歴史的事象を説明できる。
授業方法と留意点	対面の講義形式で授業を行います。 授業で使用する資料がある場合は Teams に適宜アップロードします。授業が始まるまでに各自で印刷して用意しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。 日本史の時代区分や歴史を分析する方法について考えます。	日本史の時代区分について書籍や web で確認・復習する。
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍や web で確認・復習する。
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍や web で確認・復習する。
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍や web で確認・復習する。
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍や web で確認・復習する。
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍や web で確認・復習する。
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍や web で確認・復習する。
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍や web で確認・復習する。
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍や web で確認・復習する。
10	近世社会の思想と民衆	江戸時代の思想や民衆の生活・文化について学びます。	江戸時代の思想や百姓について書籍や web で確認・復習する。
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍や web で確認・復習する。
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍や web で確認・復習する。
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍や web で確認・復習する。
14	確認テスト	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。
15	授業全体のまとめ	確認テストのフィードバックおよび授業全体のまとめを行います。	授業全体を振り返り、学んできたことをまとめておく。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業最終日に行う確認テスト (70%)、その他、コメントペーパー (30%)

学生へのメッセージ 年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。  
また、歴史上の人々がどのようなことを考え行動したのか、という歴史的な他者への想像力を意識してほしいと思います。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。  
状況や内容に応じてコメントペーパーへの応答を行う場合がある。  
授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。  
学生各自の自主・自律を重視する。

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1306a1		

授業概要・目的	講義するのは、都市から見た世界史（特に中国史とヨーロッパ史）です。なお歴史（の学び）とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません（もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが）。本質的には、昔を知ること、今を知る。つまり異文化理解です（異文化理解≠自文化理解）。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。偏見から脱け出す。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り（プリントにメモして）、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。（この授業では出席を取らないから）第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない（なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱い）
科目学習の効果（資格）	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。偏見から脱け出せる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／手で食べる文化は劣っている？／知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか？／乳幼児のおよそ半分が死んでしまう／戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心／就活や通勤がない世界／家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事／恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」／Love is blind（恋は盲目）	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢／男尊女卑になる社会構造／それでも、勝ち負けははっきりした結婚（または人生）などない	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
6	都市を窓に世界史を見る	日本史（1国の歴史）だけでも大変なのに／都市という視点／人間社会が集約される場所	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
7	都市を窓に世界史を見る	世界史の流れが分かる場所／歴史らしい歴史の始まり／文明は都市と共にある	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
8	都市を窓に世界史を見る	ヒト（人類）はどうやって動物的生活から脱け出したか／農業革命そして都市革命／ヒトの偉さと醜さが集約される場所	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）／レポート準備（1時間）
9	都市を窓に中国史を見る	中国の歴史は政治的な都市を軸として展開／「中国」の原義は「中心の都市」／領域国家の大統合（天下統一）	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）／レポート準備（1時間）
10	都市を窓に中国史を見る	多文化・多民族を統べる巨大国家、中国の歴史が本格的にスタート／都市は大帝国の行政拠点／都市も大帝国の統治方針と共に変わる	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）／レポート準備（1時間）
11	都市を窓に中国史を見る	巨大インフラ大運河と中国都市の変容／ナイトライフ、ファストフード、エンターテインメント産業／それでも、何よりまず行政拠点であった	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）／レポート準備（1時間）
12	都市を窓に中国史を見る	中国全体で見れば農村的な社会が続いた／西洋との関係、日本との違い／始まった本格的な都市化	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）／レポート準備（1時間）
13	都市を窓にヨーロッパ史を見る	ヨーロッパの歴史は小さな都市を軸として展開／決して豊かとは言えない自然／ユーラシアの辺境と言う位置	プリントの読み返しと先読み（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）
14	都市を窓にヨーロッパ史を見る	農業経済と宗教組織がヨーロッパ都市を育てた／政治的分裂が都市の自治を育てた／ヨーロッパ都市が大きくなったのは近代	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
15	都市を窓にヨーロッパ史を見る	近代への反省が現代の出発点／ヨーロッパで見られる小さな都市への回帰の試み／手がかりは、ヒューマンスケールのコンパクトさ、住民自身による都市コントロールの可能性	プリントの読み返し（1時間）／レスポンス・ペーパー（1時間）

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 非常勤講師室			

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1307a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる (DP1)。さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
科目学習の効果 (資格)	中学校社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学, 自然地理学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実<増補版>	辻村英之	太田出版	
3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院	

評価方法 (基準)	期末試験 60%, 授業内課題 30%, 中間試験 10% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。また、中間試験は授業内で実施し、論述形式で出題する。授業内で実施する中間試験については、翌週以降の授業で解説を行う。
-----------	---

学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2308a1		

授業概要・目的  
この授業では人文地理学という学問分野の基礎知識について学びます。  
人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。  
本講義では、こうした人文地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。

到達目標  
・人文地理学の基本となる考え方について説明できること。  
・特定の問題について人文地理学的な視点から捉えることができること。

授業方法と留意点  
・主に ①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。  
・学生の皆さんには、理解度を問うための授業内小課題（理解度チェックなど）と期末レポートに取り組んでもらいます。授業内小課題では、ディスカッションや自分なりの考えを発表してもらうこともあります。

科目学習の効果（資格）  
担当教員は、人文地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。  
(1) 一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。  
(2) さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。  
(3) 個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみるることができる。  
(4) 距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。  
(5) 人と

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史	地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	グローバルサプライチェーン	グローバルサプライチェーンの発展とその背景、リスク等について理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	ツーリズムの発展と課題	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	これからのツーリズム	パンデミックを経た後の今後のツーリズムの在り方について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	疾病と地理学	感染症の地理学的研究についての知見を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	これからの社会と地理学：総括	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			

	3		
評価方法 (基準)	レポート 70%、授業内の小課題 30%		
学生への メッセージ	<p>大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。</p> <p>(1) 扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。</p> <p>(2) 試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。</p> <p>この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえことを切に願います。</p>		
担当者の 研究室等	<p>寝屋川キャンパス 7号館 5階 小林研究室。</p> <p>※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)。</p>		
備考	<p>提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。</p>		

科目名	社会学	科目名 (英文)	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01309a1		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念 (=キーワード) と社会的なものの方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」一他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布します。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。受講者は必ず Windows Teams に登録してください。
科目学習の効果 (資格)	社会的なものの方を学ぶことによって、これまであたりまえだ感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
2	社会的存在としての人間 (1)	社会化と自己	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
3	社会的存在としての人間 (2)	社会化とジェンダー	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
4	社会的存在としての人間 (3)	地位と役割	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
5	社会的存在としての人間 (4)	感情と社会	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
6	集団と個人 (1)	個人にとって集団とは	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
7	集団と個人 (2)	官僚制の逆機能	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
8	集団と個人 (3)	逸脱行動	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
9	行為の意図せざる結果 (1)	予言の自己成就	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
10	行為の意図せざる結果 (2)	宗教と資本主義	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
11	行為の意図せざる結果 (3)	社会的ジレンマ	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
12	現代の諸問題と社会学 (1)	自殺の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
13	現代の諸問題と社会学 (2)	家族の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
14	現代の諸問題と社会学 (3)	地域の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	これまでの学んだ内容を整理し、疑問点がないか確認したうえで授業に臨むこと

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	確認問題・・・20% 期末試験・・・80%
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ 「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。なお、授業の進行を妨げる行為 (私語など) に対しては厳しく対処します。

担当者の研究室等

備考 授業終了後に質問に応じる。また、Teams、学内メールでも対応する。  
毎回授業の復習と期末試験の準備に、合計 15 時間はかけること。

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01310a1		

授業概要・目的	私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、民法、憲法、労働法、裁判に関わる法学の基礎的知識を習得し、その知識を活用して私たちの社会生活におけるさまざまな問題について、自分で考える力を身につけることを目標としています。また、法学基礎の知識をより深めるために、日本近代法の土台である西洋法史の視点からの学びも含まれます。具体的な問題例を挙げつつ、法と日常生活との関わりについて考察していきます。
到達目標	法学に関する基礎的な知識を習得する。そしてその知識を活用して、社会における多様な問題について、法的視点から考え意見を述べるができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。毎回授業の最後に、小テストなどの課題に取り組んでもらいます。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の習得に役立ちます。
--------------	------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方・注意点 法学の基礎、法の種類などを説明する。	教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(1時間)
2	生活と法1 民法の基礎	民法の全体構造、特徴などを説明する。	事前：教科書第1章の授業テーマに関する該当箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	生活と法2 契約	契約の基礎について説明する	事前：教科書第1章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	生活と法3 高齢社会と法	成年後見制度の特徴、諸問題を取り上げる	事前：教科書第1章の授業テーマに関連する該当箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	生活と法4 日常生活とアクシデント	医療事故、スポーツ事故などについて説明する。	事前：教科書第2章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	生活と法5 裁判1	裁判・裁判所の基礎、及び裁判外の紛争解決について説明する	事前：教科書第6・7章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	生活と法6 裁判2	刑事裁判、及び裁判員制度について説明する。	事前：教科書第6・7章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	家族と法1 夫婦	民法の中の婚姻、離婚など夫婦をめぐる法を説明する。	事前：教科書第4章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	家族と法2 親子	民法の中の親子をめぐる法を説明する。	事前：教科書第4章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	家族と法3 相続	相続・遺言と民法について説明する。	事前：教科書第4章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	憲法の基礎1	憲法の全体構造、人権総論に関わる内容を説明する。	事前：教科書第7章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	憲法の基礎2	自由権・社会権・新しい人権などを取り上げる。	事前：教科書第7章の業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	雇用と法1	労働法の基礎として、戦前の労働法の特徴・戦後の労働法改革などについて説明する。	事前：教科書第3章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
14	雇用と法2	労働法の基礎2として、労働基準法などについて説明する。	事前：教科書第3章の授業のテーマに関連する箇所を読んでおく。事後：教科書及び今回のレジュメ・資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
15	全体のまとめ	全体の復習を行う。	事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業全体のポイントを確認・整理する。(2時間)

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界へ (第9版)	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大	有斐閣

			塚英明・長谷部由紀子	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題(小テスト、小レポートなど)30%と、定期試験(筆記試験)70%によって、総合的に評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	授業内課題(小テスト、小レポート)の追試験、再試験は実施しませんので、注意してください。			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑥		
科目ナンバリング	WS01311a1		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。授業では、学習した内容の復習と知識の定着のために小テスト (小レポート) などの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造 (統治の基礎と人権の基礎) を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題 (夫婦別姓、同性婚の問題など) を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を 読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の 全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、 自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版（最新版）	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題等の詳細は、第1回授業のなかで説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中で、随時紹介します。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WS01312a1		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。  それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。  また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【前期金曜4限・経済学部】日本の政治・政治学(担当:森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー:1206
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について  日本の政治制度の基本原理について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく  日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく(30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と土族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく(30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく(30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく(30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく(30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく(30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく(30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく(30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく(30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする(4時間)

関連科目 政治学、政治史関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点）</li> <li>○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）</p>
<p>備考</p>	

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7②		
科目ナンバリング	WS01313a1		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。  また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース【後期金曜2限・経済学部】世界の政治 (担当: 森康一) を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく (約2時間)
2	冷戦時代の国際関係 (1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	冷戦時代の国際関係 (2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	冷戦時代の国際関係 (3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	冷戦時代の国際関係 (4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく (約30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく (約30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく (約30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	米口の核軍縮	核問題をめぐる米口関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説 (2009)」について調べておく (約30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく (約30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末試験の準備をする (約3時間)

関連科目	政治・外交関連の科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア (田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「欠をを除く欠席が5回以内」の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点 20% : 小テスト×2回 (第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点)</li> <li>○期末試験 80% : 論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>
学生への	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意

メッセージ	識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2314a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。
科目学習の効果(資格)	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
3	地震・津波と自然災害	地震と津波の仕組みや、自然災害とは何か、自然災害と人の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
4	地表の変化(1) 中地形・小地形	岩石の変化から始まる地表の変化、身近な地域の地形について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
5	地表の変化(2) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
6	地表の変化(3) 平野・海岸	平野と海岸の種類・形成・変化と人々のかかわりについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
7	地図と地理情報(1)	様々な地図の種類と特徴、地図の定義を学び、自然環境と関係が深い地図を見ます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
8	地図と地理情報(2)	地形図の特徴と凡例を学び、実際に新旧の地形図を読んで自然環境を読み取ります。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
9	地球の水・水循環	地球の水の存在と水循環、水の分布、水資源について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
10	水利用と治水・水害と水不足	人はどのように水を利用・統制してきたか、水害や水不足について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
11	身近な水利と水不足	身近な地域で見られる水利と水不足を考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
12	大気循環と世界の気候	地球規模の大気循環や世界の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
13	気候と文化・植生・生物群系	世界の気候と人間の生活文化の関係、世界の植生や生物群系(バイオーム)について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
	14	日本の気候・地域の気候	日本の気候、都市や地域で見られる様々な気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
	15	気候変動と地球温暖化・授業の総括	地球の歴史の中で気候がどのように変わってきたのか、そして地球温暖化について学びます。最後に授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する(6時間)。
関連科目	人文地理学・地誌学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
	3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楳原京子	古今書院
評価方法(基準)	毎回の確認テスト:60%、期末レポート:40%			
学生へのメッセージ	高校で「地理」を履修していなくても理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	教養生物	科目名 (英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1315a1		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面で実施する
科目学習の効果 (資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系、脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	――

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を50%で評価する。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
-----------	--

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方・薬学部1号館3階病理学研究室1
----------	--------------------

備考	事後学習60分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習30分が必要です。
----	-------------------------------------

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1316a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人口転換と疫学転換	人類史と人の健康	・予習をすること（教科書第1章 p8-10, 第2章 p23-26）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
2	公衆衛生とは	日本の公衆衛生の歴史	・予習をすること（教科書第1章 p1-8, 10-12分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
3	人口統計（1）	人口静態統計	・予習をすること（教科書第2章 p19, 26-28）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
4	人口統計（2）	人口動態統計、生命表	・予習をすること（教科書第2章 p19-30）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
5	疫学（1）	疫学の歴史と指標	・予習をすること（教科書第3章 p33-42）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
6	疫学（2）	因果推論	・予習をすること（教科書第3章 p42-54）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
7	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること（教科書第4章 p55-59）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
8	感染症と予防（1）	感染症の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p87-104, 171-182）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
9	感染症と予防（2）	感染症流行拡大の事例	・予習をすること（教科書第5章 p87-104, 171-182）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
10	生活習慣病と予防	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること（教科書第5章 p104-117, 79-86）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること（教科書第6章 p145-154, 207-213, 216-221）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・予習をすること（教科書第13章 p351-365）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
13	移民と健康（1）	移民の健康と社会	・予習をすること（前前回配布の課題に取り組むこと）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
14	移民と健康（2）	日本在住外国人の健康	・予習をすること（前回配布の課題に取り組むこと）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）
15	研究の倫理	人体実験の歴史と研究の倫理	・予習をすること（教科書第1章 p15-17）（30分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30分）

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2024	辻一郎他	南江堂
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 4/5以上の出席を成績評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料と教科書をよく勉強すること。</li> <li>・授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。</li> <li>・わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。</li> <li>・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3階 24			
備考	必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。			

科目名	科学技術教養V	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅 恵造
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1) 病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	バイオ医薬品 (抗体医薬品) (湯浅)	抗体医薬品は、これまでの低分子医薬品と比較して、高い治療効果と副作用の軽減が期待できるため、近年、注目が高まっている。本講義では、抗体とは何か、そしてこれまでに開発された抗体医薬品について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
2	病気と遺伝子 (船越)	我々が持つDNAは日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
3	認知症～その原因と治療法 (宮崎)	我が国は超高齢化社会へと進行し続け、2025年には高齢者の5人に1人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ (尾山)	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
5	薬物乱用と依存性薬物 (居場)	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存性という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
6	ミトコンドリアと病気 (井尻)	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
7	くすりとタンパク質のかたち (中嶋)	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
8	機能的糖質 (大橋)	食品や産業などに利用されている機能的糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能有るのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
9	不妊のしくみ (西村)	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
10	化粧品とバイオテクノロジー (西矢)	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。

	11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術（松尾）	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1時間）。
	12	機能的食品などの新しい食品の形態（青笹）	食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1時間）。
	13	担当：新任教員、内容：未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1時間）。
	14	遺伝子組換え植物とその将来（長田）	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1時間）。
	15	感染症とその予防（見坂）	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生動向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1時間）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。 講義メモを含む課題未提出の場合は欠席1日とする。 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生へのメッセージ	本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。			
担当者の研究室等	1号館8階 松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室 1号館9階 尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室			
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する（遅刻2回で欠席1回とみなす）。			

科目名	科学技術教養R	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

**授業概要・目的**  
 古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。  
 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。

**到達目標**  
 住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。

**授業方法と留意点**  
 ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。  
 必ず、期日までに課題を提出すること。  
 最終回には、まとめテストを行う。  
 担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。  
 提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。

**科目学習の効果 (資格)**  
 身近な住環境から地球環境まで、デザイン、環境工学、暮らし、に関する知識と考え方、手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	(オリエンテーション) 自然の力をかりる住環境デザイン	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等の説明) 古代より人間は自然と共生するために住環境にさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの事例と現代の建築・空間デザインの事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
2	環境配慮の空間デザイン	従来から着目されている省エネルギー建物から ZEB (ゼロエネルギー建築) への展開と、近年着目されている環境配慮、知的生産性向上建物の現状について学ぶ。 また、均質で不満の少ない環境から、変化と刺激を感じる環境の提供へのパラダイムシフトによる、多様性がある人中心の環境設計の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
3	スマートウェルネスなまちづくり	環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
4	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインを建築家 (藤井厚二、小玉祐一郎) の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
5	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
6	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
7	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
8	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
9	生活におけるにおいかおり	住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめとした感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
10	地球共生デザインから考えるモノとコトのデザイン	社会問題や環境問題、人と生態系の両方に「コト」と「モノ」両方からアプローチする地球共生デザインの在り方を実践例を通して考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
11	家族の変化と住まい	家族の変化と住要求の関係、時代の変化による世帯構造及び住まいの変容について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
12	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。まとめておくこと (1 時間)
13	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
14	野生動物との共存のデザイン	近年増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、まとめテストを受けること (1 時間)

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。初回の授業および 15 回目のまとめテストは、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。			
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、 12 号館 6 階 坂本教授室			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。			

科目名	科学技術教養A	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関する学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのように考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodleに掲載あるいは各講義時に配布する。 TeamsやMoodle等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	環境共生の建築物	太陽・風の有効利用、CASBEEの考え方	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	商業の建築	商業施設、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	交通の建築	陸・海・空の交通にかかわる建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築の歴史	歴史的建築から建築における多様な「技術」について理解を深める	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力などのように関係しているのかを理解する視点を養う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	快適な温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築をつくる	構造、材料、施工の新技术	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等は、授業で配布あるいはMoodleに掲載予定		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
----------	------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。 事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	--

科目名	科学技術教養M	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 周之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	<p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化、自動化を図る機械”の原理、性能、製作、利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は、機械力学、材料力学、熱力学、流体力学の4力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は、機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより、機械工学の全体像を俯瞰しつつ、履修者が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り、機械工学と実社会への関わりを理解することができる。</li> <li>・機械工学と他分野の関わりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。</li> <li>・Web上で配布するテキスト (PDF) に目を通し、ポイントをまとめておく。</li> <li>・講義前に課題を配布し、スライド資料を用いた講義を行う。(60分)</li> <li>・講義メモと課題を作成し、指示に従って提出する。(30分)</li> </ul> <p>・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。</p> <p>・切り替える日時や受講方法の連絡には Teams を使うので、注意しておくこと。</p>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることが出来る。</li> <li>・機械工学と他分野との関わりに気づき、受講者の興味や知識の幅を広げることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の歩みと機械の歴史</li> <li>・ものづくりの原点</li> <li>・科学技術と機械工学</li> <li>・これからの社会への機械工学の役割</li> </ul>	M1 テキスト第1章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
2	いろいろな機械材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属材料</li> <li>・高強度・機能性材料</li> <li>・新素材と高度産業社会</li> </ul>	M1 テキスト第3～5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
3	道具と機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ</li> <li>・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具</li> </ul>	M1 テキスト第2章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
4	空間を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術</li> <li>・深海に潜る原理と深海艇の機械技術</li> <li>・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術</li> </ul>	M2 テキスト第6～8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
5	精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・精密・超精密加工の発展</li> <li>・超精密加工の応用事例</li> <li>・超精密加工と超精密工作機械</li> </ul>	M1 テキスト第7章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
6	ものづくりの科学と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶かして作る</li> <li>・変形させて作る</li> <li>・削って作る</li> <li>・積み上げて作る</li> <li>・工場を科学する</li> </ul>	M1 テキスト第6、8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
7	作業を補助する機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の作業と機械</li> <li>・移動と運搬の補助</li> <li>・動力源・移動のためのメカニズム</li> <li>・力を伝えるための仕組みと手段</li> <li>・シャフトとベアリング</li> </ul>	M1 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
8	機械をかしこくする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の操作と知能化技術</li> <li>・知能化のための機械設計</li> <li>・パワーアシストスーツ</li> <li>・人工知能技術</li> </ul>	M1 テキスト第11章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
9	ミクロの機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型化への取り組み</li> <li>・小さくなることで変わる物理特性</li> <li>・半導体製造技術</li> <li>・マイクロロボット</li> </ul>	M1 テキスト第12～14章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
10	流れを利用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動力と流体機械</li> <li>・流体機械の歴史</li> <li>・発電のための流体機械</li> <li>・自然エネルギーの利用</li> </ul>	M2 テキスト第2・3章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
11	陸上を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンと機械工学</li> <li>・動力機械としてのエンジン</li> <li>・熱エネルギー</li> <li>・旅客輸送と貨物輸送</li> </ul>	M2 テキスト第4・5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
12	計測する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度量衡と政治</li> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・センサで測る</li> <li>・センシング技術</li> </ul>	M2 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
13	制御する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御工学の世界</li> <li>・制御の方式</li> <li>・さまざまな機械制御技術</li> </ul>	M2 テキスト第11・12章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体にならう1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオエンジニアリングの世界</li> <li>・人間を救う・支援する機械</li> </ul>	M2 テキスト第13・14章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
15	生命・生体にならう2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康とスポーツのための機械</li> </ul>	M2 テキスト第14・15章に目を通し、ポイントをま

			・人間工学	とめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提出する課題 (各回 10 点満点) に基づき成績評価をする。</li> <li>・満点は 150 点 (講義 15 回分) で、これを 100 点満点に換算する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考				

科目名	科学技術教養E	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

**授業概要・目的**  
 電気・情報に関する学問分野には、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学などがある。電気工学は、発電電や送電、動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野、電子工学は、電気の高速度応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野、通信工学は、有線や無線通信、通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野、情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である。これらは、全て「電気」という共通項があり、「情報」が深くかかわる。しかし、それぞれの分野が特化し、かつ高度化したことにより、これらを全て網羅して理解することが難しくなっている。  
 本講義では、これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しずつ学ぶことで、その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に、多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする。

**到達目標**  
 電気情報工学全般を学ぶことで、電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり、どのような応用があるかを理解することが目標である。

**授業方法と留意点**  
 ・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。  
 ・講義 13 回分はパワーポイントを用いた口述講義の動画を Moodle で視聴。各回で出される課題に解答し、Moodle で提出する。  
 ・講義 2 回分では研究室紹介動画視聴後にレポートを Moodle で提出する。  
 教科書が必要となるので、入手しておくこと。

**科目学習の効果 (資格)**  
 電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。また、どの分野においても情報の知識は欠かせない。これらの原理や特性を知ることで、自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる。国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第1回課題 約1時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造、発電電、送電のしくみ	第2回課題 約1時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か、半導体の機能、集積回路の作成技術	第3回課題 約1時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気をういた照明器具の発展、照明器具と消費電力、照明器具の応用	第4回課題 約1時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路、能動回路と受動回路、集積回路、身近な製品の電子回路	第5回課題 約1時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	第6回課題 約1時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ、パソコンの内部構造、スーパーコンピュータ	第7回課題 約1時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは、家電製品に組み込まれたマイコン、プログラミングの基礎	第8回課題 約1時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第9回課題 約1時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第10回課題 約1時間
11	電波と放送	電波と応用分野、変調と復調、衛星放送からデジタル放送へ	第11回課題 約1時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史、携帯電話、通信のこれから	第12回課題 約1時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ、歴史、接続方法、危険性	第13回課題 約1時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介 1	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(6つの研究室)	第14回レポート 約2時間
15	研究室紹介 2	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(5つの研究室)	第15回レポート 約2時間

**関連科目**  
 各自の学科で並行して開設されている数学、物理系科目も履修しておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘, 堀内利一, 鹿間信介	講談社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点 13 回とレポート 2 回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を 90%、レポートの評価点を 10% とする。ただし、課題とレポート提出率 80% 以上を成績評価の対象とする。

**学生へのメッセージ**  
 身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけでなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

**担当者の研究室等**  
 1 号館 4 階および 5 階の電気電子工学科教員室  
 授業担当責任者 井上雅彦教授室(1 号館 4 階)

備考	課題提供はMoodle 上で行い、課題&レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題&レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。
----	--

科目名	科学技術教養C	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 俊太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 T	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP7⑩		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
12	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)

			近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。																	
	14	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習(1時間)																
	15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や教に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館2階(東谷), 5号館1階(友枝・小林・東), 8号館2階(長島)]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 坂口 有芸, 津村 英二, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1333a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。 課題については授業内にフィードバックする。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・学ぶためのスキルを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>	
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・社会化について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間)</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・大学生活での目標を考えること(0.5時間)</li> </ul>	
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>	
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs に対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>	
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを 20 個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間)</li> </ul>	
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学 4 年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul>	
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 4 で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>	

関連科目  
キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ  
エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	石井 三恵 (7号館5階) 水野 武 (7号館3階) 坂口 有芸 (7号館5階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる (Moodle か Web フォルダー等) ので、各教員の指示に従うこと。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Planning II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1334a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に話題提供を行い、議論を進行することもある。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備しておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べること(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	水野武（7号館3階）
備考	

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名 (英文)	Career Planning III
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2335a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材 (人財) になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。			
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。			
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。			
科目学習の効果 (資格)	授業を通して自分の成長に気づき、他者に自分の意志が伝えられるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること (1 時間)
	2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること (1 時間)
	3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること (1 時間)
	4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること (1 時間)
	5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと (2 時間)
	6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間)
	7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと (1 時間) 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること (0.5 時間)
	8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること (1 時間)
	9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること (0.5 時間)
	10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること (0.5 時間)
	11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと (1 時間)
	12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
	13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること (1 時間)
	14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること (1 時間)
	15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること (1 時間)
関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義での提出物 (30%)、グループ課題 (20%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるの注意すること。			
担当者の研究室等	水野講師室 (7号館3階)			
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。			

科目名	エンプロイメントデザインII	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1337a1		

授業概要・目的	外部講師 (本学卒業生を含む) をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。  この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果 (資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点 (特に聴く態度) について	・事前学修: シラバスを熟読すること (1 時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
3	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して (NPO 法人事務局長)	・大阪府で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきたホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
5	「公務員がハブになり市民・企業と協力して子どもを救う。」～公務員に向けていない人間が公務員になった結果～	・門真市の現状、降雨員としてのキャリアについて自らの体験を踏まえてお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
6	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『子どもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ (社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話します	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
8	講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について (就職部)	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること (2 時間) ・事後学修: 中間レポートを作成すること (2 時間)
10	働くことってどんなこと？日本でも働くことと SDGs、みんなでも持続可能な働き方を探していこう！ (デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事に必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ (摂南大学 OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	先人 (企業家) に学ぶ仕事への心構え (商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ (摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修: 講義の全体を振り返ること (0.5 時間) ・事後学修: 最終課題を作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート (30%)、中間レポート1回 (30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	石井三恵 (7号館5F) 水野武 (7号館3F)			
備考	講師・内容は事情により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	<p>数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また、数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に、受講生の数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験（総合適性検査 SPI・公務員試験等）の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く（取り組む）」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p>
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習（1時間）
	2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2時間）
	8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2時間）
	9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
	15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2時間）

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法（基準）	「平常点（授業内課題）：40%」+「中間テスト・最終テスト：50%」+「Smart SPI：10%」 ※第1回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため8点（成績の8%）とする
----------	---

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター（2号館2階）
----------	------------------

備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）はMoodleに提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。
----	---

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ数理問題が概ね解ける。</p> <p>ものごとを論理的に考える習慣がついている。(DP1)</p>
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事前：シラバスを熟読する (10分) 事後：実力テストを振り返り、自身の強化ポイントを把握する (30分)
2	計数問題①	割合と比	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
3	計数問題②	割合の応用問題	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
4	計数問題③	損益算	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
5	計数問題④	速度算①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
6	計数問題⑤	速度算②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
7	総復習①	計数問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
8	中間テスト	中間テスト	事前：今まで学習した問題全てを復習しておく (120分) 事後：自身の弱点を把握し、今後に向けての自主学習計画を立案する (60分)
9	論理問題①	集合	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
10	論理問題②	場合の数	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
11	論理問題③	確率	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
12	論理問題④	表の読み取り	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
13	論理問題⑤	推論①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
14	論理問題⑥	推論②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
15	総復習②	論理問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)

関連科目	キャリアデザイン、就職実践基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業内課題および態度):40%、中間テスト・最終テスト:50%、SmartSPI:10% ※第1回の平常点は、実力テスト(点数は成績に影響しない)を実施するため8点(成績の8%)とする			
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター(2号館2階) 7号館3階 全学教育機構			
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodleに掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。			

科目名	ビジネス実務	科目名 (英文)	Practical Business Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WCA3339a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のオリエンテーション</li> <li>授業のルール</li> <li>あいさつの真の意味とは</li> <li>正しい基本姿勢を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること (60分)</li> </ul>
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>定型業務と非定型業務</li> <li>コスト意識とエコ活動</li> <li>仕事の基本の8つの意識</li> <li>話し方と聞き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30分)</li> <li>事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60分)</li> </ul>
3	目標設定とPDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定 (MBO)</li> <li>PDCAとは</li> <li>チームと個人の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: PDCAについて調べる (30分)</li> <li>事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること (60分)</li> </ul>
4	スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュールの作り方</li> <li>業務としての出張-YTT方式-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること (30分)</li> <li>事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60分)</li> </ul>
5	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な敬語表現の復習</li> <li>ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 敬語プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: ケーススタディプリントをすること (60分)</li> </ul>
6	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスフォンの扱い方</li> <li>5W2Hから6W3Hへ</li> <li>簡潔メモの作り方</li> <li>不在処理と伝言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 電話応対プリントをすること (30分)</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60分)</li> </ul>
7	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織図と対応</li> <li>簡単な応対から不在処理や重複処理まで</li> <li>名刺交換</li> <li>※対面授業に切り替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 来客応対プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: 来客応対プリント②をすること (60分)</li> </ul>
8	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおける「報連相」</li> <li>指示の受け方</li> <li>業務の優先順位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30分)</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60分)</li> </ul>
9	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外文書が基本</li> <li>商取引文書と社外文書の相違</li> <li>社内文書と社外文書の種類</li> <li>ファイリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書始める前をすること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネス文書②をすること (60分)</li> </ul>
10	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書③をすること (30分)</li> <li>事後学修: ビジネス文書④をすること (60分)</li> </ul>
11	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択</li> <li>作成上の注意点</li> <li>郵便・宅配便の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: メール文書を作成すること (60分)</li> </ul>
12	法的業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>押印と印鑑の意味</li> <li>内容証明</li> <li>個人情報保護 (Pマーク)</li> <li>コンプライアンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: コンプライアンスについて調べる (30分)</li> <li>事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60分)</li> </ul>
13	設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>YTT方式からの業務遂行</li> <li>確認の必要性</li> <li>他部署とのコミュニケーションの必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30分)</li> <li>事後学修: 設営事例をまとめること (60分)</li> </ul>
14	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> <li>慶弔時の基本的マナー</li> <li>「式」について</li> <li>業務としての贈答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30分)</li> <li>事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60分)</li> </ul>
15	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人同僚・異文化への対応</li> <li>働き方とキャリア開発</li> <li>公共の場でのマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること (30分)</li> <li>事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60分)</li> </ul>

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。			

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂口 有崇, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1336a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ (将来社会に出て仕事をする際に必要な能力) の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身につける。 課題については授業内にフィードバックする。 この科目は1年生向けの科目で、2024年度入学生のみ履修ができる。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること (2 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義 2 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間)
4	私が NO.1 プロジェクト③	・講義 2 で設定した個別の課題の結果を振り返り、共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間) ・第 1 回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (2 時間)
5	自身の意見を発信すること を学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (0.5 時間)
6	議論を進めるファシリテーションの基本①	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
7	議論を進めるファシリテーションの基本②	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
8	就職活動の現状を知る①ー 就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
9	就職活動の現状を知る②ー 就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること (0.5 時間) ・第 2 回課題 (就職活動を想定して、自身が今取り組まなければならないこと) をレポートにまとめる (1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書) の作成」	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	自身の履歴について考える	・自身のここまでの人生を振り返り「節目になった出来事」について考える	・講義全体を振り返ること ・第 3 回課題「人生すごろく」を作成すること (2 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 から取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・グループ課題「グループレポート」提出 (0.5 時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義を振り返ること (0.5 時間)

関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	毎回のミニツペーパー (30%)、グループ課題 (20%)、個人レポート 3 回 (50%) を総合的に判断する。
------	---

(基準)	
学生へのメッセージ	自身の学生生活について考えるために、様々な内容を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切さを学んでほしい。
担当者の研究室等	坂口有芸 (7号館5F) 加野佑弥
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 課題の評価基準・書き方に関する注意事項は、講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑥, DP7②		
科目ナンバリング	WCA3338a1		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限 目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
10	事後学修① 9月14日(土) 3限 目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
11	事後学修② 9月14日(土) 4限 目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ 9月28日(土) 3限 目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ 9月28日(土) 4限 目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限 目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してくること(1時間)
15	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限 目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
16			
17			
18			
19			
20			

	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
関連科目	インターンシップ I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	石井研究室 (7号館 5階) 加野研究室 (7号館 5階)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1o, E科: Ao, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。</li> <li>・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからぬよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>&lt;4月6日(土) 1~3限&gt; 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;4月20日(土) 1~3限&gt; 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聞いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&amp;ディスカッション</p> <p>&lt;5月18日(土) 1, 2限&gt; 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p>&lt;6月1日(土) 1, 2限&gt; 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える</p> <p>&lt;6月15日(土) 1, 2限&gt; 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;6月29日(土) 1~3限&gt; 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p> <p>本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。</p>																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク) 30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理 成果物(個人ワーク) 20%</p>																		

	<p>学びのグループワークレポート 30%</p> <p>最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価)</p> <p>なお、60%で合格とする。</p>
学生へのメッセージ	<p>地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。</p>
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室</p>
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5月後半（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
	SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月12日（金）5限  ※2回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日5限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。  2. チームビルディングワーク  3. 連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供  4. 連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション  5. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に關しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末（日時未定）に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	水野武（寝屋川キャンパス7号館3階）																		
備考																			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明、鎌田 祥輝、谷口 雄一、西村 晃一、松浦 正典、吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業生を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【重要】</b> 第1回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2~3回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。</p> <p><b>【前期】</b> 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。</p> <p>第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います)</p> <p><b>【後期】</b> 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」</p>																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみよう！																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 (寝屋川キャンパス、1号館7階)																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）          科学技術教養C          教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）          科学技術教養C          教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決(食品ロス削減)に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決(食品ロス削減)に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。</li> <li>2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。</li> <li>3. イベント後の処理を適切に行う。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。</li> <li>2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。</li> <li>3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。</li> <li>4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。</li> <li>5. 他のイベント等に活用可能な一般的な知識を得る。</li> </ol>																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																				
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。</li> <li>2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。</li> <li>3. イベント後の処理を適切に行う。</li> </ol>																				
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																				
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr> <tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr> <tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr> <tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr> <tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr> <tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ポスターセッション チケット発売開始</td></tr> <tr><td>11月</td><td>打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>最終報告会 準備および本番</td></tr> </table> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。</li> <li>2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。</li> <li>3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。</li> <li>4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。</li> <li>5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。</li> </ol>	4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション チケット発売開始	11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)	12月	最終報告会 準備および本番
4月	ご挨拶																				
5月	企画会議																				
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																				
7月	中間報告会																				
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																				
8月	チラシのデザイン作業																				
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																				
10月	ポスターセッション チケット発売開始																				
11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)																				
12月	最終報告会 準備および本番																				
関連科目	すべての科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																				
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																				
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																				
備考																					

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~8月 説明会準備 9月 説明会実施 10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション</p> <p>5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ</p> <p>6~8月 説明会準備</p> <p>9月 説明会実施</p> <p>10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25%</p> <p>協調性 25%</p> <p>課題発見・解決力 25%</p> <p>プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ/フォロワーシップ、スケジューリング/リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに(1)学内での事前準備、(2)フィールドワーク、(3)成果の共有および企画提案、(4)成果発表の準備、(5)成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに(1)学内での事前準備、(2)フィールドワーク、(3)成果の共有および企画提案、(4)成果発表の準備、(5)成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる</li> <li>・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月:連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月:門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月:中間報告(PBL基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月:子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月:クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等備考	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる</li> <li>・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月:連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月:門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月:中間報告(PBL基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月:子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月:子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月:クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等備考	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会实践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 俊也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 俊也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後藤 和子, 村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	この講義では、主にヨーロッパを対象に、地域経済の多様なあり方やそれらが抱える課題を理解することを目的とする。また、できれば、日本との比較を行う。授業では、調査地域の経済と文化、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して現地調査を行う。また調査した内容を、レポートまたはプレゼンテーションを通じて発表する。 SDGs-4, 9																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州の経済や文化を理解する</li> <li>・海外現地調査の手法を身につける</li> <li>・地域経済の多様性を、比較研究の視点を通じて理解する</li> <li>・調査内容を対外的に発表できる水準にまとめる</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容は、海外調査の事前準備、IULM 大学での授業受講と海外調査、事後のまとめ、の3つの部分から構成される</li> <li>・ミラノ訪問の時期については、先方の事情により変更されることがある</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献購読を通じてイタリアの経済と文化について理解を深める。また同時に各人がテーマを設定し、海外視察の準備をすすめる。ミラノ訪問は、往復時間を含めて1週間程度の予定で行い、現地での講義受講、視察等を行う。事後には、レポートまたはプレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】2025年2月に、摂南大学の協定校である IULM 大学の授業を受ける(予定)とともに、ミラノ市内を探訪し、イタリアの文化産業(食、建築とデザイン、ファッション企業など)や、博物館・美術館等を視察する。</p>																
関連科目	地域経済入門																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	・事前準備(20%)、現地調査(60%)、事後のまとめ(20%)の、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。また、単位認定は受講年の翌年となる。																
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また IULM 大学での授業では一定の語学力も必要となります。少々難易度が高いかもしれませんが、日本のみならず世界の地域経済を知ることは、経済がグローバル化している現代では必須といえます。海外企業等を視察した経験は、グローバル人材を求める就職活動にもプラスになるはずです。																
担当者の研究室等	後藤研究室、村瀬研究室																
備考	10月に説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。																

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	本講義では、Python プログラミングの実習を通じて、プログラミング能力の向上はもちろんのこと、インターネットから大量のデータを取得する方法(スクレイピング等)、空間情報の表示方法(GIS 等)、取得データの分析方法(自然言語処理等)を実践的に学びます。さらに、簡単な Web アプリ開発まで一気通貫で楽しく短期間に学ぶことを目的としています。																		
到達目標	以下のいずれも Python によるプログラミングを行います。 1. WebAPI の利用・Web スクレイピングのプログラミングを学び、大量のデータをインターネットから取得できるようになる。 2. GIS データで空間情報を地図に描くこと(可視化)ができるようになる。 3. 基本的な自然言語処理の方法(形態素解析・ワードクラウド・共起ネットワーク・Word2Vec など)をコードを書きながら理解できるようになる。 4. これまで学んだ内容の集大成として、簡単な Web アプリを作成・デプロイする。																		
授業方法と留意点	主に土曜日の集中講義(5~6回)となりますので、原則1回も休まずに受講できる方のみ参加してください。また、各自毎回ノートPC持参でお願いします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【事前準備】 特になし 【事後学習・課題】 その授業回のテーマに即した実践的課題が必ず宿題としてたっぷり出されます。宿題提出は評点に影響します。 【開講時期(予定)】 5月~7月の土曜日(おおよそ2週間に1度のペースで5~6回)を予定しています。																		
関連科目	特になし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業内容の理解・達成(40%)、宿題(40%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(20%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ	自分の打ったプログラムが実際に動く楽しさと、その背後にある理論を理解できる喜びが同時に味わえます。とにかくコードを打ちまくってください!																		
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)																		
備考	受講者数(上限) : 8名 (上限を超えた場合の選抜方法 : 教員による面接) 説明会を4月中旬~ゴールデンウィーク明けに実施予定です。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、年間を通して地域の抱える課題について、地域での活動に実際に参加することによる体験的学習によって理解し対策を考察することを目的とする。</p> <p>そのための課題設定から地域選択の方法、文献購読、資料の活用方法など予備調査の方法を取得し、その後、実際に調査地域において学外調査を行う。調査地域は2つの地域を予定しているが、学生自身が選択した地域活動についても考慮する。2つの地域での考察内容は「授業テーマ」の欄を参照すること。</p> <p>政令指定都市に勤務した経験から市民視点で政策を企画・調整・実施した経験を活かして地域が抱える課題に取り組み実績をあげた事例の現地に赴き課外活動を行う実践的教育を実施する。</p> <p>SDGs-11「住み続けられるまちづくり」該当</p>																
到達目標	<p>自ら積極的に行動し、課題を発見し対策を検討する姿勢から卒業論文作成や就活あるいは就業に向けての姿勢の涵養を図ることを目的とする。</p> <p>大学時代に自立的な活動を行う習慣と直面する課題に対して自ら取り組む積極性の修得を目指す。</p>																
授業方法と留意点	<p>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。以下のプロセスによって行う。</p> <p>(1) 面談あるいはICTツール活用による事前授業  (2) フィールドワーク参加 報告書画像や活動報告の記載 10日以上の参画  10日に満たない場合は、①②両方への参加あるいは別のボランティアやインターンシップ等のフィールドワークへの参加で不足日数を充当すれば単位認定を考慮する。但し</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】  下記フィールドワーク参加に当たって、面談あるいはICTツール等の活用によって担当教員がこれまで取り組んできた「ボランティア活動支援講義」の手法により活動についての注意事項と報告書様式の説明を行う。主として活動は夏期休暇期間であるが、10日の活動期間確保のため活動期間延長について考慮する。但し活動発表時期までには活動終了しておくこと。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】下記2つの内容以外にも追加、削除あるいは変更することがある。</p> <p>【①都市内地域再生 かもよんプロジェクト】  大阪市城東区蒲生4丁目地域では、地主と借り主との効果的なコラボレーションにより住民のニーズに対応した「食」による地域創生(振興)に成功している。米倉を改造したフランス料理店や長屋を生かした韓国料理店や創作衣料販売などを行っている。</p> <p>【②吹田市栄通り商店街での活動】  シャッター商店街が少ない事例から地域の商店街での取り組みについて考察する。</p> <p>【③地域実証実験としてのMAASへの参画】  堺市南区地域で実証実験中のオンデマンドバス(DOKOBUS)の地域での取り組みについて考察する。</p> <p>以上の3つの地域住民との企画に学生が参画することによって地域創生(振興)のプロセスを考察する。</p> <p>(1) 授業テーマ: 住民ニーズを調査し、都市における地主と借り主との利害関係の調整によって地域再生に取り組んでいる。そのプロセスを学ぶ。</p> <p>(2) 方法: 教員が推薦する「かもよんプロジェクト」主催者と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。  教員が推薦する栄通商店会会長等と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。</p> <p>(3) 事前、事後、学習課題: 上記方法によって学生自ら設定する課題について教員と主催者、学生との間で学生が事前に学習すべき内容を考察する。コラボレーション手法、活動内容及び地域再生の課題検討等についての内容を検討する。  その際、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所での打ち合わせ、検討会議を行う。学外関係者との議論方法としてTeamsだけでなくZOOM等の利活用を推奨する。  議論経過と議論による課題分析から仮説を設定し現地でのフィールドワークを実践する。</p>																
関連科目	インターンシップやキャリア関係科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 斉</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域活性マーケティング</td> <td>岩水 洋平</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>MAASが地方を変える</td> <td>森口 将之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 斉	ダイヤモンド社	2	地域活性マーケティング	岩水 洋平	ちくま新書	3	MAASが地方を変える	森口 将之	学芸出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	凡人のための地域再生入門	木下 斉	ダイヤモンド社														
2	地域活性マーケティング	岩水 洋平	ちくま新書														
3	MAASが地方を変える	森口 将之	学芸出版社														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺少地域」を行く</td> <td>森川 すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺少地域」を行く	森川 すいめい	青土社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺少地域」を行く	森川 すいめい	青土社														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>①10日以上(複数以上の課外活動での10日以上に達すれば評価する)  ②直接面談やICTツール活用による事前事後学習への参加及び学習内容(特に現状分析と対策としての課外活動内容)  ③研究成果のプレゼンテーションによる発表の3つの項目による総合的評価を行う。特に③での研究成果に重点を置く。</p> <p>①の学外活動が困難な場合、本講義は評価不可となる。①②③の評価割合は①60%②10%③30%とする。従って10日以上(複数以上の課外活動)が単位取得に必須となる。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本演習の成果は、学生の積極性に依存する。また実際活動中の社会人や地域に居住する住民との触れあいの中から研究成果を模索するため、コミュニケーション能力が必須であるとともに社会人に対する礼儀も必要となる。そのため経済キャリア入門でのコミュニケーション力の演習経験履修済みであることやボランティア活動への関心から相手への思いやる気持ちが本演習には不可欠となる。またグループで活動する場合は、他のメンバーとの協調・協力する姿勢が必要である。活動前に教科書を熟読することが望ましい。</p>																

	政令指定都市職員として地域活
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室（経済学部）
備考	実習先については、調整ができ次第追加修正が発生する。その際、参加学生に周知する。また、変更もあるので、演習を希望する学生に適宜 Teams 等の ICT ツールにより周知する。

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	地域経済の実態を理解するための実践演習を行う。 過疎化が進む地方自治体をどのように活性化すべきか、事例研究を通じて理解する。																		
到達目標	地方自治体の分析力が向上する。 地方自治体の政策についての理解力が向上する。 地域経済の活性化について考えることができるようになる。																		
授業方法と留意点	基本的に、調査、グループディスカッション、発表を中心に進めます。 必要に応じて、TEAMSを活用する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事例自治体の選定 2. 基礎理論の習得 3. フィールド調査の計画 4. アンケート、ヒアリング調査の計画 5.-12. 調査実施 13-14. 事例自治体の分析と提言 15. まとめ																		
関連科目	専門演習、関西経済論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの貢献度合(40%)、アイデア提示・調査への関与の度合(30%)、提出物/発表の内容(30%)により評価																		
学生へのメッセージ	自治体支援の経験から実践的な内容とします。 「自分で調べて自分で考える」を基本とします。 やる気のある皆様の参加を待っています。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考																			

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	文化施設や地元企業との協力を通じて、地域や企業が直面するさまざまな課題に対し、経済学の視点から解決策を模索します。地元企業に対するフィールドワークや顧客に対するアンケート調査などを通して、行動経済学への理解を深めます。また、データ分析のスキルを駆使して実社会の問題を発見し、問題解決の能力を養います。																		
到達目標	1. 社会調査の基本的な方法を身につけます。 2. コンピューターを用いたデータ分析のテクニックをマスターします。 3. 実証分析の結果に基づくプレゼンテーションする能力を養います。																		
授業方法と留意点	集中講義(5～6回)となりますので、原則として休まずに受講できる方のみ参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>① 経営の第一線で活躍する職員から、施設運営などに関する基礎講座を受けます。</p> <p>② 研究テーマと調査内容を選定し、社会調査に必要な知識を学びます。</p> <p>③ アンケート調査の内容設計、実施、調査結果の分析などの方法を学びます。</p> <p>④ 企業関係者に向けてプレゼンテーションを行い、経済学の視点から提案を行います。</p> <p>【事前準備】 地域経済分析システム (RESAS: リーサス) の使い方を予習すること。(約3時間)</p> <p>【事後学習・課題】</p> <p>1. 統計ソフトを用いたデータ分析の課題を数回提出すること。(約3時間)</p> <p>2. 行動経済学を理解するために関係書籍を熟読すること。(約3時間)</p> <p>3. アンケート調査の結果をもとに地域経済の活性化に向けたアイデアを考えること。(約5時間)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>授業内容の理解・達成(40%)：学生が講義や課題を理解し、達成する能力を評価します。</p> <p>発表(40%)：学生がプレゼンテーションや報告を通じて情報を明確に伝え、伝達力や質疑応答への対応を評価します。</p> <p>受講態度(20%)：学生が積極的に受講に取り組み、授業への参加や課題提出の態度を考慮します。</p>																		
学生へのメッセージ	フィールドワークなどの校外活動に欠席なく参加してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭教授室																		
備考																			

科目名	観光経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	持永 政人, 野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・目的	本演習は、観光関連事業に携わっている企業・団体を対象とした課題解決型の授業を行うことによって、観光産業と企業の活動内容への理解を深めることを目的とする。 授業担当者は観光関連産業での実務経験を活かして、実践的な教育を行う。																		
到達目標	授業を通して、観光関連事業の実際の活動内容や課題を理解し、グループで解決策を考える。 また同時に就職活動に必要な社会人基礎力やビジネスマナーも身に付ける。																		
授業方法と留意点	学外活動に必要な最低限の一般常識とビジネスマナーを身に付けた上で、観光関連施設にて実務担当者からのレクチャー受講やヒアリング調査を行う。グループでのディスカッションを経て、課題についての研究成果のプレゼンテーションを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【学外研究の準備授業】 「一般常識」「ビジネスマナー」「業界研究」等の授業を行う。</p> <p>【研究対象企業・団体での研究】 9～11月頃に全体、またはグループで数回、対象企業・団体における研究と、ディスカッションを行う。</p> <p>【研究成果の報告】 中間報告と最終回に成果報告のプレゼンテーションを行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「観光ビジネス英語」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加態度 (30%)、中間報告 (20%)、最終プレゼンテーション (50%)にて評価する。																		
学生へのメッセージ	学外での研究が土日になる場合もあるので、予定の調整が必要な場合があります。 観光関連産業が抱える課題と解決策と一緒に考えていきましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永研究室 1号館7階 野村研究室																		
備考	6月頃に説明会を実施予定																		

科目名	観光経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・目的	この演習では地域における観光経済の実態について観光に関連する企業へのヒアリング調査に参加し、そこで提供される課題に自ら取り組むことで理解を深めることを目的としています。事前学習として調査前に文献・資料講読を行い、事後学習として調査結果の取りまとめを行います。調査企業は2社を予定しています。																		
到達目標	事前・事後学習によって地域の観光経済の動向を理解します。ヒアリング調査によって観光経済の実態を理解し、自ら課題に取り組み、その方法論や姿勢を身につけます。																		
授業方法と留意点	以下の過程で行います。 (1)観光経済に関する事前授業 (2)ヒアリング調査参加 (3)ヒアリング調査結果の整理を行い、レポートにまとめる (4)報告会でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 近年の日本の観光経済と関西の観光の動向について講義を行う。次に、グループ分けを行い、訪問先に関する事前調査を行う。</p> <p>【実習先と実習時期】(5月～11月に予定) 自治体またはアミューズメント施設運営企業を訪問し、そこでの実態や課題についてヒアリング調査を行う。</p> <p>【事後授業】 グループごとに調査結果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「世界観光事情」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	フィールドワークに行った際に調査報告書を3回程度書きます。また授業の終わりにプレゼンテーションを行い、そのプレゼンテーションを元に終了報告書を書きます。調査報告書を60点分、最終報告書を40点分として合計して総合評価します。																		
学生へのメッセージ	この授業は事前学習、ヒアリング調査、事後学習(報告会)の全てへの積極的な参加が必要となります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室																		
備考	4月～5月に説明会を開きます。																		

科目名	国際経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・目的	<p>「米国シリコンバレー・イノベーション研修」。</p> <p>この授業は、米国カリフォルニア州サンフランシスコへの海外研修プログラムである。IT 革命の世界的な先進地である米国シリコンバレーを実地に体感し、現地の大学や日系企業を訪問して見聞を広めることを目指す。</p>																		
到達目標	<p>米国 IT 産業の最先端地域で、デザイン・シンキングを学ぶ。</p> <p>海外で活動する日本人ビジネスマンや他大学の学生と交流し、レクチャー、ディスカッション、共同調査、発表を行うことで、海外の方と協働する能力を培う。</p> <p>国境を越えて協働するグローバルな生き方を知り、自己の視野を広げる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>海外研修に参加必須である。講義、社会調査、ディスカッション、報告発表を行う。また海外研修の前後に、学内で演習を行う。また、他大学との共同研修である。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○事前演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの IT 産業について学ぶ。</li> <li>・海外研修に関する一般的な事前研修を受ける。</li> </ul> <p>○シリコンバレー研修 (2024 年 9 月上旬の 8 日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日目 日本 - サンフランシスコ移動。研修前オリエンテーション</li> <li>2 日目 シリコンバレー文化歴史探訪</li> <li>3 日目 講演、米国学生との交流</li> <li>4 日目 スタンフォード大学訪問、日系 IT 企業訪問</li> <li>5 日目 サンフランシスコ・ベイエリア・フィールドリサーチ</li> <li>6 日目 プレゼンテーション、キャリアフォーラム</li> <li>7-8 日目 サンフランシスコ日本移動。</li> </ol> <p>○事後演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の振り返り、簡単なレポート作成</li> <li>・研修プレゼン発表会へ向けての準備</li> </ul> <p>○研修プレゼン発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の研修プログラムとの合同発表会</li> </ul>																		
関連科目	国際経済学入門																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (80%)、授業への参加態度 (20%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	海外で活動する日本企業ビジネスマンや海外の大学生、社会起業家とオンラインで交流できる。貴重な体験がもてる機会なので、積極的に挑戦してほしい。																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 野口准教授室																		
備考	費用は約 30 万円だが、経済学部から補助がある。研修日程や内容は変更される可能性がある。詳しくは事前説明会にて説明する。																		

科目名	国際経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・目的	開発途上国の商品を輸入販売している企業と連携した課題解決型の授業を行うことにより、開発途上国が抱える課題とその対策について理解を深めることを目的とする。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フェアトレードの考え方と仕組みについて理解することができる。</li> <li>2. 企業と連携した演習プログラムの実施により、開発途上国が抱える課題について理解を深め、その対策について自分の考えを明確に述べるることができる。</li> <li>3. 企業担当者との対話やグループワークを通じて、社会人として必要とされるコミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を得ることができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	事前演習でフェアトレードに関する基礎的な知識とビジネスマナーを身に付けた上で、企業と連携した演習プログラムを実施する。演習プログラムは、オンラインと対面方式を併用して行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○事前演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアトレードの考え方とその仕組みに関する講義</li> <li>・フェアトレードの具体的な取組みや事例に関するレポート作成、グループディスカッションと発表</li> </ul> <p>○企業と連携した演習プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業担当者による途上国社会が抱える課題と企業活動の紹介</li> <li>・グループワーク（フェアトレード商品の企画や販売促進策の提案など）</li> <li>・グループ発表と企業担当者からの講評</li> <li>・企業活動への参加体験（フェアトレード商品の販売イベントへの協力など）</li> </ul> <p>○事後演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習プログラムの振り返りとまとめ</li> <li>・合同発表会に向けての準備</li> </ul> <p>○合同発表会での発表</p>																		
関連科目	国際協力論、開発経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	プレゼンテーションの内容(40%)、レポート作成提出(20%)、演習への参加態度(40%)を評価する。																		
学生へのメッセージ	フェアトレード企業の方と協力して、開発途上国の社会が抱える課題とその対策を一緒に考えていきましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考	演習内容は変更の可能性がある。詳しい内容は事前説明会で説明する。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識 (エコノミック・リテラシーと I T リテラシー) を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシー I・II」で教えられる基礎知識 (エコノミック・リテラシーと I T リテラシー) を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門 (エコノミックリテラシー)、情報リテラシー I・II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担 (20%)、資料収集・分析 (20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 (20%)、討論・総括内容 (20%)、課題へ取り組む姿勢 (10%)、受講態度 (私語・遅刻を含む) (10%) を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができるようになります。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得します。同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行います。数理能力アップテストを宿題とする場合もあります。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。ゼミではこの他に、グループ単位でMicrosoft PowerPointを用いたプレゼンテーションをしていただきます																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、文章表現、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成する（これは後期の主な内容です）。それに関連したフィールドワークを実施することもある。 3) 「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）や数理能力（SPI対策、および経済学の学習に必要な数学）を少人数教育の場で確認する。 4) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題への取り組み姿勢、受講態度（発言、余計な私語・遅刻状況）を総合的に評価します。具体的な採点基準は、課題（数理能力アップテスト、レポートなど）の提出状況（30%）、演習中の取り組み姿勢や課題の成績（30%）、プレゼンテーションの取り組み姿勢と成果（40%）です。出席回数が著しく不足する者は、単位取得ができない場合があります。また、遅刻（やむを得ない事情によるものを除く）を3回すると、欠席を1回したものとみな																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考																			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	<p>・本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。</p> <p>・政令指定都市での実務経験から社会人として大学生時代に必要な知識、智恵修得の实践的視点から演習を行う。</p> <p>・2年次生からの専門教育に繋がる基礎的な内容での近代経済学とマルクス経済学の輪読による発表演習を行う。</p>																		
到達目標	<p>大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行うだけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。</p> <p>・授業的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートを取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> <li>6) 後期は、教科書の輪読を行い、担当者を定め発表を行い、経済学の基礎を学ぶ。</li> <li>7) 共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。</li> <li>8) 大学生活の一助とするため、動画による説明を行う。</li> <li>9) 遠隔授業受講のための Teams, Moodle 及び Webfolder 等の学内 ICT ツールの利活用説明を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済ってそういうことだったのか会議</td> <td>後藤雅彦 竹中平蔵</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>知識ゼロからの経済学入門</td> <td>的場昭弘</td> <td>幻冬舎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社	2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎	3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社																
2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>ICT ツールを活用あるいは、面談(ICT 利活用による遠隔も参加も含む)による対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢(30%)、受講態度(私語・遅刻をしない等)(20%)を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や受講態度を満たさない限り及第点にはなりません。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>・何でも気軽に相談して下さい。ICT ツールを活用して「スチューデントアワー」の時間を設けて相談に対応します。</p> <p>・政令指定都市での30年間の多くの部署での経験から社会人として修得すべき知識や今後の専門教育に向けての実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバル化が一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図っている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。																		
授業方法及び留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、数理能力向上テストを行う。必要に応じてTEAMSを併用してオンライン学習する。 次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、テーマを決めてグループディスカッションを行う。 常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol> なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 必要に応じてTEAMSを併用する。</li> <li>7) 毎回『FIRST YEAR STUDY GUIDE』他の予習90分</li> <li>8) 毎回授業の復習90分</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学4年間の経済学が10時間で学べる</td> <td>井堀利宏</td> <td>KADOKAWA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA																
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論内容・課題へ取り組む姿勢・受講態度(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野長瀬教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。</li> <li>2) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>3) 大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。</li> <li>4) 事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。</li> <li>5) 経済領域の時事用語について学ぶ。</li> </ol>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ディスカッション参加 (50%)、レポート (50%) により評価を行う。		
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。		
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。受講態度に問題のある学生は、単位取得できない場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門(エコミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。毎回の演習におけるディスカッション・発表など(60%)とレポート(40%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーI・II」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーI・II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題レポート作成提出(50%)、プレゼンテーションの内容(30%)、フィールドワーク等への参加態度(20%)の割合で評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	基礎演習では、大学生として経済学の学修を行っていくための基礎的な知識、技法、倫理について修得することを目的とする。はじめに、基礎的な知識・技法・倫理について説明するとともに実習する。特に、数的処理の力をつける。次に、経済学分野の基礎的文献をもとに知識・技法・倫理を実践を通じて修得するとともに、基本的な知識や現代的課題を学び、探求する。																
到達目標	1) 授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方について習得する。 2) 数的処理の力をつける。 3) 経済学の基礎的な知識や現代的課題を知る。 4) 研究倫理について理解する。																
授業方法と留意点	経済学学修のための知識・技法・倫理について解説するとともに、実践を通じて習得するよう、双方向にアクティブな授業とする。学生相互で学ぶことができるように、グループでの学習や報告の機会を設ける。数学の演習を行う。																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、討論のしかた、研究倫理等を学ぶ。 2) 練習問題を用いて数的処理の能力を高める。事前に計算問題を解いて提出してもらったうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、必要に応じて解説する。 3) 経済学の基礎について教科書を用いて学び、経済学的な考え方の基本を身に付ける。事前に教科書を読み、報告内容をまとめたり、練習問題を解いてきたうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、さらに理解を深めるよう質疑応答や解説を行う。 4) 環境問題を学習し、報告レジュメを作成してプレゼンテーションと討論を行う。																
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マンキュー入門経済学第3版</td> <td>N・グレゴリー・マンキュー</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2	マンキュー入門経済学第3版	N・グレゴリー・マンキュー	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学															
2	マンキュー入門経済学第3版	N・グレゴリー・マンキュー	有斐閣														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業時間中の内容(予習の内容、グループ学習の仕方、プレゼンテーションの仕方)50%、中間試験(計算)25%、学年末試験(経済学)25%で評価する。なお、欠席が多いと単位取得できない。中間試験で60%以上の点数が取れない場合は再試験を繰り返し行う。																
学生へのメッセージ	1年生のときにしっかりと経済学研究の作法を身につけ、2年生以降に充実した研究ができるようになりましょう。日本経済新聞などを読んで、経済の動向を知るように努めることをお勧めします。経済学は積み重ねの学問ですから、毎回欠かさずに出席してください。無断欠席は認められません。																
担当者の研究室等	1号館7階 柳川研究室																
備考																	

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	<p>演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。</p> <p>本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。</p>																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を40%とし、これを合計して総合評価とする。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>事前：前回のゼミ内容を復習すること(1時間) 事後：ゼミ内容に関する課題を完成すること(1時間)</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表の達成度(50%)、課題の完成(30%)、演習へ取り組む姿勢(20%)で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭教授室																		
備考																			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	P
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得するとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えることを目的とする。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要なアカデミックスキル(授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方)を習得し、基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。			
授業方法と留意点	大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を概観しながら、都度、経済学基礎科目の内容を振り返り、それらが実社会での話題・課題に取り組む上でどのように生かせるかについてのショートレクチャーとグループディスカッションを行う。また、進度によって、興味のある話題についてグループ学習や報告の機会を設ける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、討論のしかたを学ぶ 2) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認し、これらが実社会の課題解決にどのように生かせるか講義とグループディスカッションを繰り返す 3) 環境問題を学習し、報告レジュメを作成してプレゼンテーションと討論を行い、学習成果をレポートにまとめる			
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、マイクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論・総括内容(30%)、課題へ取り組む姿勢と受講態度(私語・遅刻を含む)(40%)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆さんは経済学に無味乾燥でとつきにくい印象を持つかもしれませんが、イメージを掴んでしまえば、極めて論理的で実践的な学問だとわかるはずです。少人数でのレクチャーやグループディスカッションを通して理解をより確かなものにしましょう</li> <li>経済学は積み重ねの学問です。この演習でも毎回積み重ねていくので、サボると途端に迷子になります。欠かさず出席してください。迷子になったときはわかるころまで戻ることが大切ですが、出席していなければどこで迷子になったかさえわからなくなってしまいます。毎回の出席と確認を大切にしてください</li> </ul>			
担当者の研究室等	1号館7階 若城研究室			
備考	出席が不足すると単位の修得が難しくなります。気をつけましょう。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門（エコノミック・リテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻・欠席を含む）を総合的に評価する。Speech（10%）、グループ活動（40%）、プレゼン（30%）、その他（20%）で評価する。																		
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足したり、遅刻回数が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習を行うことで、第2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。			
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>			
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。			
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学びの基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> <li>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</li> <li>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</li> <li>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</li> <li>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第1年次後期の専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度(私語・遅刻を含む)を総合的に評価する。 プレゼンテーション3回(60%)、前学期レポート(20%)、後学期レポート(20%)で評価を行う。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	○
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「情報リテラシーI、II」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>事前学習課題 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』や授業で配布した資料などの予習、課題への取り組みなど</p> <p>事後学習課題 授業の復習、グループ発表の準備、レポート作成など</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミック・リテラシー)、情報リテラシーI、II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各種課題の提出状況およびそれらの達成度(50%) 課題へ取り組み姿勢(グループ学習での他者との協力や討論、発表や質疑への対応など)(50%)																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行うコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な経済学の学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経済学入門レベルのテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告(プレゼンテーション)することを求める。</p> <p>輪読資料(暫定)</p> <p>中谷、中村『1からの経済学』2010、碩学舎、ISBN-10: 450268080X</p> <p>その他、</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見する。</p> <p>3) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『1からの経済学』</td> <td>中谷、中村</td> <td>碩学舎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『1からの経済学』	中谷、中村	碩学舎	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『1からの経済学』	中谷、中村	碩学舎																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度50%、課題へ取り組み姿勢など参加度30%、出欠状況20%を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表: グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外、資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 無断欠席は認めない。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 経済学部 羅研究室																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識 (エコノミック・リテラシーと IT リテラシー) を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行うコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な経済学の学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経済学入門レベルのテキストを学習する。グループ分けすることで、毎週担当グループが報告 (プレゼンテーション) する。</p> <p>輪読資料 (予定)</p> <p>マンキュー『マンキュー入門経済学』第3版、2019、東洋経済新報社、ISBN : 9784492315217</p> <p>その他、</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集の仕方、レポートの書き方、討論の仕方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、学生自らテーマを発見する。</p> <p>3) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マンキュー入門経済学</td> <td>マンキュー</td> <td>東洋経済</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マンキュー入門経済学	マンキュー	東洋経済	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マンキュー入門経済学	マンキュー	東洋経済																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経済学</td> <td>アセモグル・レイブソン・リスト</td> <td>東洋経済</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>スティグリッツ入門経済学</td> <td>スティグリッツ・ウォルシュ</td> <td>東洋経済</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経済学	アセモグル・レイブソン・リスト	東洋経済	2	スティグリッツ入門経済学	スティグリッツ・ウォルシュ	東洋経済	3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	入門経済学	アセモグル・レイブソン・リスト	東洋経済																
2	スティグリッツ入門経済学	スティグリッツ・ウォルシュ	東洋経済																
3																			
評価方法 (基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(70%)、課題へ取り組み姿勢など参加度(30%)を総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	全員が事前に資料を読む。発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外は、発表班に質問・討論を行う。																		
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。</li> <li>2. 地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。</li> <li>3. 次年度に向けて自分の関心を確立する。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、前期と後期で内容が異なります。</p> <p>&lt;前期&gt;          京都の伝統的な都市住宅である京町家の活用方法が注目されています。その1つとして、宿泊施設としての利用があります。前期は、京町家を改装した旅館を訪問し、就業体験（フィールドワーク）の他、運営企業の社長・スタッフにお話を伺います。旅館業のプロにお話を伺うのですから、我々も知識面で相応の準備をする必要があります。そのため、これに先立って、京都の観光事情や京町家を活かしたビジネス、そしてそれらの事業展開のための支援制度や融資制度について、グループ単位で調べてプレゼンテーションをしていただきます。</p> <p>&lt;後期&gt;          3年次のゼミ（専門演習Ⅱ）では、他大学との合同ゼミを実施します。その準備学習として、戦後日本経済史、特にレジャーや観光に関する資料の輪読や、テーマパークなどの観光施設の歴史についての先行研究の講読を行います。担当箇所を決め、その部分の内容をまとめて報告をしていただきます。分析の際の着目点やまとめ方などを学びましょう。</p> <p>なお、諸般の事情により、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 京都の観光事情について理解を深める。</li> <li>2) 京町家ビジネスの実際の例を見学し、理解を深める。</li> <li>3) 戦後日本経済史から、観光施設の歴史・社会への影響について理解を深める。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>この講義は演習なので、学生の主体的な取り組みが非常に重要です。学生には積極的な報告を期待します。大学外の方よりオンラインでお話を伺う際には、Zoomを利用することがあります。Zoomのインストール及びセットアップをお願い致します。また、ゼミ資料はTeams、Web FolderなどのICTツールを用いて配布します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>&lt;前期&gt;          事前学習として取り組むプレゼンテーションのトピックは、以下のようなものを予定しています。          京都の観光事情、京都における宿泊施設の現状、京町家を活かしたビジネスの実例、古い町並みを生かした観光振興（国内、国外）、京都の金融機関の特徴、金融機関の融資制度、町家ビジネスに対する融資制度・支援制度 など</p> <p>&lt;後期&gt;          観光・レジャーに関する数編の資料（学術論文）を輪読します。また、トピックを指定して、配布資料に基づき、グループ単位でプレゼンテーションをしていただきます。その際には、資料に書かれていないけれども関連する内容についても調べてください。トピックの例として、東京オリンピック、大阪万博、東京ディズニーランド開業、前川リポートとリポート法などを予定しています。</p>																		
関連科目	観光学入門など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題（レポートなど）の提出状況（30%）、演習中の発言など取り組み姿勢（30%）、プレゼンテーション（40%）をもとに、総合的に判断します。出席回数が著しく不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。なお、遅刻3回を欠席1回とカウントします。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>遊園地やテーマパーク、あるいは各種レジャー施設は、一種の商品としてとらえることができます。その中には、地域社会だけではなく日本社会に大きな影響を与えたものがあります。しかし、社会のニーズに合致せずに失敗をしたものもあります。このゼミでは、これらの要因について様々な実例を調べ、明らかにしていくことを目的としています。専門演習Ⅰでは、フィールドワークやプレゼンテーション（及びそのための準備作業）を通して、これらの基本を学びます。皆さんには、主体的な学びを期待します。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。</li> <li>地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。</li> <li>また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。</li> <li>少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。</li> </ul> <p>・政令指定都市職員勤務の実績を活かして地域活性化の施策実施の視点と協働する市民の視点の両面から地域活性化事業検討やフィールドワーク実施の授業を行う。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習 II で研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。</li> <li>基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。</li> <li>また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。</li> <li>中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。</li> <li>地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。</li> <li>フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。</li> <li>併せて、研究倫理教育を行う。</li> </ul>																
関連科目	基礎演習 専門演習 II 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての研究レポート作成術</td> <td>沼崎一郎</td> <td>岩波ジュニア新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての研究レポート作成術	沼崎一郎	岩波ジュニア新書	2	演習時に適宜指定する。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	はじめての研究レポート作成術	沼崎一郎	岩波ジュニア新書														
2	演習時に適宜指定する。																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ICT ツールを活用した演習参加 (ICT 利活用による遠隔参加も含む) や対面等でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジメ及びレポート作成・発表の達成度 (50%)、討論・総括内容 (30%)、課題へ取り組む姿勢 (20%) を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく、討論や取り組む姿勢がないと及第点にはなりません。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。</li> <li>従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。</li> <li>出席を重視します。</li> <li>課題レポート及びプレゼン資料の作成によって研究内容の充実化と発表スキルを醸成します。必ずこれらの提出を心がけてください。</li> <li>国家、地方、消防、警察及び独立行政法人に就職した先輩等との交流による課外活動について検討して行きたいと考えています。</li> <li>政令指定都市に 3</li> </ul>																
担当者の研究室等	1号館 7階 田井教授室 (経済学部)																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。</li> <li>地域実践演習や PBL 等の課外活動を奨励する。これらの活動から得た知見を研究に役立てて欲しい。</li> </ul>																

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>地域産業、企業の分析について、基礎から学んでいきます。          特定自治体の産業の分析、特定企業の分析を実践していきます。          分析を通じて地域の行政、金融機関などの産業活性化における役割を学んでいきます。          卒業研究に向けて、テーマ候補の選定、参考文献の選定などを徐々に行っていきます。          キャリアプランのブラッシュアップを行います。          環境マネジメントについて基礎を学びます。          研究倫理教育を行う。          プレゼン大会への出場等の指導を希望があった場合に行います。</p>																		
到達目標	<p>卒業研究の基礎を固める。          キャリアプランの基礎を固める。</p>																		
授業方法と留意点	<p>卒業研究について学生がたたき台の案を提示し、それをブラッシュアップしていく。          事例を提示し、それに対して分析し、ディスカッションしていく。          地域経済実践演習が開講される年度については、その履修を推奨する。          必要に応じて TEAMS を用いてオンライン学習を行う。          予習 90 分、復習 90 分</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 はじめに          今後の進め方、ゼミのガイダンスを行う。研究倫理について学ぶ。          研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成          2 研究テーマ候補の列挙 キャリアプランのアイデア、分析する企業、自治体の選定          ゼミ生の発表、ディスカッション、発表に対する指摘事項への対応を考える          3 企業分析の基礎          企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成          4～6 企業分析の演習①～③          選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める          7 企業分析の演習④ 選定された事例企業を実際に分析する。研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成          8 研究テーマ候補、キャリアプランについての中間報告          ゼミ生の発表、ディスカッション 発表に対する指摘事項への対応を考える          9～10 企業分析の演習⑤⑥          選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める          11 自治体分析の基礎          自治体分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成          12～14 自治体分析の基礎①～③          選定された事例自治体を実際に分析する。復習し理解を深める          15 研究テーマ候補、キャリアプランについての暫定報告          ゼミ生の発表、ディスカッション、興味を持った企業が自治体について分析のレポートを提出</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席、ディスカッションへの参加と発表 (50%)、レポート (50%) による評価を行う。																		
学生へのメッセージ	<p>どのようなゼミにしていくかは、ゼミ生の皆さん次第です。          楽しいゼミを作っていきましょう。          まじめに取り組むと、実践的な能力が身につきます。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は観光関連産業とさまざまな観光事象について研究することを目的とします。国内外の航空会社とホテルでの実務経験のある教員が担当し、文献研究のほか学外研修等も取り入れながら、理論と実務両面から理解を深められるように進めていきます。		
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな観光事象について理解を深めることを目標とします。		
授業方法と留意点	ゼミの運営においては、各自責任感を持って積極的に協力してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな観光事象について研究を進めます。文献研究の他、可能な限り学外研修も行います。併せて、研究倫理教育を行います。		
関連科目	観光学入門		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	よくわかる観光学 1 観光経営学	岡本伸之
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題提出 (40%)、発表内容 (40%)、ゼミ運営への貢献度 (20%)にて評価します。		
学生へのメッセージ	様々なことに積極的に挑戦して、世界を広げてください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	3年・4年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。			
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表などの平常点 (60%) とレポート (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	※全ての授業へ必ず出席し、ゼミに積極的に参加すること 状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。																		
到達目標	ゼミ講義、学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的に観光プランを作成、実践できる。																		
授業方法と留意点	文献購読と観光サービス関連企業や自治体の活動を調査し、レポートにまとめプレゼンテーションを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期：文献（教科書）購読及び内容発表、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、3年次専門演習Ⅱで行う観光演習に必要な基礎的な知識や素養を獲得する。併せて、研究倫理教育、環境教育を行う。																		
関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・観光立国論</td> <td>David Atkinson</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・観光立国論	David Atkinson	東洋経済新報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新・観光立国論	David Atkinson	東洋経済新報社																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題レポートの提出 (50%)、プレゼンテーションの内容 (30%)、実習・フィールドワークへの取り組み姿勢、参加度 (20%) の割合で評価する。																		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	学生のグループ学習による研究報告を中心とする演習形式で、プラットフォームビジネスとプラットフォームに対する規制について、研究報告を行い、最終的に共同で論文を作成することを目的とする。 はじめにプラットフォームのビジネスと政策に関する文献を輪読し、課題を見いだして、その後、グループ学習により探求する。																		
到達目標	プラットフォームビジネスを経済学の視点から理解し、ビジネスの成功の理由を知るとともに、規制の必要性について考察することを目標とする。最終的に、グループ学習により共同研究論文を作成することを目標とする。それを通じて、論文の作成の仕方、および作成過程における課題の発見と探求、考察の仕方を身に付けることも目標とする。																		
授業方法と留意点	教科書輪読では、事前に与えられた課題について教科書を読んでパワーポイント資料を作成して報告し、その後、解説や討議を行う。グループ研究では、グループ単位で研究報告の準備を行い、順番に研究報告を行い、質疑応答をする。報告者はレジュメを作成して報告し、質問に答える。報告者以外の人は、報告を聞いて質問をし、意見交換をする。研究報告で議論を深めながら、最終的に論文を作成する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。</li> <li>2) 授業の内容は、研究テーマについて、グループで取り組む。最初に基礎的な文献を輪読する。最初の文献は以下に記載の教科書である。事前に出された課題について予習し、パワーポイント資料を作成し、報告する。その後、討議と解説を行う。より深く研究するテーマを探し論文のテーマが決まったら、グループ内で分担して情報収集して考察し、意見交換をする。なお取り上げる文献は授業中に指示するものと、ゼミ生が探してくるものがある。</li> <li>3) 研究の方法は、グループで報告用レジュメを作成し、報告を行い、質疑応答や意見交換を通じてさらに探求を深める。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。</li> <li>4) 授業の事前には情報収集と考察を行い、レジュメを作成する。授業ではプレゼンテーションを行い、質問に答え、意見交換をする。授業の事後には質疑応答を振り返り、いっそうの発展につなげる。プレゼンテーションがないときには、あらかじめ報告資料をみて質問を考え、授業時間中に質問をし、意見交換をする。</li> <li>5) グループ研究は専門演習Ⅱに続くが、専門演習Ⅰの最後には中間報告書を作成する。</li> <li>6) 前期末と後期末に学年を超えたゼミでの合同研究発表会を行い、すぐれた研究は学部の研究報告会で報告する。</li> <li>7) 学年を超えたゼミ全体でのフィールドワークを行い、研究テーマへの理解を深めたり、経済に関する理解を広げるとともに、ゼミ生の交流の機会とする。</li> <li>8) 毎回、着実に研究を進めていくことが求められる。無断欠席は厳禁である。</li> </ol>																		
関連科目	専門演習Ⅱ、卒業研究、産業組織論、サービス産業論、ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プラットフォームビジネス</td> <td>クスマノ、ガワー、ヨッピー</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プラットフォームビジネス	クスマノ、ガワー、ヨッピー	有斐閣	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	プラットフォームビジネス	クスマノ、ガワー、ヨッピー	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	教科書輪読の発表と質疑応答 30%、最終的に作成する共同研究論文で分担する内容 (課題選択、情報収集、分析と考察) 35%、共同研究論文作成プロセスへの貢献 (リーダーシップ、プレゼンテーション、質疑応答) 35% で評価する。ゼミの無断欠席は許されない。欠席が多いと単位認定はできない。																		
学生へのメッセージ	GAFA (Google, Apple, Facebook, Amazon) に代表されるプラットフォームビジネスが世界を席巻しています。日本経済はプラットフォームビジネスで出遅れたことが停滞の重要な理由となっています。プラットフォームビジネスについて学び、日本経済の復活について考えましょう。しかし、プラットフォームビジネスにより人々が便利になる反面で、市場の集中が進み、プライバシーを侵害する面もあり、富の集中と格差拡大にもつながっています。旧来のビジネスや弱小のライバルを駆逐したり、取引先に不利な条件を押																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>これらの内容に併せて研究倫理教育を行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の 60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を 40%とし、これを合計して総合評価とする。																
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は社会調査の実習を通じて、現実の経済に対する理解を深め、様々な課題を経済学の考え方で解決することを目指す。さらに、統計学の知識を活用し、コンピューターで様々なデータを分析できるスキルを習得することを目的とする。																		
到達目標	① 地域経済を分析するための知識を身につける。 ② アンケートデータを用いて、社会調査の基本方法を身につける。 ③ コンピュータによるデータ分析のテクニックを学び、分析の結果をプレゼンテーションする能力を養う。																		
授業方法と留意点	コンピューターを使い基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査の仕方を勉強する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①前期では選定された分析対象に対して、調査票の作成などの社会調査の仕方を学習する。調査内容の設計、調査の計画・実施、調査結果の検証などの方法を学び、実社会での問題発見解決力を身に付ける。 ②後期ではコンピューターを用いる演習を通じて、統計学の基礎を学び、計量モデルによるデータ分析のスキルをマスターする。 併せて、研究倫理教育を行う。 事前：前回のゼミ内容を復習すること（1時間） 事後：ゼミ内容に関する課題を完成すること（1時間）																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表の達成度 (50%)、課題の完成 (30%)、演習へ取り組む姿勢 (20%) で総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	ゼミ活動に積極的に参加してほしい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭教授室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	<p>データと分析による問題解決の流れを学び、自ら研究計画を立て関心のある問題を掘り下げることが目的とします。具体的には、問題解決の手順とデータ分析手法を学びながら、自身で設定した課題の解決方法について考察を深めます。そして、データ・分析手法をもとに次年度に取り組む研究計画を作ります。</p> <p>※テーマは現時点で「環境・エネルギー」を想定していますが、各自で関心のある問題を掘り下げながら進めます</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心を持った社会課題に対して、データ分析による問題解決の手順を説明できるようになること</li> <li>・研究計画を立てられるようになること</li> <li>・データの分析方法や、データを扱う際に注意すべきことが説明できるようになること</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>まず、関心のある社会課題を発表してもらいます。次に、問題解決の手順について学び、自ら選んだ社会課題の解決にどのように生かせるかを発表してもらいます。データ分析については関心・進度に応じて手法を紹介し、自身の課題への応用方法を発表してもらいます。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業テーマ：データと分析による社会課題の解決について</li> <li>2) 授業の内容：授業方法で説明したとおり、各自の関心からスタートし、参加者の発表を中心に進めます（個人でテーマを探した後、似通った関心を持つ人たちがグループを組む流れがスムーズです。将来の仕事に関わるテーマなら一石二鳥でしょう）</li> <li>3) 授業の方法：上記のとおり、受講生の発表を中心とします</li> <li>4) 事前の課題：自身の課題について情報収集と考察を行い、レジュメを作成します</li> <li>5) 事後の課題：授業での教員や他学生からのコメントを振り返り、自らの考えをさらに深めます</li> </ol>																		
関連科目	統計学、経済データサイエンス入門、経済学特別講義II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでの日常的な活動 (60%)、発表内容 (40%) にて評価します。																		
学生へのメッセージ	新しいことに積極的に挑戦してください。挑戦は未来の自分への投資です。うまく行かないこともあるでしょうが、学生時代の経験はコスバやタイパでは測ることのできない人生の貴重な財産になります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 若城研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	この授業では4つのことを目標とする。第1に新聞記事やニュースで興味のあるテーマについて調べて分析し、Power Point で発表してもらい、プレゼンのスキルを習得してもらう。第2に、SPI 対策として練習問題を行う。第3に、3分間スピーチを行い、自分の意見を上手く伝える能力をつけてもらう。第4に新聞記事などのテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。																		
到達目標	Powerpoint を使ったプレゼン能力、ディスカッション能力を身につけてもらう。																		
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッションをメインに行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞記事やニュースで取り上げられているテーマについてグループで PowerPoint を使った発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。</li> <li>2. 就職活動で用いられるテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。</li> </ol> <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データを使って Excel で図やグラフの書き方のスキルを習得します。</li> <li>2. 学生が興味のあるフィールドワーク等の調査活動を行います。</li> </ol> <p>併せて、研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (30%)、ディスカッション (20%)、スピーチ&授業における発言・出欠 (50%) で総合評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	ゼミのテーマ：環境問題と現代社会 21世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。			
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ビブリオ・バトル」(書評会)を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。			
授業方法と留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。			
学生へのメッセージ	大学時代はあつという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。</li> <li>・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。</li> <li>・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	演習形式（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査）で実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。</li> <li>・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、グループワーク、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。</li> <li>・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように、コンピューターを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。</li> <li>・以上の活動を通じて、卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。</li> </ul>																		
関連科目	労働経済学、公共経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題（70％）の提出と最終レポート（30％）により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への参加と貢献を評価します。（出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です）</li> <li>・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション</li> <li>・卒業論文のテーマに関わるレポート</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室（経済学部）																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	持続可能な開発目標 (SDGs) は、2030年までに世界から貧困をなくし、持続可能な社会を実現することを目指している。しかし、開発途上国だけでなく、日本でも経済的・社会的格差の問題などが指摘されており、行政、企業、市民団体などによる更なる取り組みが求められている。本演習では、SDGsに関わる経済・社会・環境問題を広く横断的に学び、実践活動を通じて持続可能な社会実現に向けた取り組みを考察することを目的とする。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGsに関する国内外の課題や、行政、企業、市民団体などの取り組みについて理解を深め、分析することができる。</li> <li>2. グループ学習を通じて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を向上することができる。</li> <li>3. 論文作成に必要な課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力を向上することができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	新聞記事などを用いた話題提供やディスカッション、設定したテーマに基づくグループ学習・発表を行う。フィールドワークを行うにあたり、事前学習と事後のレポート作成の機会を設ける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGsに関する新聞記事などを用いた話題提供とディスカッションを行う。</li> <li>2. 設定したテーマに基づいて、グループ学習・発表を行う。</li> <li>3. 国際協力に関わる企業や団体の協力を得た学外演習を行う。また、地方自治体と連携した実践活動に参加する。</li> <li>4. 研究計画の立て方、文献調査・聞き取り調査・アンケート調査の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などに関する講義および演習を行う。</li> </ol> <p>事前学習課題 授業で配布した資料の予習、課題への取り組みなど</p> <p>事後学習課題 授業の復習、グループ発表の準備、レポート作成など</p>																		
関連科目	国際協力論、開発経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	各種課題の提出状況およびそれらの達成度 (50%) 課題へ取り組む姿勢 (グループ学習での他者との協力や討論、発表や質疑への対応など) (50%)																		
学生へのメッセージ	この演習では、学生が主体的に課題を見つけ、調査を計画・実施し、結果を論理的にまとめる能力を養います。そして、演習を通じて、社会人としての基本的マナーやコミュニケーション能力を身につけることを目指します。また、学生には互いの考えや知識・経験を積極的に共有することを促し、皆で学ぶ楽しさを体験してもらいたいと考えています。																		
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	経済学科にあたって必要な基礎知識 (エコノミクス、データ処理) を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	グループ分けで指定資料の輪読発表を行う。講義中に、輪読テキストの内容を解説する。原則に対面で行う。ただし、遠隔で行う場合、大学の要求によって調整する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経済学のテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告 (プレゼンテーション) することを求める。 その他、 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分 (たち) でテーマを発見する。 3) 入門レベルのデータ処理手法を紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	自由貿易はなぜ必要なのか	椋 寛
	2	「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法	中室牧子、津川友介
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外、資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 無断欠席は認めない。		
担当者の研究室等	1号館7階 経済学部 羅研究室		
備考	事前に輪読テキストの購入は行わない。初回前に説明する。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	経済学科にあたって必要な基礎知識を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	グループ分けで指定資料の輪読発表を行う。原則として対面で行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経済学のテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告することを求める。</p> <p>その他、</p> <p>1) 授業の聴き方、情報収集の仕方、レポートの書き方、討論の仕方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の分野で起こっている出来事を取り上げ、学生自らが研究テーマを発見する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(70%)、課題へ取り組み姿勢など参加度(30%)を総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	全員が事前に資料を読む。発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外は、発表班に質問・討論を行う。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 道和研究室		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。</li> <li>2. フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。</li> <li>3. 次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組み姿勢(10%)、受講態度(私語・遅刻を含む)(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>&lt;前期&gt; 他大学のゼミと、「商品と社会」というテーマで、他大学と合同ゼミを行います。原則として対面式で開催しますが、社会状況に鑑みて Zoom を用いたオンライン形式で実施する可能性もあります。合同ゼミでは、統一されたテーマに従って報告グループごとにトピックを選び、それらについて調べた内容を報告していただきます。前期は、そのプレゼンテーションの準備及びその途中経過の報告が中心となります。</p> <p>&lt;後期&gt; 計量分析（データ分析）の基本を学びます。データ実習の課題を用意しますので、この内容に即して、データ実習を行います。日本のマクロ経済や遊園地・観光関係のデータを用いた実習も行います。また習得度を確認するために、データ分析に関連したレポート課題を出題します。またこの期に、卒業研究論文のテーマを決定し、簡単に報告していただきます。</p> <p>通常のゼミ活動は、感染予防対策を実施した上で、対面式で実施します。ただし社会状況に応じて、オンライン（Microsoft Teams を利用）でのゼミに移行する可能性もあります。</p>																		
到達目標	<p>1) 他大学の合同ゼミを通して、プレゼンテーション能力を高め、あわせて様々な研究報告に触れ、知見を深める。 2) データ分析の基本知識を習得する。 3) 日本の経済データを用いた実習を通して、日本経済の状況を理解する。 4) これまでに学んだ内容を踏まえ、卒業研究論文のテーマを決定する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>この講義は演習なので、合同ゼミの報告準備や Excel のデータ実習など、主体的な取り組みが非常に重要です。ゼミ資料は、Teams や Web Folder などの ICT ツールを用いて配布します。また学んだ内容を修得するためにも、ご自宅で Excel を利用できる環境を整備してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、「商品と社会」というテーマで、他大学のゼミと合同ゼミを行う予定です。ここでは、観光施設やテーマパークのある種の「商品」と捉え、その歴史や社会的影響を分析し、報告をしてください。報告は、準備作業を含め、班単位（1班4～5人程度）で実施します。</p> <p>後期は、データ分析の基本について学びます。主な内容は、様々なデータや指数、統計的記述（基本統計量）、回帰分析などです。概ね、統計学や計量経済学の講義の内容とリンクしています。また各自の卒業研究のテーマを決定し、少しずつそのための調査を進めていただきます。</p> <p>なお、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。</p>																		
関連科目	観光学入門、統計学、統計学演習、計量経済学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題（レポート含む）の提出状況（30%）、演習中の発言など取り組み姿勢（30%）、プレゼンテーション（40%）をもとに、総合的に判断します。出席回数が著しく不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。なお、遅刻3回を欠席1回とカウントします。																		
学生へのメッセージ	合同ゼミは、他大学の同学年の学生との親交を深め、様々な意見を聞く機会です。それと同時に、摂南大学経済学部を代表して報告することになるので、しっかりと準備をすることが大事です。実りあるイベントとなることを期待しています。																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習 I の内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。</li> <li>・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。</li> <li>・それらを通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。</li> <li>・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政令指定都市に 30 年勤務した実務経験を活かして具体的な地域活性化施策について必要な情報や知識修得の実践的教育を行う。</li> <li>・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。</li> <li>・専門演習 I で理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。</li> <li>・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。</li> <li>・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。</li> <li>・併せて、研究倫理教育を行う。</li> <li>・卒業研究のテーマの発表だけでなく、インターンシップやボランティアなどの経験に基づく発表も奨励する。結論にいたるプロセスを学生相互の議論により学習効果を高めていく。</li> </ul>																		
関連科目	基礎演習 専門演習 I 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ICT ツールを活用して参加 (遠隔参加も含む) や対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度 (50%)、討論・総括内容 (30%)、課題へ取り組む姿勢 (20%) を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や取り組む姿勢を満たさない限り及第点とはなりません。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。</li> <li>・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。</li> <li>・出席、議論参加を重視します。</li> <li>・卒業研究に繋がる発表時は、事前にパワーポイントなどの資料を作成し、プレゼンテーションを行う事で評価となる。</li> </ul>																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室 (経済学部)																		
備考	学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	卒研の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。																		
到達目標	卒研の研究テーマ、テーマ選定理由、研究目的、研究方法を明らかにする。 キャリアプラン立案に必要とされる知識の基礎を身につける。 経済や企業の分析スキルを身につける。																		
授業方法と留意点	毎回、卒研の研究計画のブラッシュアップを行います。 企業分析、自治体分析の課題を指導する。 課題提出が不足している学生は不合格とすることがあるので、毎回出席と課題提出に努力すること。 予習 90 分、復習 90 分																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>1. 卒研の研究計画書完成</p> <p>(1) 研究テーマの決定</p> <p>(2) テーマ選定理由の決定</p> <p>(3) 研究目的の決定</p> <p>(4) 研究方法の決定</p> <p>毎回、指摘事項を直し、研究計画書をブラッシュアップ。 参考文献リスト、分析方法まで考えることとします。</p> <p>2. キャリアプラン立案に必要とされる基礎知識</p> <p>(1) 業界知識、企業分析の知識、自治体分析等の知識</p> <p>(2) 業務知識</p> <p>(3) キャリアプラン作成</p> <p>それぞれが1業界を担当し、2年次に習得した手法を基礎に業界分析、発表を行う。 他のゼミ生の業界分析の発表を聞くことで、就活の準備とする。</p> <p>3. 面接に必要な基礎知識</p> <p>(1) 企業等の選定、自治体等の選定</p> <p>(2) 想定される質問事項の選定</p> <p>(3) 質問への回答案の作成</p> <p>(4) 面接演習</p> <p>仮定した企業や自治体等への面接を模擬的に体験します。</p>																		
関連科目	関西経済論、地域経済実践演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の提出 (30%)、ブラッシュアップの進捗 (30%)、出席・ディスカッションへの参加 (40%) により評価します。 十分ブラッシュアップされた研究計画書、キャリアプラン、企業や自治体等の分析、が提示されているかどうかを重視します。																		
学生へのメッセージ	4年になると就活に入ります。その前に卒研やキャリアプランの基盤を固めることを重視します。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	価値観が多様化して情報のあり方が変わるなか、観光においても新しい様々な事象が発生しています。世界各国では、コロナ禍で打撃を受けた観光産業が徐々に業績を回復しつつあり、わが国にも今後一挙に観光客が押し寄せる可能性があります。コロナ禍前は急激に増加したインバウンドにより、様々な問題が発生していましたが、その二の舞を避けるためにも今後の観光振興がどうあるべきかを考える必要があります。本演習は国内外の航空産業と宿泊産業の現場で実務経験のある教員が担当し、住民・観光客双方にとって望ましい観光のあり方をテーマとして、実務的な面からも助言をしながら研究を進めていきます。																		
到達目標	様々な観光事象について理解を深め、それぞれの場所にふさわしい観光振興と地域活性化のあり方について研究します。																		
授業方法と留意点	学生が選んだテーマにつき、研究を進めていきますので、一人ひとりが責任をもって自主的に行動してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅰで学んだ観光関連産業と様々な観光事象についてさらに理解を深め、学生が主体的にテーマを設定して、研究を進めていきます。文献や資料については授業内で適宜指示します。																		
関連科目	観光学入門、専門演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レポート・課題提出(40%)、発表内容(40%)、ゼミ運営への貢献度(20%)により評価します。																		
学生へのメッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身に着くことが違ってきます。一つでも多くのことを学ぶという姿勢をもって、積極的にゼミ活動に参加してください。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教授室 (経済学部)																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。			
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査スキルを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表 (60%) とレポート (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	必ず出席要 状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。</li> <li>2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。</li> <li>3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。</li> <li>2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。</li> <li>3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。</li> <li>4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。</li> <li>5. 併せて、研究倫理教育を行う。</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前学習の度合い (30%)、個人学習の成果 (プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など) (40%)、集団学習への貢献度 (質問、提案、議論のまとめなど) (30%) をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 原田研究室																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	観光企業、自治体、観光地等の実地調査や文献研究により観光事業の諸課題やその多様なあり方を実践的に理解する。		
到達目標	観光事業に関する実地調査とそれに基づいたレポート作成と発表が出来る。		
授業方法と留意点	前期：様々な観光事業に関する文献購読、関連資料調査等によって観光事業に対する理解を深め各自研究課題を設定する。 後期：前期で得た知識を踏まえ、研究課題に関する観光企業、自治体、観光地等への実地調査等（視察、ヒヤリング等）を実施し、調査レポートにまとめ提出、プレゼンテーションする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前学習として観光の様々なテーマ（環境保護、文化振興、地域・産業振興、健康増進等）に関して事業主体（企業、自治体、NPO、観光地等）がどのような活動を行っているか、事例研究を行う。更に必要に応じ観光地・企業等の実務担当者からのレクチャー、フィールドワーク等を実施する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	レポート提出（50%）、発表内容（30%）、フィールドワーク等への参加（20%）の割合で評価する。		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室（経済学部）		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																		
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2) 身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3) 自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2) その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3) 自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4) ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を40%とし、これを合計して総合評価とする。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	本演習は、計量経済学の手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。			
到達目標	本演習では、経済理論（マクロ・ミクロ）の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。			
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	2年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピューターによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。 併せて、研究倫理教育を行う。 事前：前回のゼミ内容を復習すること（1時間） 事後：ゼミ内容に関する課題を完成すること（1時間）			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	発表の達成度（50%）、課題の完成（30%）、演習へ取り組み姿勢（20%）で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	欠席せずに頑張ってください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 郭教授室			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この授業では2つのことを目標とする。第1に前期においては学生をテーマごとにグループに分け卒業論文のテーマをみつけたり、論文の方向性を考えてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文の準備をしてもらう。第2に就職活動の準備をおこない、3年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。			
到達目標	前期はグループで論文のテーマやテーマの分析の方向性を議論して卒業論文の準備をもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業の一部の作成に取り掛かってもらうことを目標とする。			
授業方法と留意点	学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は2つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで卒業論文のテーマや方向性、論理的な説明のために必要となる資料について考えて探してもらいます。後期においては、前期の内容をもとに卒業論文の準備と一部の作成につなげてもらう。併せて、研究倫理教育を行う。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、グループディスカッションも行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	前期のグループ活動での貢献度(50%)と後期の卒業論文への準備(50%)で総合評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階 名方研究室			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 環境問題と産業・企業  さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。</p>			
到達目標	<p>研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。</p>			
授業方法と留意点	<p>関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。  個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各自の問題意識による調査・研究を軸とする。  前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。  後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。  併せて、研究倫理教育を行う。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>授業への参加状況(提出物80%、日常の取り組み20%)で評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。</p>			
担当者の研究室等	<p>1号館7階 野口准教授室(経済学部)</p>			
備考				

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。</li> <li>・演習で得られた知見から自身今後のキャリア形成を考えることができる。</li> <li>・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	演習形式（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査）で実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。</li> <li>・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、グループワーク、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。</li> <li>・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように、コンピューターを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。</li> <li>・以上の活動を通じて、卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。</li> </ul>																		
関連科目	専門演習 I																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題（70%）の提出と最終レポート（30%）により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への参加と貢献を評価します。（出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です）</li> <li>・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション</li> <li>・卒業論文のテーマに関わるレポート</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室（経済学部）																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	持続可能な開発目標(SDGs)は、2030年までに世界から貧困をなくし、持続可能な社会を実現することを目指している。しかし、開発途上国だけでなく、日本でも経済的・社会的格差の問題などが指摘されており、行政、企業、市民団体などによる更なる取り組みが求められている。本演習では、SDGsに関わる経済・社会・環境問題を広く横断的に学び、実践活動を通じて持続可能な社会実現に向けた取り組みを考察することを目的とする。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGsに関する国内外の課題や、行政、企業、市民団体などの取り組みについて理解を深め、分析することができる。</li> <li>2. グループ学習を通じて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を向上することができる。</li> <li>3. 論文作成に必要な課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力を向上することができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	設定したテーマに基づくグループ学習・発表を行う。 フィールドワークを行うにあたり、事前学習と事後のレポート作成の機会を設ける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設定したテーマに基づいて、グループ学習・発表を行う。</li> <li>2. テーマに関連したフィールドワークを計画・実施する。</li> <li>3. グループ学習を通じて、卒業研究テーマの絞り込みを行う。各自の卒業研究テーマの設定にあたっては個別に相談の機会を設ける。</li> <li>4. 卒業研究を始めるにあたって、研究倫理教育を行う。</li> </ol> <p>事前学習課題 設定したテーマに関する調べ学習、フィールドワークの準備など</p> <p>事後学習課題 グループ発表の準備、フィールドワークレポートの作成など</p>																		
関連科目	国際協力論、開発経済学、専門演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各種課題の提出状況およびそれらの達成度(50%) 課題へ取り組み姿勢(グループ学習での他者との協力や討論、発表や質疑への対応など)(50%)																		
学生へのメッセージ	この演習では、学生が主体的に課題を見つけ、調査を計画・実施し、結果を論理的にまとめる能力を養います。そして、演習を通じて、社会人としての基本的マナーや、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、学生には互いの考えや知識・経験を積極的に共有することを促し、皆で学ぶ楽しさを体験してもらいたいと考えています。																		
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	専門演習 I で作成した研究計画をもとに、データを収集し、分析します。 論文の書き方を一通り体験し、積極的に学内外にプレゼンテーションを行い、得られたフィードバックを参考に研究をブラッシュアップします。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切なデータ分析やデータの取り扱いができる</li> <li>関心を持った社会課題に対して、データ分析による問題解決ができる</li> <li>結果をプレゼンテーションし、フィードバックを研究に取り入れて研究を深めることができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	すでに作成した研究計画をもとに、研究を進め、順次発表していきます。 課題設定、データ収集、分析、結論をもとに学内外（特に就職を希望する業種へのプレゼンが望ましい）で発表し、得られたフィードバックを参考に、さらに卒業研究で掘り下げるべき課題をブラッシュアップするとともに、さらに長期に取り組みたいテーマについても考えます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業テーマ：研究の遂行とプレゼンテーション</li> <li>2) 授業の内容：授業方法で説明したとおり、分析・研究を学内外に発表し、フィードバックを参考に、研究をさらに深めます</li> <li>3) 授業の方法：上記のとおり、受講生の発表を中心とします</li> <li>4) 事前の課題：自身の課題について情報収集と考察を行い、主体的に研究を進めていきます</li> <li>5) 事後の課題：授業での教員や他学生からのコメント、プレゼンテーションのフィードバックを取り入れ、自らの考えをさらに深めます</li> </ol>																		
関連科目	統計学、経済データサイエンス入門、経済学特別講義 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでの日常的な活動 (60%)、発表内容 (40%) にて評価します。																		
学生へのメッセージ	この演習では、誰も正解を知らない問題について考えます。つまり間違いを恐れる必要はありません。積極的に発言・行動してください。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 若城研究室																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	資料を輪読して経済学の各分野を理解しながら、国際経済、地域経済、観光経済などの分野で自らテーマを見つける。問題意識を中心にして、卒業論文の執筆に必要なデータや情報を収集する。フィールド調査を実施する。		
到達目標	経済学を使って、現実な問題を解決する意識および経済理論の実用力を身につける。文献調査、データ収集と分析、資料作成などを習得し、論文執筆作法を学ぶ。		
授業方法と留意点	原則に対面で行う。ただし、遠隔で行う場合、大学の要求によって調整する。 後期に、経済学部研究発表会に参加することを目指し、チームを作って研究を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	前期：指定される資料・教科書を輪読し、プレゼンテーションを行う。文献収集、データ分析を学ぶ。国際経済、地域経済、観光経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自らテーマを発見する。ゼミでフィールド調査や見学を実施する。 後期：各自に定めたテーマに基づいて、文献調査、データ収集、データ処理を行い、卒業研究の準備を行う。また、個別に調査を行う場合、事前に話し合ってから実施の準備をする。また、以上の内容に基づき、チームを組んで発表資料を作成し、経済学部研究発表会に参加する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。 経済学部発表会出席者を高く評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別/グループ指導を行います。 無断欠席は認めない。		
担当者の研究室等	1号館7階 羅講師室		
備考	初回に、必要な輪読文献などは、適宜指示する。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	次年度の卒業研究の作成にあたり基礎となる、専門知識や手法、研究倫理等を身につけることを目的とする。																		
到達目標	専門知識や手法、研究倫理等を用いて、報告や期末論文が実際に作成できるようになることを目標とする。																		
授業方法と留意点	前・後期ともに、グループ報告もしくは個別報告をしてもらいます。報告者以外は、必ず資料を事前に読み、質問、コメント、疑問点等を準備して、参加して下さい。また、年明けの授業で卒業研究の基礎となる期末論文を作成・提出してもらいます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(テーマ：前期) 各自が選んだ国や地域、沿線等について、資料や文献を収集し、歴史的（特に経済）視点から発展を考察する。</p> <p>(テーマ：後期) 各自が卒業研究のテーマ探しを始め、途中経過を少なくとも1度は報告し、受講者で議論する。</p> <p>(事前学習) 報告者は、十分な準備を行って下さい。報告者以外は、事前に資料を読み、コメント、質問を必ず用意して下さい。</p> <p>(事後学習) 報告者は、準備不足や質問、コメント等で対応が出来なかった部分を再度確認して下さい。報告者以外は、自らの報告に活かせるような部分や研究手法、プレゼンテーションの工夫をまとめ、記録・実行して下さい。</p> <p>昨年度の専門ゼミⅠに引き続き、WordやPowerPointソフト等の利用にも配慮し、それらの運用能力の向上を目指す。</p> <p>これらをもとに、卒業研究の基礎となる期末論文を作成してもらいます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	報告(30%)、議論への参加度合い(30%)、期末論文(40%)。																		
学生へのメッセージ	まずは、自分が少しでも関心のあることに取り組んでみて下さい。知識と共に、何かがついてくるはずですよ。																		
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	学生のグループ学習による研究報告を中心とする演習形式で、プラットフォームビジネスとプラットフォームに対する規制について、研究報告を行い、最終的に共同で論文を作成することを目的とする。 グループ研究の後には、卒業研究のテーマを決め、参考文献や資料を収集し、中心となる課題を見つける。			
到達目標	プラットフォームビジネスを経済学の視点から理解し、ビジネスの成功の理由を知るとともに、規制の必要性について考察することを目標とする。最終的に、グループ学習により共同研究論文を作成し、学部の研究報告会で研究報告することを目標とする。それを通じて、論文の作成の仕方、および作成過程における課題の発見と探求、考察の仕方を身に付けることも目標とする。また卒業研究のテーマを発見して、参考文献や資料を収集し、中心となる課題を見つける。			
授業方法と留意点	グループ単位で研究報告の準備を行い、毎週、順番に研究報告を行い、質疑応答をする。報告者はレジュメを作成して報告し、質疑応答する。卒業研究のテーマ探しは個人で参考文献や資料を収集し、事前にレジュメを作成して報告し、質疑応答する。いずれも報告者以外の人は報告を聞いて質問をし、意見交換をする。研究報告で議論を深めながら、論文を作成する。			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。</li> <li>2) 授業の内容は、前期は専門演習 I で行った共同研究のテーマについて、引き続きグループで取り組み、完成させる。後期には卒業研究のテーマを見つけ、参考文献や資料を収集し、研究の中心となる課題を見出す。</li> <li>3) 共同研究の方法は、グループで報告用レジュメを作成し、報告を行い、質疑応答や意見交換を通じてさらに探求を深める。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。卒業研究も共同研究と同様に行う。</li> <li>4) 授業の事前には情報収集と考察を行い、レジュメを作成する。授業ではプレゼンテーションを行い、質問に答え、意見交換をする。授業の後には質疑応答を振り返り、いっそうの発展につなげる。プレゼンテーションがないときには、あらかじめ報告資料をみて質問を考え、授業時間中に質問をし、意見交換をする。</li> <li>5) 学期末にはゼミの合同研究報告会で報告し、質疑応答する。また年度末には学部の研究報告会に参加することを目指す。</li> </ol>			
関連科目	専門演習 I、卒業研究、産業組織論、サービス産業論、ミクロ経済学 I、ミクロ経済学 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	最終的に作成する共同研究論文で分担する内容 (課題選択、情報収集、分析と考察) 30%、共同研究論文作成プロセスへの貢献 (リーダーシップ、プレゼンテーション、質疑応答) 30%、卒業研究に関するレポート 40% で評価する。ゼミの無断欠席は許されない。欠席が多いと単位認定はできない。			
学生へのメッセージ	GAF A (Google, Apple, Facebook, Amazon) に代表されるプラットフォームビジネスが世界を席巻しています。プラットフォームビジネスにより人々が便利になるとともに、プライバシーを侵害する面もあり、富の集中と格差拡大にもつながっています。旧来のビジネスや弱小のライバルを駆逐したり、取引先に不利な条件を押し付けることもあります。最近ではプラットフォームビジネスに対する規制が強化されようとしています。プラットフォームビジネスの成功について知り、プラットフォームビジネスへの規制は必要な			
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。</li> <li>フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。</li> <li>卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。併せて研究倫理教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。なお、卒業論文についてはルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	<p>これまでに専門演習で学んだこと、取り組んだことを踏まえ、テーマパークや観光施設の歴史、社会への影響を調査し、卒業研究として論文にまとめてください。その際には、可能な限りデータを用いた分析も取り入れてください。</p> <p>戦後の日本経済史の中で、さまざまな転機となる社会現象や事件がありました。その中には観光やリゾート開発に関する出来事も非常に多くありました。学生の皆さんには、関心のあるテーマパークや観光施設を選んでいただき、その歴史を社会の変化と関連づけて考察を進めてください。</p> <p>これまで、グループ単位でこのような調査や考察を進めてきたかと思います。しかし卒業研究は、4年間の学生生活の集大成として、(原則として) 独力で取り組んでいただきます。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ご自身で決めた調査対象 (テーマパークや観光施設、日本経済その他) についての歴史・社会的影響についての考察を深め、これを卒業研究論文とする。</li> <li>2. 考察の結果を定期的にプレゼンテーションし、コメントをもとに改訂を進める。</li> <li>3. 卒業研究論文を作成し、可能であれば学部の研究発表会で報告する。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>これまでの演習と同じく、卒業研究について調べ、まとめた内容をプレゼンテーションしていただきます。ただし、これまでの専門演習と異なり、テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告は、独力で進めてください。併せて研究倫理教育を行います。</p> <p>ゼミは原則として対面式で実施しますが、状況に応じて Microsoft Teams を利用したオンラインゼミを実施する可能性もあります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	進捗状況の報告を兼ねて、定期的にプレゼンテーションをしていただきます。その際に、今後進めるべきことなどを、個別に指示いたします。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習の取り組み姿勢、プレゼンテーション、計画性などにに基づき、卒業論文のルーブリック評価を行います。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合や、卒業論文に各種の不正が見つかった場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。</li> <li>・その作成支援を行う。</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政令指定都市に勤務し、事業者との交渉や協働に従事した実務経験から公共事例だけでなく民間事例を踏まえて卒業研究指導を行う。</li> <li>・基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱで修得した内容に基づき卒業研究をまとめ上げることを到達目標とする。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。</li> <li>・週2回の卒業研究作成支援を行う。そのうち1回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の1回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。</li> <li>・全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う</li> </ul>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。</li> <li>・卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。</li> <li>・併せて研究倫理教育を行う。</li> <li>・感染症の罹患状況に対応して、集団ミーティング機器を活用して研究室と学生それぞれと連携して研究指導を行う場合がある。</li> </ul>																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習時に適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	演習時に適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	演習時に適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>ICTツールを活用しての演習参加や対面等でのコミュニケーションから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。(60%)</li> <li>・就職活動と大学での勉学の学生生活を両立する姿勢を評価する。(10%)</li> <li>・課題提出、発表の活動の評価を重視する。(30%)</li> <li>・卒業論文はルーブリックにより評価する。</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。</li> <li>・学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。</li> <li>・論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。</li> </ul> <p>・政令指定都市に30年間勤務した経験から公共的視点での実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井教授室(経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動対策と勉学を両立させ、大学生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第1段階であることを認識させる。</li> <li>・真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。</li> </ul>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	卒研の分析・研究を進める。 就活の報告・相談を行う。																		
到達目標	提出期限までに、一定水準以上の卒研を完成させ提出する。																		
授業方法と留意点	卒研をブラッシュアップし、卒業に必要な水準を超えるよう指導する。 就活の報告・相談にたいする指導を行う。 必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。 予習 90 分、復習 90 分																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒研の研究方法の確認</li> <li>2. 分析結果の確認と研究方法のブラッシュアップ</li> <li>3. 分析結果のまとめ。</li> <li>4. 必要な参考文献、分析手法の指導</li> <li>5. 卒研の体裁の確認</li> <li>6. 就活状況に基づくキャリアプランのブラッシュアップ</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	期限内に提出された卒研の内容による評価を行う。定期的に卒研指導を受けない学生は不合格とする。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ	残された時間を有意義に使いましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7F																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	大学での学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定・論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。		
到達目標	期限内に卒業研究論文を完成し、提出することを目標とします。		
授業方法と留意点	経過報告を何度も行い、ゼミ生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。併せて研究倫理教育を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して、研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論や教員のアドバイスを研究の質の向上につなげていくこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究論文については、ルーブリック評価を行います。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	<p>専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。</p> <p>到達目標：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。</p>																		
到達目標	卒業研究論文の作成ができること																		
授業方法と留意点	<p>まず、ゼミは必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。全回のゼミ出席は必須です。併せて研究倫理教育を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>テストは無し</p> <p>卒業論文についてはルーブリック評価を行う</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	※必ず出席																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	経済（学）的な関心にもとづいて選んだテーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで繰り返し報告・討論する中で、問題をより明確にし、分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。 また、卒業研究の質を向上させるだけでなく、自らの研究をまわりにわかるように伝える一方で、他の人の意見や質問を的確に理解し、それにもとづいて研究の内容を改善できるように指導を行う。			
到達目標	自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い、それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し、それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	受講者全員が参加して、各自の研究内容を報告してもらい、それをめぐって討論を行う授業と、個別指導を行う授業とを、状況に合わせて組み合わせつつ授業を進める。 全員参加の場合は、各人が中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	演習への参加姿勢、準備状況、授業での報告内容、卒業論文の完成度等を勘案してルーブリック評価を行う。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 原田研究室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（フィールドワーク、インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	卒業研究レポートの完成			
授業方法と留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、主に地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業論文についてはルーブリック評価を行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	卒業研究論文を完成するための指導を行う。		
到達目標	専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱをはじめ大学で学んだ知識と経験を総動員して卒業研究論文を完成させることを目標とする。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中には、学生の研究報告と質疑応答の後に、論文作成指導助言を行う。</li> <li>・毎回、授業で発表するための資料や論文の作成をしなければなりません。</li> <li>・無断欠席は厳禁です。欠席が多いと単位認定しません。</li> </ul>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。</li> <li>2) 授業の内容は、学生の報告と質疑応答、および教員による論文作成指導からなる。</li> <li>3) 研究の方法は、研究テーマについて、各人が先行文献やデータを収集して分析し、報告資料や論文原稿としてまとめて授業中に発表し、質疑応答をする。あわせて教員が論文作成指導するので、事後的に論文をブラッシュアップする。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。</li> </ol>		
関連科目	専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、産業組織論、サービス産業論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業論文はルーブリック評価を行います。さらに授業中の報告と質疑応答(報告資料の充実度、プレゼンテーションと質疑応答の内容、他のゼミ生の報告に対するコメント)や、ゼミ全体のフィールドワークや研究報告会、および学部の研究報告会などのゼミ活動全般への積極的参加の程度を含めて総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	学生生活の最後を飾る卒業研究です。すぐれた研究を行うように力を発揮してください。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 柳川研究室		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解し、それらを卒業論文としてまとめます。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。																		
授業方法と留意点	教室におけるゼミ形式です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)卒業論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察を卒業論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。なお、卒業論文についてはルーブリック評価を行います。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマを卒業論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。			
到達目標	ゼミ生が選んだ卒論テーマに沿って、問題設定、論理展開(実証分析を含む)、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進度に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。 併せて研究倫理教育を行う。 事前：前回の内容を復習すること。 事後：卒論の各章を完成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。また、卒業論文についてはルーブリック評価を行う。			
学生へのメッセージ	実証分析の能力を養ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 郭教授室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	前期においては卒業論文の選考研究の読解、問題意識、現状分析について文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて解禁分析をしてもらい、卒業研究を作成してもらいます。		
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で懸賞する能力を身につけてもらいます。		
授業方法と留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生には高木メールなどで連絡して事前の欠席連絡・事後のフォローアップを徹底させたいと思います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、どのように論文を作成すべきか、またどのような統計にデータが存在し、どのような点に着目すべきかについて学んでもらいます。その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのか説明してもらいます。後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらいます。その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらいます。また随時学生動詞就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	普段の授業態度(出席、発言)、プレゼン内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考	1号館7階 名方研究室		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。		
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文についてはルーブリック評価を行う。 演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）		
備考			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生(キャリア)に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。</li> <li>・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。</li> <li>・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</li> <li>・卒業研究論文を完成させる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	演習形式(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査)で実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究論文執筆のため、先行研究など関連テキスト・論文の収集・輪読を行います。</li> <li>・卒業研究論文で実証分析をする場合、コンピューターを用いた統計分析の演習を行います。また、独自にデータ収集をする場合は社会調査を実施します。</li> <li>・以上の活動を通じて、卒業研究論文を完成させます。</li> <li>・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ゲストによる講話、ワークショップ、シミュレーションゲーム、職場見学などを行います。</li> </ul>																		
関連科目	専門演習Ⅰ, 専門演習Ⅱ, 労働経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への参加と貢献を評価します。(出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です)</li> <li>・卒業研究論文の提出</li> <li>・卒業論文についてはルーブリック評価を行う</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室(経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	各人が選んだテーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで繰り返し報告・討論する中で問題をより明確にし、分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。 また、卒業研究の質を向上させるだけでなく、自らの研究を周りに分かるように伝える一方で、他の人の意見や質問を的確に理解し、それに基づいて研究の内容を改善できるように指導を行う。																		
到達目標	自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い、それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し、それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	受講者全員が参加して各自の研究内容を報告し討論を行う演習と個別指導を、状況に合わせて組み合わせて進める。 全員参加の場合は、各人が中間報告を行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目	専門演習 I、専門演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、研究報告の内容、卒業論文の完成度などを勘案して総合的に評価する。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻 忠史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	資料の収集と分析、また、必要に応じ実地調査などに基づいて、卒業研究論文を作成すること。また、研究倫理についても併せて学ぶ。																		
到達目標	手間暇をかけて、卒業研究論文を作成すること。																		
授業方法と留意点	卒業研究論文を作成するために、受講者との議論、また必要に応じて個別指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(前期) 現時点での研究テーマと計画を報告してもらい、必要となる資料やデータの収集と分析を進める。 前期終了前に、各自に状況、及び休暇中の研究計画を報告してもらう。</p> <p>(後期) 中間報告をもらい、卒業研究の第1草稿を作成する。その後、追加や修正を行い、卒業研究を完成させる。 必要に応じて個別指導を行う。</p> <p>前期、後期いずれも自分以外の報告から学ぶことも多いと思われるので、積極的に参加し、自らにも活かして欲しい。</p>																		
関連科目	特になし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	完成後の卒業研究論文について、途中の作成過程も含め、経済学部のルーブリック評価により行います。																		
学生へのメッセージ	手間暇をかけ、丁寧に作成してください。卒研と共に、何かがついてくるはずです。																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	道和 孝治郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	各自の研究テーマに沿って、調査を進め卒業論文を完成させることを目的とする。			
到達目標	十分に調査し分析して、卒業論文を完成させることを目標とする。			
授業方法と留意点	卒業発表をゼミ内で行い、自分の論文ばかりでなく、他のゼミ生からも学びながら論文作成を進めていくことを目標とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月に卒業論文の進捗状況を確認する。毎月2回、進捗状況を発表しながら、各自の調査や分析を進める。9月に再度進捗状況を確認し、12月完成を目指して論文を書き進める。11月末にゼミの教員に論文を提出し、修正点を話し合う。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全員で行う卒業論文研究会への貢献度(20%)と各人が作成する卒業論文(80%)で評価する。			
学生へのメッセージ	大学でしかできない経験です。自分で考え、資料を集め分析しましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 道和研究室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	4年目卒業研究では、卒業論文を作成する。 3年次に作成したフィールド調査報告書を下敷きに卒業論文を作成することが目的である。		
到達目標	卒業論文の作成及びプレゼンテーションを通じて、問題発見力、論理的思考力、文章作成力、説明・発表力を養い、高等教育履修者に対し社会が求める基礎能力を身に着けること。		
授業方法と留意点	原則、卒業論文のテーマに応じ個別指導を行う。 必要な形式を満たしていない論文及び剽窃等の不正行為が認められる論文に対しては単位を与えないので留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の卒業論文のテーマに沿った論文指導を行う。 前期をめどに卒業論文のドラフトが完成できるよう、授業の事前及び事後での自主的な卒業論文作成作業が求められる。 定められた授業時間帯以外でも柔軟に論文作成指導を行う。 11月から12月にかけて完成した卒業論文のプレゼンテーションを実施しプレゼンテーション力を評価する。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容 (形式への準拠、独創性、論理展開・論文構成力、文章力、データ分析力、等) 及びプレゼンテーション力に基づき評価する。 卒業論文発表会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究は大学で学んだ専門知識に関連した自らの思索を記 (しめ) すことのできる貴重な機会です。多くの学生にとって、このような機会は人生に一度しかありません。卒業研究を通じて思考力を鍛錬してください。		
担当者の研究室等	羅講師室 (1号館7階)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4082a0		

授業概要・目的	卒業研究を完成させるのみならず、そのプロセスを通じて思考を深め、自らの考えを論理的に伝える力を養うことを目的とした指導を行う。																		
到達目標	単に卒業論文を作成するのではなく、自ら立てた問いに対して根拠と論理に裏打ちされた結論を導き出せること、そしてそれを他者に明確に伝える論文にまとめることを到達目標とする。																		
授業方法と留意点	<p>○授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は全員参加し、各自の研究内容を報告する</li> <li>・報告内容についての質疑応答・議論を受講者間で行ったあと、論文指導を行う</li> </ul> <p>○留意点</p> <p>他の受講者の研究報告を聞き、議論に参加し、研究指導を聞くことは、論理構築、プレゼンテーションや質疑応答の技術習得に不可欠である。絶対に「他人の発表は自分には関係ない」と思っはいけない。真剣に参加し、自分の研究に生かすこと。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者は、これまで専門演習 I および II で議論・作成した研究計画書に基づいて調査・研究を計画・実施し、都度、報告を行う。当該授業では、その計画・内容・結果について議論する中で、各自の研究がより経済学的に重要なものになるよう指導を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加姿勢、準備状況、報告内容、議論内容、卒業論文の内容等を考慮に入れてルーブリック評価を行う。																		
学生へのメッセージ	卒業論文は単に「字数の多いレポート」ではありません。自分で立てた論を立証するプロセスです。このプロセスでは今まで考えたことがないような細かい指摘を受けるかもしれません。正直、面倒くさくなるかもしれません。しかし、自ら論証し、それを論理的に伝える体験は、卒業後の人生に役立つはず。というか、「絶対に」役立ちます。なぜなら人生は仮説・検証・説明の連続だからです。折角、大学で4年間学び、学びの成果をまとめる機会が得られたのです！胸を張れる卒業研究にしましょう！																		
担当者の研究室等	1号館7階 若城研究室																		
備考																			

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボット サジト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3326c1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習 (応用) での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC (英語の場合) の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。</li> <li>・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。</li> </ul> <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。( ) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会：4 月中旬 (9 月下旬～10 月上旬)</li> <li>・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 (11 月～2 月)</li> <li>・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上中旬 (2 月中下旬～3 月下旬)</li> <li>・事後授業 5 回 (成果報告会含む)：9 月～10 月中旬 (3 月～4 月下旬)</li> </ul> <p><b>【注意】</b> 新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで 教員室1 (2号館2階)
備考	